図解でわかる BizRobo! 業界別活用例

— RPA導入を成功に導く活用事例のご紹介 —

12業界・188事例

© OPEN, Inc. All rights reserved.

BizRobo! は現場の方をルーチンワークから解放します！

BizRobo!はRPA（Robotic Process Automation）をコア技術として、
私たちが日々行っているパソコン上での一連の作業を効率化してくれる
“ソフトウェアのロボット”です。

定型的な事務作業を代行！

ミスなく圧倒的なスピード！

現場レベルで操作できる！

簡単にスタートできる！

「図解でわかるBizRobo！ 業界別活用例」では
さまざまな業界でどのように活用されているかをご紹介します。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

目 次

1．医療・ヘルスケア … 4

2．飲食・食品 …… 46

3．インフラ・建設 …… 54

4．卸売・小売 …… 69

5．官公庁・自治体 …… 85

6．金融 …… 103

7．サービス …… 117

8．情報・通信 …… 139

9．製造 …… 142

10.物流 …… 174

11.不動産 …… 186

12.メディア …… 192

© OPEN, Inc. All rights reserved.

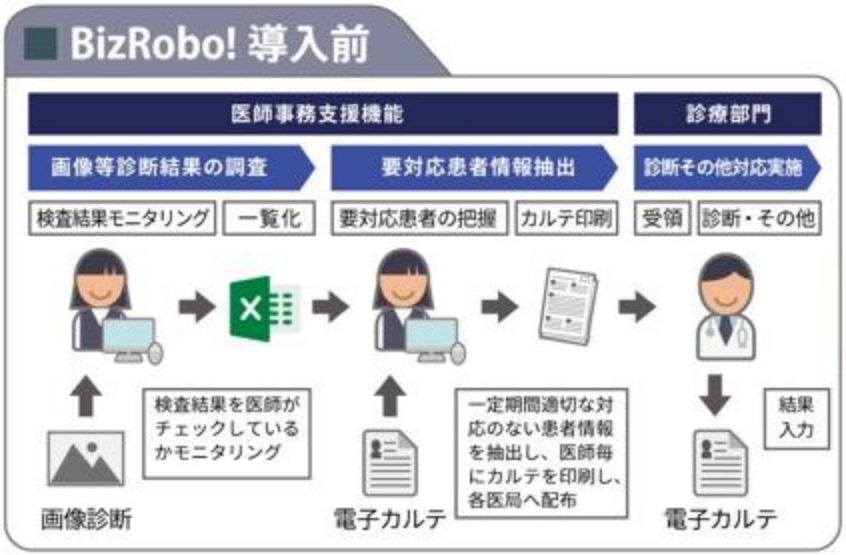
一
医療・ヘルスケア

© OPEN, Inc. All rights reserved.

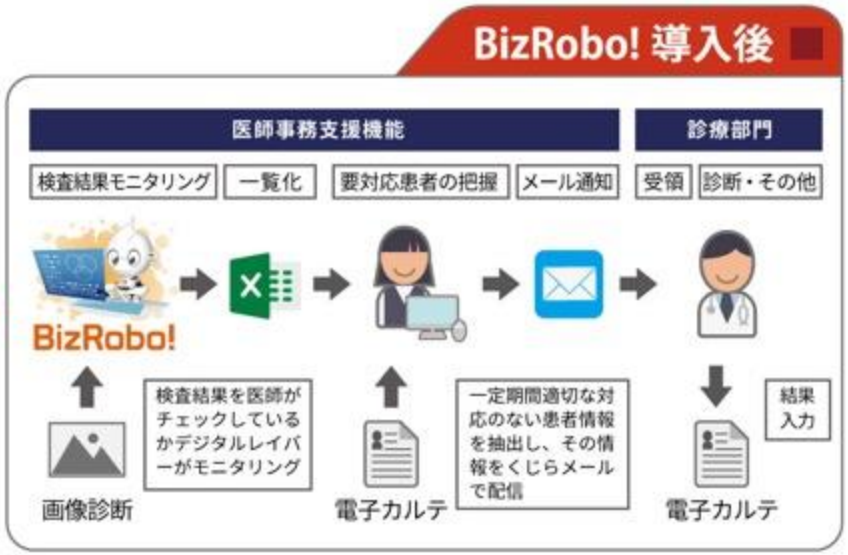
診断結果を医師が確認しているかモニタリングする業務

選定理由

- 医療ミスを防ぐために、対応が必要な患者情報をモニタリングする医師事務支援機能を設定した
- しかし、人為ミスが発生する可能性はゼロにはできない
- 確保できる担当者数により、対応可能範囲が限定的となる可能性がある



1. 事務担当者は検査結果を医師が確認しているかモニタリングし、結果をExcelにまとめる
2. 電子カルテから患者情報を抽出し、各医局へ配布
3. 診療部門が診療し、電子カルテに結果を入力



1. ロボットは検査結果を医師が確認しているかモニタリングし、結果をExcelにまとめる
2. 事務担当者は電子カルテから患者情報を抽出し、各医局へ配布
3. 診療部門が診療し、電子カルテに結果を入力

実施効果

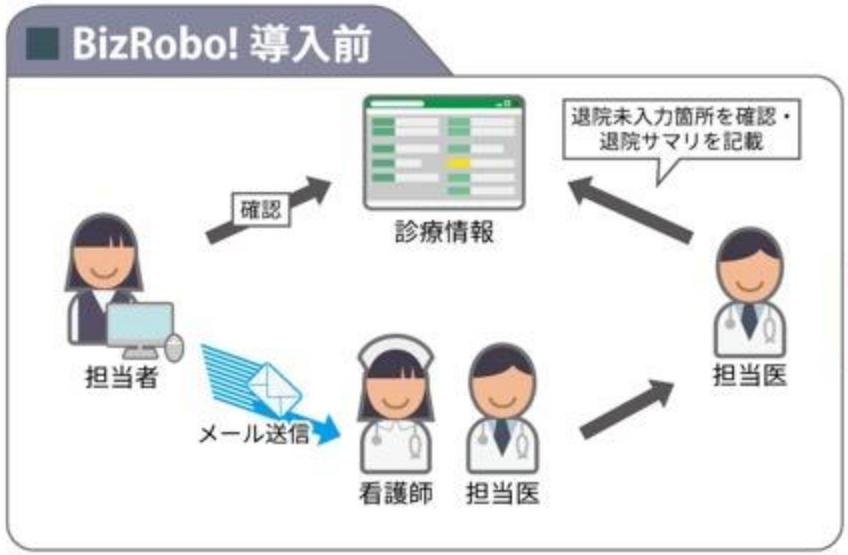
- ロボットが代行する、モニタリング業務の部分は人為的ミスはゼロとなった
- 対応可能な患者の範囲が、担当者数により制限されることがなくなった
- 患者情報を検索するスピードが圧倒的に向上した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

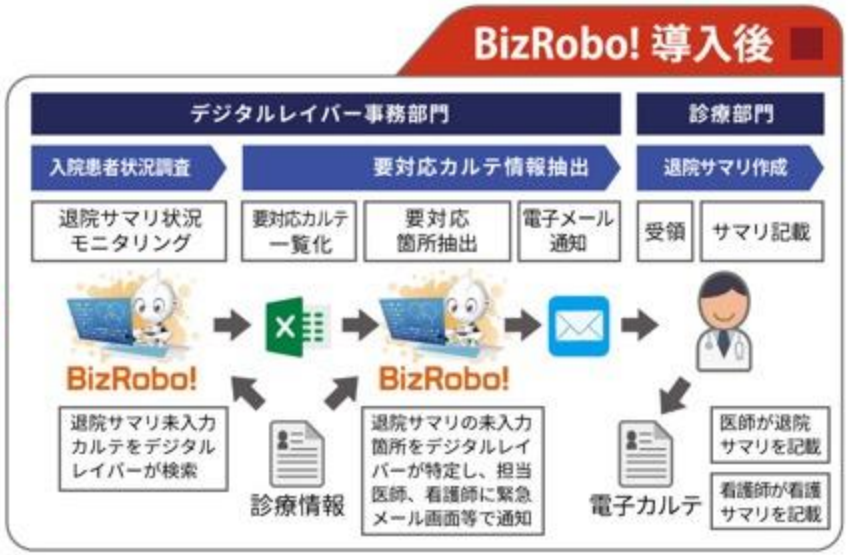
退院サマリ達成率を監視する業務

選定理由

- 診療録管理体制加算Iでは、退院翌日から14日以内に90%、30日以内に100%の退院サマリ作成が求められる。
- 締め切りが決定しているため、担当者が時間に追われており、働き方に余裕がなかった
- 退院サマリの作成状況を確認するために全員分の患者情報を逐一確認する必要があった



1. 担当者は診療情報を確認し、退院サマリを１つ１つ検索
2. 退院サマリ未入力の箇所を特定し、担当医と看護師にメールで通知
3. 医師は退院未入力箇所を確認し、退院サマリを記載



1. ロボットは退院サマリ未入力カルテを検索
2. 退院サマリの未入力箇所を特定し、担当医、看護師にメールで通知
3. 医師は退院サマリを記載。看護師は看護サマリを記載

実施効果

- 診療録管理体制加算Iの要件を満たすことで、入院単価増を図るとともに、一定の診療報酬額を確実に受けることが可能となった
- ロボットが通知を正確かつ休みなく送るため、担当医師の対応スピードが格段に向上した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

患者の在院日数の適正化を図る業務

選定理由

- 患者の入院期間を十分な範囲かつタイムリーに把握できておらず、入院期間Ⅱに達する場合も多かった
- 病床回転率が低く、入院患者数の増加が頭打ちとなっていた

【ロボット導入前】
1. ロボット導入以前は行っていなかった業務

【ロボット導入後】
1. 入院期間が迫っている患者情報をロボットが検索
2. 患者の詳細情報をロボットが把握し、ベッドコントローラーに一覧リストのExcel添付メールを送付
3. ベッドコントロール調整会議にて、適切な患者退院を実施

実施効果

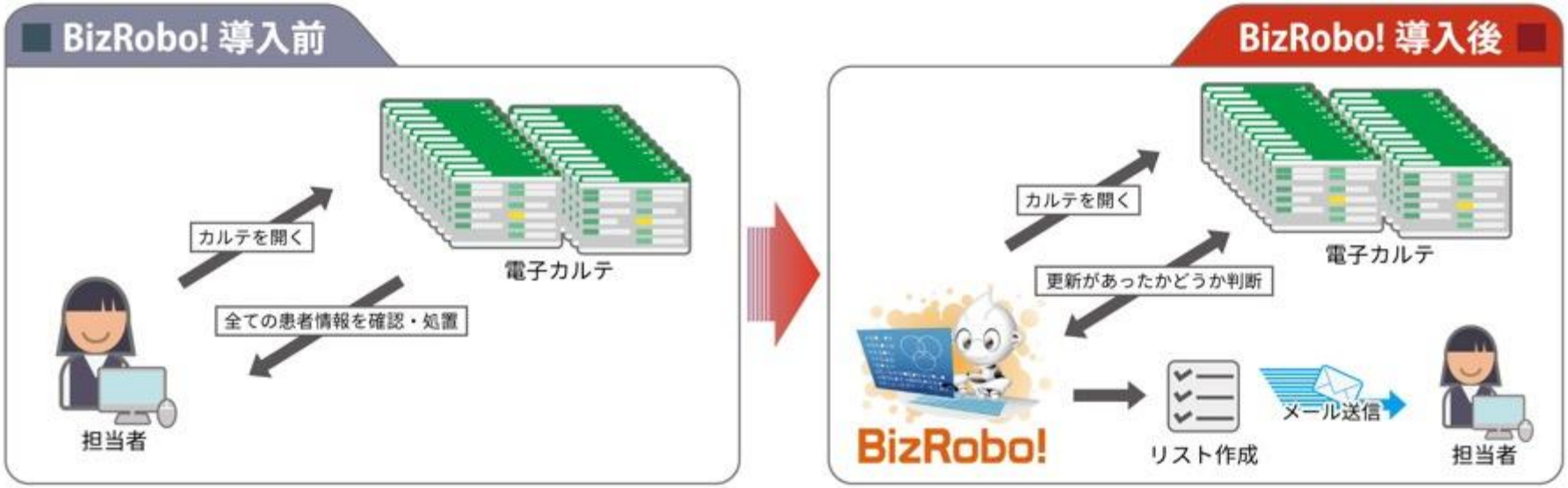
- ベッドコントロール調整会議において、適切な患者退院を実施することが可能となった
- 結果として入院単価の向上と病床回転率の向上を実現

© OPEN, Inc. All rights reserved.

電子カルテの情報が更新されているか確認する業務

選定理由

- 毎日合計700名以上の患者の情報を確認する必要があり、業務時間を阻害していた
- 700名以上の情報を確認していても、情報が更新されているのは10分の１程度なため、確認の大部分が無駄になっていた
- 複数部署で同じ患者の情報を確認していることがあり、二度手間になっていた



1. 担当者は電子カルテを開く
2. 全ての患者情報を確認(700名分の情報を別ウインドウで開く)
3. 情報が更新されていれば、その内容を確認し、
   書かれている情報に応じて処置

1. ロボットは電子カルテを開く
2. 電子カルテの日付情報だけを確認し、当日の更新の有無を判断
3. 更新があった患者のリストを作成し、担当者に通知

実施効果

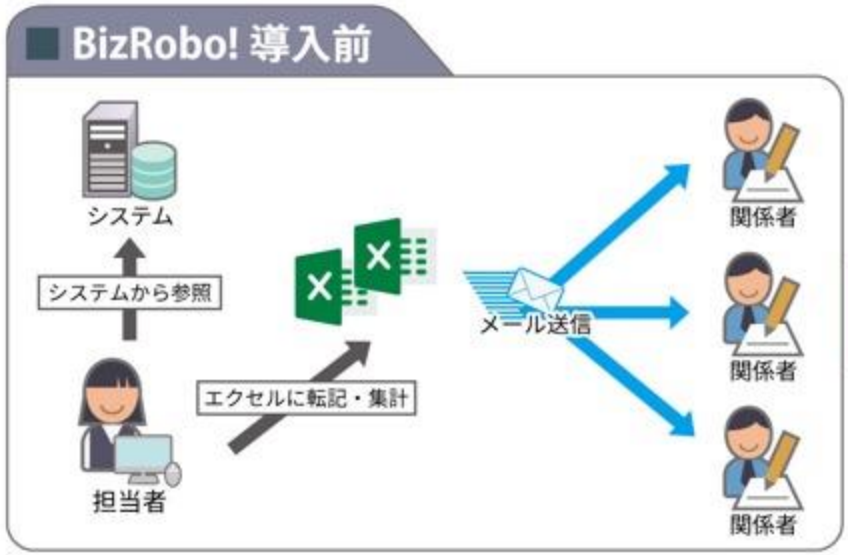
- 電子カルテの情報を更新する回数が約10分の１程度となり、別の業務に充てる時間が増えた
- ムダな作業をしている、という感覚が消え、担当者がストレスから解放された
- 複数担当者が同じ情報を確認することがなくなり、業務フローの改革にも成功

© OPEN, Inc. All rights reserved.

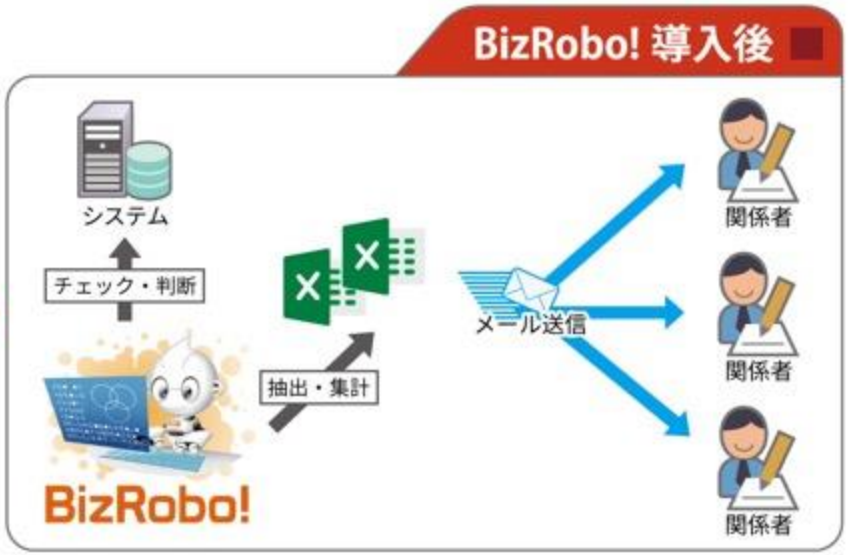
職員全員の超過勤務時間を集計する業務

選定理由

- 昨今の働き方改革において、医師や看護師の超過勤務時間の可視化・整理必要となっている
- 毎月、先月のデータを読み込み当月のデータに超過勤務時間を転記・加算する作業に時間がかかっていた



1. 担当者は勤怠管理対象の名簿をリストアップ、勤怠状況をシステムで参照
2. 超過勤務時間のある職員の勤務データを別途エクセルに転記
3. 当月までの時間を合計し、まとめたデータを関係者に送付
4. 年に1度、1年間全ての合計時間をまとめたデータを作成し、関係者に送付



1. ロボットは職員の勤務データを全て確認し、超過勤務の職員を判別
2. 当月に超過勤務のある職員のデータを抽出し、合計時間などをまとめたデータを関係者に送付
3. 年に1度、1年間全ての合計時間をまとめたデータを作成し、関係者に送付

実施効果

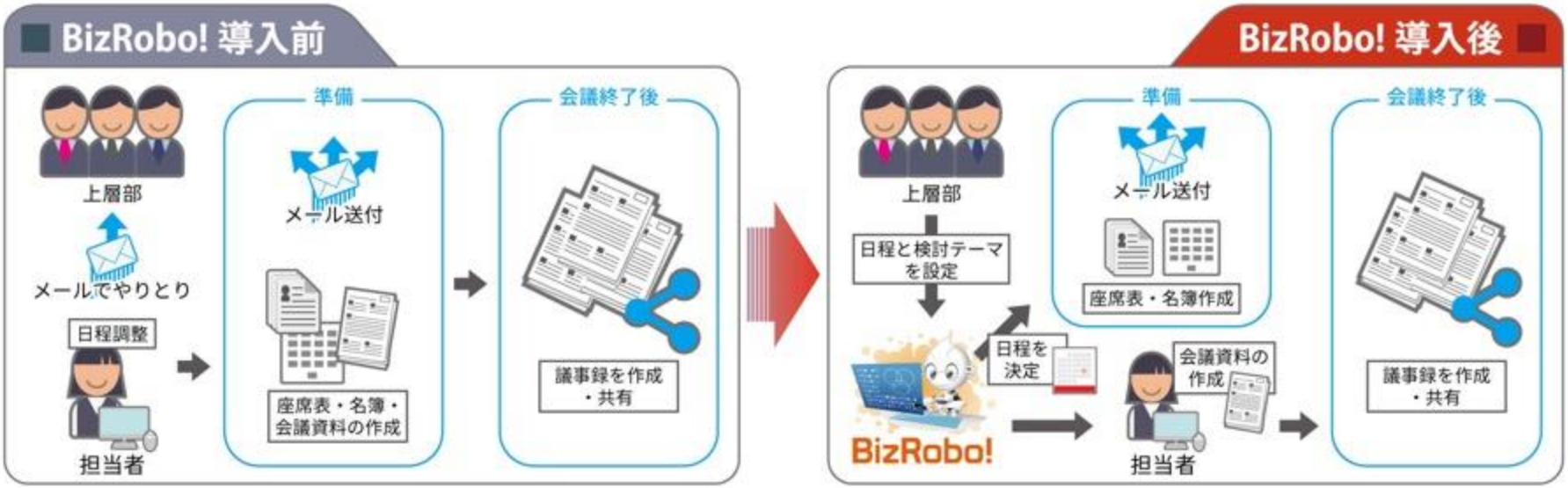
- 年間50時間の業務時間を短縮
- 職員別の超過勤務時間の可視化が行えるようになり、部署ごとの勤務状況を加味した
- 業務時間短縮の立案につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

院内の定例会議開催を支援する業務

選定理由

- 会議開催にあたり、開催通知のメール送付・出欠取りまとめ・座席表作成・名簿作成・日程調整・議事録作成など非常に多岐に渡る業務が多かった
- 会議資料や議事録を作成する十分な時間がなく、明確な会議テーマの設定や意義のある話し合いが行えていなかった



1. 上層部が会議の日程と検討テーマを設定
2. 担当者は上層部とメールをやりとりし、日程を調整
3. 開催通知メールを送付、座席表を作成、名簿を作成、会議資料を作成
4. 会議終了後、担当者は議事録を作成し、共有

1. 上層部が会議の日程と検討テーマを設定
2. ロボットは上層部のスケジュールを確認、日程を決定
3. 開催通知メールを送付、座席表を作成、名簿を作成
4. 担当者は会議資料を作成
5. 会議終了後、担当者は議事録を作成し、共有

実施効果

- 日程調整、座席表や名簿の作成など、諸々の雑務をロボットが全て代行し、年間150時間の余剰時間を創出
- 会議資料や議事録の作成にかける時間が多くなり、資料のクオリティが上がることで会議内容が向上

© OPEN, Inc. All rights reserved.

生命倫理審査の電子申請システムにデータをインポートする業務

医療・ヘルスケア

研究者(医師)

選定理由

- 臨床研究法が新たに制定されたことに伴い発生した新業務
- メール添付で提出していた書類をシステムにインポートする必要があり、手作業であれば最低でも3～4日かかる見込みだった
- システムにデータを一括してインポートする機能がなく、１つずつ登録する必要がある

【ロボット導入前】
1. ロボット導入以前は行っていなかった業務

【ロボット導入後】
1. 担当者はインポート用データのファイル名を統一し、データの一覧表を作成
2. ロボットは電子システムで、研究課題名・研究期間・医師名などを転記
3. ロボットは申請データをアップロードし、一時保存
4. 担当者は登録内容を確認し、申請を確定

実施効果

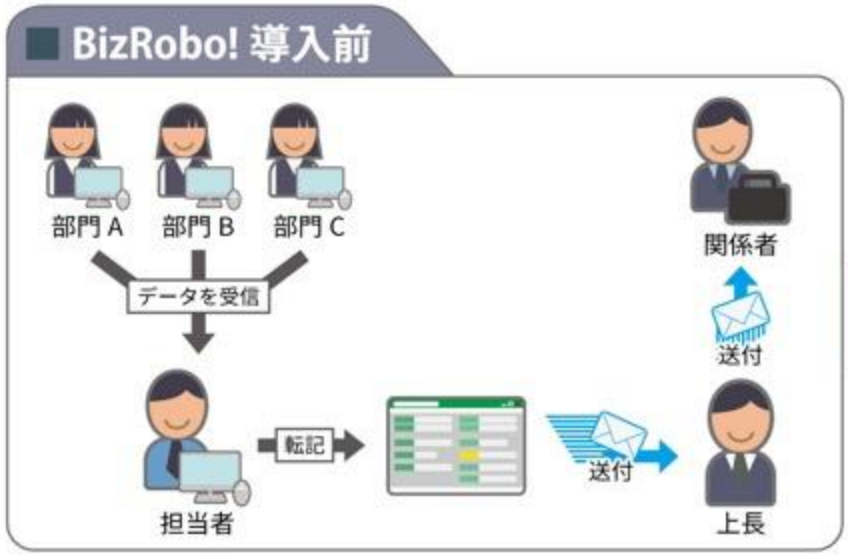
- ロボット開発・実行時間は3時間であり、人手で行う場合に想定していた3、4日から大幅短縮
- データインポートという一度きりの業務であっても、業務負荷の軽減ができた
- 類似業務への展開も可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

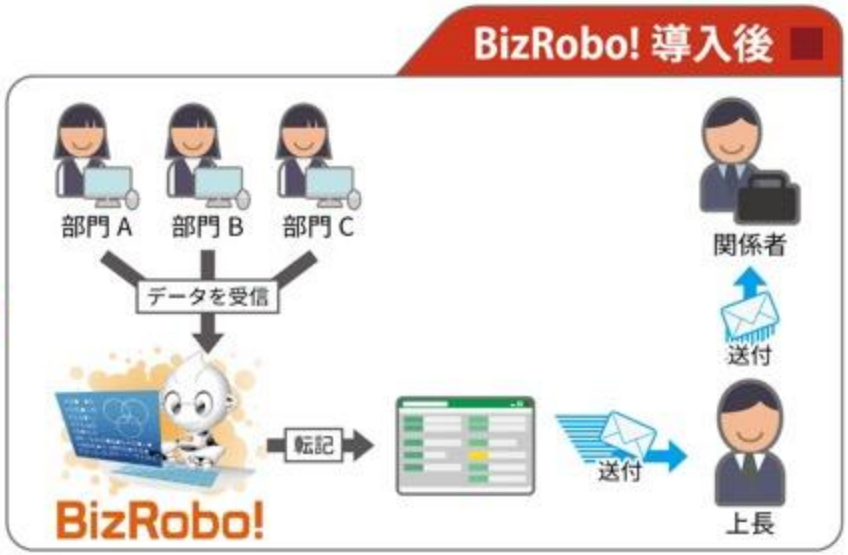
過誤納リストを入力する業務

選定理由

- 患者が本来より多く納金するケースが月に数十件発生していた
- 過誤納金は患者に還付する必要があるため、当業務はミスと漏れが許されなかった
- 複数部門から送付される書類を1枚のリストにまとめる作業を日時で行うため、担当者の負担が大きかった



1. 各部門より過誤納金に関するデータを受理
2. 複数のデータの内容を、1枚の過誤納リストに一つずつ手作業で転記
3. 記入後のリストを上長に送付
4. 上長承認後、関係者に送付



1. 各部門より過誤納金に関するデータを受理
2. ロボットは全てのデータを過誤納リストに自動で転記
3. 記入後のリストを上長に送付
4. 上長承認後、関係者に送付

実施効果

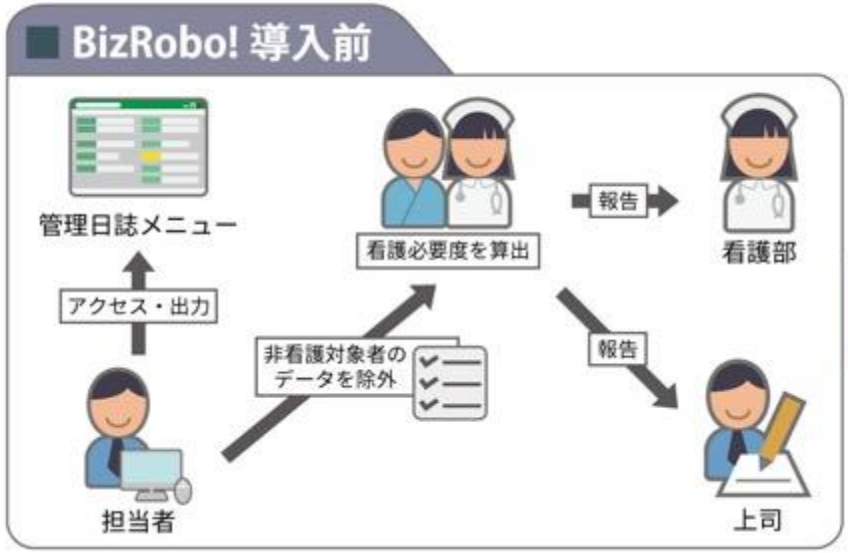
- 月に400分、年間で4800分（80時間）の余剰時間を創出
- 過誤納リストに漏れが発生した際の対応がなくなり、担当者がダブルチェックする業務もなくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

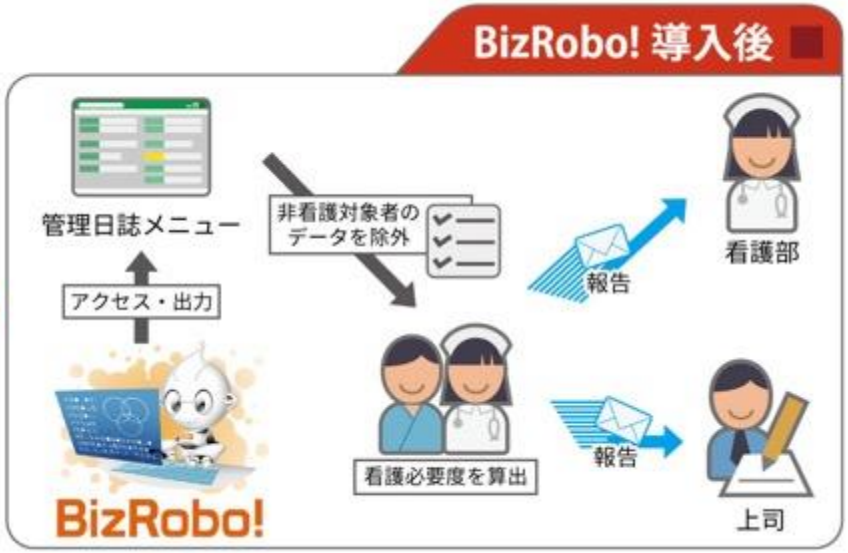
重症度、医療・看護必要度の算出を行う業務

選定理由

- 数100人以上の患者の明細データを目視で確認し、看護対象かどうかを判断する必要があり、担当者の負担となっていた
- ミスがないか見直す必要があり、業務時間を圧迫していた



1. 担当者は電子カルテの管理日誌メニューにアクセス、医療・看護必要度の明細データを出力
2. 担当者は非看護対象者のデータを除外
3. 看護必要度を算出し、経営分析係と看護部へ報告



1. ロボットは電子カルテの管理日誌メニューにアクセス、医療・看護必要度の明細データを出力
2. ロボットは非看護対象者のデータを除外
3. 看護必要度を算出し、経営分析係と看護部へ報告

実施効果

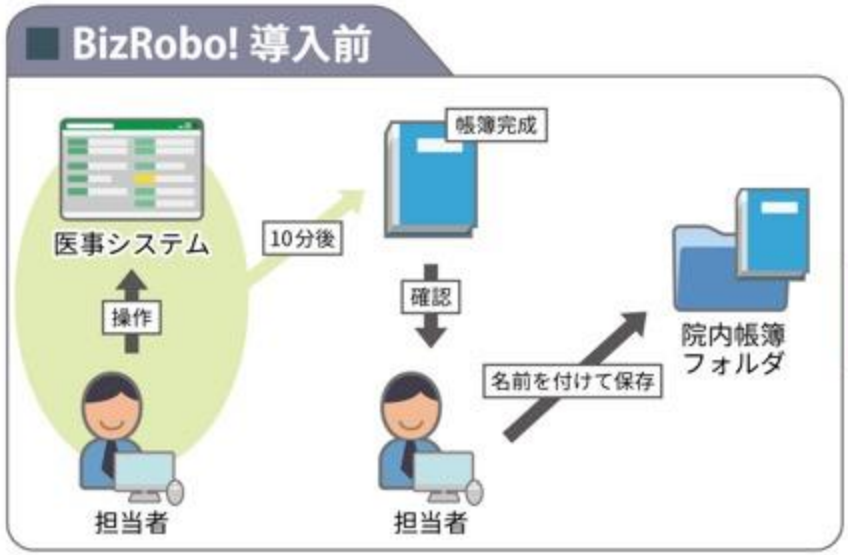
- 全てロボットが代行することで、年間114時間の余剰時間を創出
- 月1回だけのイレギュラーな業務を行う必要がなくなり、担当者のスケジュール立てがしやすくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

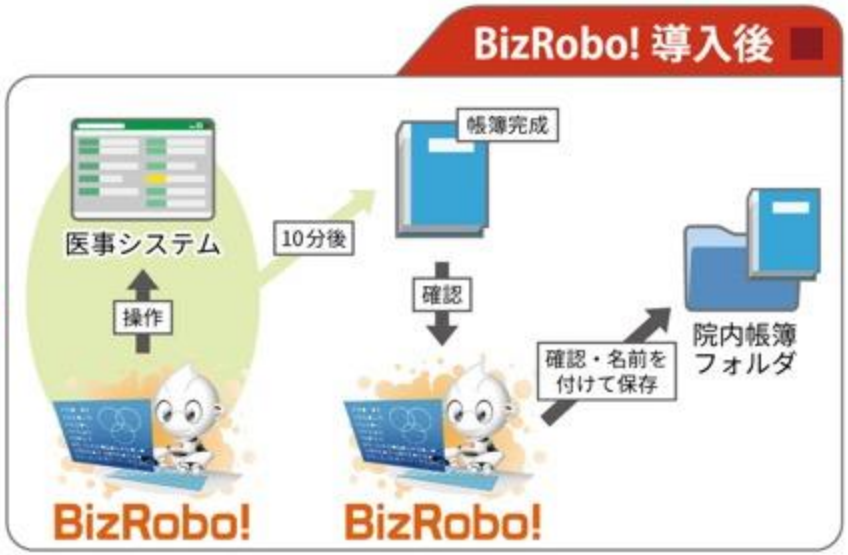
外来患者数など、各種月報を作成する業務

選定理由

- 複数種類の月報について帳票を作成する必要があり、同じようなルーティンワークを繰り返す必要があった
- システム内でデータから帳票を作成するのに10分ほどかかり、ムダな「待ち時間」が発生していた



1. 担当者は医事システムを起動し、ログイン
2. メニューから「医事統計→月次処理→月の設定」を行い、帳票作成ボタンを選択
3. 10分後、作成されたファイルを確認し、名前を付けて保存



1. ロボットは医事システムを起動し、ログイン
2. メニューから「医事統計→月次処理→月の設定」を行い、帳票作成ボタンを選択
3. 作成されたファイルを確認し、名前を付けて保存

実施効果

- 月次処理を完全代行するため担当者のムダな待ち時間や残業が削減。モチベーション維持につながった
- 完全にルール化されている業務のため、ロボット作成を短時間で行え、効果もすぐ検証できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

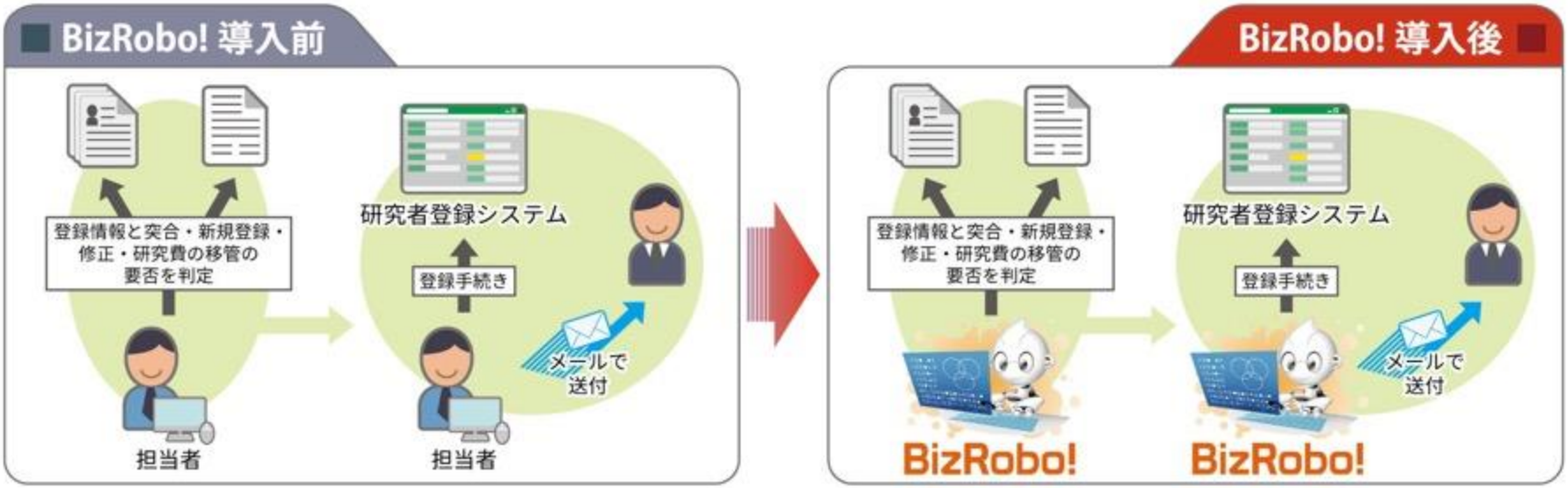
既存の研究者名簿と人事異動情報を突合し、新規名簿を作成する業務

医療・ヘルスケア

経営企画部

選定理由

- 人事異動の際に行う業務だが、締め切りが設定されており、できるだけリードタイムを短くする必要がある
- 登録漏れがある場合、その後の影響が大きくなるため、できるだけヒューマンエラーを削減したかった



1. 担当者は新規採用・退職・役職変更のデータを既存の登録情報と突合
2. 名簿への新規登録・修正や、研究費の移管の要否を判定
3. 外部の研究者登録システムにおいて登録手続きを行う
4. 登録時に付与される研究者番号とパスワードを、登録者にメールで送付

1. ロボットは新規採用・退職・役職変更のデータを既存の登録情報を突合
2. 名簿への新規登録や修正や、研究費の移管の要否を判定
3. 外部の研究者登録システムにおいて登録手続きを行う
4. 登録時に付与される研究者番号とパスワードを、登録者にメールで送付

実施効果

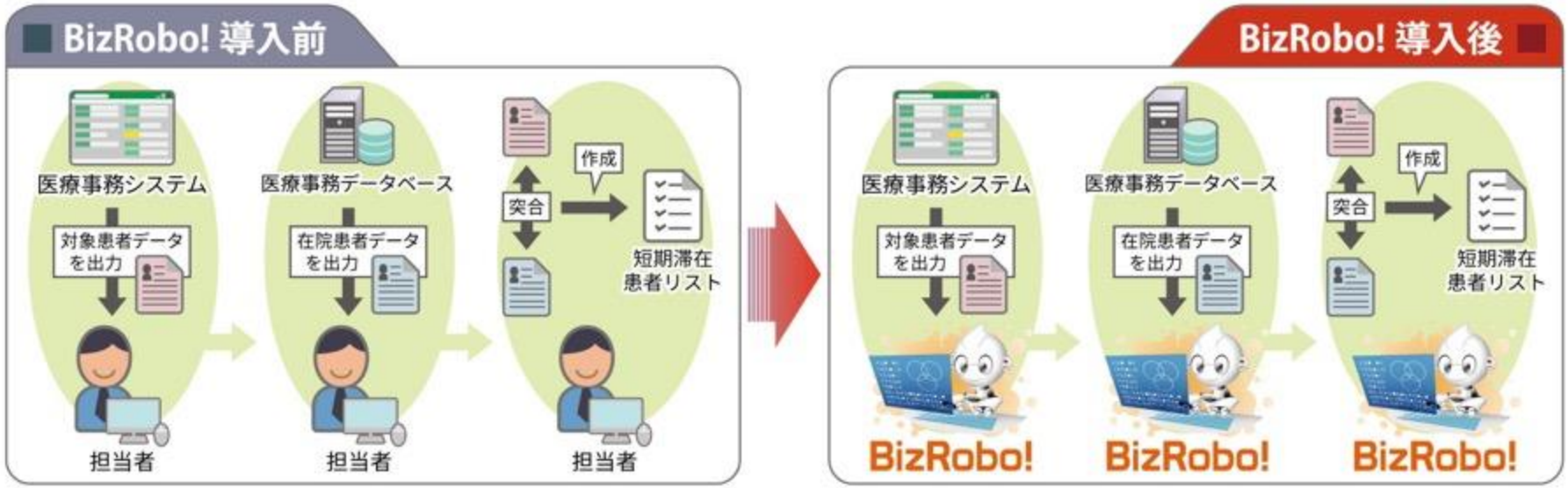
- 年間95時間の余剰時間を創出
- 登録漏れによるミスがなくなり、ミスによる関係各所との無駄なやりとりもなくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

短期滞在患者のリストを作成する業務

選定理由

- ２種類の膨大なデータベースから患者データを確認し、突合する作業であり、担当者の負担が大きかった
- 多くの件数を人手で確認するため、突合や転記作業にミスが発生していた



1. 担当者は医療事務システムから短期滞在手術など対象患者データを出力
2. 医療事務データベースから在院患者データを出力
3. ２種類のデータを突合し、短期滞在患者リストを作成

1. ロボットは医療事務システムから短期滞在手術など対象患者データを出力
2. 医療事務データベースから在院患者データを出力
3. ２種類のデータを突合し、短期滞在患者リストを作成

実施効果

- 年間100時間以上の余剰時間を創出し、リスト作成におけるミスも少なくなった
- 面倒で疲労感の多い業務をロボットに代行し、担当者をルーティンワークから解放した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

各ドラッグストアの販売実績をダウンロードし、集計・加工する業務

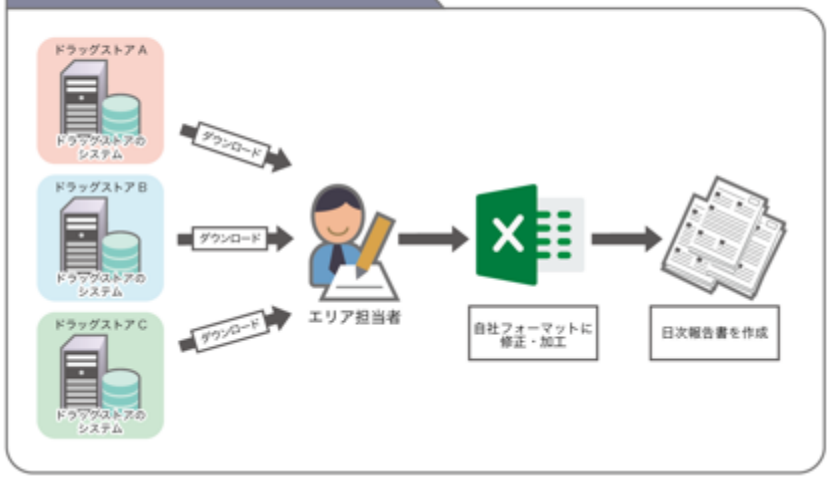
医療・ヘルスケア

在庫管理部門

選定理由

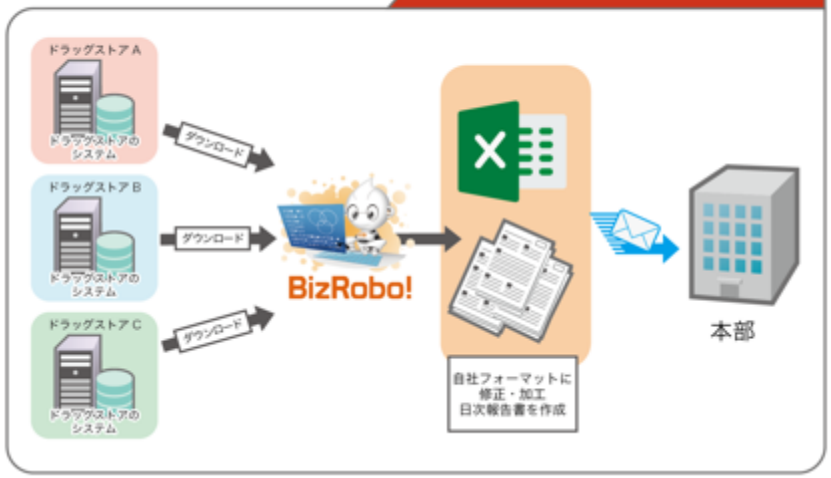
- ダウンロードするデータが多数あり、なおかつダウンロードにも時間がかかる
- 季節商品のエリアごとの売上を日次で正確に把握し、生産量を最適化したかった

BizRobo! 導入前



1. 各エリアの担当者は、
   各ドラッグストアのシステムから販売実績をダウンロード
2. ダウンロードした各エリアの販売データを
   自社フォーマットに修正・加工し、Excelのピボットを用いて集計
3. 各エリアの担当者は、日次報告書を作成

BizRobo! 導入後



1. ロボットは、
   各ドラッグストアのシステムから販売実績データをダウンロード
2. 各エリアの販売データを
   自社フォーマット用に加工し、Excelのピボットを用いて集計
3. 日次報告書を作成し、本部に送付

実施効果

- 人手ではできなかった膨大な量のデータ収集及び報告が日次でできるようになった
- 正確かつ遅延のないデータ収集が可能となり、過剰な在庫を減らすための需要予測の第一歩となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

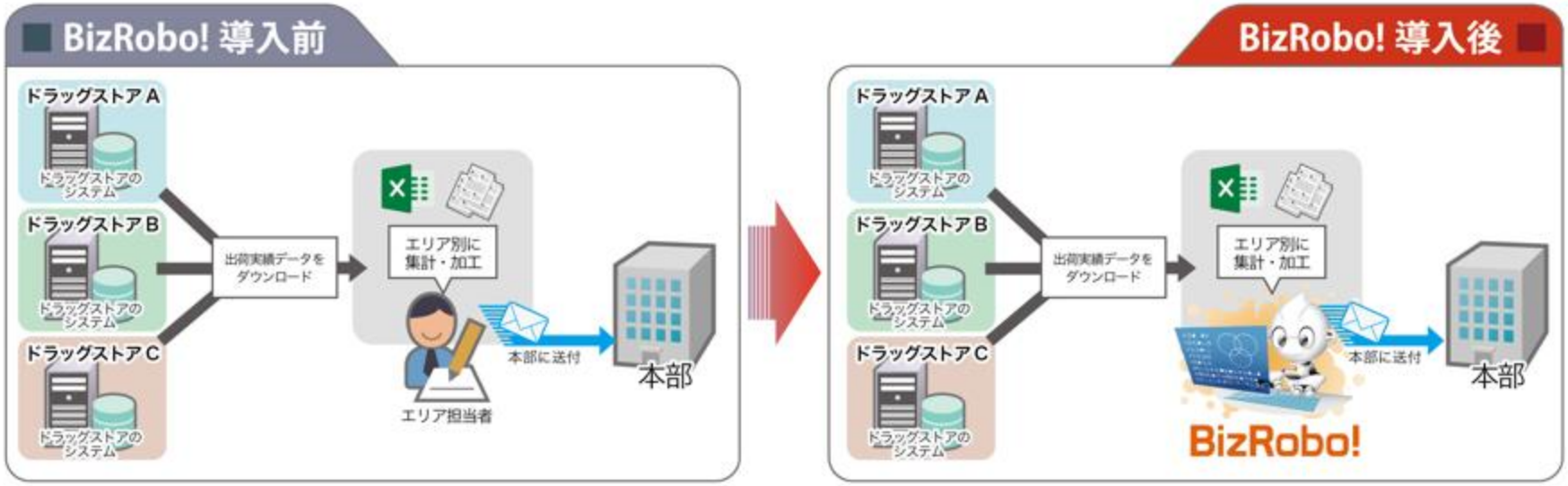
各ドラッグストアのシステムからデータをダウンロードし、自社フォーマットの実績レポートに転記する業務

医療・ヘルスケア

営業サポート部門

選定理由

- 各ドラッグストアのデータのフォーマットと、自社の実績レポートのフォーマットが異なっており、担当者が修正する必要があった
- 毎日、午前中に数時間かけて担当者が行っている業務のため、業務負荷が高かった



1. 各エリアの担当者は各ドラッグストアのシステムから出荷実績データをダウンロードし、エリア別に集計
2. 集計したデータを、自社の実績レポートのフォーマットに合うように加工(エクセルの行と列を入れ替える)
3. 実績レポートを本部に送付

1. ロボットは各ドラッグストアのシステムから出荷実績データをダウンロードし、エリア別に集計
2. 集計したデータを、自社の実績レポートのフォーマットに合うように加工(エクセルの行と列を入れ替える)
3. 実績レポートを本部に送付

実施効果

- 毎日担当者が午前中かけて行っていた作業が、出社前に完了するようになった
- 担当者が行う不毛なルーチンワークを、ロボットに代替させられるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

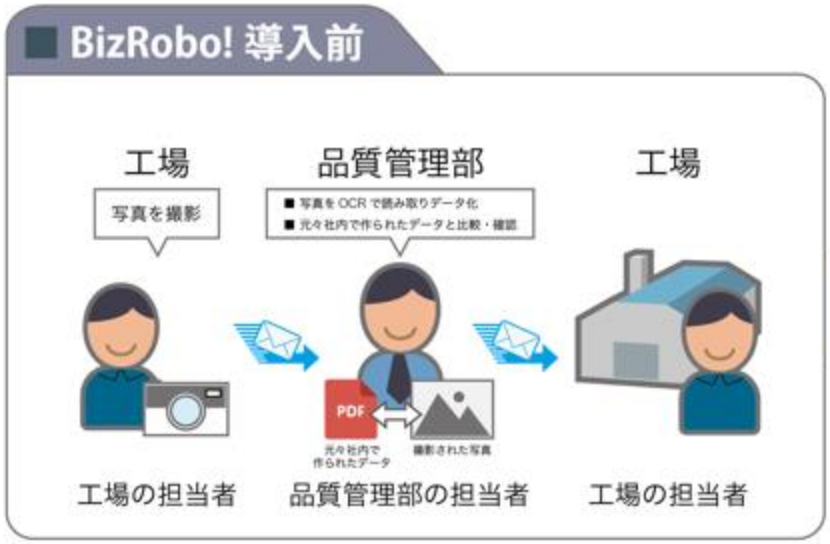
商品パッケージの表記(税控除マーク、成分表示など)をOCRで読み取り、元のデータと相違ないか確認する業務

医療・ヘルスケア

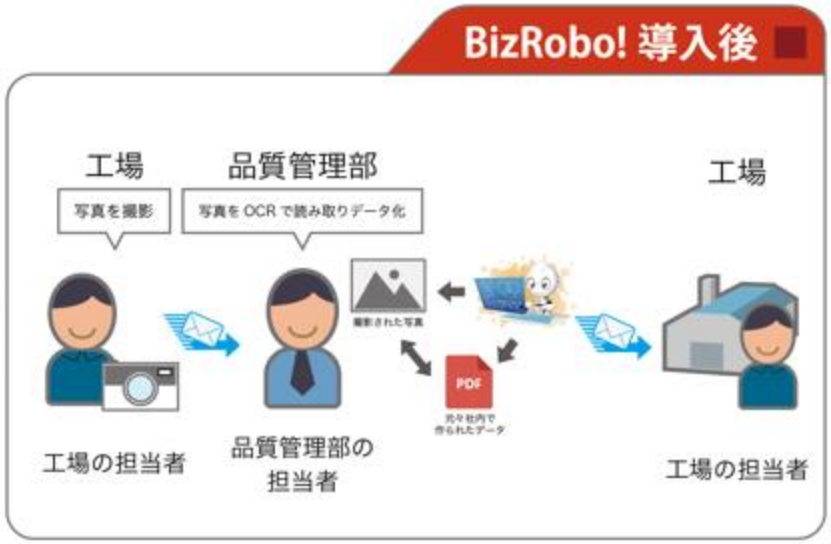
品質管理部門

選定理由

- 確認漏れによるミスが起こると数万個単位の商品回収・パッケージ改修など多大な影響が及ぼされる
- 従業員に与えるプレッシャーは多大であり、モチベーション低下につながっていた
- 新商品が出るたびこの業務を行う必要があり、頻度も少なくはない



1. 工場の担当者が商品の外箱(パッケージ)のサンプルを写真に撮り、送付
2. 品質管理部の担当者は写真をOCRで読み取り、データ化
3. OCRでデータ化したものと、
   元々社内で作られたデータを見比べ、相違がないか確認
4. 相違があった場合、その箇所をメールで工場の担当者に送付



1. 工場の担当者が商品の外箱(パッケージ)のサンプルを写真に撮り、送付
2. 品質管理部の担当者は写真をOCRで読み取り、データ化
3. ロボットはOCRでデータ化したものと、
   元々社内で作られたデータを見比べ、相違がないか確認
4. ロボットは相違があった場合、その箇所をメールで工場の担当者に送付

実施効果

- 相違のチェックの正確性を確保することが可能となった
- 担当者が「ミスを起こしてはならない」というプレッシャーから解放された

© OPEN, Inc. All rights reserved.

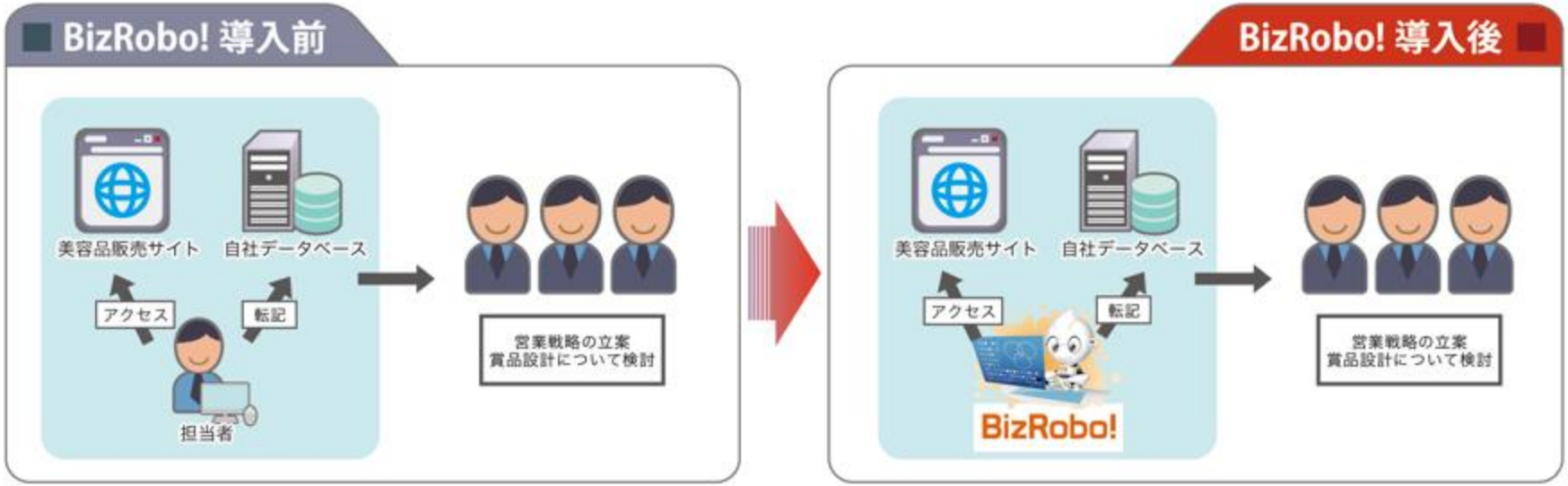
美容品販売サイトで、
自社商品の口コミや評価などを収集する業務

医療・ヘルスケア

顧客サービス部

選定理由

- 収集する情報の項目や、口コミの数などが多く、非常に作業量の多い業務だった
- 業務量が多いため、週に1回だけ代表的な情報のみを抜き出すことしかできていなかった



1. 担当者は美容品販売サイトにアクセス
2. 投稿者・年齢・口コミ・購入場所・評価・関連キーワードを確認
3. 自社のデータベースに、商品別に情報を転記
   ※１～３を繰り返し行う
4. 収集した情報をもとに、営業戦略の立案や商品設計について検討

1. ロボットは美容品販売サイトにアクセス
2. 投稿者・年齢・口コミ・購入場所・評価・関連キーワードを確認
3. 自社のデータベースに、商品別に情報を転記
4. 収集した情報をもとに、営業戦略の立案や商品設計について検討

実施効果

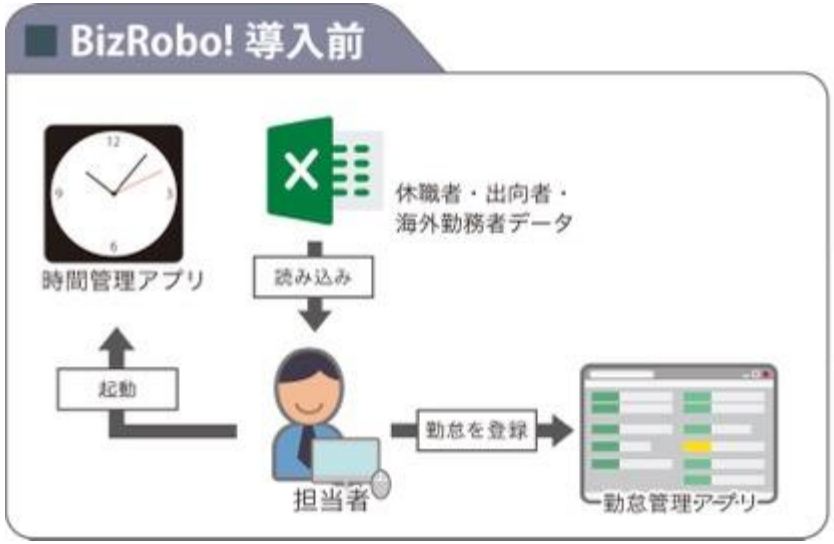
- 全てロボットが代行するため、担当者の負担がゼロとなった
- 日次でデータ収集を行えるため、タイムリーに情報取得が可能となった
- データの正確性が向上し、転記ミスなどがなくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

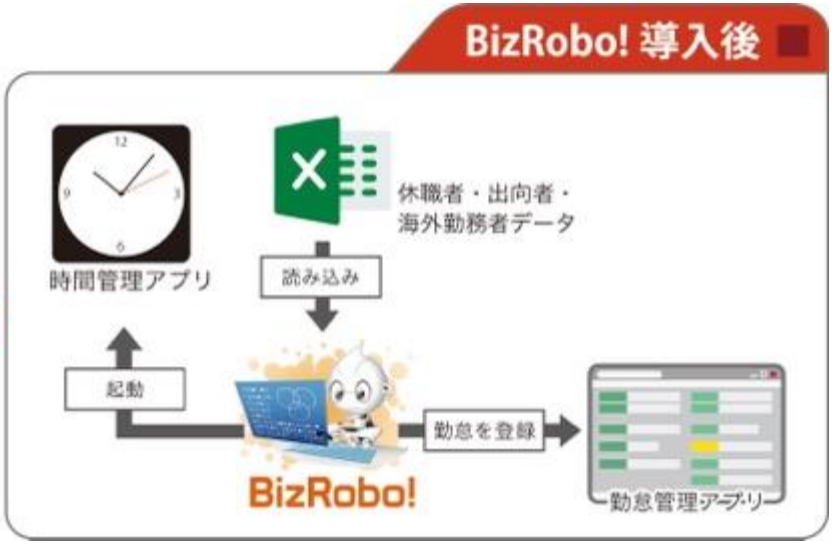
休職者・出向者・海外勤務者の勤怠を代行登録する業務

選定理由

- 月に1回、30分～5時間ほど時間をかけている業務
- 作業時間が多くはないが、完全なルーティンワークであり、ロボットに代行させるのが適切と判断した
- 作業漏れやミスが発生することがあり、月次勤怠情報の確定に遅れが生じることがあった



1. 担当者は時間管理アプリを起動
2. 休職者・出向者・海外勤務者の管理一覧Excelを読み込む
3. 当者はExcel情報をもとに、時間管理アプリを用いて勤怠を登録



1. ロボットは時間管理アプリを起動
2. 休職者・出向者・海外勤務者の管理一覧Excelを読み込む
3. Excel情報をもとに、時間管理アプリを用いて勤怠を登録

実施効果

- グループ会社含め、1ヶ月で20時間ほどの余剰時間を創出
- 作業漏れや登録ミスなどがなくなり、円滑に月次勤怠情報を確定することが可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

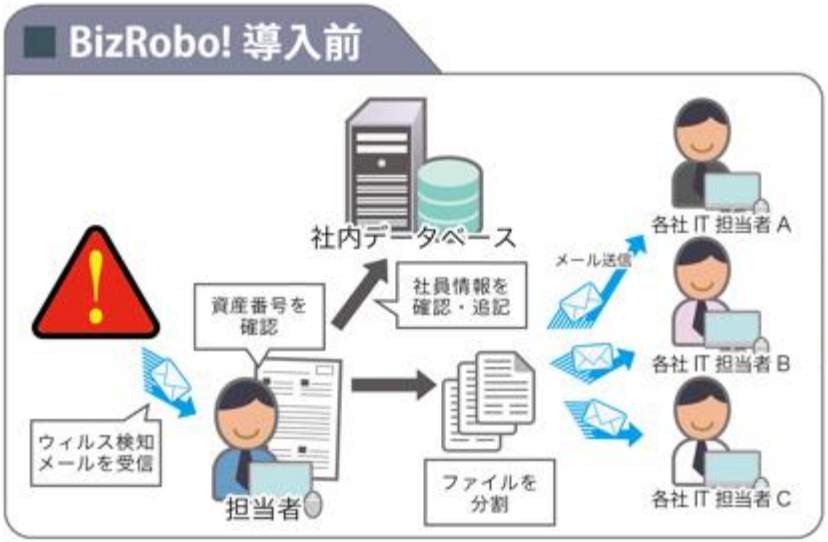
ウィルス検知メールを受信した際に関係者に通知する業務

医療・ヘルスケア

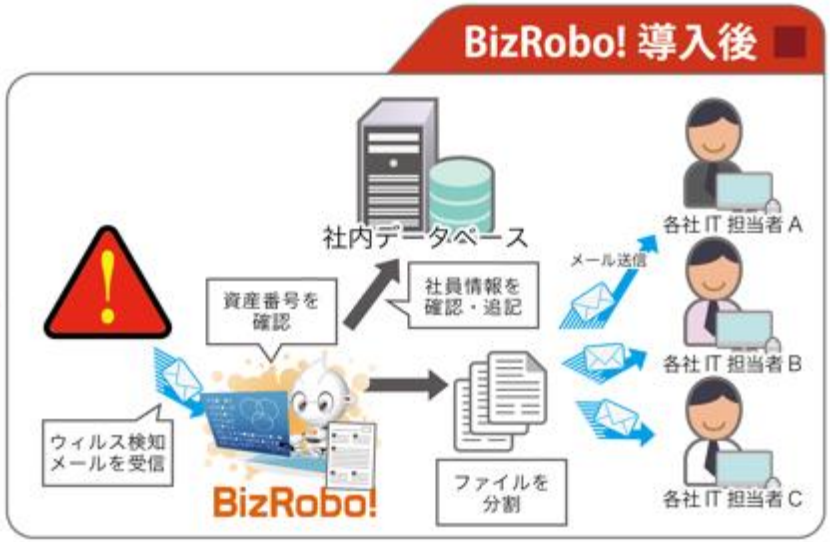
情報システム部

選定理由

- 毎週1回、ウイルス検知メールが届き次第1～2時間かけて行っている業務
- 業務時間は少ないが、完全なルーティンワークのため担当者のモチベーション低下の一因となっていた



1. ウイルス検知メールを受信
2. 担当者はウイルス検知メールの添付ファイルに記載の資産番号を確認
3. 資産番号を社内データベースで検索し、社員情報を確認・追記
4. 各グループ会社・子会社ごとにファイルを分割
5. 各社IT担当者へ作成したファイルを添付し、メール送信



1. ウイルス検知メールを受信
2. ロボットはウイルス検知メールの添付ファイルに記載の資産番号を確認
3. 資産番号を社内データベースで検索し、社員情報を確認・追記
4. 各グループ会社・子会社ごとにファイルを分割
5. 各社IT担当者へ作成したファイルを添付し、メール送信

実施効果

- 毎月4～8時間程度の余剰時間を創出
- ルーティンワークゆえの飽きからくる、作業漏れや操作ミスなどの人的ミスを撲滅

© OPEN, Inc. All rights reserved.

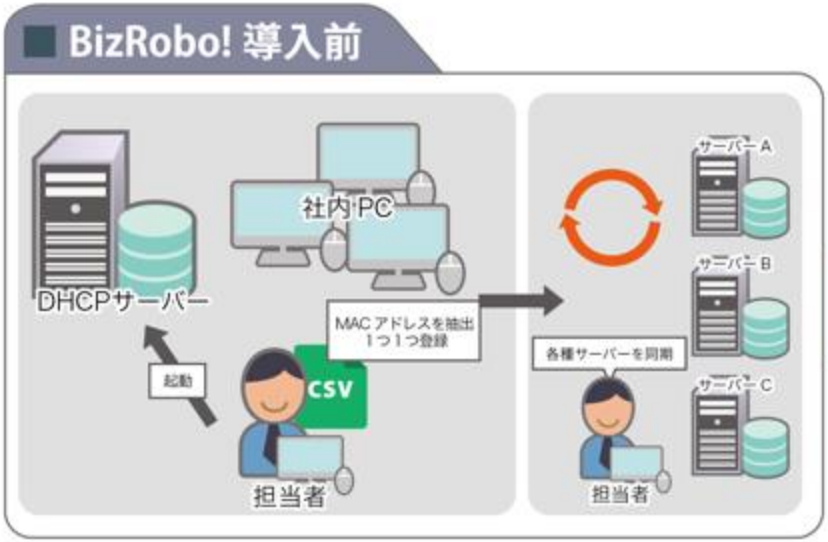
DHCPサーバに各種設定した PCの有線MACアドレスを登録する業務

医療・ヘルスケア

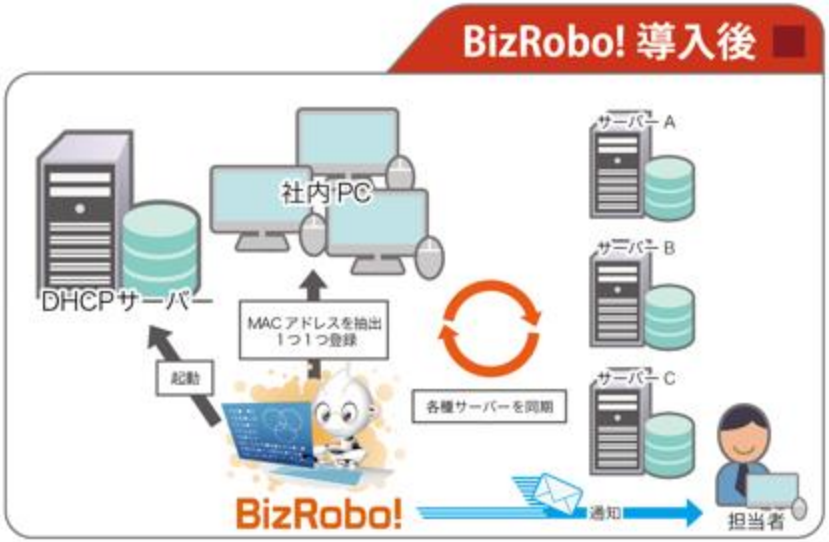
情報システム部

選定理由

- 1日1回、30分～2時間ほどかけて、社員6名で週単位の当番制で行っている業務。
- 月ごとに作業量がバラバラで、安定した業務スケジュール設定を阻害する要因となっていた。



1. 担当者はDHCPサーバを起動
2. マクロを使用し、csvデータからMACアドレスを抽出
3. 抽出した情報をもとにMACアドレスを１つ１つ登録
4. 各種サーバを同期



1. 担当者はDHCPサーバを起動
2. ロボットはMACアドレスを抽出
3. 抽出した情報をもとにMACアドレスを１つ１つ登録
4. 各種サーバを同期
5. 担当者に作業完了の通知を送付

実施効果

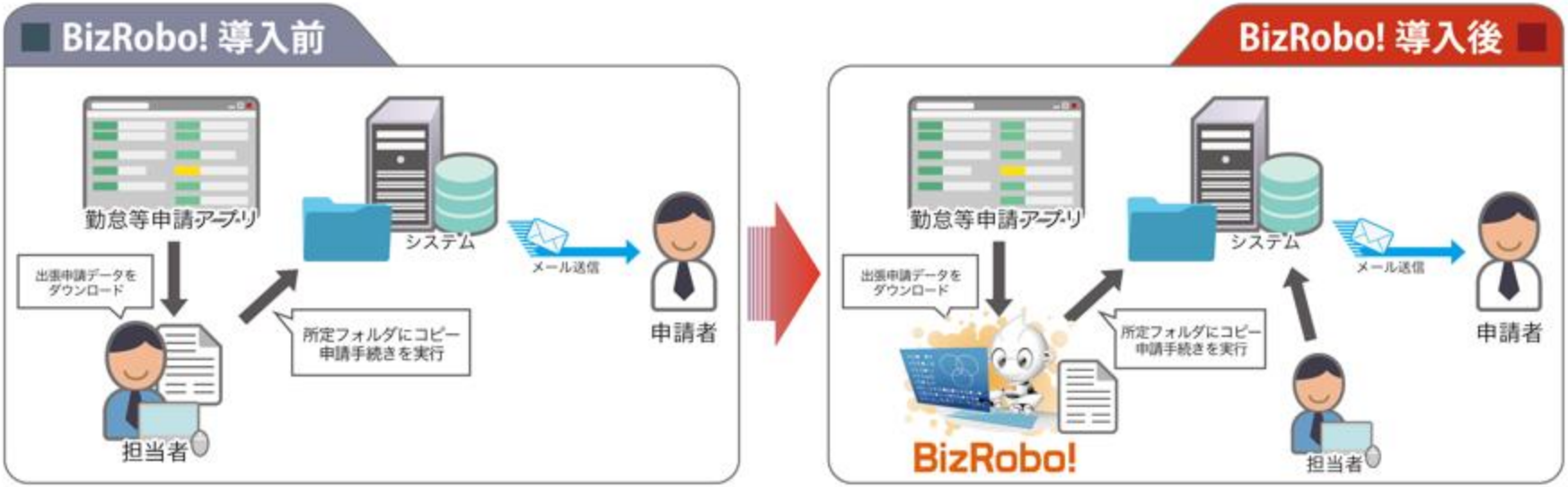
- 1ヶ月に10～40時間の余剰時間を創出
- 月ごとに作業量がランダムかつ、作業量も予見できなかったが、全てロボットが代行可能となったため、担当者は他の作業に従事でき、安定運用を実現できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

出張申請データをダウンロードし、結果を通知する業務

選定理由

- 1日1回、30分～2時間ほどかけて、社員6名で週単位の当番制で行っている業務。
- 月ごとに作業量がバラバラで、安定した業務スケジュール設定を阻害する要因となっていた。



1. 担当者は、勤怠等申請アプリから、出張申請データ(国内/海外/etc)をダウンロード
2. ファイル名を変更し、サーバーの所定フォルダにコピー
3. システムを用い、サーバー上で申請手続きを実行
4. システムを用い、申請者にメール送信

1. ロボットは、勤怠等申請アプリから、出張申請データ(国内/海外/etc)をダウンロード
2. ファイル名を変更し、サーバーの所定フォルダにコピー
3. 担当者はシステムを用い、サーバー上で申請手続きを実行
4. システムを用い、申請者にメール送信

実施効果

- 1ヶ月あたり12時間の余剰時間を創出した
- 出勤直後の忙しい時間帯のルーティンワークがなくなり、想定以上に担当者の負担が軽減された

© OPEN, Inc. All rights reserved.

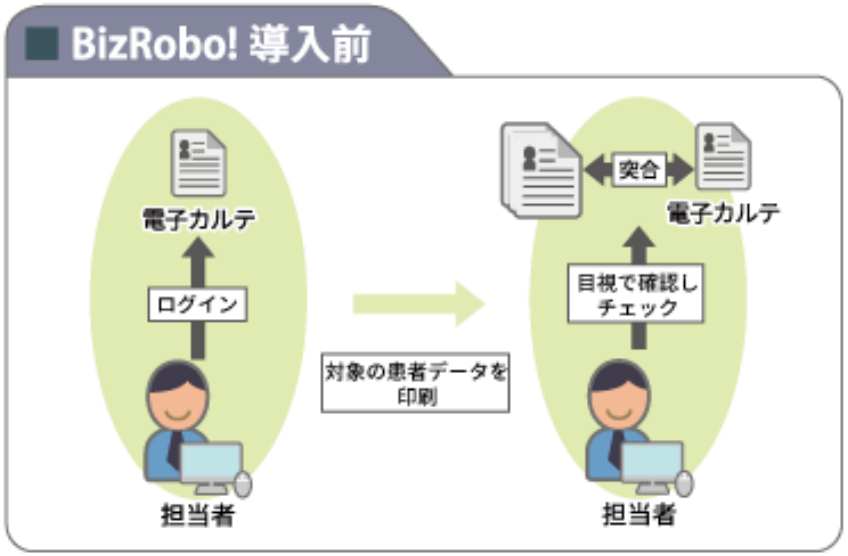
入院診療計画書の未登録患者を抽出し、病棟ごとに振り分け出力する業務

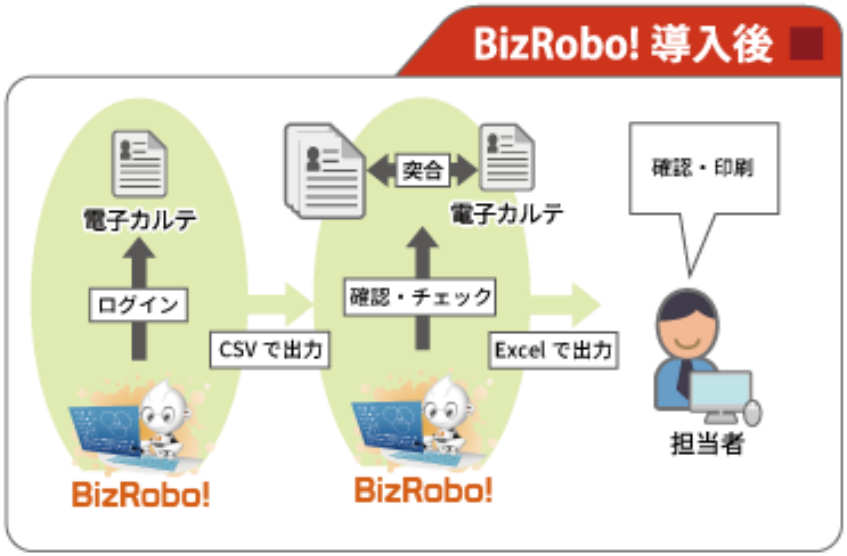
医療・ヘルスケア

業務課

選定理由

- 毎日、午前中に完了する必要がある業務のため、業務負荷が高かった
- 多くの件数を人手で確認するため、確認漏れや転記ミスが発生していた





1. 担当者が電子カルテにログイン
2. 電子カルテより前日分の移動予定患者一覧を病棟ごとに印刷
3. 担当者が印刷した一覧から「入院」または「転科」の患者を特定
4. 電子カルテ上患者の入院診療計画書の登録状況を確認
   (100名分の情報を別ウインドウで開く)
5. 未登録の場合は印刷された移動予定患者一覧にマークをつける

1. ロボットが電子カルテにログイン
2. 電子カルテより前日分の移動予定患者一覧をCSVファイルで出力
3. ロボットが出力したCSVファイルから「入院」または「転科」の患者を特定
4. 電子カルテ上患者の入院診療計画書の登録状況を確認
5. 未登録の場合は判別するために先頭行にマークをつけ、エクセルファイルに出力
6. ロボットが病棟ごとにエクセルファイルを生成、担当者が出力結果を確認・印刷

実施効果

- 年間500時間以上の余剰時間を創出し、確認及び登録漏れの状況も少なくなった
- 負荷の高い業務をロボットに代行し、担当者をルーティンワークから解放した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

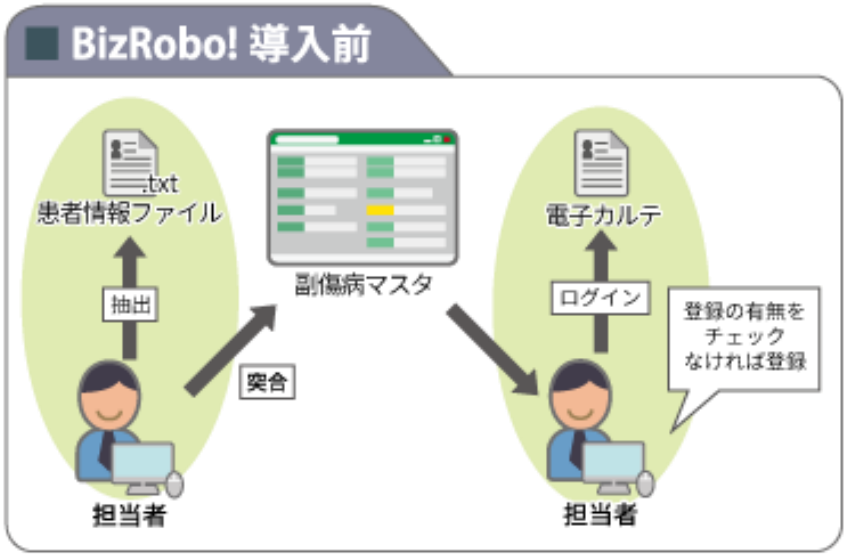
副傷病未登録の患者IDを抽出し、候補副傷病をリストアップする業務

医療・ヘルスケア

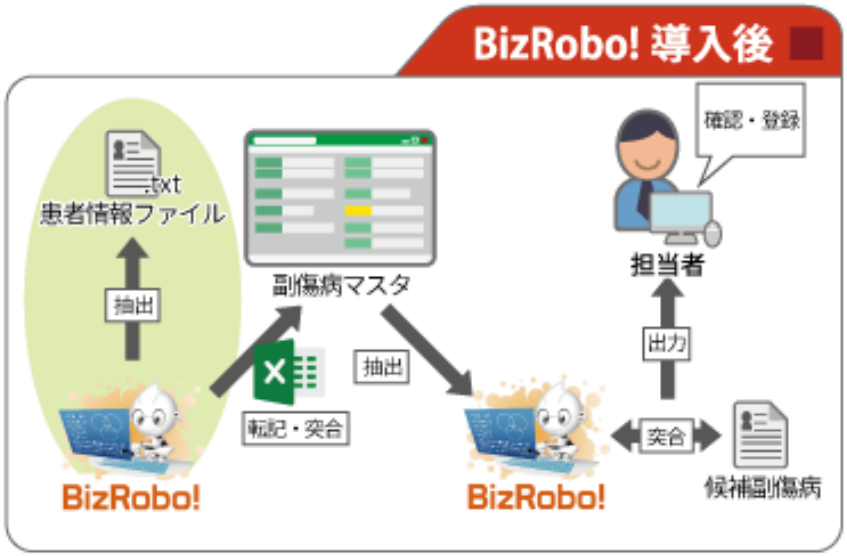
業務課

選定理由

- 多くの件数を人手で確認するため、担当者の負担が大きかった
- 単純な突合作業の繰り返しであり、ヒューマンエラーの発生や担当者のモチベーション低下につながっていた
- 副傷病の登録漏れは診療報酬点数や入院日数の設定にも影響が出るため、担当者のミスがあってはならない業務であった



1. 担当者が患者情報ファイル（テキスト形式）を開き、必要情報を抽出
2. 患者情報（DPCコード）と副傷病マスタを突合し、候補を出す
3. 電子カルテにログインし、患者の候補副傷病が登録されているかを確認
4. 未登録の副傷病が存在した場合、候補の副傷病を電子カルテに登録



1. ロボットが患者情報ファイル（テキスト形式）を開き、Excelに加工・転記
2. 患者情報（DPCコード）と副傷病マスタを突合
3. 対象となる患者ID及び、候補副傷病を抽出
4. 抽出された対象患者のデータをDWHよりエクスポート
5. エクスポートデータと候補副傷病を突合
6. 未登録の候補副傷病が存在した場合は抽出し、エクセルファイルに出力
7. 担当者が出力結果を確認し、候補の副傷病を電子カルテに登録

実施効果

- 従来人手では毎月数十時間をかかっていた膨大な作業時間を完全にロボットが代行
- 担当者の余力が生まれた他、確認・登録漏れの課題も改善できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

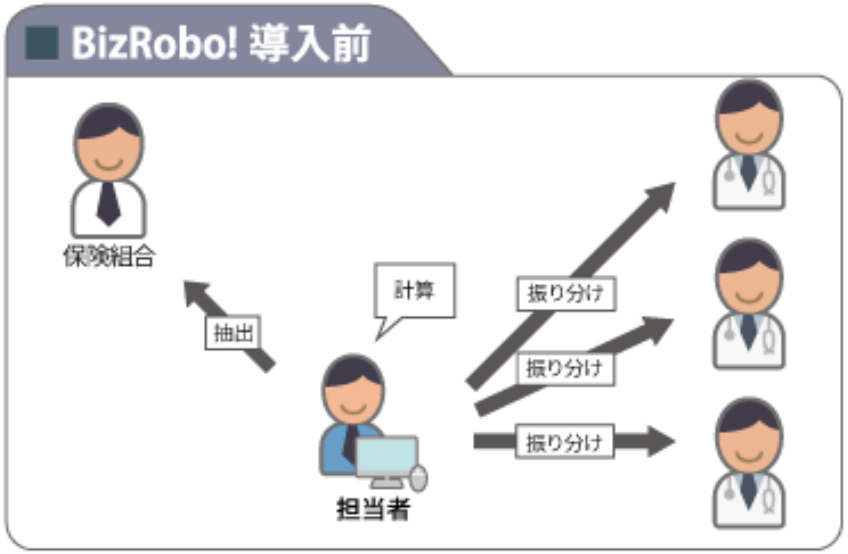
返戻査定報告書より事由や点数など必要なデータを抽出し、点数計算を行う業務

医療・ヘルスケア

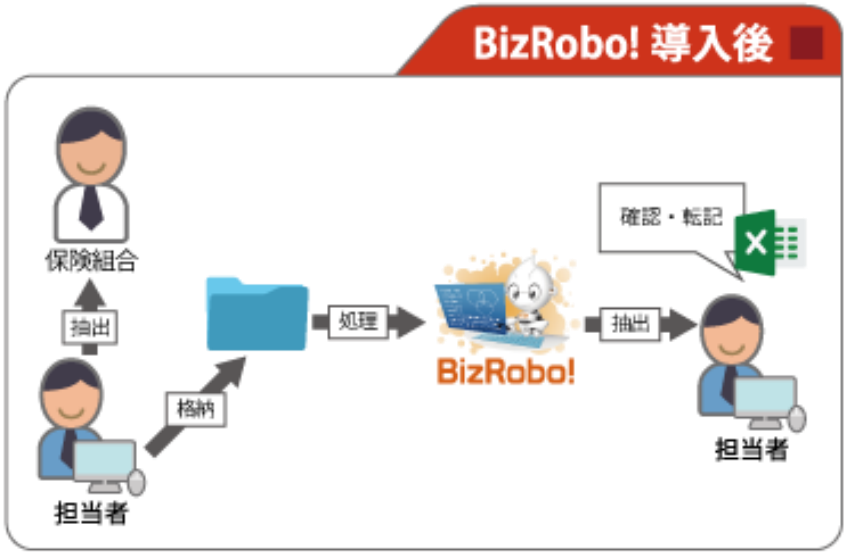
業務課

選定理由

- 確認項目が多くあり、人手で完璧にチェックすることは困難
- 月1000件以上の処理数があり、膨大な業務量が担当者の負担となっていた



1. 担当者が保険組合からの返戻・査定データから事由や点数などのデータを抽出
2. 各患者の査定点数を計算し、診療科ごとに件数を振り分け



1. 担当者が保険組合からの返戻・査定データを修正し、指定フォルダへ格納
2. ロボットがファイルを読込フィルタリング処理を行う
3. ロボットが事由や点数などの必要なデータを抽出し、一覧データを出力
4. ロボットが出力した一覧データを担当者が確認し、計算用Excelファイルへ転記

実施効果

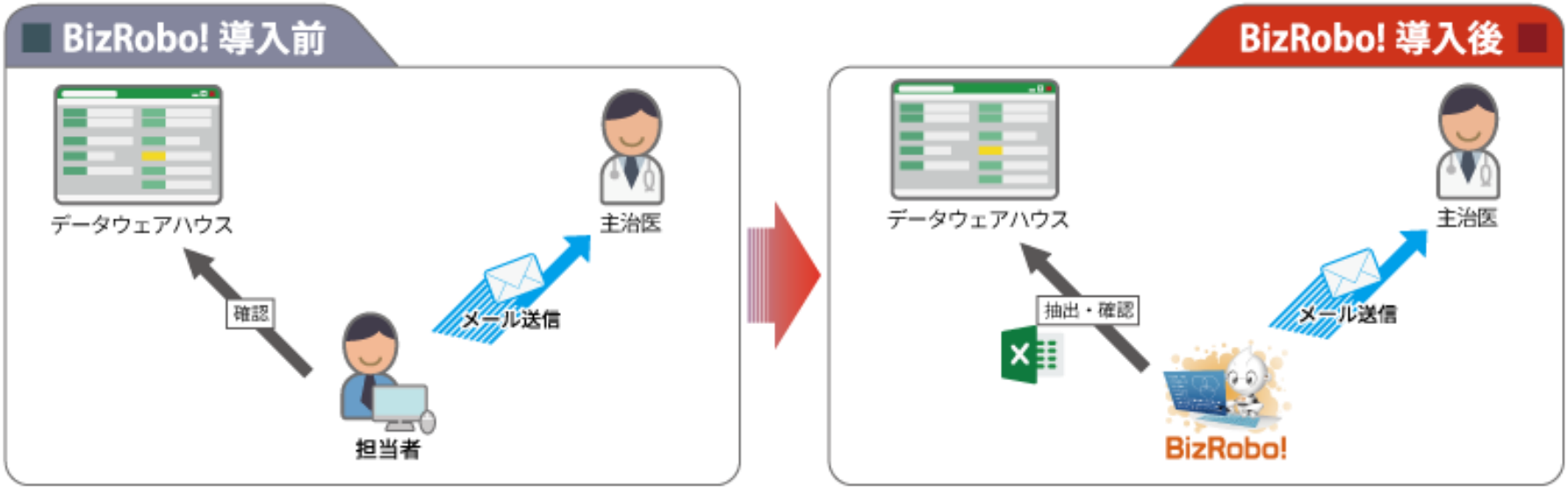
- 返戻査定の点数計算を簡易化し、わずか5分間で計算用報告書が生成される
- インプットファイルを修正する必要があるが、全体的に大幅な工数削減を実現

© OPEN, Inc. All rights reserved.

内視鏡病理結果の未確認リストを抽出し、担当医に確認メールを送信する業務

選定理由

- 月に15時間ほど時間がかかっている業務である
- 確認漏れがあると医療事故などにつながる可能性があるため、可能な限りヒューマンエラーを削減する必要があった



1. 担当者はDWH（データウェアハウス）より
   内視鏡検査の病理結果未読リストの患者名、主治医を確認
2. 電子カルテを開く
3. メール機能で主治医に注意喚起のメールを送信

1. ロボットはDWHより
   内視鏡検査の病理結果未読リストをExcelファイルで抽出
2. 抽出したExcelファイルを開き、患者名、主治医を確認
3. 電子カルテを開く
4. 抽出したExcelファイルの情報をもとに
   メール機能で主治医に注意喚起のメールを送信

実施効果

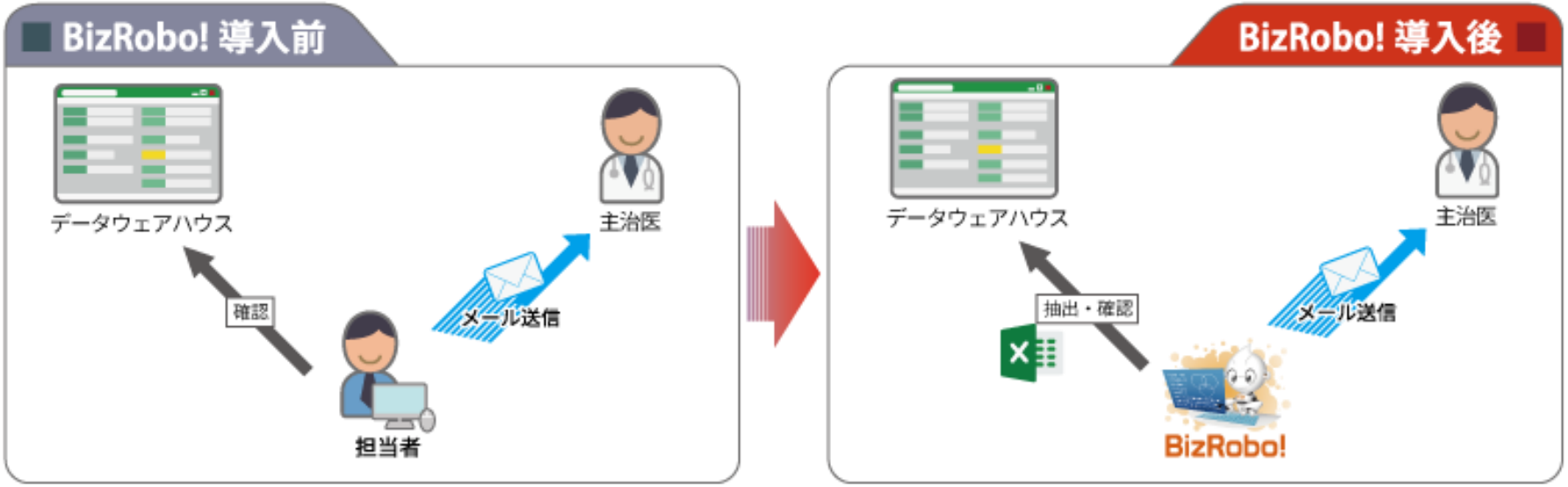
- 年間150時間の余剰時間を創出
- 確認又は対応漏れの防止ができ、ミスによる関係各所との無駄なやりとりが減った

© OPEN, Inc. All rights reserved.

超音波検査の所見未確認リストを抽出し、担当医に確認メールを送信する業務

選定理由

- 月平均15時間ほど時間がかかっている業務である
- 確認漏れがあると医療事故などにつながる可能性があるため、可能な限りヒューマンエラーを削減する必要があった



1. 担当者はDWH（データウェアハウス）より
   超音波検査の所見未確認リストの患者名、主治医を確認
2. 電子カルテを開く
3. メール機能で主治医に注意喚起のメールを送信

1. ロボットがDWHより
   内視鏡検査の病理結果未読リストをExcelファイルで抽出
2. 抽出したExcelファイルを開き、患者名、主治医を確認
3. 電子カルテを開く
4. 抽出したExcelファイルの情報をもとに
   メール機能で主治医に注意喚起のメールを送信

実施効果

- 年間150時間の余剰時間を創出
- 確認又は対応漏れの防止ができ、ミスによる関係各所との無駄なやりとりが減った

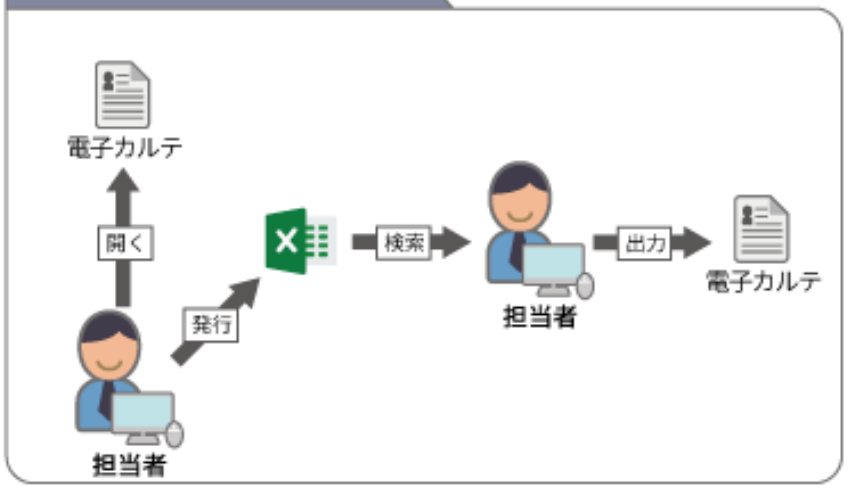
© OPEN, Inc. All rights reserved.

注射の処方箋データを発行する業務

選定理由

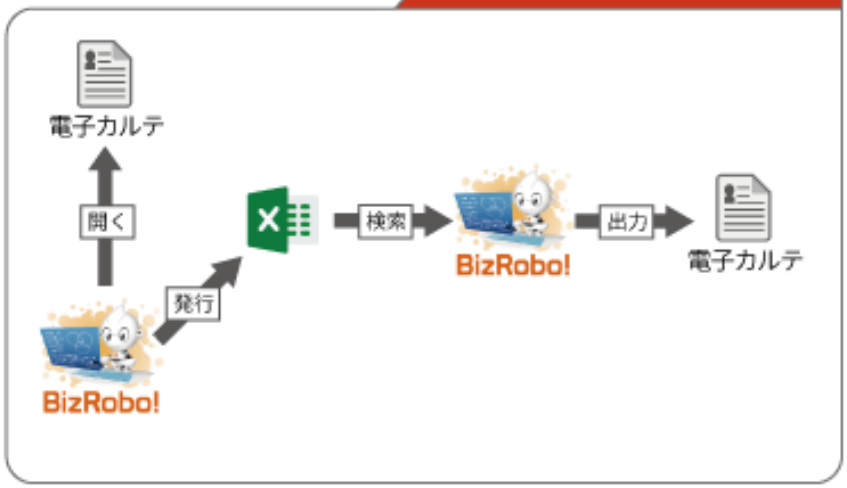
- 1日1回、10~15分ほどかけている定型業務
- 作業頻度が高いためRPA導入による業務時間の短縮効果を体感しやすいと判断し、選定を行った

BizRobo! 導入前



1. 担当者が電子カルテを開く
2. 対象注射の患者予約一覧をExcelファイルで発行
3. 電子カルテにて発行したリストの患者を検索
4. 注射箋データを1件ずつ発行・出力

BizRobo! 導入後



1. ロボットが電子カルテを開く
2. 対象注射の患者予約一覧をExcelファイルで発行
3. 電子カルテにて発行したリストの患者を検索
4. 注射箋データを1件ずつ発行・出力

実施効果

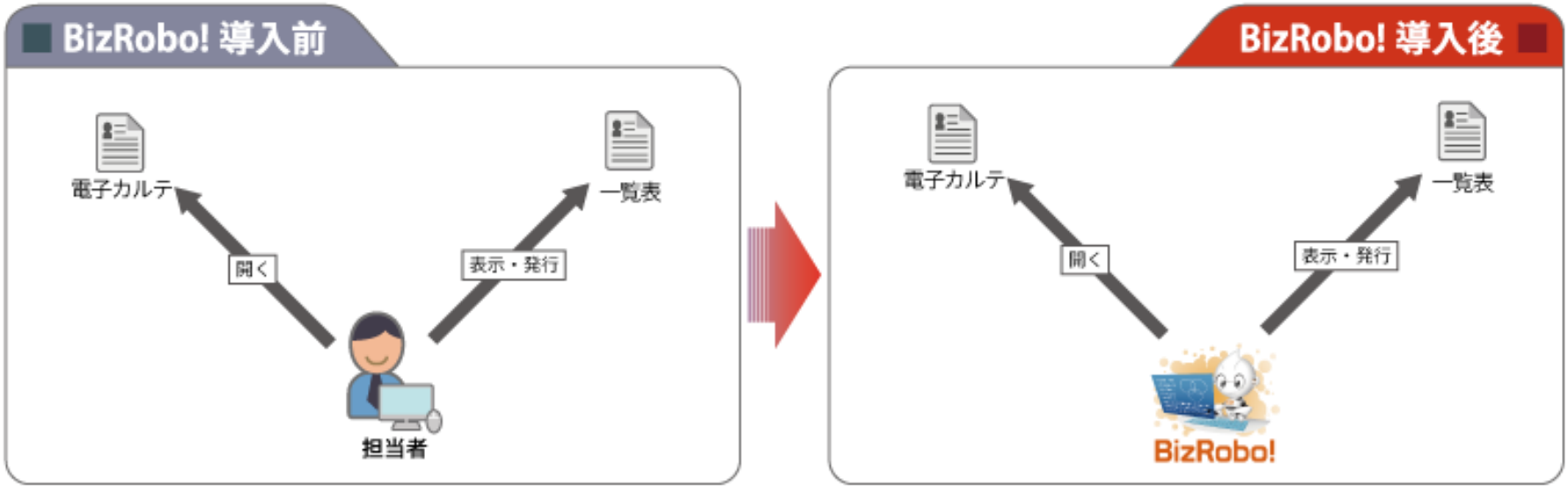
- 年間60時間以上の余剰時間を創出し、データ発行におけるミスもなくなった
- 担当者はルーティンワークから解放され、ストレスを軽減できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

入院決定患者の一覧票を発行する業務

選定理由

- 1日1回、5~10分ほどかけている業務
- 作業時間が多くはないが、毎日必ず実施する必要がある煩雑な業務であるため、ロボットに代行させるのが適切と判断した



1. 担当者が電子カルテを開く
2. 翌日の入院決定患者の一覧票を表示
3. 一覧票を発行

1. ロボットが電子カルテを開く
2. 翌日の入院決定患者の一覧票を表示
3. 一覧票を発行

実施効果

- 年間30～60時間の余剰時間を創出
- 毎日発生する業務をロボットに代行し、担当者をルーティンワークから解放した

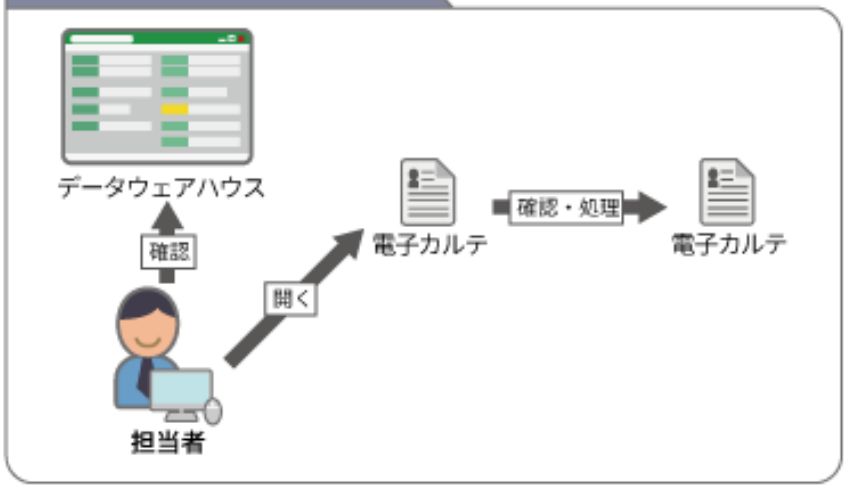
© OPEN, Inc. All rights reserved.

退院患者の適応パスを変更する業務

選定理由

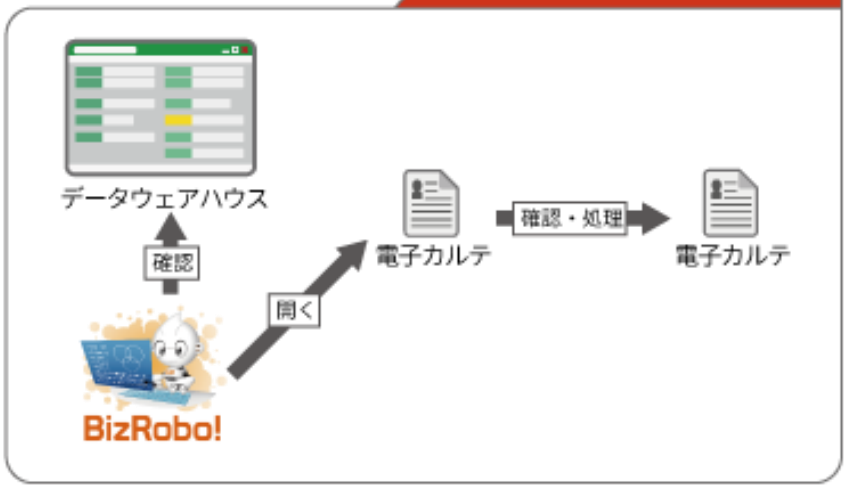
- 各診療科にて毎日発生する業務であり、複数の担当者の業務時間をひっ迫していた
- 電子カルテ上で一括で確認・変更することができず、同じ作業を何度も繰り返す必要があった

BizRobo! 導入前



1. 担当者がDWHより前日退院患者の患者IDを確認
2. 電子カルテを開き、患者IDを入力し、カルテを開ける
3. 日付を指定し、パスが適応されているかの確認
4. 終了されていなければ終了処理(担当医を選択してパスを終了)

BizRobo! 導入後



1. ロボットがDWHより前日退院患者のリストをExcelファイルで抽出
2. 抽出したExcelファイルを開き、患者IDを確認
3. 電子カルテを開き、患者IDを入力し、カルテを開ける
4. 日付を指定し、パスが適応されているかの確認
5. 終了されていなければ終了処理(担当医を選択してパスを終了)

実施効果

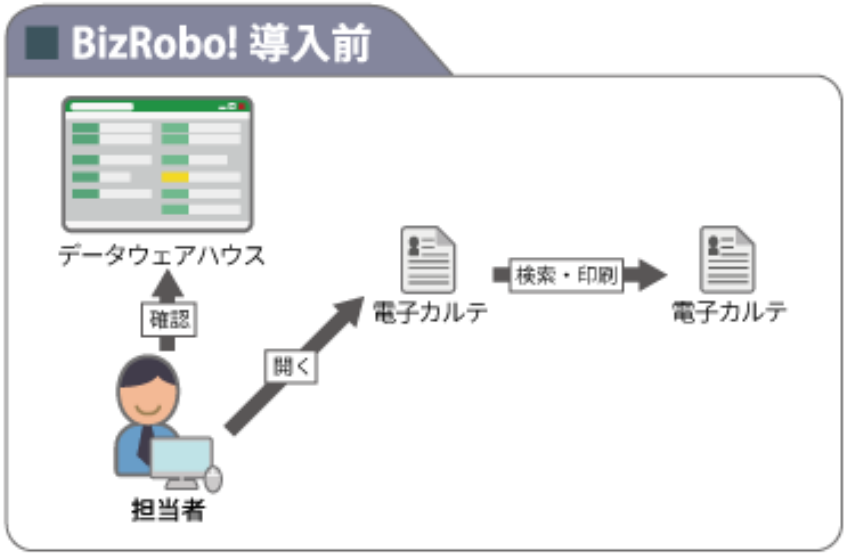
- 1ヶ月で50時間ほどの余剰時間を創出
- ロボットの導入により単純な確認・変更作業がなくなったため、
  担当者が他の優先度が高い業務に集中できるようになりモチベーション向上に大きくつながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

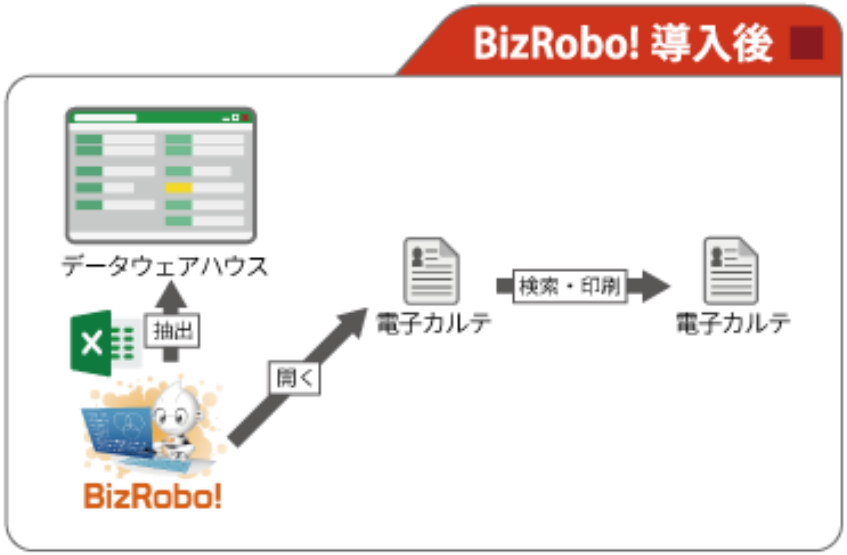
入院予定患者の必要書類を作成する業務

選定理由

- 作業が多く、人手で行うと対応漏れが起こりうる
- 完全にルーティンワークのため業務に対する職員のモチベーションが下がっていた
- 入院患者の書類は医師や看護士の事前確認が必要かつ期限内での対応が必要なため、作業効率の向上が求められていた



1. 担当者がDWH（データウェアハウス）より入院予定患者の患者IDを確認
2. 電子カルテを開く
3. 患者IDを入力し、カルテを開ける
4. 書類選択画面を開き、必要書類を検索し、選択
5. 書類を印刷



1. ロボットがDWHより入院予定患者のリストをExcelファイルで抽出
2. 抽出したExcelファイルを開き、患者IDを確認
3. 電子カルテを開く
4. 患者IDを入力し、カルテを開ける
5. 書類選択画面を開き、必要書類を検索し、選択
6. 書類を印刷

実施効果

- 1ヶ月で70時間ほどの余剰時間を創出
- 担当者が他の業務に集中できるようになり、モチベーション向上に貢献した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

経理システムから伝票データを出力し、決算資料を作成する業務

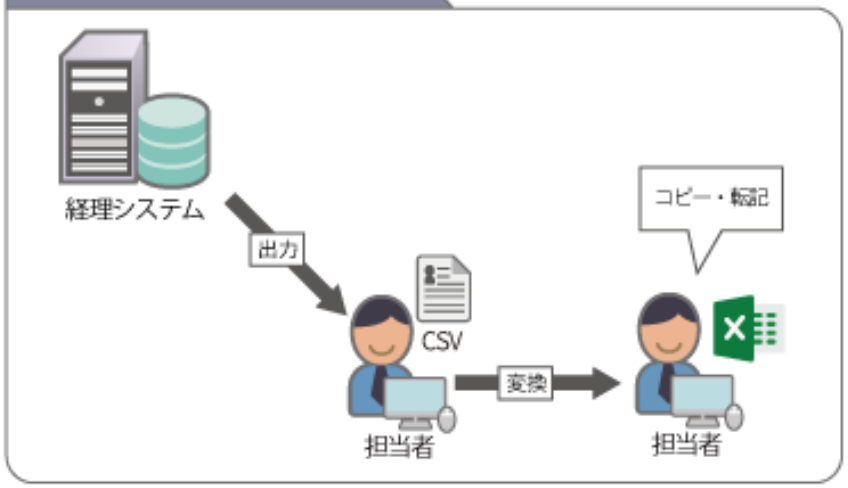
医療・ヘルスケア

総務経理課

選定理由

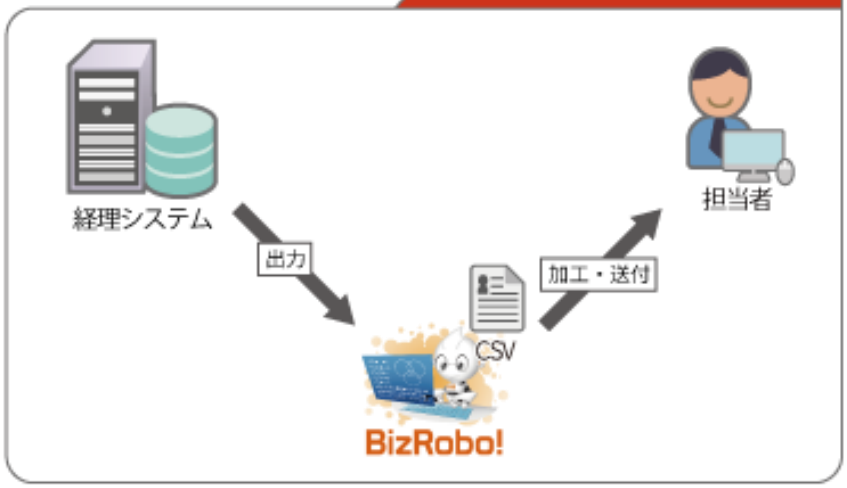
- 年に一度発生する業務だが、作成に担当者の負担がかかっていた
- 書類作成の手順が煩雑で、ミスが発生しやすい

BizRobo! 導入前



1. 担当者が経理システムから伝票データのCSVファイルを出力
2. 出力したCSVファイルをExcelフォーマットに合わせて
   Excelファイルに変換するための一連の処理を行う
3. 生成されたデータから各項目をコピーし、
   指定フォーマットに転記加工

BizRobo! 導入後



1. ロボットが経理システムから伝票データのcsvファイルを出力
2. CSVデータから必要なデータを抽出し、
   指定フォーマットに合わせる形で加工
3. 加工した結果を担当者に送付

実施効果

- 書類作成をミスなく代行できるため、担当者の負担を軽減
- ロボットの代行により、担当者の該当月の業務量への影響がなくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

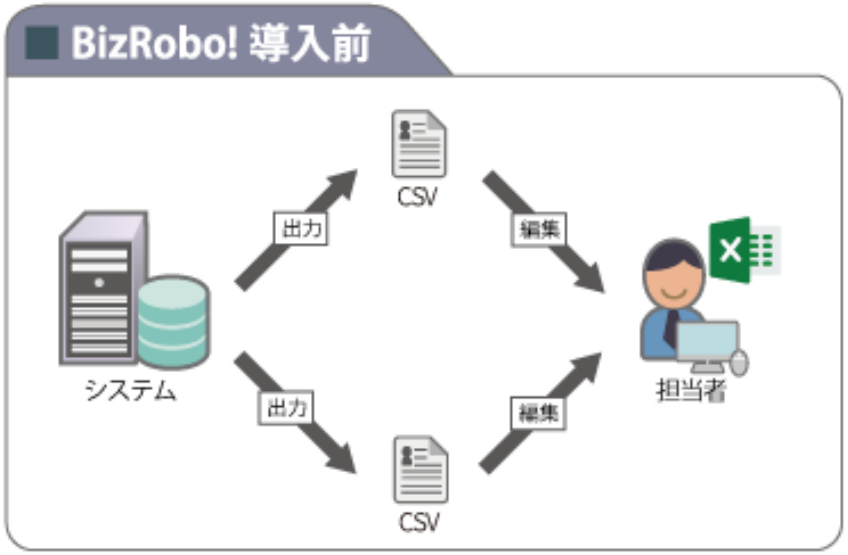
褥瘡関連データの危険因子票に関わる情報を抽出する業務

医療・ヘルスケア

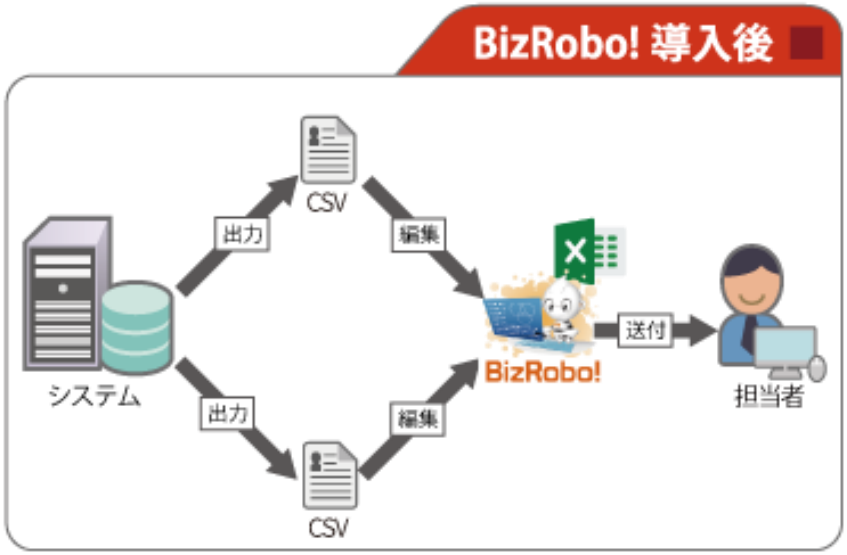
看護情報管理室

選定理由

- 情報編集のルールが複雑だったが、看護師が業務で使用するデータのため、ミスなく成果物ファイルを用意する必要があった



1. 担当者がシステムから「危険因子評価表」のCSVファイルを出力
2. システムから「病棟管理日誌入院＋緊急」のCSVフファイルを出力
3. ①と②で出力したCSVファイルをExcelにて編集



1. ロボットがシステムから「危険因子評価表」のCSVファイルを出力
2. システムから「病棟管理日誌入院＋緊急」のCSVフファイルを出力
3. ①と②で出力したCSVファイルをExcelにて編集
4. 加工した結果を担当者に送付

実施効果

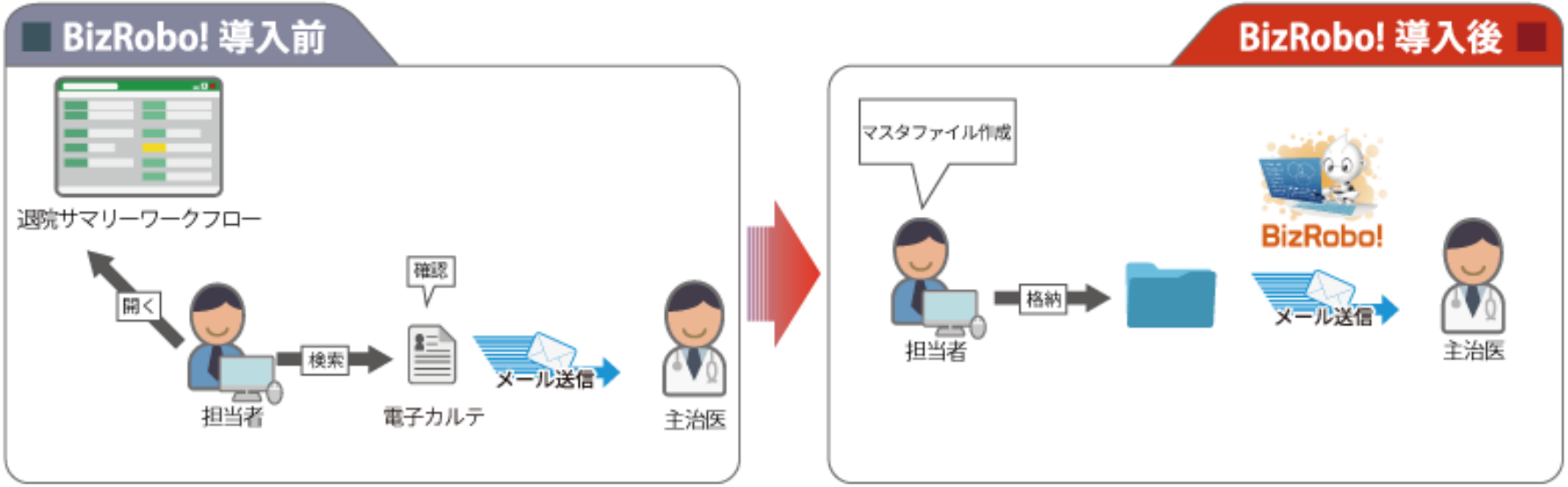
- 年間40時間ほどの余剰時間を創出
- 転記ミスがなくなり、担当者もコア業務に集中できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

退院サマリーの作成・承認の督促メールを送信する業務

選定理由

- 主治医一人一人にメールするため、作業に手間がかかっていた
- 複数のサマリー督促を複数の対象者に送信するため、送信内容のミスやメールの宛先間違いが発生していた



1. 担当者が退院サマリーワークフローを開く
2. 退院10日後にあたる日付を選択し、検索する
3. カルテで主治医とステータスを確認
4. 電子カルテの院内メールで主治医に通知

1. 担当者がマスタファイルを作成し、指定のフォルダに格納
2. ロボットが電子カルテの院内メールで主治医に通知

実施効果

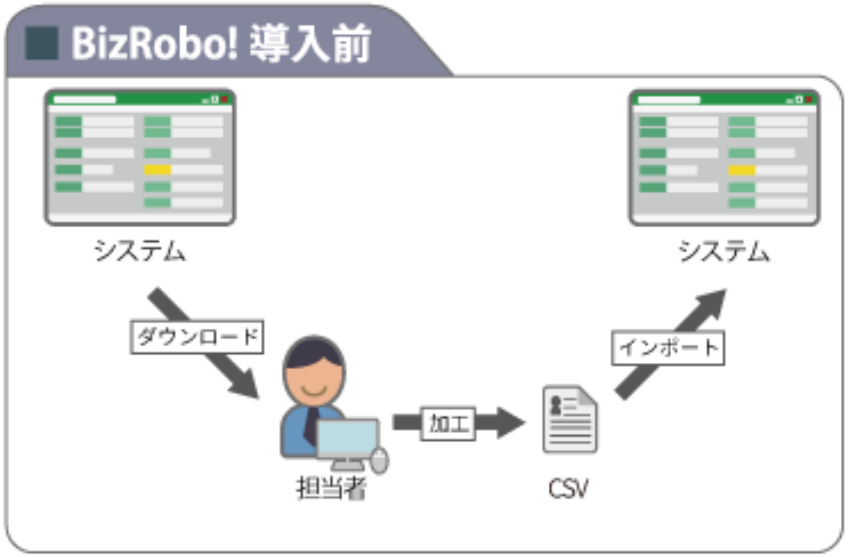
- 通知漏れやミスがなくなり、担当者のストレスを大幅に軽減
- マスタファイルを作成する必要があるが、工数削減及び効率向上を実現できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

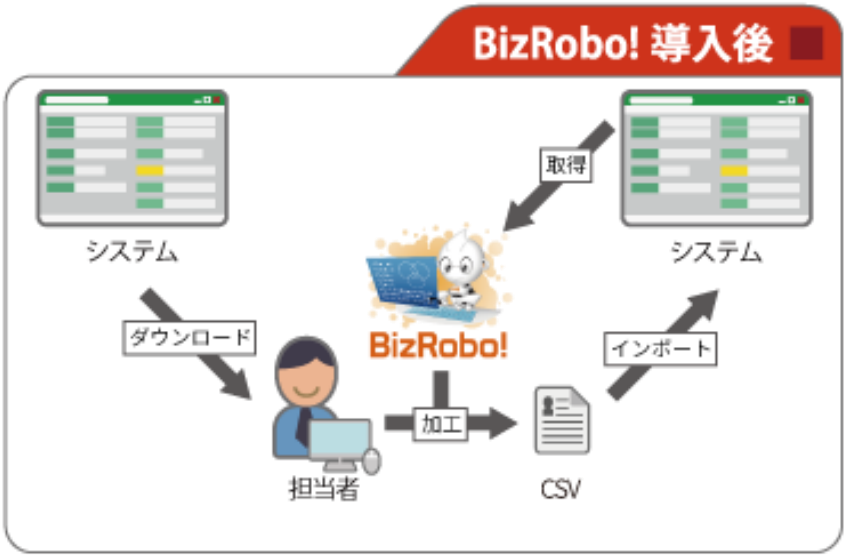
公募情報及び採択情報の集計業務

選定理由

- 年に一度発生する業務だが、繁忙期のため作成に担当者の負担がかかっていた
- 複数のデータを参照する単純な転記作業の繰り返しであり、ロボットに代行させるのが適切と判断した



1. 担当者が科学研究費電子申請システムより内定情報をダウンロードする
2. システムより取得したデータを
   指定フォーマットに合わせたデータに加工
3. 担当者は加工したCSVファイルを
   科学研究費管理システムにインポートする



1. 担当者が科学研究費電子申請システムより内定情報をダウンロードする
2. ロボットがシステムにインポートに使用する
   フォーマット・元データ・マスタの取得
3. システムより取得したデータを指定フォーマットに合わせたデータに加工
4. 加工した結果を担当者に送付
5. 担当者は加工したCSVファイルを科学研究費管理システムにインポートする

実施効果

- 従来人手では数時間をかかっていた作業時間が、ロボットが代行後わずか5分で完結
- 担当者の負担が軽減した他、ヒューマンエラーも防止できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

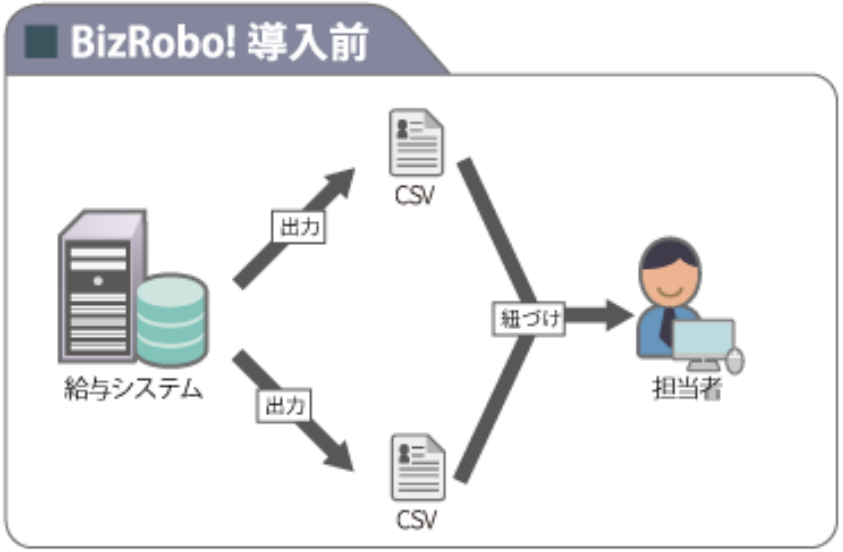
裁量労働制医師に対する差額計算の結果ファイルを出力する業務

医療・ヘルスケア

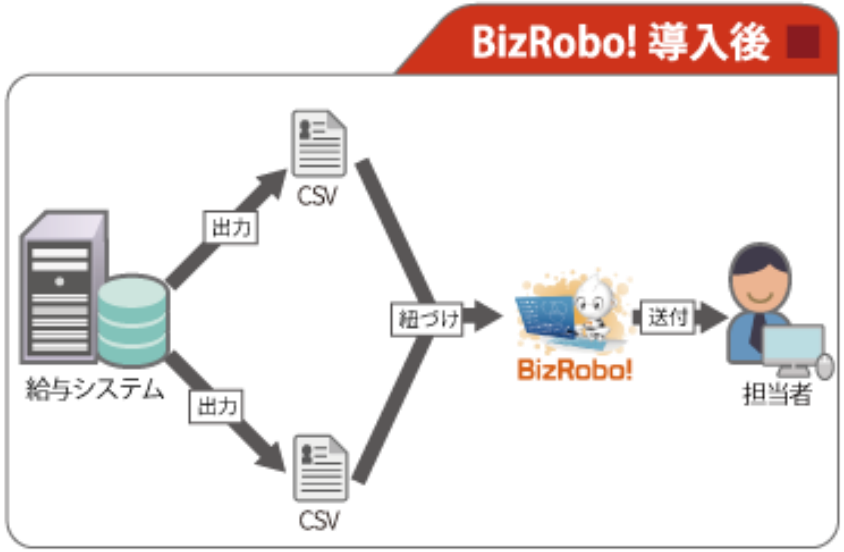
人事課

選定理由

- 裁量労働制医師の勤務体系は深夜勤務、休日勤務など多岐に渡り、勤務体系に応じた給与差額を算出する必要があり、作業が煩雑化していた



1. 担当者が給与システムから職員情報マスタ作成用のCSVファイルを出力
2. 給与システムから翻訳マスタのCSVフファイルを出力
3. ①で出力した職員情報マスタファイルに
   ②で出力した翻訳マスタ計5ファイルを紐づけていく



1. ロボットが給与システムから職員情報マスタ作成用のCSVファイルを出力
2. 給与システムから翻訳マスタのCSVフファイルを出力
3. ①で出力した職員情報マスタファイルに
   ②で出力した翻訳マスタ計5ファイルを紐づけていく
4. 加工した結果を担当者に送付

実施効果

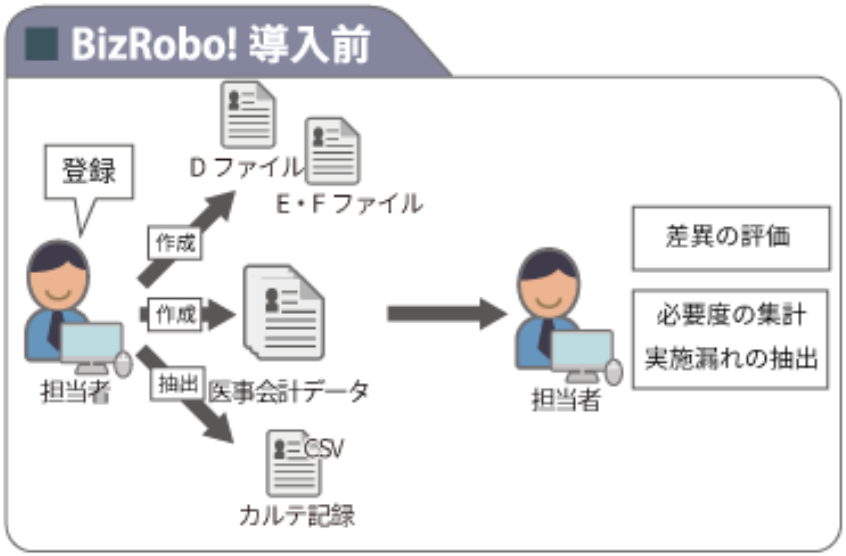
- 月初の忙しい時期に余剰時間を創出、担当者は他業務に注力できるようになった
- 転記漏れやミスがなくなり、正確性と速さを両立

© OPEN, Inc. All rights reserved.

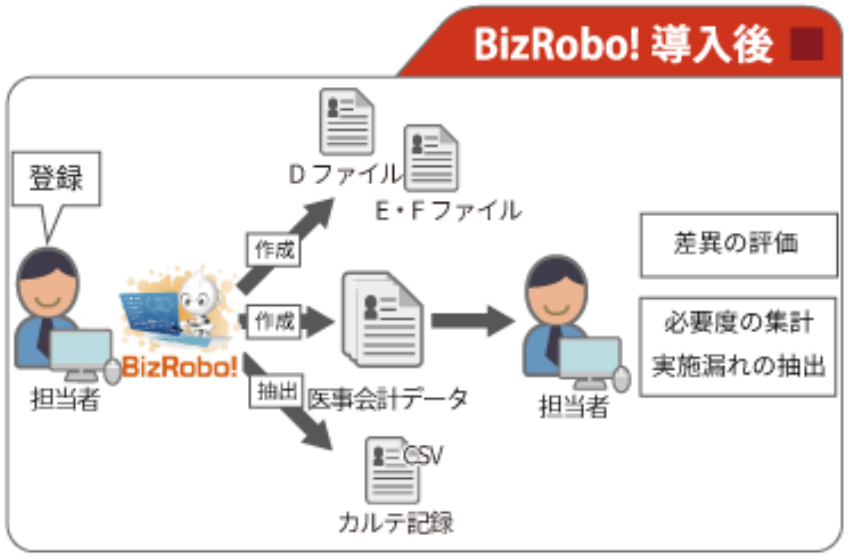
看護必要度集計・実施漏れを確認する業務

選定理由

- 看護必要度の計算が月単位となり、必要度の評価や実施漏れの発見が大幅に遅れてしまう
- 短期的集計にはE・Fファイル、Dファイルの作成を都度行う必要があるため、負担が大きく現実的ではなかった



1. 担当者がオーダー、実施記録を登録
2. 医事会計データを作成し、E・Fファイル、Dファイルを作成
3. カルテ記録をCSVファイルで抽出
4. 差異の評価を行う
5. 必要度の集計、実施漏れの抽出を実施



1. 担当者がオーダー、実施記録を登録
2. ロボットが医事会計データを作成し、E・Fファイル、Dファイルを作成
3. ロボットがカルテ記録をCSVファイルで抽出
4. 担当者が差異の評価を行う
5. 担当者が必要度の集計、実施漏れの抽出を実施

実施効果

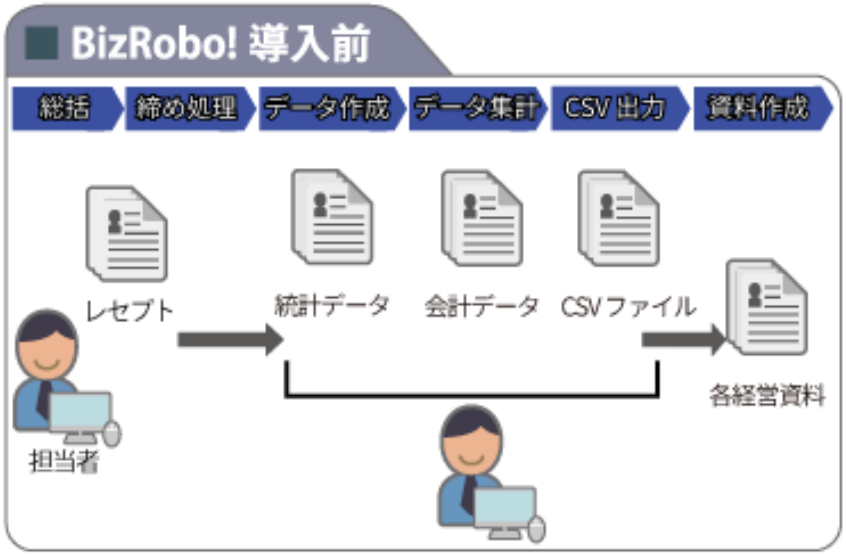
- 看護必要度チェックを週単位で行うことができ、不具合に対して迅速に対応できる
- 負荷の高い業務をロボットに代行し、担当者の負担を軽減できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

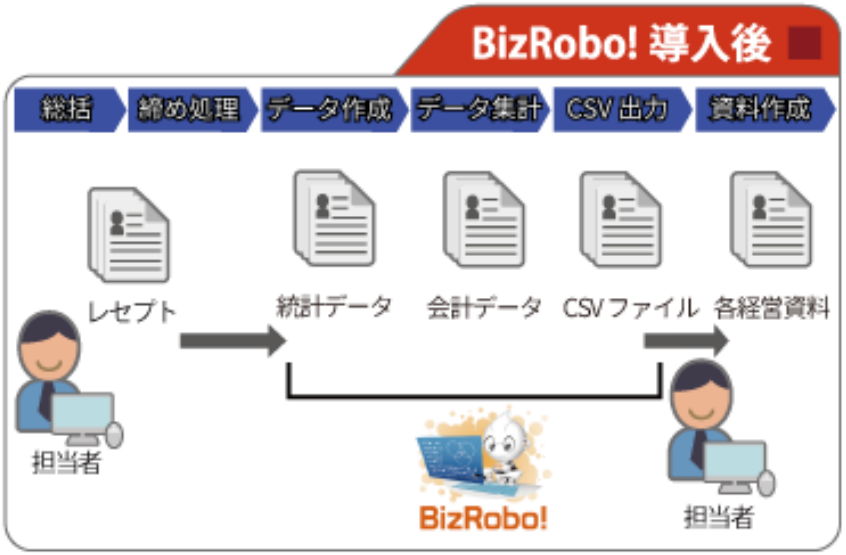
月次収入を集計する業務

選定理由

- それぞれ独立した処理を連続して行う必要があり、1つの処理の状況をその都度確認する必要があった
- 処理中に、同じPCで他の作業を行わないようにしていたため、作業効率の低下があった



1. 担当者がレセプトを総括
2. レセプト締め処理を実施し、統計データを作成
3. 会計データを集計し、CSVファイルを出力
4. 各経営資料を作成



1. 担当者がレセプトを総括
2. ロボットがレセプト締め処理を実施し、統計データを作成
3. ロボットが会計データを集計し、CSVファイルを出力
4. 担当者が各経営資料を作成

実施効果

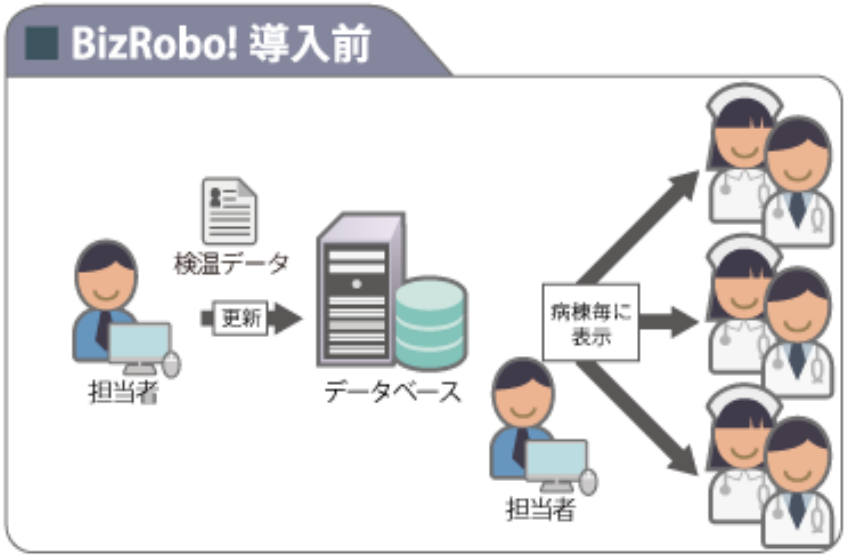
- 4つの工程を連続してロボットが代行し、毎月5時間ほどの余剰時間を創出
- 夜間に行うことで、日中の作業効率への影響は回避できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

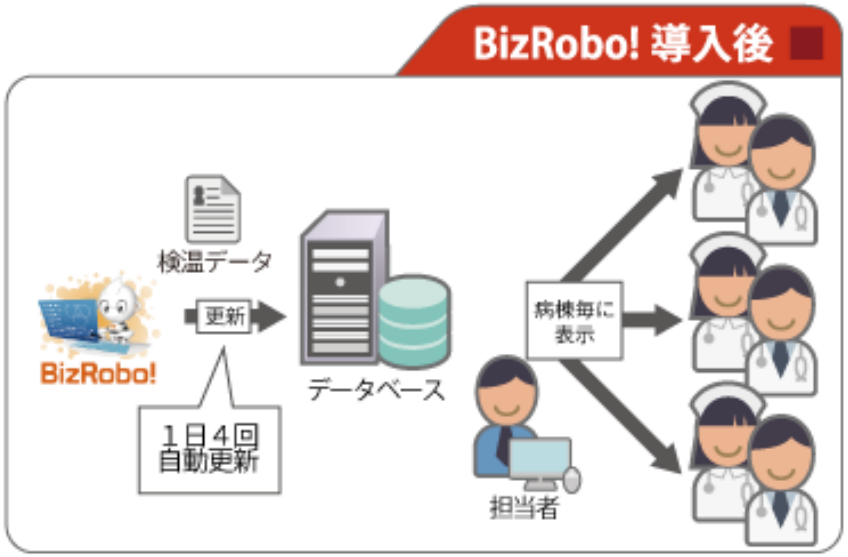
患者の検温データを更新し、病棟発熱マップを表示する業務

選定理由

- 頻繁に更新する必要がある業務だが、担当者の業務時間をひっ迫するため実施頻度が増やせなかった
- 検温データの取り込み及びデータベースへ更新する単純な定型作業をロボットに代行させるのが適切と判断し、選定を行った



1. 担当者が検温データ（CSV）をデータベースに更新
2. 担当者がマップ表示アプリを起動し、病棟ごと表示



1. ロボットが検温データ（CSV）を取り込み
2. ロボットがデータベースを更新
3. 担当者がマップ表示アプリを起動し、病棟ごと表示
4. ロボット1日4回データベースを自動更新

実施効果

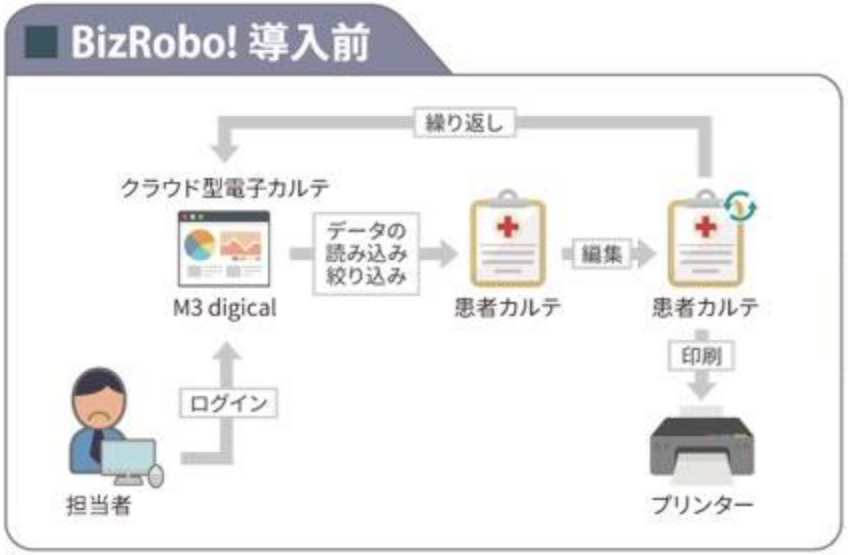
- 毎日複数回発生する業務をロボットに代行し、担当者をルーティンワークから解放した
- 1日4回更新することで、常に最新情報を反映できる

© OPEN, Inc. All rights reserved.

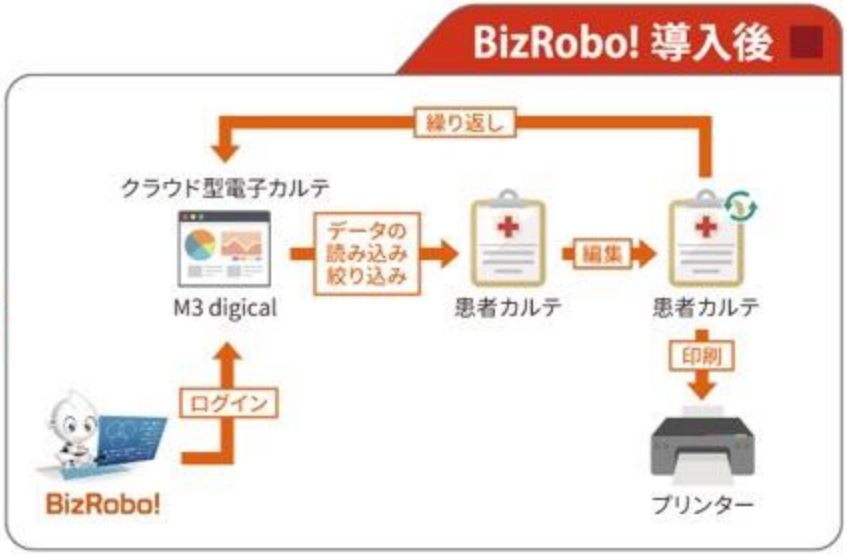
保険診療の患者の医療費を請求する前に
目視確認用のレセプト（診療報酬明細書）を印刷する作業

選定理由

- Dr.確認用の点検用レセプト印刷は、多ければ多いほど印刷の手間も増えるため。



1. スタッフがM3 digicalにログイン
2. 該当日のデータを読み込む
3. 外来で診察を行った患者を絞り込む
4. 該当患者のカルテを開き、編集→点検用レセプト印刷を行う
5. 上記業務を、該当患者すべて終了するまで繰り返す



1. ロボットがM3 digicalにログイン
2. 該当日のデータを読み込む
3. 外来で診察を行った患者を絞り込む
4. 該当患者のカルテを開き、編集→点検用レセプト印刷を行う
5. 上記業務を、該当患者すべて終了するまで繰り返す

実施効果

- スタッフが手が空いた時間に行っていた業務が、翌日スタッフが勤務する前に終了している
- 単純な作業をロボットが行ってくれるためミスがない
- 休むことなく働いてくれるため、業務に支障が出ない

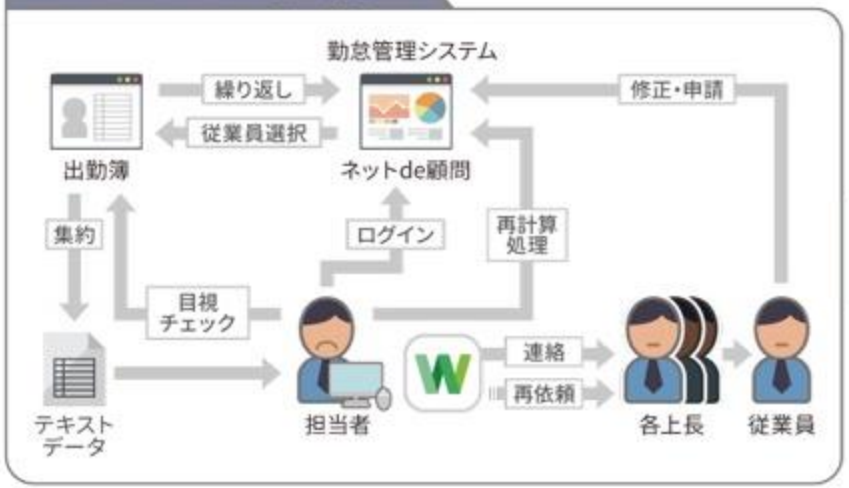
© OPEN, Inc. All rights reserved.

グループ従業員の勤怠管理業務

選定理由

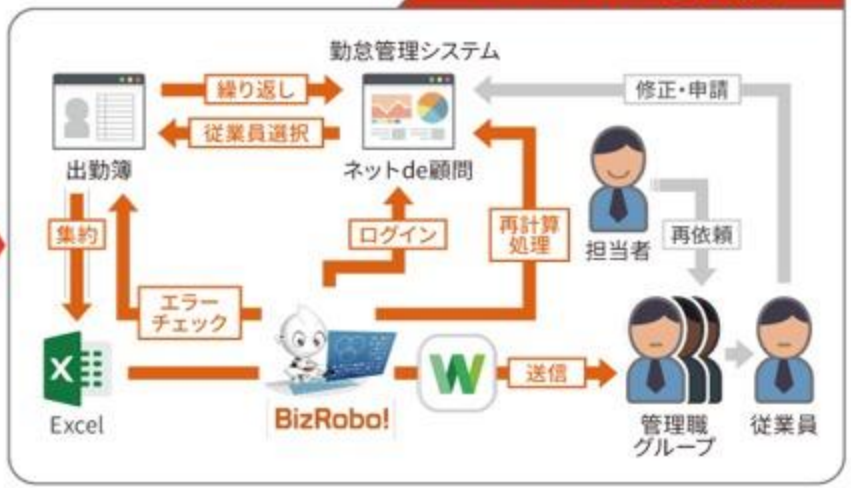
- 事業規模が急激に拡大したことに伴い、総務・経理業務の総量が増えた。
- 多様な職種・勤務シフト・売上計上ルールが併存するようになり管理が複雑化したことで、業務の効率化が急務となっていた。

BizRobo! 導入前



1. 勤怠管理システムにログインし、従業員選択
2. 出勤簿を目視でチェックし、エラー箇所をテキストデータに集約
3. テキストデータをLINEWORKSで各上長へ個別に送信
4. 修正・申請がない従業員について
   LINEWORKS等で各上長へ対応の再依頼
5. 修正後の出勤簿上で勤務時間の再計算処理を実行

BizRobo! 導入後



1. ロボットが勤怠管理システムにログインし、従業員選択
2. 出勤簿をチェックし、エラーがあった箇所をExcelに集約
3. ExcelをLINEWORKSの管理職グループに送信
4. 修正・申請がない従業員について
   LINEWORKS等で担当の管理職に対応を依頼
5. ロボットが修正後の出勤簿上で勤務時間の再計算処理を実行

実施効果

- BizRobo! 導入前後で法人数・従業員数共に増加したが総務部は増員なしで対応
- RPA化による締め処理の前倒しに伴い、給与計算・確定までにかかる日数が短縮
- 給与振込額の確定が従来より短期間で行えることにより、
  銀行から従業員への振込を総合振込ではなく給与振込扱いで対応できるようになり、振込手数料が減額

© OPEN, Inc. All rights reserved.

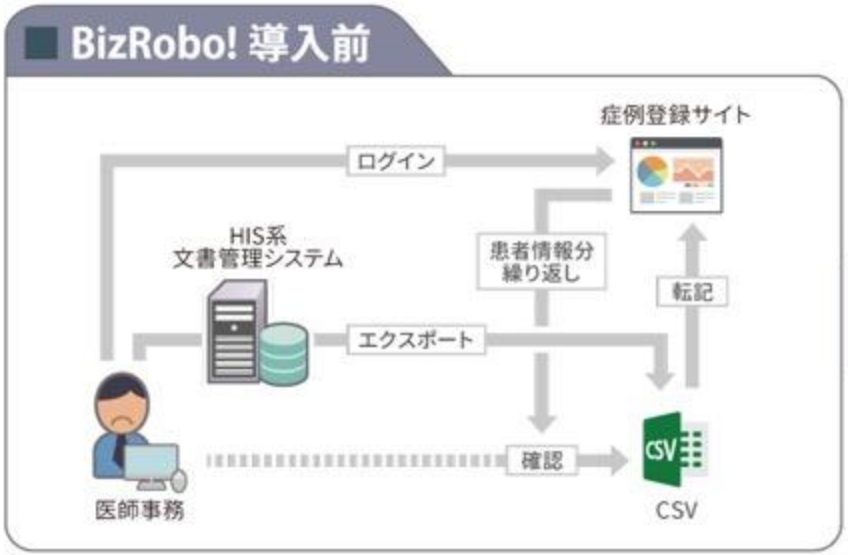
患者退院時に記録された症例データを症例登録サイトに転記する業務

医療・ヘルスケア

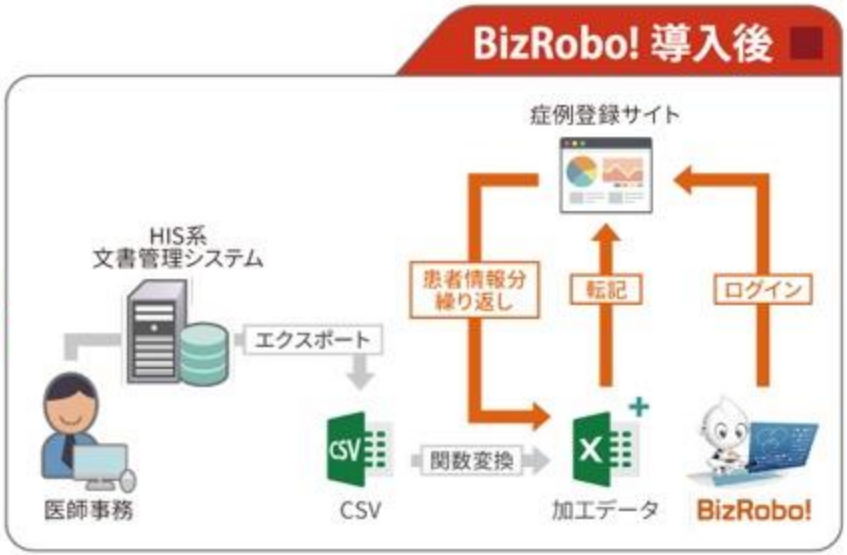
情報システム室

選定理由

- 毎月20件ほど行う業務で、1件あたり10分、計2時間半ほど時間がかかっていた(入力する項目は1レコードにつき100項目以上)
- 入力項目が多く、入力した内容によって枝分かれしていったりと、人力では入力ミスも起きやすい



1. HIS系文書管理システムから退院時サマリのCSVをエクスポート
2. 医師事務が症例登録サイトにログイン
3. 抽出したCSVから、登録に必要な箇所を1つずつ確認しながら転記
4. リストの患者情報分3を繰り返す



1. HIS系文書管理システムから退院時サマリのCSVをエクスポート
2. Excelの関数で必要な情報のみにデータ加工し、USBでデータをBizrobo!のPCへ移行
3. 症例登録ロボを実行し、終了したら本登録

実施効果

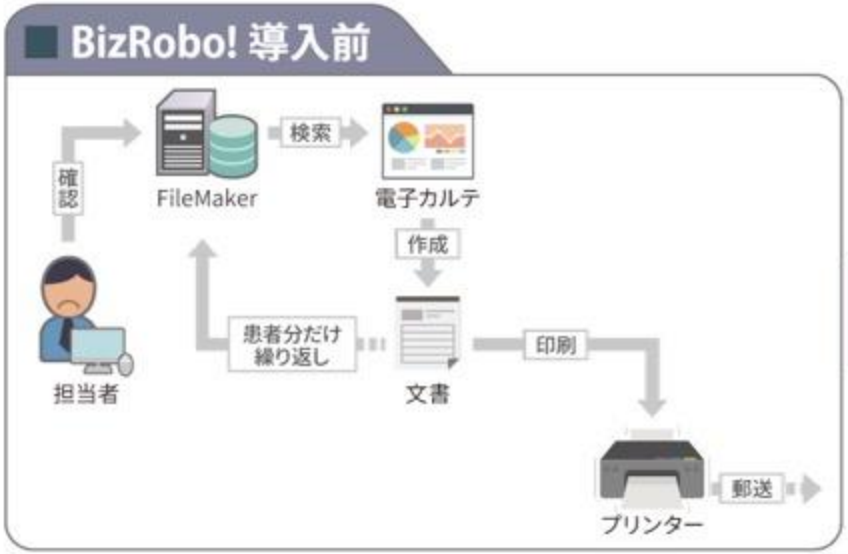
- 選択した項目によって選択肢が枝分かれしていくが、そうした場合にも対応可能
- ロボットが、設定した条件によって動作するので、入力ミスの削減につながった
- 2時間かかっていたものが30分で完了

© OPEN, Inc. All rights reserved.

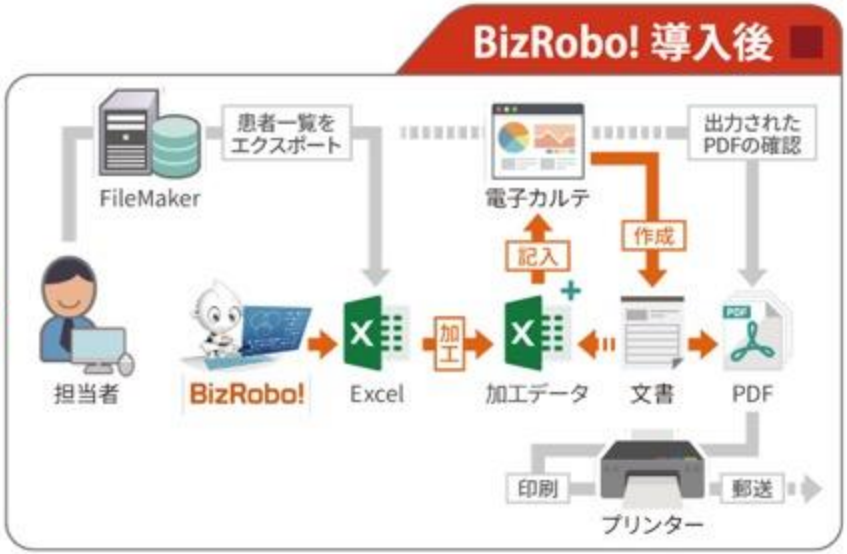
在宅療養計画書の発行業務

選定理由

- 訪問診療ではルーチンに作成する文書(訪問看護指示書/在宅療養計画書/医療介護費月まとめ請求書)が毎月あり、患者数が増えるほど文書数が増えるため合理化したかった。



1. 患者の一覧をFileMakerのリストで確認する。
2. 電子カルテを開いて、患者を検索し、前回の文書から今回の文書を作成し、印刷し、郵送する。



1. 患者の一覧をFileMakerからExcelにエクスポートする。
2. ロボットでExcelファイルを加工する。
3. 患者を検索し、前回の文書の変更箇所をカルテに記載する。
4. ロボットが記載をもとに、今回の文書を作成する。
5. ロボットがカルテ記載と文書をPDFにする。
6. 内容を確認して、印刷し、郵送する。

実施効果

- 患者を検索して、文書を探して、文書を修正し、印刷するまでに1人5-6分程度は掛かっていたが、導入後は、検索とカルテ記載の時間が1人2－3分程度、確認・印刷で20分程度
- 70人分で約7時間掛かるものが、RPA導入後は約3時間に短縮した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

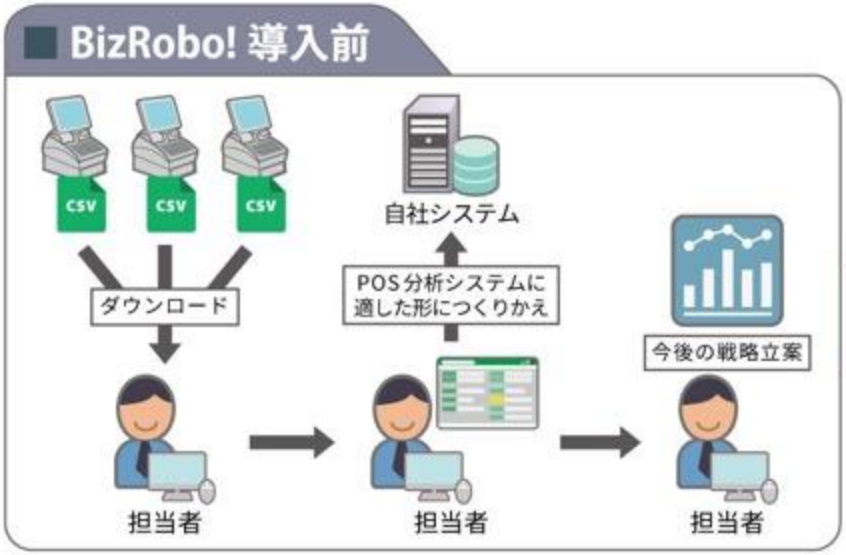
飲食・食品

© OPEN, Inc. All rights reserved.

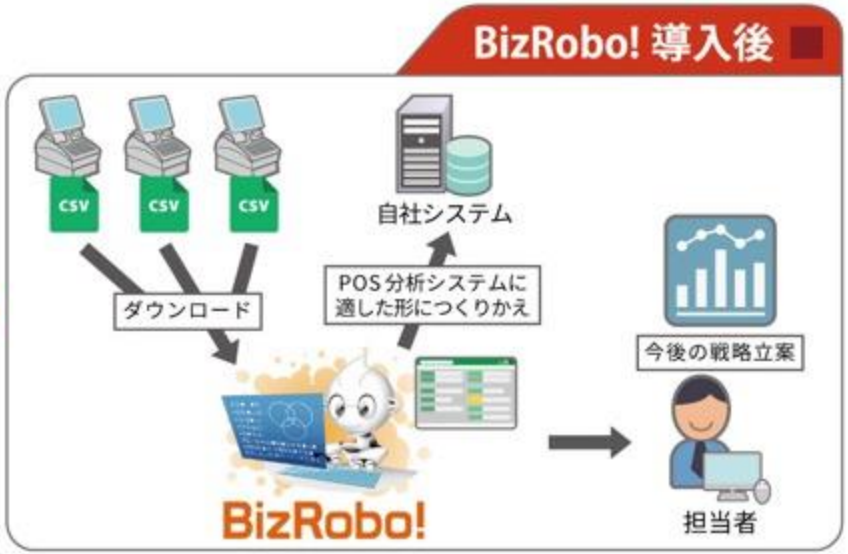
量販店のPOSデータを収集・分析する業務

選定理由

- 120カ所ある支店の大量のデータをダウンロード・加工する必要があり、大きな負荷がかかっていた
- 人手で行えるデータ収集・分析には限界があり、週一回の頻度に止まっていた



1. 担当者は120カ所の量販店のPOSデータ(CSV)をダウンロード
2. CSVデータを、自社のシステムに適した形式に加工
3. 加工したデータをPOS分析システムに投入
4. データを分析し、今後の戦略立案に利用



1. ロボットは120カ所の量販店のPOSデータ(CSV)をダウンロード
2. CSVデータを自社のシステムに適した形式に加工
3. 加工したデータをPOS分析システムに投入
4. データを分析し、今後の戦略立案に利用

実施効果

- 年間1,200時間の余剰時間を創出し、担当者はデータ分析作業に専念できるようになった
- ロボットの高速処理により、日次でのデータ収集・分析を行えるようになり、戦略立案の品質が向上

© OPEN, Inc. All rights reserved.

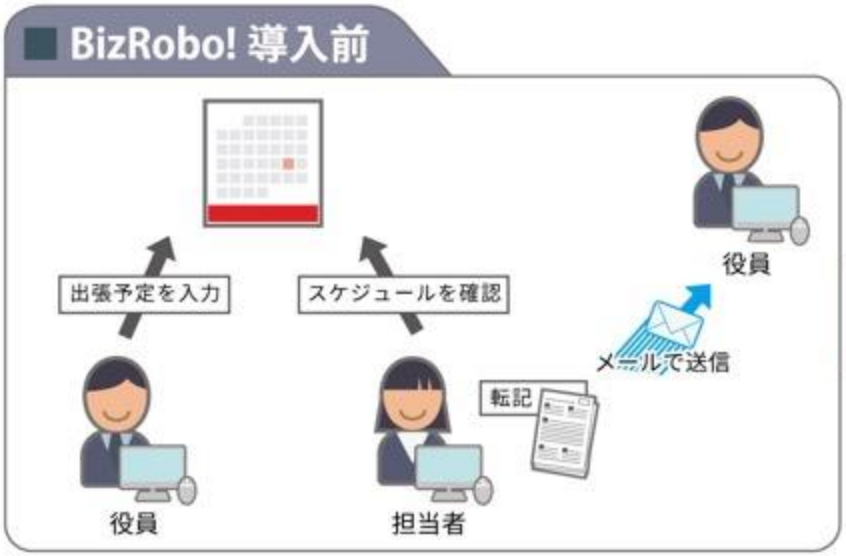
役員のスケジュールを確認し、会議や出張用の資料を作成する業務

飲食・食品

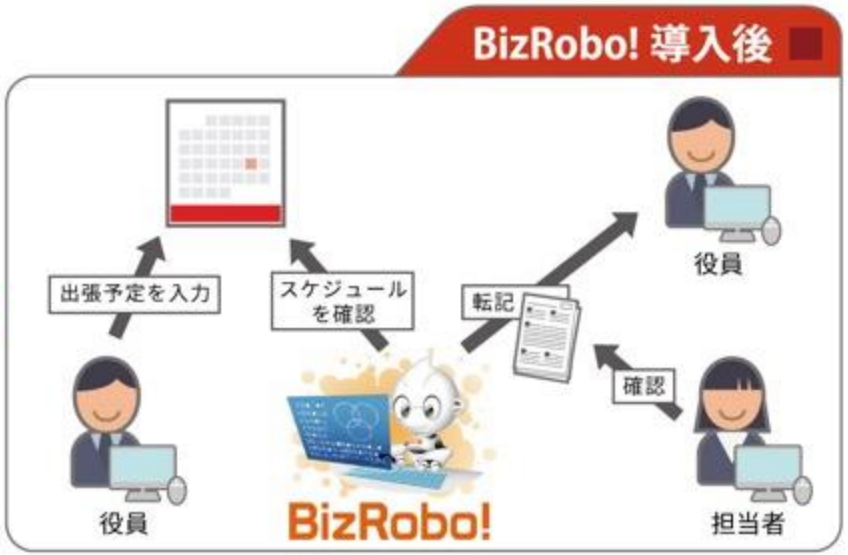
総務部

選定理由

- 役員の訪問や出張のたびに担当者が資料を作成しており、業務発生時期や頻度が不定期
- 訪問や出張のたびに複数資料に情報を転記する必要があり、手間がかかっていた



1. 役員が自らのスケジュールに訪問や出張予定を入力
2. 担当者は役員のスケジュールを確認し、各種資料に内容を転記
3. 資料作成後、役員にメールで送付



1. 役員が自らのスケジュールに訪問や出張予定を入力
2. ロボットは役員のスケジュール内容を各種資料に転記
3. 資料作成後、役員にメールで送付
4. 担当者はメールで送付した内容を確認

実施効果

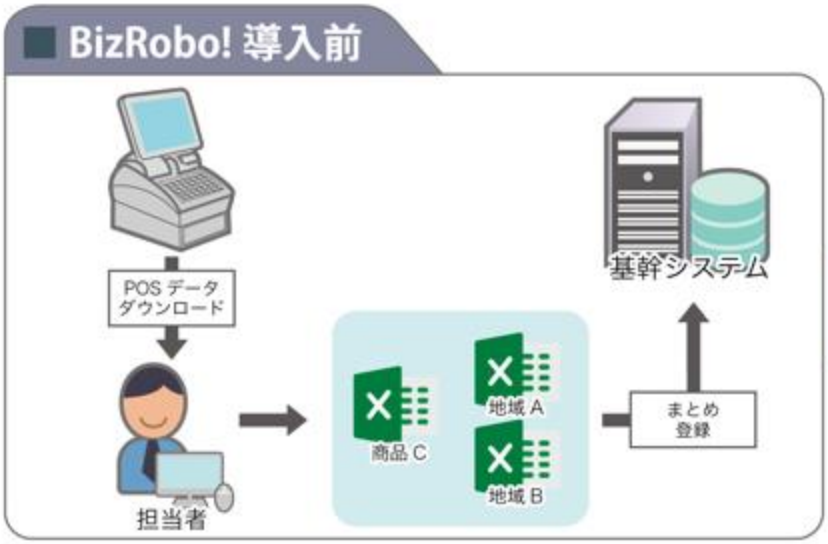
- 年間340時間の余剰時間を創出
- 資料作成がミスなく迅速に行えるようになり、役員と担当者の不要な連絡が激減
- 担当者が不毛なルーティンワークから解放され、他業務に注力できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

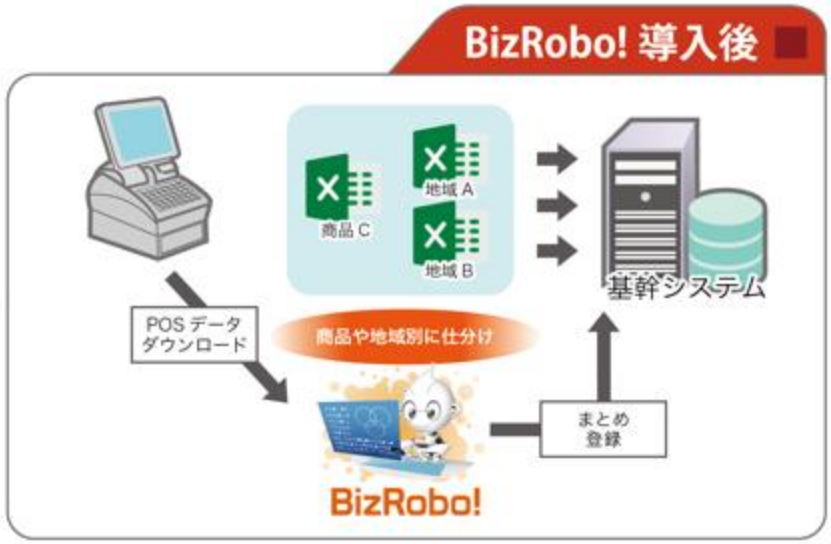
POSデータをダウンロードし集計する業務

選定理由

- 1件あたりのデータ容量が多くダウンロードに時間がかかり、担当者が無駄に拘束されていた
- 100件以上のダウンロード項目があり、担当者の集中力低下による操作ミスが発生
- 小売企業ごとにシステムの仕様が異なり、ダウンロードの回数や方法がバラバラだった



1. 担当者はシステムからPOSデータをダウンロード
2. 小売企業ごとにダウンロードしたデータを、商品や地域別に仕分け
3. 仕分けしたデータを自社内の基幹システムにまとめる



1. ロボットはシステムからPOSデータをダウンロード
2. 小売企業ごとにダウンロードしたデータを、商品や地域別に仕分け
3. 仕分けしたデータを自社内の基幹システムにまとめる

実施効果

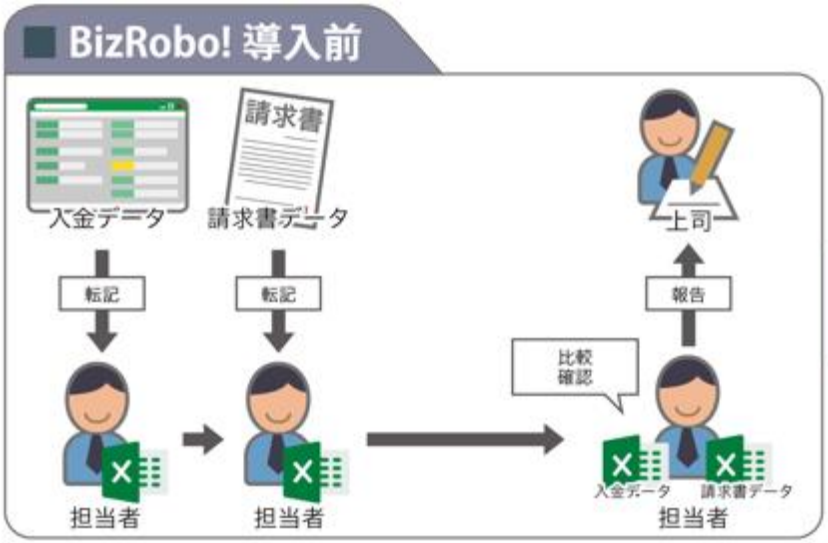
- ロボットにより、年間5,000時間以上の工数削減
- ロボットが短時間で業務を遂行するため、週一回だった業務を毎日実施できるようになった
- データ集積と分析がタイムリーに行えるようになり、新規施策の提案につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

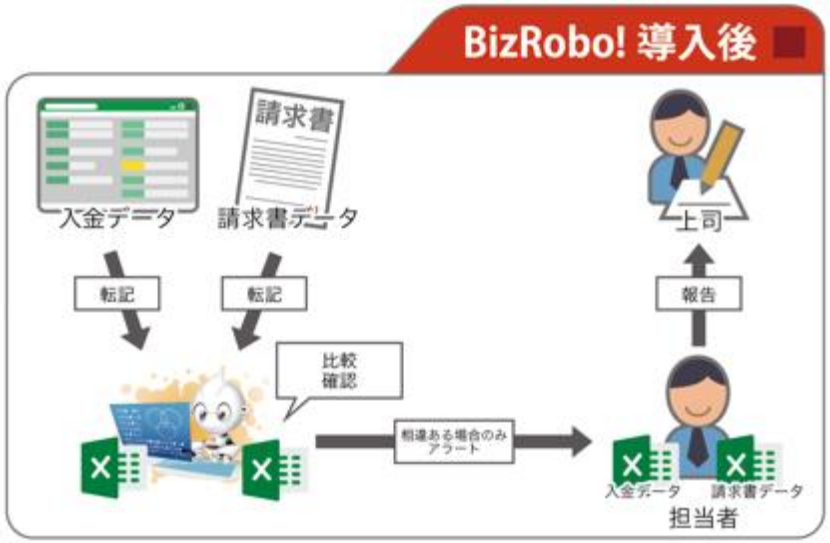
請求データと入金データを照合する業務

選定理由

- 取引先との入金日が月に十数回以上あり、都度集計業務が発生
- システム化しても良い業務内容だったが、BizRobo!の方がコストが低く納期も早かった



1. 担当者は入金データをエクセルに転記
2. 請求データをエクセルに転記
3. 入金データと請求データを見比べ、相違がないか確認
4. 上司に内容を報告



1. ロボットは入金データをエクセルに転記
2. 請求データをエクセルに転記
3. 入金データと請求データを比較、異なる場合のみ担当者にアラート送信
4. 担当者は内容を確認し、上司に内容を報告

実施効果

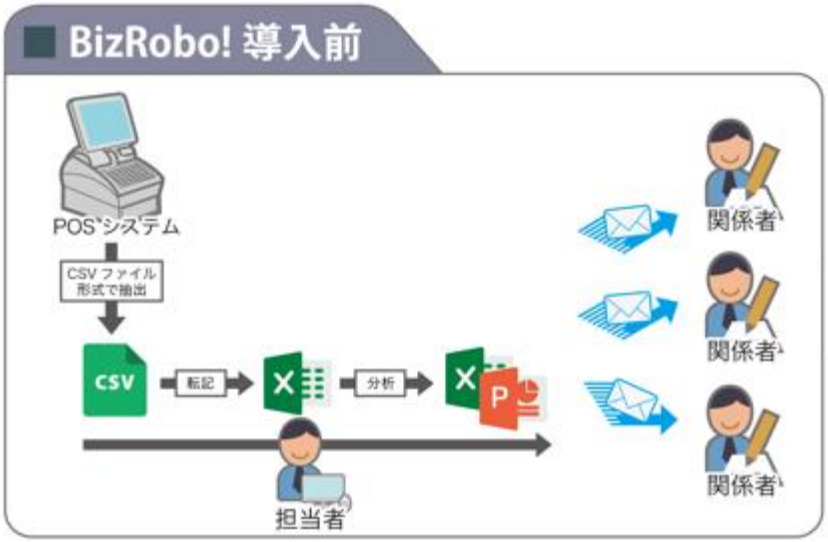
- 照合業務をロボットが全て代行するため、担当者は問題のある件にのみ注力できるようになった
- 空き時間を別業務に充てられるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

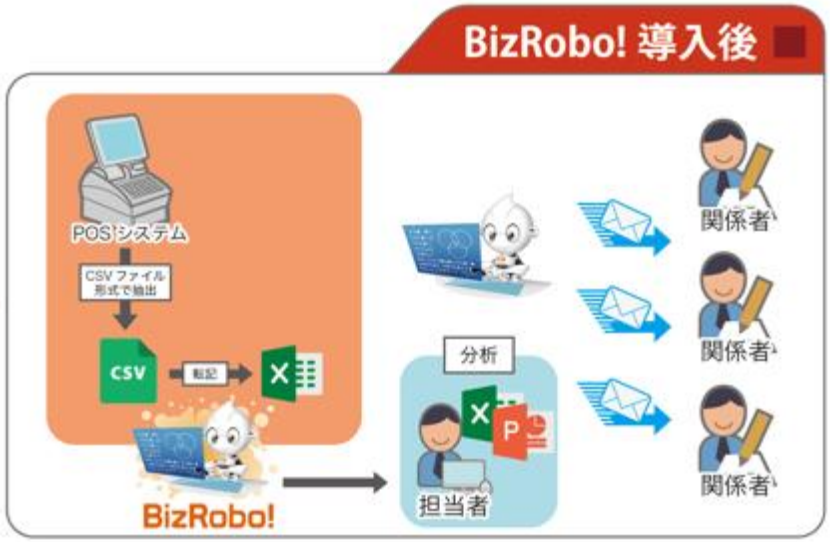
店舗実績を月次経営会議の資料に反映する業務

選定理由

- 2種類のPOSシステムから80店舗分の情報を抽出する必要があり、データ処理が煩雑
- 経営陣から週次で詳細データ（客層、客単価など）の報告を求められ、資料作成工数が膨大
- エクセルマクロ等を用いて業務効率化を進めたが、効率化し切れず残業で対応



1. POSシステムから店舗実績のデータをCSVファイル形式で抽出
2. CSVファイルから必要なデータ項目を別のエクセルファイルに転記
3. 転記後のエクセルファイルを参照し、経営報告に必要な情報を分析
4. 分析結果を経営資料（EXCELとPowerPoint）に反映し、関係者へ送付



1. 左記の１～２をロボットが代行
2. ４でフォーマットが決まっている部分はロボット、その他を担当者が実施

実施効果

- ロボット導入前は１～２営業日ほどかかっていた業務が、半日で完了
- より細かい分析を高頻度で経営陣に報告出来るようになり、担当者に対する評価が向上

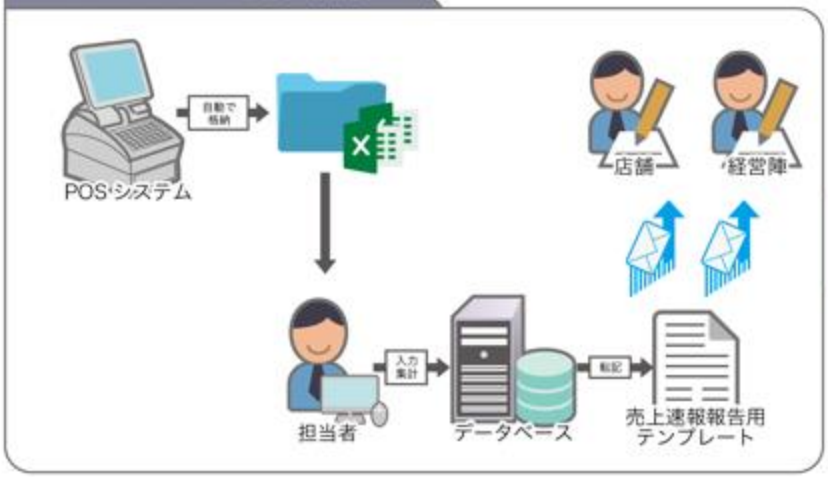
© OPEN, Inc. All rights reserved.

各店舗の売上速報を集計、報告する業務

選定理由

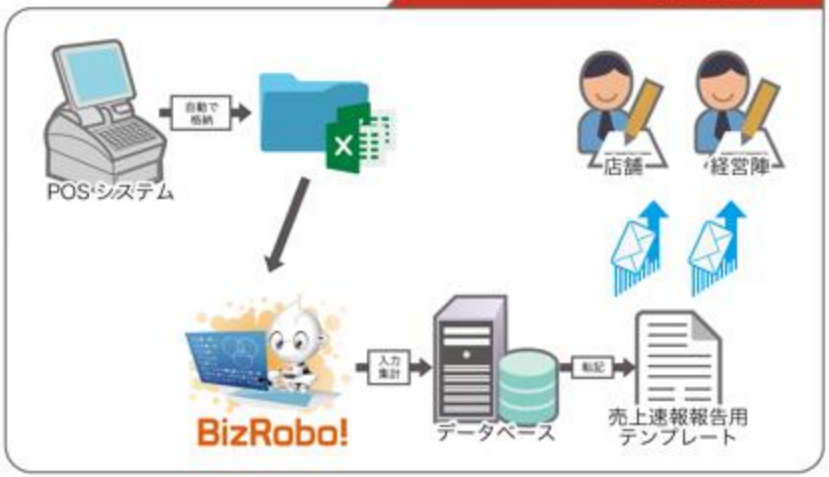
- 全国100店舗近くの売上速報値を、1～2名の担当者が日次で集計しており、業務負担が大きい
- 速報性が求められることでプレッシャーがかかり、心理的負担が大きい
- 売上速報値の報告が遅い店舗があり、集計の完了まで退社できない為、担当者の肉体的負担も大きい

BizRobo! 導入前



1. POSシステムから各店舗の売上速報値のExcelファイルをサーバに格納
2. 担当者は各ファイルを参照し、データベースへ書きこむ
3. データベースから必要情報を抽出し、売上速報を集計
4. 集計した結果を売上速報報告用のテンプレートファイルに転記し、成果物を各店舗、経営陣に送付

BizRobo! 導入後



1. POSシステムから各店舗の売上速報値のExcelファイルをサーバに格納
2. ロボットは各ファイルを参照し、データベースへ書きこむ
3. データベースから必要情報を抽出し、売上速報を集計
4. 集計した結果を売上速報報告用のテンプレートファイルに転記し、成果物を各店舗、経営陣に送付

実施効果

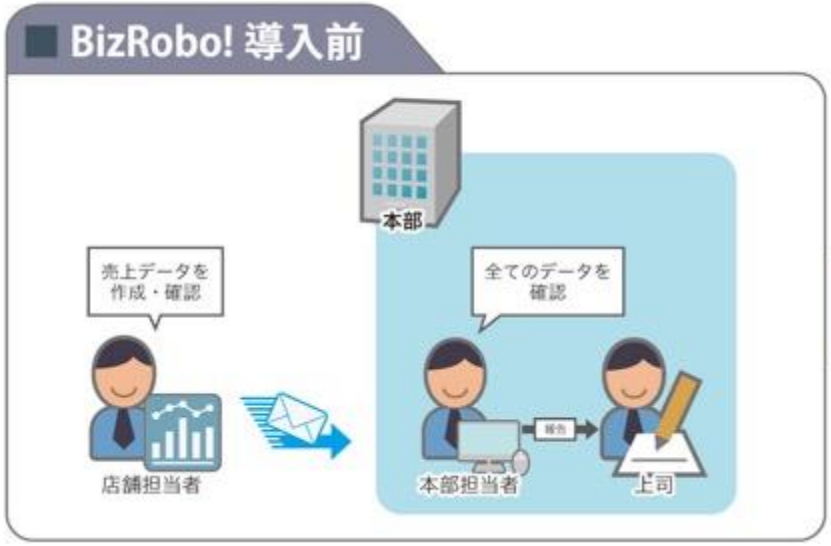
- ロボットが正確かつタイムリーに処理、担当者はロボットの作業後、確認のみで即退社が可能となった
- ロボットの処理中にデータベースと連携する為、従来の約10倍のスピードで処理が可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

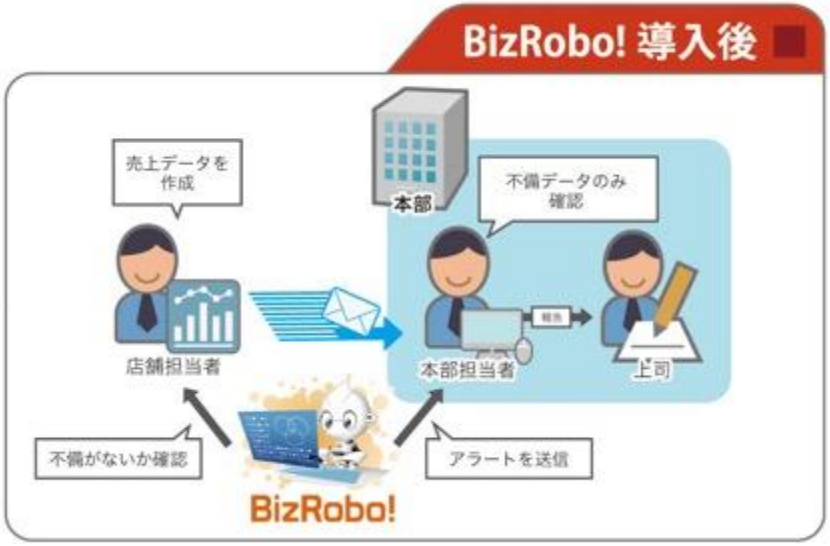
レジ締作業を行い、売上データを本部に送信する業務

選定理由

- レジ締の際、売上データに不備がないか確認するために30分以上の時間がかかっていた
- 本部担当者が売上データの不備確認に時間を費やしていた。



1. 店舗担当者はレジ締作業を行い、売上データを作成
2. 売上データに不備がないか、全てのデータを確認
3. 売上データを本部に送信
4. 本部担当者は売上データに不備がないか、全てのデータを確認
5. 不備がなければ内容をまとめ報告



1. 店舗担当者はレジ締作業を行い、売上データを作成
2. 確認なしで、売上データを本部に送信
3. ロボットはデータに不備がないか確認し、
   不備のあるデータについてのみ本部担当者にアラートを送信
4. 本部担当者は不備があるデータのみ確認し、内容をまとめ報告

実施効果

- 店舗で売上データを確認する必要がなくなったため、店舗担当者の負担が大幅に減少
- 本部担当者は不備のあるデータのみ確認すればよいため、空き時間を他業務に充てられるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

一
インフラ・建築

© OPEN, Inc. All rights reserved.

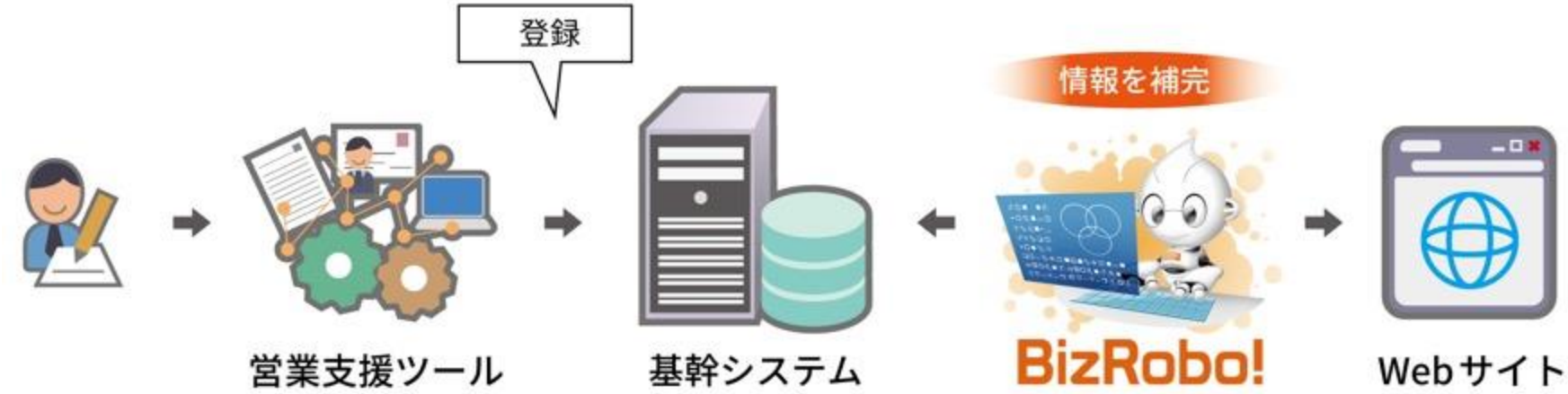
営業が入力した顧客企業情報を、Webサイトの記載をもとに補完する業務

インフラ・建築

顧客管理部

選定理由

- 自社のERPとの相性がよい
- 他拠点でのロボット運用を一元的に統制できるサーバ型である



【ロボット導入前】
1. 毎回情報を保管するのは非常に時間がかかるため、
   そもそも対応できていなかった
2. 自社で取り組みたいと思っていたが、あきらめていた業務

【ロボット導入後】
1. ロボットは営業支援ツールにログインし、顧客の企業名を取得
2. 顧客企業名でWebサイトを検索し、企業情報のページにアクセス
3. ロボットは得た情報を自社の営業支援ツールに登録

実施効果

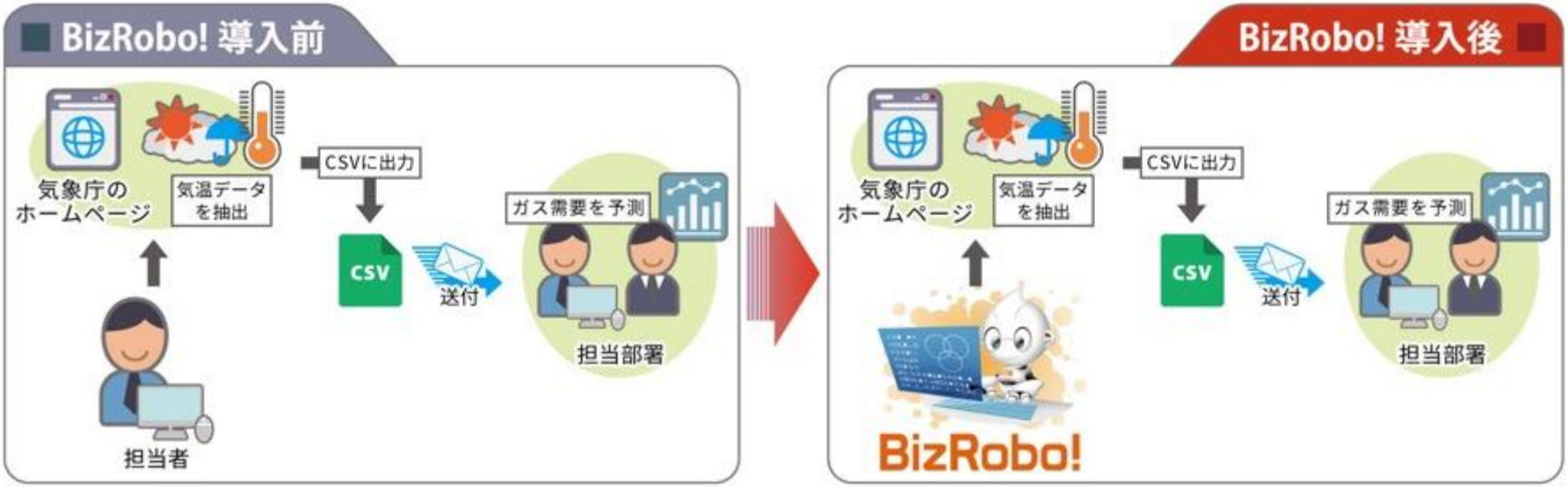
- 一元的な運用統制に長けているBizRobo!の特長を生かし、営業拠点50カ所にロボットを一斉展開
- 年750時間の余力を創出

© OPEN, Inc. All rights reserved.

ガス使用予測データを作成する業務

選定理由

- 売上を予測するために、自社ガスサービスの需要を日常的に計測する必然性があった
- ガスの需要は気温データと連動することは把握しており、定期的に気温データを収集する必要があった
- 単純業務故に、担当者のモチベーションが上がらず、本来実施すべきデータ分析等に集中できていなかった



1. 担当者は気象庁のホームページにアクセスし、気温データを抽出
2. 抽出したデータをCSVに出力
3. CSVを担当部署に送付し、確認
4. 担当部署は気温データをもとにガス需要を予測

1. ロボットは気象庁のホームページにアクセスし、気温データを抽出
2. ロボットは抽出したデータをCSVに出力
3. ロボットはCSVを担当部署に送付し、確認
4. 担当部署は気温データをもとにガス需要を予測

実施効果

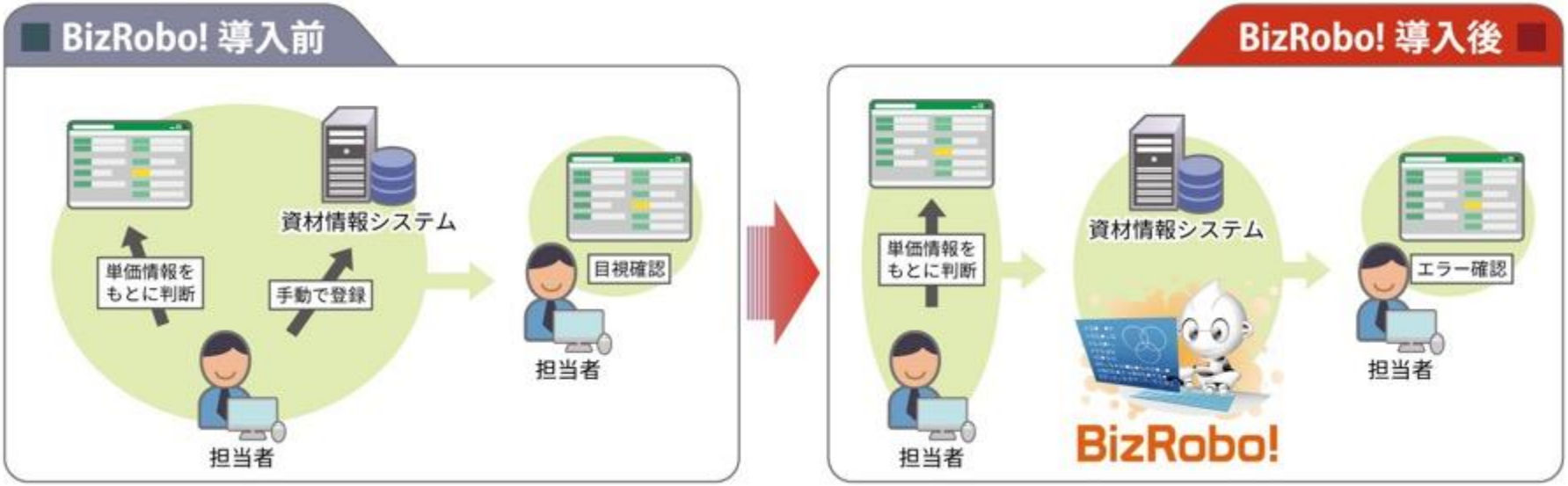
- 月30分程度の工数である小粒な業務であったが、開発難易度が高くないためヨコ展開に成功
- 他社料金やその他の気象データなど、業務の幅を広げることに成功

© OPEN, Inc. All rights reserved.

部材単価マスタデータを改訂する業務

選定理由

- ExcelからCSVに加工するルーティンワークを毎月手作業で実施しており作業ミスが発生していた
- 数百件以上のデータを修正する必要があり、入力期限もあるため、休日出勤を余儀なくされていた



1. 担当者は単価の改訂が必要かどうか、単価情報をもとに判断
2. 改訂情報を、改訂が必要な品目に対してのみ、
   資材情報システムに手動で登録
3. 担当者は結果にミスがないか、全件を目視確認

1. 担当者は単価の改訂が必要かどうか、単価情報をもとに判断
2. ロボットは改訂情報を、資材情報システムに自動で転記
3. 担当者は、ロボット実行にエラーがないかのみ確認

実施効果

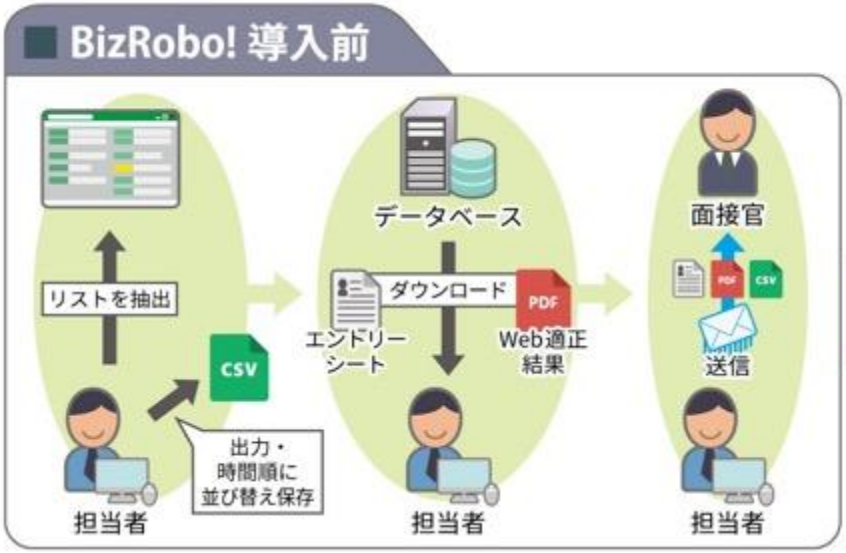
- 業務時間の内98%をロボットが代行し、担当者の負荷が大幅軽減
- ヒューマンエラーがなくなり、担当者はエラーと報告されるデータのみの確認で済む

© OPEN, Inc. All rights reserved.

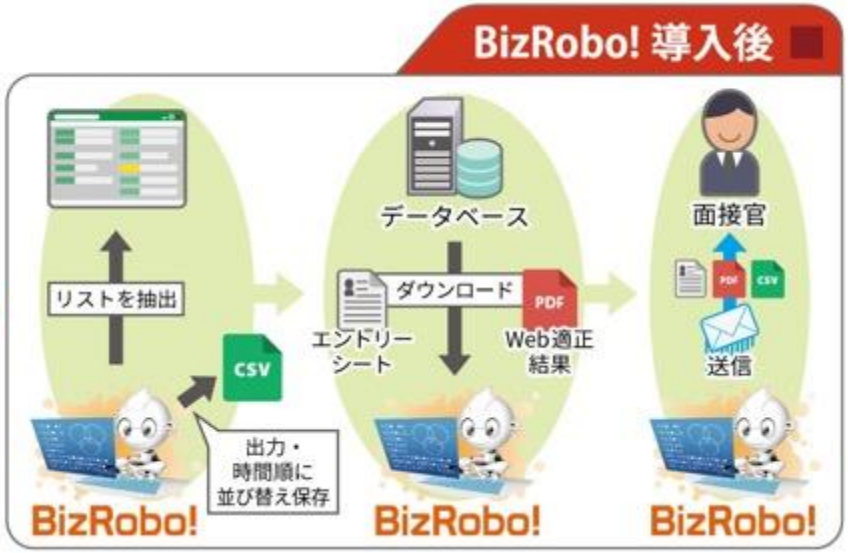
面接官ごとに面接予定を通知する業務

選定理由

- 月で合計5時間程度の、少量の業務だが、発生がランダムで担当者のスケジュールが乱れる要因だった
- 面接ごとに少量だが複数のルーティンワークがあり、担当者のストレスがたまっていた



1. 担当者はデータベースから翌日の面接者リストを抽出し、CSVに出力
2. CSVデータを面接官ごとに分け、時間順に並び替え保存
3. データベースから、応募者毎のESやWeb適正結果のPDFをダウンロード
4. 各面接官に、面接予定・エントリーシート・PDFをメールで送信



1. ロボットはデータベースから翌日の面接者リストを抽出し、CSVに出力
2. CSVデータを面接官ごとに分け、時間順に並び替え保存
3. データベースから、応募者毎のESやWeb適正結果のPDFをダウンロード
4. ロボットは各々の面接官に、
   面接予定・エントリーシート・PDFをメールで送信

実施効果

- 月5時間程度だが、ロボットが完全に業務を代行し、担当者をルーティンワークから解放
- 繁忙期と閑散期で作業量が異なる業務から解放されたため、別業務にリソースが割けるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

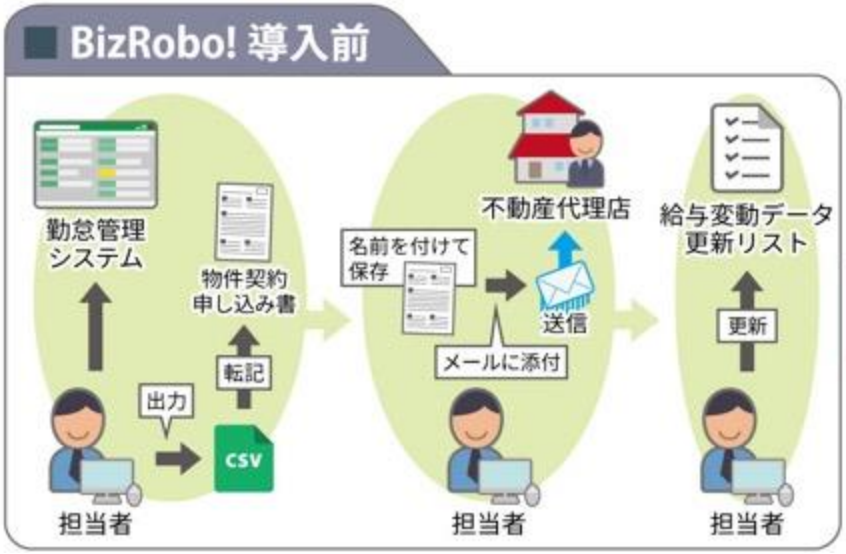
社員の居住物件の契約手続きを、不動産代理店に依頼する業務

インフラ・建築

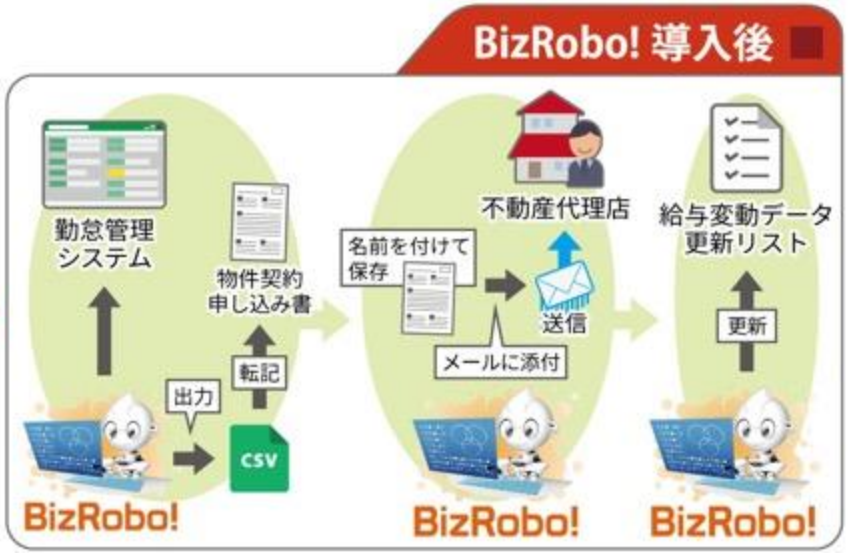
総務部

選定理由

- 社員の居住物件の契約情報を、不動産代理店にメールで依頼する業務
- 社員1人あたりの作業に15分かかっており、面倒なルーティンワーク
- 社員の給与に反映されるため、更新作業にはミスが許されない



1. 担当者は勤怠管理システムから社員情報をCSVで出力
2. CSVデータを、「物件契約申し込み書」の空欄に1つずつ転記
3. ２の書類を名前を付けて保存
4. 書類をメールに添付し、不動産代理店に送付
5. 「給与変動データ 更新リスト」の情報を更新



1. ロボットは勤怠管理システムから社員情報を抽出
2. 抽出したデータを、「物件契約申し込み書」に転記
3. ２の書類を名前を付けて保存
4. 書類をメールに添付し、不動産代理店に送付
5. 「給与変動データ 更新リスト」の情報を更新

実施効果

- 年間85時間の余剰時間を創出
- 担当者はルーティンワークから解放され、情報の転記ミスや添付ミスがなくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

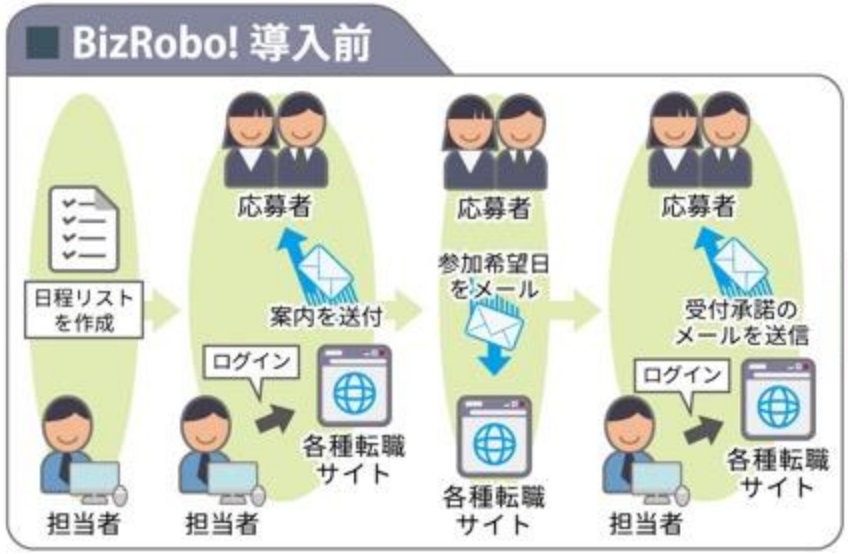
中途採用希望者に対して、説明会案内と予約受付を行う業務

インフラ・建築

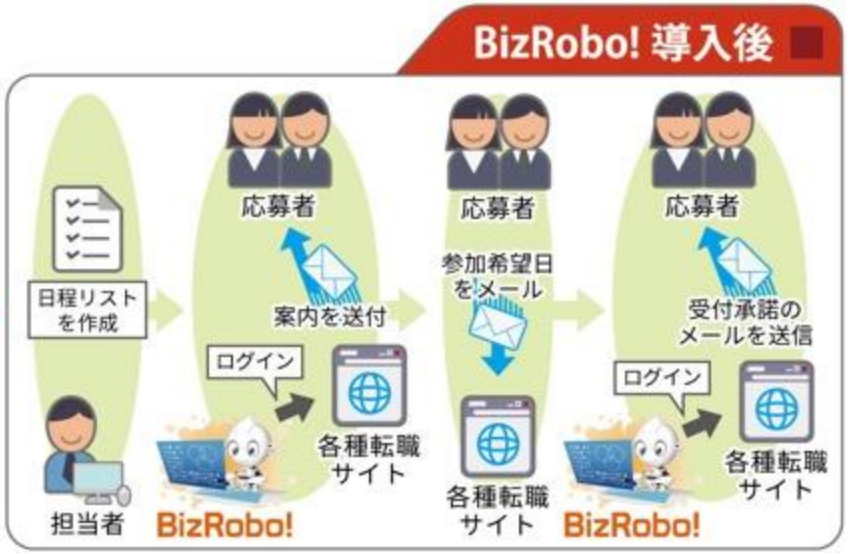
人事部

選定理由

- 職種ごとに応募条件が異なり、応募条件を満たすかどうか、担当者が逐一確認する必要があった
- 複数の転職サイトがあり、それぞれにフォーマットが異なるため、担当者が手作業で行っていた



1. 担当者は説明会の日程リストを作成
2. 各種転職サイトにログインし、応募者情報を確認
3. 応募条件を満たす場合、担当者は中途説明会の案内を送付
4. 応募者は参加希望日をメールで返信
5. 担当者は各転職サイトにログインし、受付承諾のメールを送付



1. 担当者は説明会の日程リストを作成
2. ロボットは各種転職サイトにログインし、応募者情報を確認
3. 応募条件を満たす場合、ロボットは中途説明会の案内を送付
4. 担当者は参加希望日をメールで返信
5. ロボットは各転職サイトにログインし、受付承諾のメールを送付

実施効果

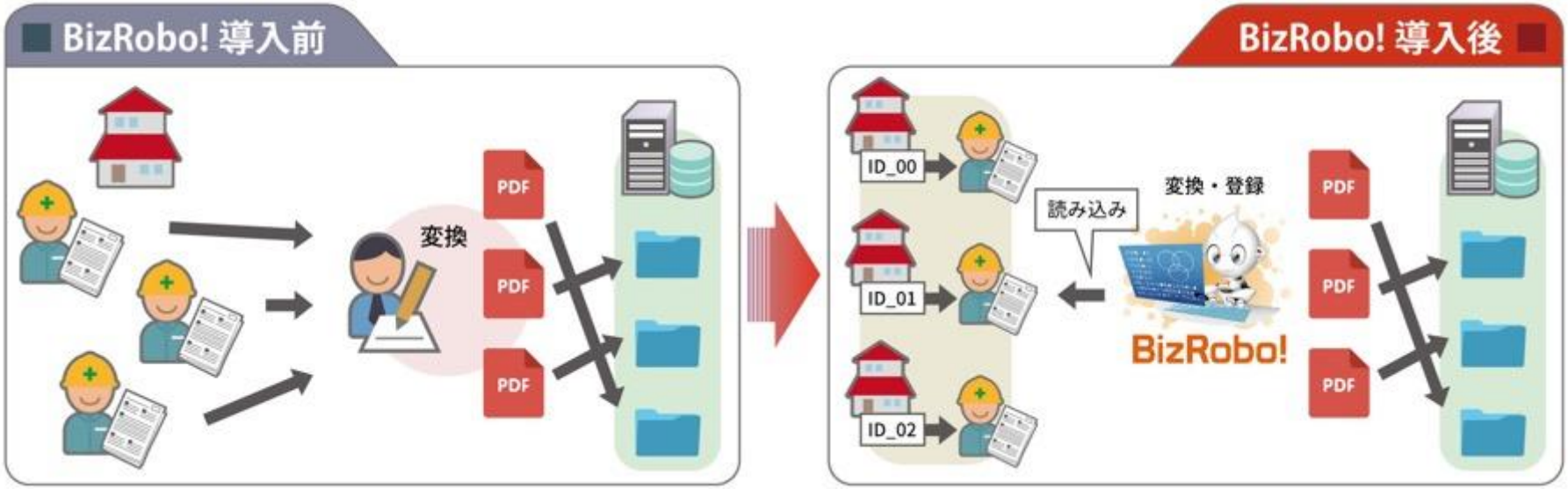
- 年間150時間の余剰時間を創出
- 担当者はルーティンワークから解放され、ストレス軽減
- 応募者からの申込みに対して迅速な対応ができる

© OPEN, Inc. All rights reserved.

補修サービスの現場図面をサーバーに登録する業務

選定理由

- 全国35の拠点や協力業者など約700人が日々連絡を取り合うため、作業量が多く煩雑だった
- システム化に見合わない小粒の定型業務が多く残り、「細かい手間」の省力化に対するニーズがあった



1. 1物件に複数の現場図面が存在するので
   発注者はそれぞれ好きなルールで名前をつけ、自社に送付
2. 担当者は一つひとつの現場図面をPDFとして保存
3. どの物件の図面なのか確認しながら、
   各物件ごとにPDFを社内サーバーに登録

1. 物件ごとにあらかじめIDを設定
   ※発注者に協力を依頼し、同じ物件の現場図面には全て同じIDを
   ファイル名に入れてデータを送付してもらうように変更した
2. ファイル名の中のIDを読み込み、どの物件の現場図面なのか判断
3. 物件ごとにPDFを社内サーバーに登録

実施効果

- ロボット化により年間30,000時間の余力を創出
- 完全自社開発により、90業務で120体のロボットを導入
- Webブラウザで操作する基幹システム関連の作業に改善余地が大きいことが分かり、
  ブラウザ内蔵のBizRobo!でさらに横展開

© OPEN, Inc. All rights reserved.

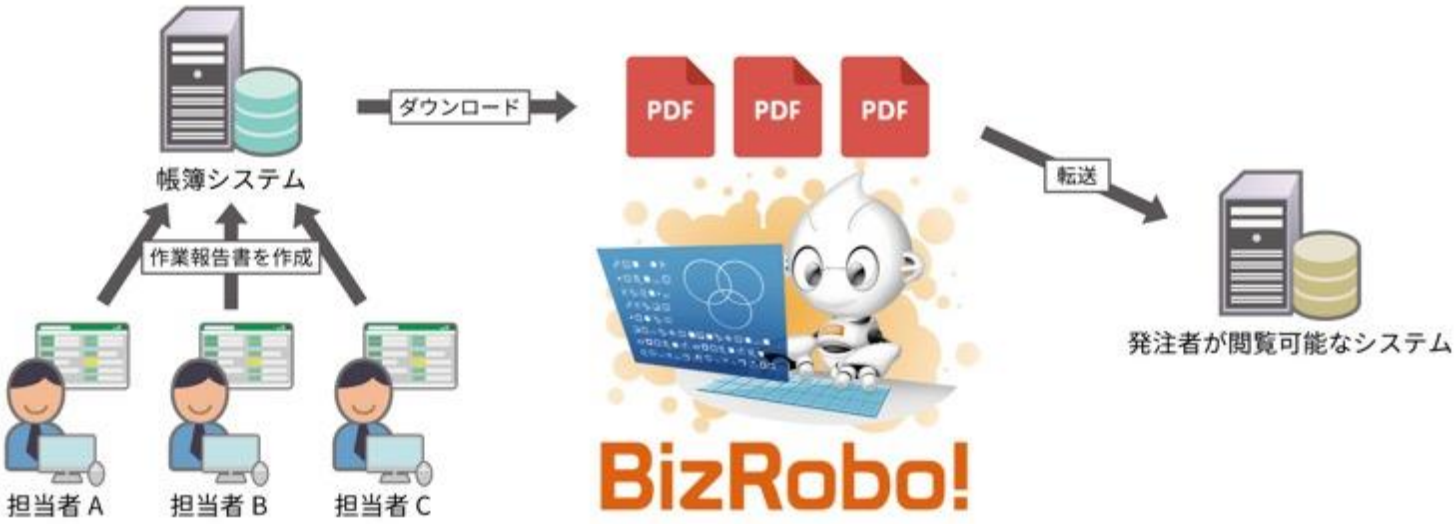
社内で作成した作業報告書を、顧客用システムに転送する業務

インフラ・建築

建築総務部

選定理由

- 1日600件の作業量があり、業務量が多く従来は行っていなかった
- 社内システムの情報を迅速に発注者に共有する仕組みがなく、顧客に十分な対応ができていなかった



【ロボット導入前】
1. ロボット導入以前は行っていなかった業務

【ロボット導入後】
1. 各担当者は社内の帳票システムにおいて、作業報告書を作成
2. ロボットは作業報告書(PDF)をダウンロード
3. 発注者用のシステムに作業報告書を転送

実施効果

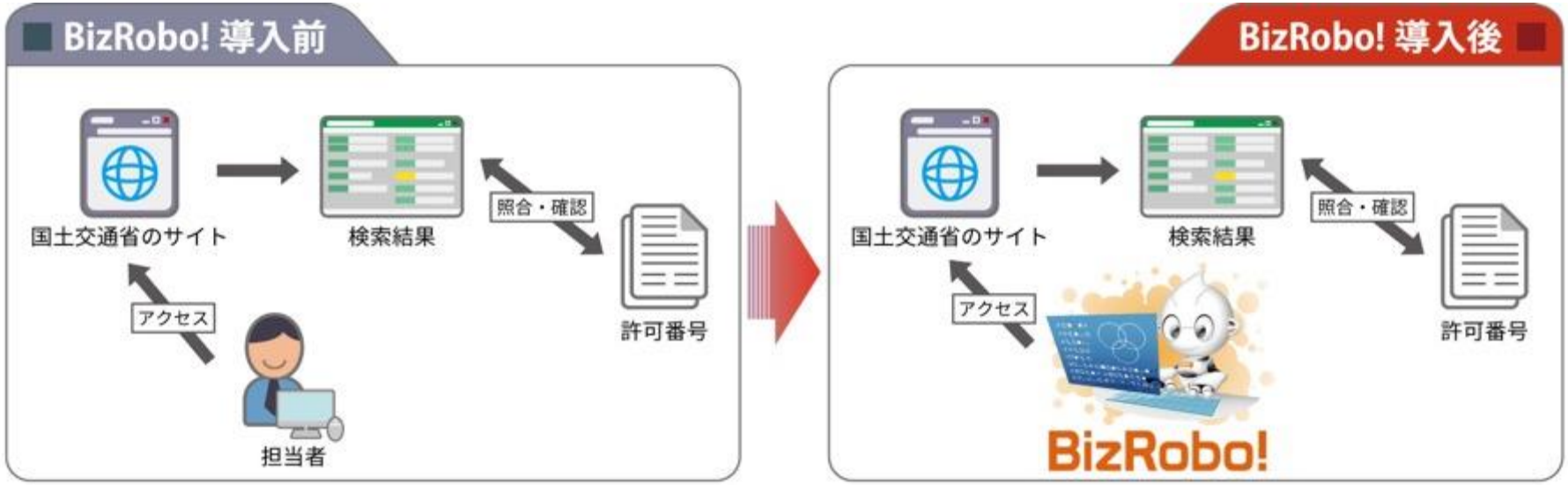
- 1日600件ある転送作業をわずかな時間で実現
- 従来人手では行えなかった業務を、ロボットの高速性・正確性を利用して行えるようになった
- 迅速に発注者に情報共有を行えるようになり、顧客対応が向上

© OPEN, Inc. All rights reserved.

国土交通省のサイトにアクセスし、建設業の許可番号を調べるロボット

選定理由

- 法律違反を防ぐため、発注先が許可されている建設業の種類と、
- 発注しようとしている工事の内容が合致するか確認する必要がある
- 建設業のデータ販売業者に頼むと1000万円以上かかり、かつ更新のたびに50万円かかるためコストが高い



1. 担当者は国土交通省のサイトにアクセス。
2. 発注先の会社名を入力し、
   その会社が許可されている建設業を確認
3. 工事の内容を確認し、許可番号が合致するか判断

1. 左記１～３と同じ作業をロボットが行う。
   ※個別に会社名を取得するのみでなく、定期的にアクセスし、
   登録されている全ての情報を都道府県別に収集することも可能。

実施効果

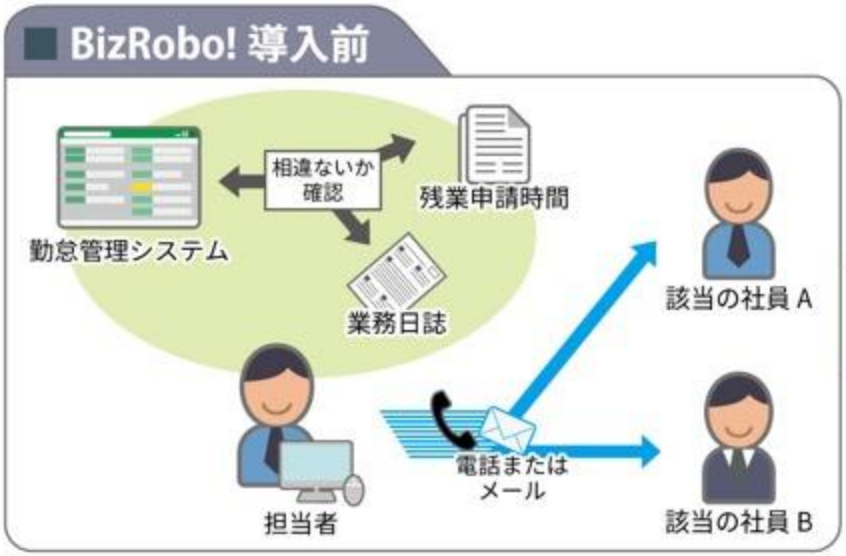
- わずか5人日で作成したロボットで、1200万円のコスト削減効果を実現
- 4日間連続で稼働させることで、1万2000件ものデータ取得が可能
- 夜間に集中的にアクセスすることで、人間の業務時間との切り分けも実現

© OPEN, Inc. All rights reserved.

社員の勤怠時間や業務日誌を確認する業務

選定理由

- 全ての社員の申請内容を、担当者が人手でくまなく確認する必要があり、業務負荷が高かった
- 勤怠管理システム、残業申請時間、業務日誌など複数の画面を見比べる必要があった
- 入力ミスがあった場合、本人に電話かメールを行う必要があり、時間を圧迫していた



1. 担当者は勤怠管理システムにアクセス
2. 残業申請時間を確認し、勤怠管理システムと相違ないか確認
3. 業務日誌を確認し、勤怠管理システムと相違ないか確認
4. 入力ミスがある場合、該当の社員に電話またはメールで連絡

1. ロボットは勤怠管理システムにアクセス
2. 残業申請時間を確認し、勤怠管理システムと相違ないか確認
3. 業務日誌を確認し、勤怠管理システムと相違ないか確認
4. 入力ミスがある場合、該当の社員にメールで通知

実施効果

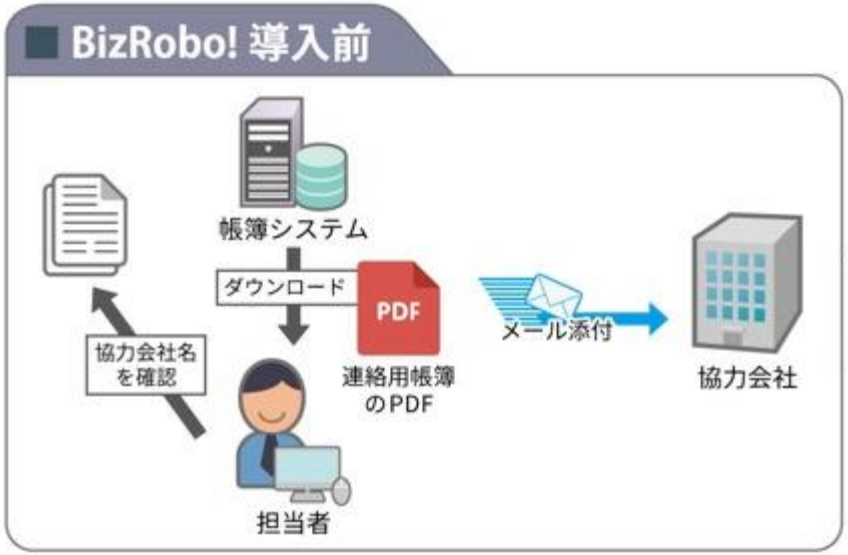
- 年間60時間の余剰時間を創出
- 業務の正確性が格段に上昇するとともに、不要なメールや電話のやりとりが減少
- プレミアムフライデーの導入により業務時間が変更しても、ロボットの微調整により対応可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

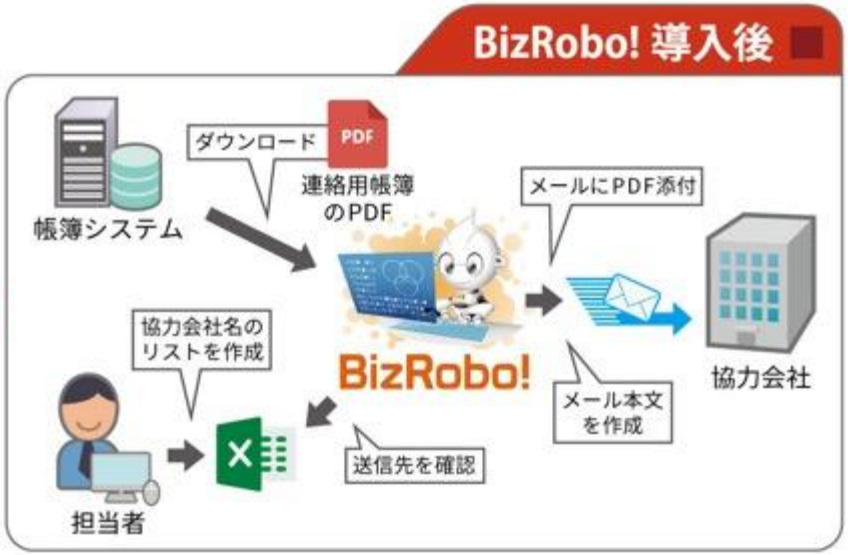
協力会社に住宅補修を依頼する際の連絡業務

選定理由

- エレベータ点検や植栽の手入れなどを行う協力会社が全国に7,000組合あり、非常に膨大な作業量だった
- 担当者がPDFのダウンロード・メールへの添付・メール本文の転記を手作業で行っており、負担となっていた
- システム開発と比べて、コストが低く納期も早いBizRobo!の導入が適切と判断した



1. 担当者は依頼する協力会社名を確認
2. 連絡用帳票のPDFを社内システムからダウンロードし、メールに添付
3. 社内システムの記録をもとにメール本文を作成
4. 協力会社にメールを送付



1. 担当者は依頼する協力会社名のリストを作成
2. ロボットは連絡用帳票のPDFを社内システムからダウンロードし、メールに添付
3. 社内システムの記録をもとにExcelマクロを用いてメール本文を作成、転記
4. 協力会社にメールを送付

実施効果

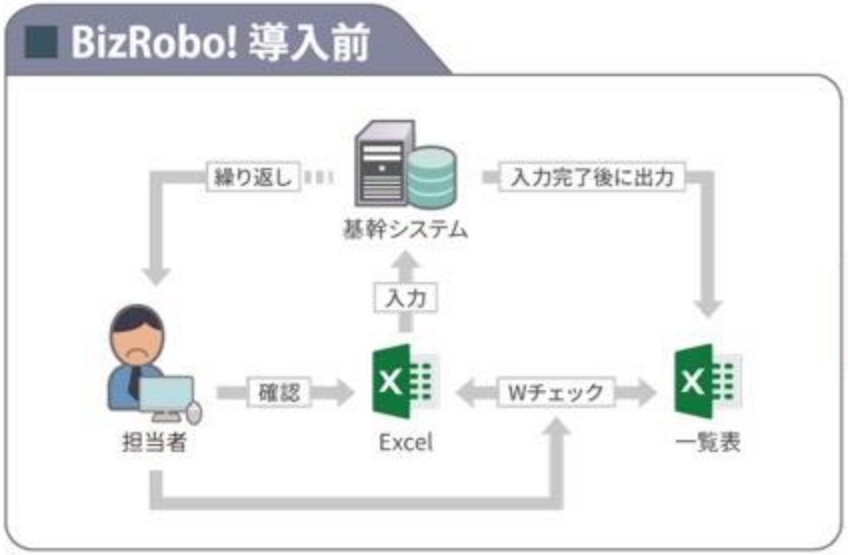
- ロボットが業務を全て代行し、年間2,250時間相当の余剰時間を創出
- 1業務だけでも、BizRobo!導入の初期費用が十分回収可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

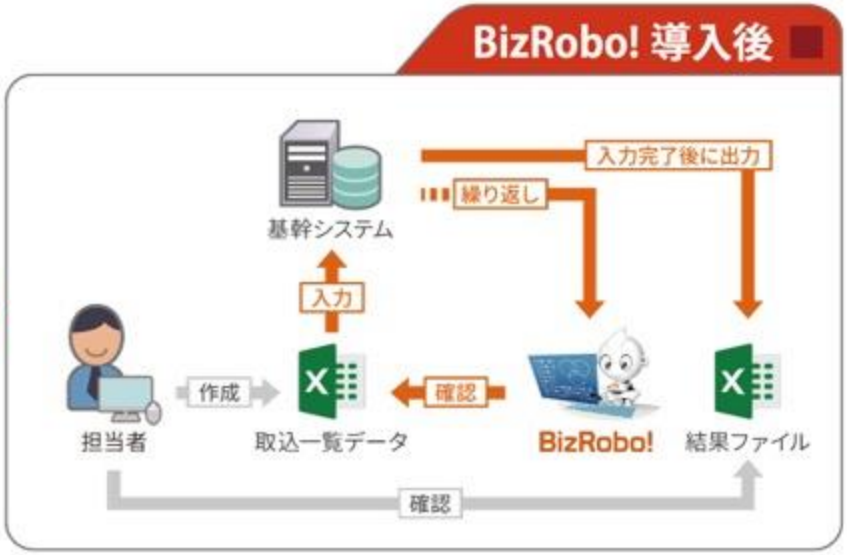
基幹システムへの入金入力業務

選定理由

- 複数人が基幹システムへ入力を繰り返す、規則性のある単調な作業だが、入金が集中する時期は請求関連の業務も重なり多忙を極めていた
- 入金件数が多ければ、Wチェックにも時間がかかる



1. エクセルを見ながら、基幹システムへ入金入力
2. 一覧表を出力し、Wチェック



1. 人が、ロボットで取込みたいものを、取込一覧へコピーして値貼付
2. ロボットがデータ取込
   （エラー時は、結果ファイルにエラー文言記載）

実施効果

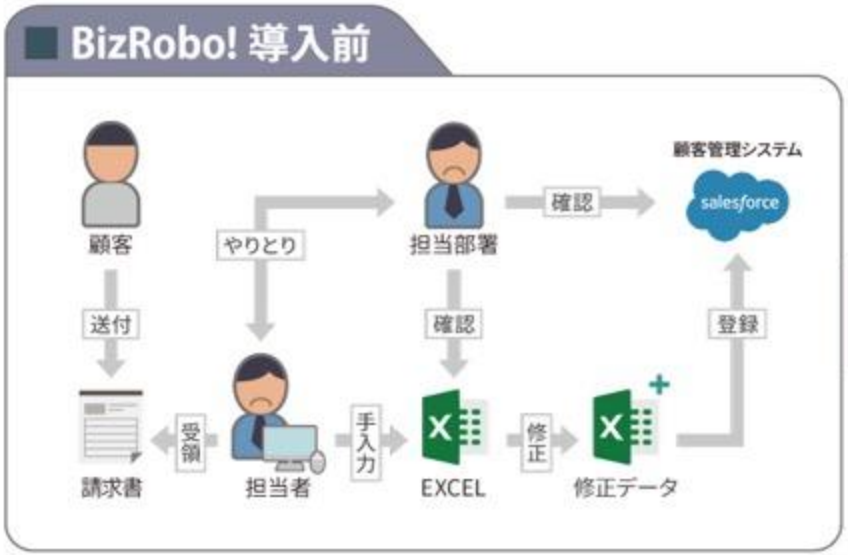
- 時間のかかる入力作業は、ロボットが毎月500件以上入力し、毎月20時間以上の工数削減
- 人為的ミスがゼロになった
- チェックはエラーファイルを見に行くだけで、Wチェックも不要になった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

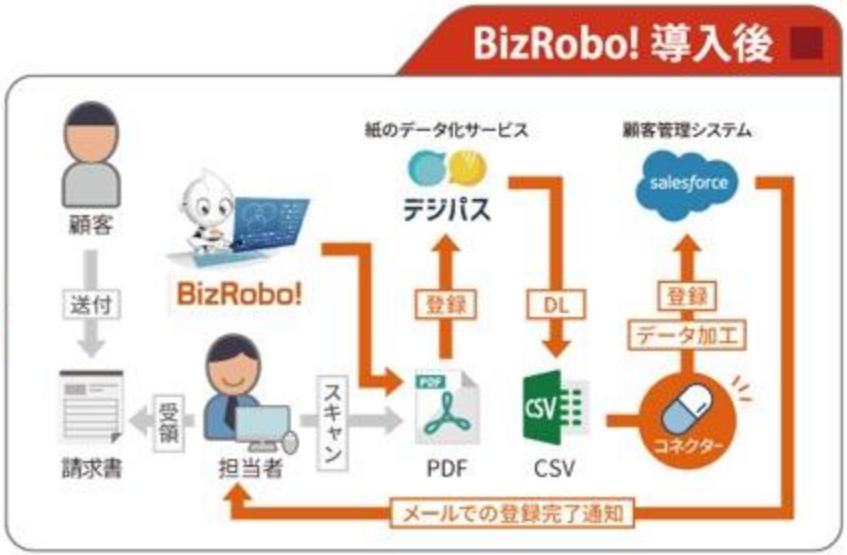
注文住宅工事に伴う請求書を処理する業務

選定理由

- 請求処理が煩雑で多くの工数を要するため、経験値やノウハウが必要で属人化している
- 作業ボリュームが月内で偏るため、その期間は総務部の業務負荷が急増
- 処理後の基幹システム入力の際に、ヒューマンエラー（入力ミス）が発生



1. 請求書をメールor郵送で受領
2. 請求書内容をExcelに手入力
3. 担当部署に請求内容を確認
4. 相違があれば請求元に確認
5. Excel情報修正／相違なければSalesforceに登録



1. 人が請求書をメールor郵送で受領し、PDF化してフォルダ格納
2. ロボットがPDFをデジパスに登録
3. デジパスでOCR処理・チェック・修正
4. ロボットがデジパスからcsvデータをDLして指定フォルダに保存
5. コネクターでcsvを登録用に加工し、Salesforceに登録
6. ロボットがメールで担当者にSalesforse登録完了通知

実施効果

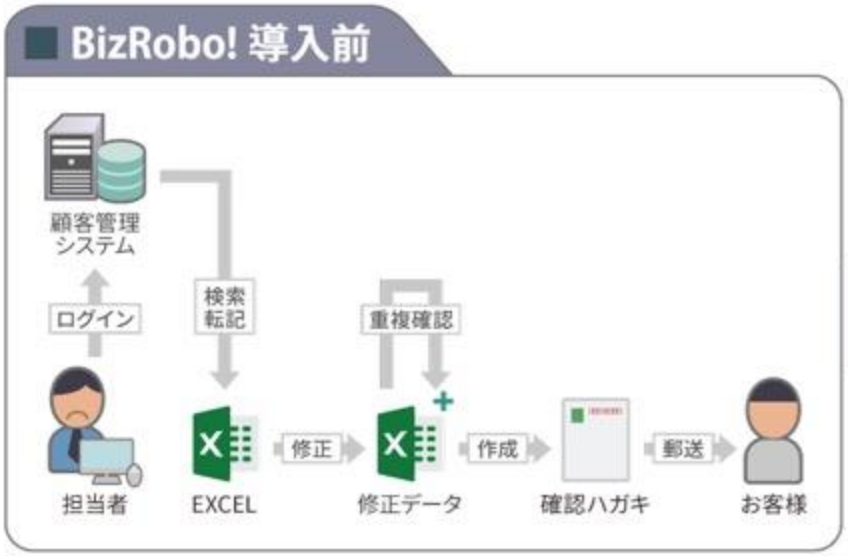
- 年間300時間相当の余力を創出
- 4.5 万円/月の省人効果
- 入力ミスの低減

© OPEN, Inc. All rights reserved.

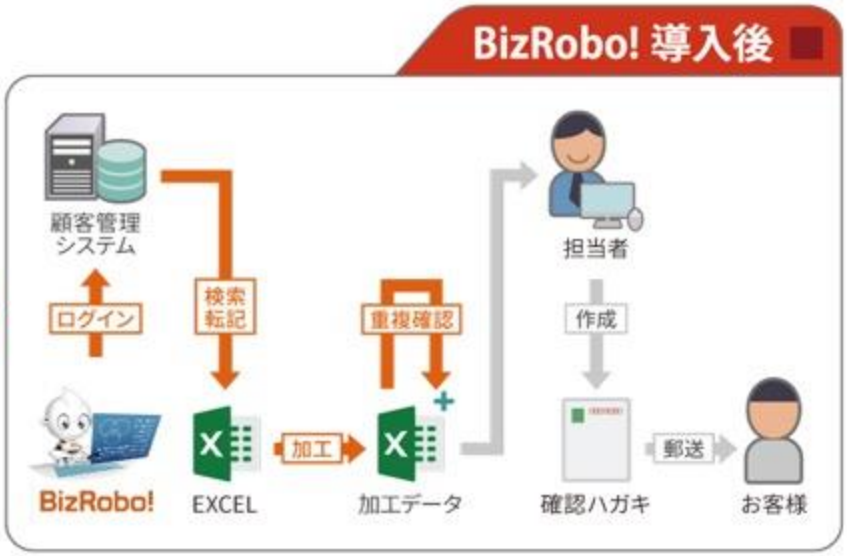
工事完了のお客様に確認ハガキを郵送する業務

選定理由

- 単純な作業だが、対応に時間がかかっていた



1. 社員が顧客管理システムにログインし、検索
2. 検索した顧客データをExcelへ転記
3. Excelを修正、重複確認
4. Excelデータをもとに顧客工事後の確認ハガキを作成し郵送



1. ロボットが顧客管理システムにログインし、検索
2. ロボットが検索した情報を取得し、Excelへ転記
3. ロボットがExcelを人間が見やすい形式に修正して重複確認
4. 社員がExcelに掲載されている顧客へハガキを郵送する

実施効果

- 人間が行う作業がExcelを確認し郵送するだけに削減
- 大量のデータを３分程で作成することができた
- 一日がかりの作業が無くなりストレスが軽減された

© OPEN, Inc. All rights reserved.

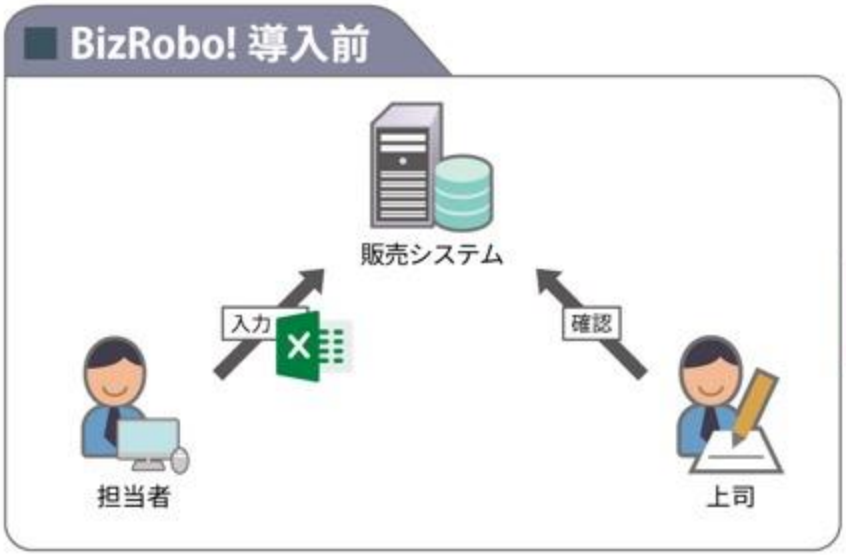
卸売・小売

© OPEN, Inc. All rights reserved.

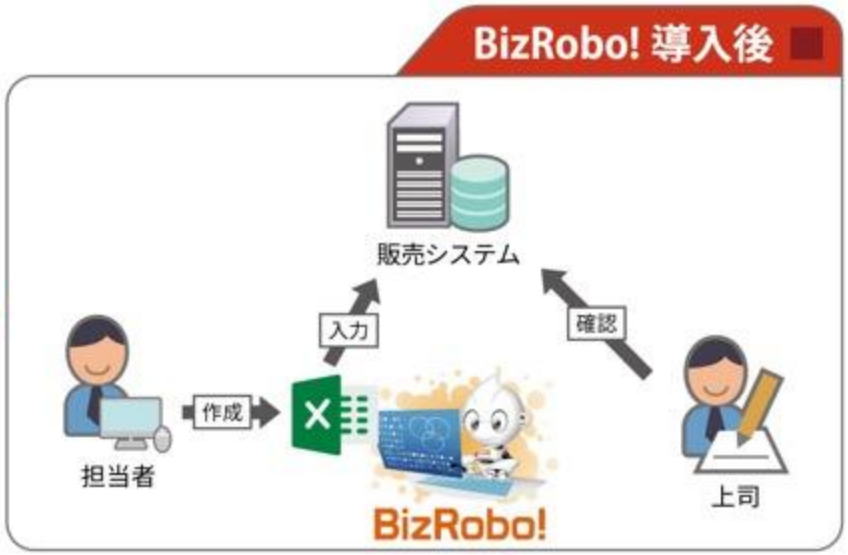
プライスライン(商品の売価)を変更し集約する業務

選定理由

- 延べ60,000SKUもの売価変更を人力で行っており、業務量が膨大だった
- 自社システムとExcelなど、システム間の連携に労力を多く消費し、リソースを新規業務に割く必要があった
- 担当者がロボットをスケジュール管理し、ロボット共通部品を共有できるBizRobo!が社内のRPA推進体制に適していた



1. 担当者が商品コード・価格が記載されたExcelシートを作成
2. 担当者が自社内の販売システムに変更後の売価を入力
3. 入力後上司が確認



1. 担当者が商品コード・価格が記載されたExcelシートを作成
2. ロボットが自社内の販売システムに変更後の売価を入力
3. 入力後上司が確認

実施効果

- 延べ180時間分の余剰時間を創出し、人が行うチェック・監査に時間をかけられるようになった
- 短時間で業務を終了できるため、今後、迅速かつ大量に売価を変更する際の機動性を確保できた
- 土日や夜間をロボットの作業時間にあてることで、人数が足りずに諦めていた週次業務を日次業務に変更できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

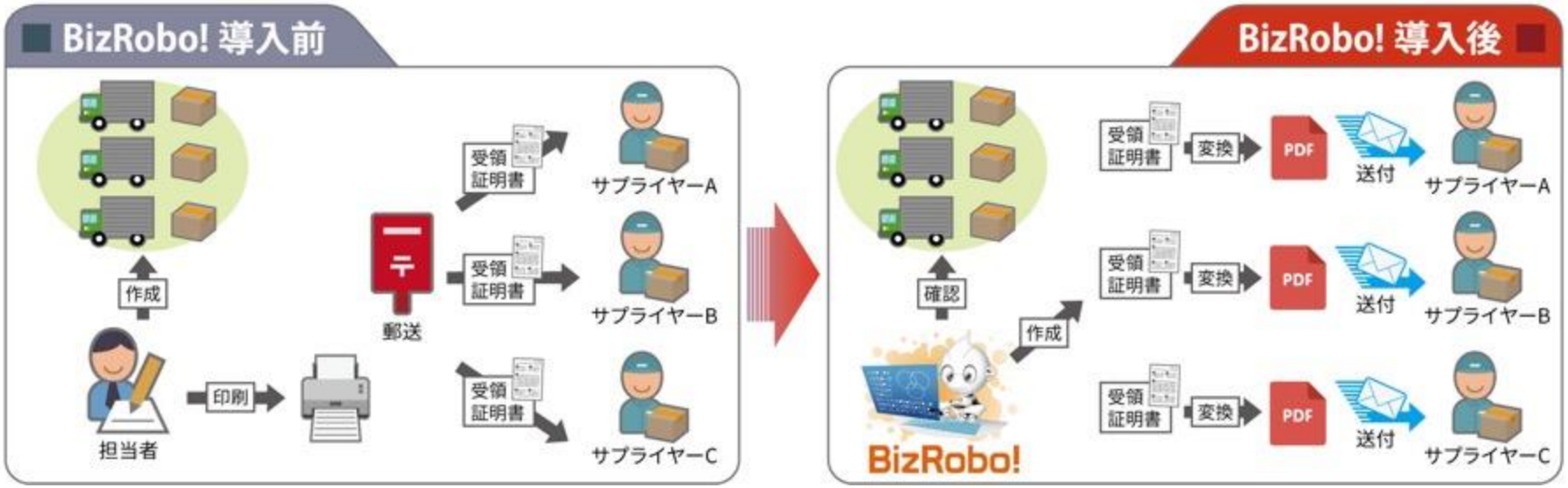
納品時の受領証明書を
サプライヤー別にメール送付する業務

卸売・小売

物流センター

選定理由

- 数十の拠点にRPAの導入を検討しており、サーバー型かつ何台でもロボットを作成可能なBizRobo!が管理・コストの面で優れていた
- 毎日5000件の処理を行う必要があり、作業ミスの発生や担当者ごとのパフォーマンスの差が問題だった



1. 全国の物流センターから商品が納品
2. 担当者はシステムから納品された商品名・数量を確認し、受領証明書を作成
3. 受領証明書を紙に印刷
4. 各サプライヤー別に、印刷した受領証明書を郵送

1. 全国の物流センターから商品が納品
2. ロボットはシステムから納品された商品名・数量を確認し、受領証明書を作成
3. ロボットは受領証明書をPDF化し、各サプライヤー別にメール送付

実施効果

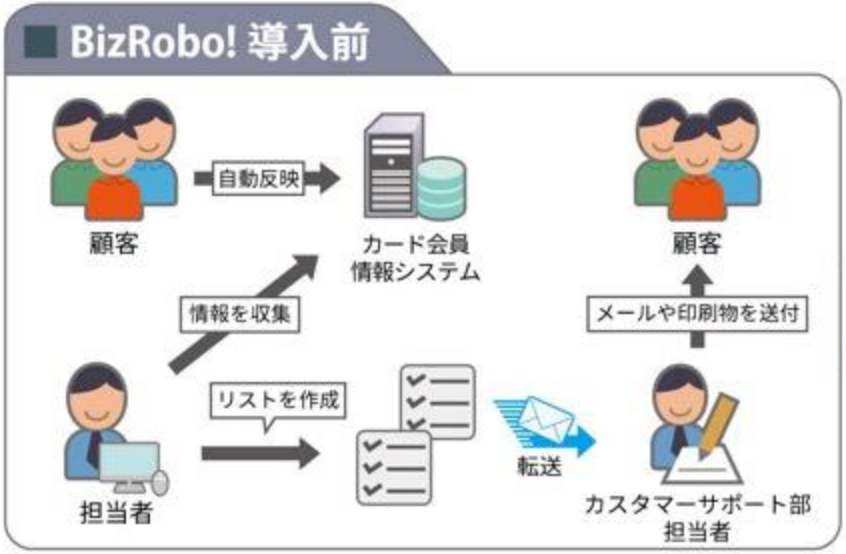
- 毎日5000件あった処理業務をロボットが代行し、年間16,000時間の余剰時間を創出
- RPAをきっかけとして業務の行い方の改革に取り組み、従来の紙を用いた業務から脱却

© OPEN, Inc. All rights reserved.

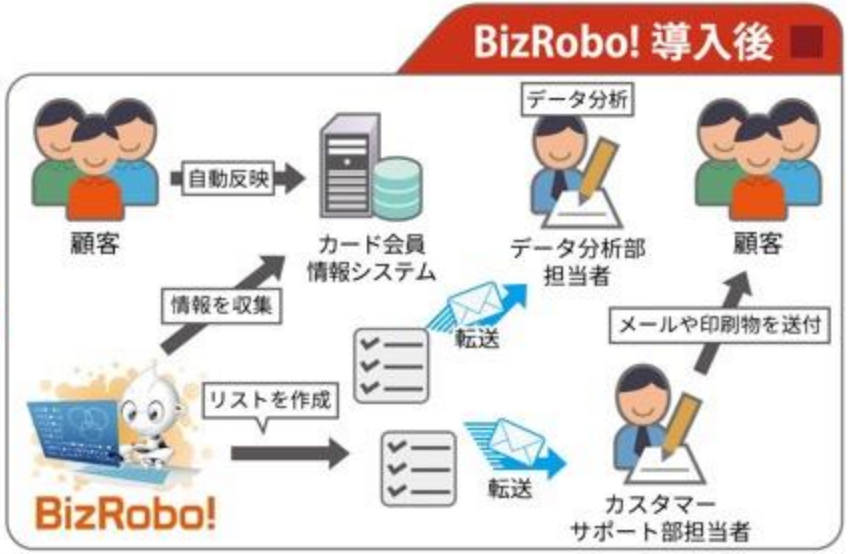
カード会員の購買動向を収集する業務

選定理由

- 人手で扱える量には限界があり、エリア・性別・年代・イベント別などの、購買情報の細かな仕分けができていなかった
- どの販促施策が効果的なのかデータをもとに分析できておらず、担当者の勘や経験に依存していた



1. カード会員情報システムに顧客の購買情報が自動で反映される
2. 担当者は条件別に情報を収集して、リストを作成
3. カスタマーサポート部にそれぞれ転送
4. カスタマーサポート部は顧客ステータスに応じたメールや印刷物を送付



1. カード会員情報システムに顧客の購買情報が自動で反映される
2. ロボットは細かな条件別に情報を収集して、リストを作成
3. データ分析部、カスタマーサポート部にそれぞれ転送
4. カスタマーサポート部は顧客ステータスに応じたメールや印刷物を送付
5. データ分析部は分析を行う

実施効果

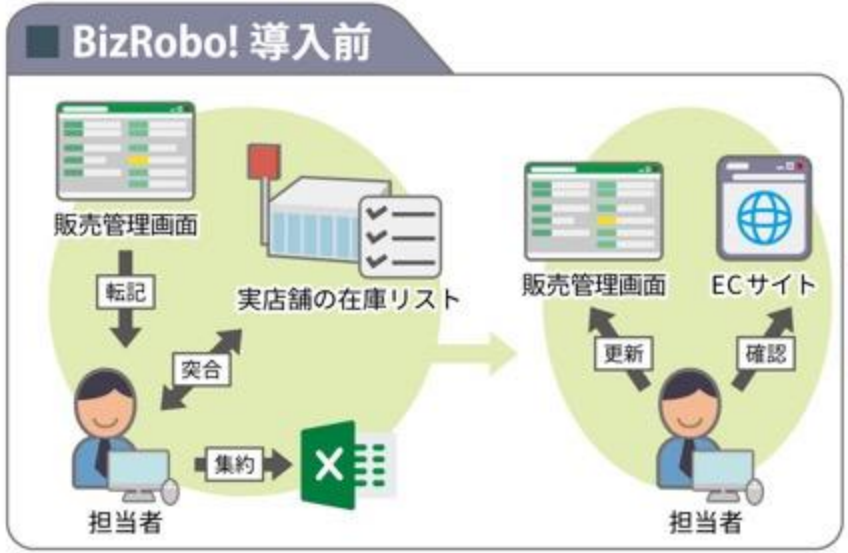
- データ収集と仕分けをロボットが代行し、人員に余剰時間を創出
- データ分析を専門に行う人員を配置し、データに基づいた販促施策を行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

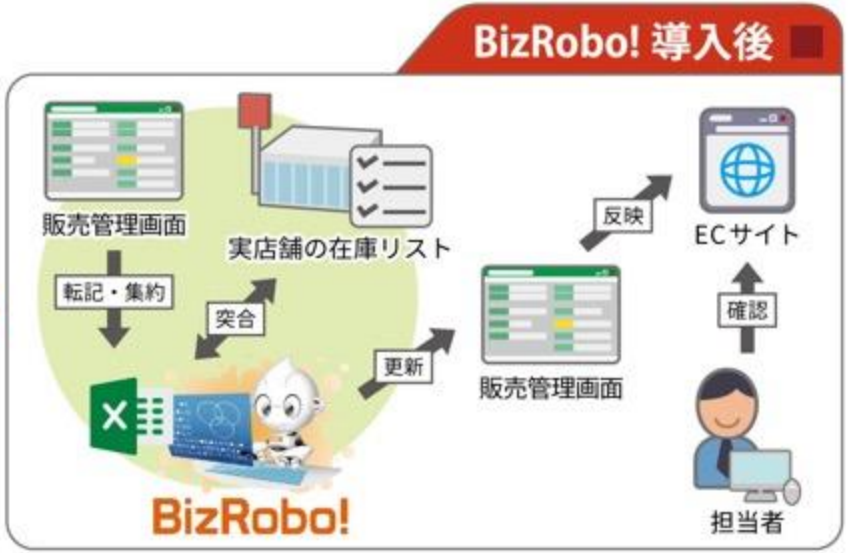
在庫の変動を複数サイトに反映する業務

選定理由

- 実店舗の在庫を複数のECサイト経由で販売しており、1時間かけて更新作業を実施する必要があった
- 頻繁に商品リストが更新されるため、更新作業のための担当者が常にはりつく必要があった
- 新たなECシステムの構築も検討したが、外部ベンダーへの依頼コストや実装までのスピード感を比較し、BizRobo!を採用した



1. ECサイトの販売管理画面を参照し、売上情報を転記
2. 複数店舗の売上情報をエクセルに集約
3. 直前までの実店舗の在庫リストと突合し、差分を更新
4. ECサイトの販売管理画面で在庫情報を更新
5. 担当者がECサイトへの更新を確認



1. ロボットはECサイトの販売管理画面を参照し、売上情報を転記
2. 複数店舗の売上情報をエクセルに集約
3. 直前までの実店舗の在庫リストと突合し、差分を更新
4. ECサイトの販売管理画面で在庫情報を更新
5. ECサイトへの更新を確認

実施効果

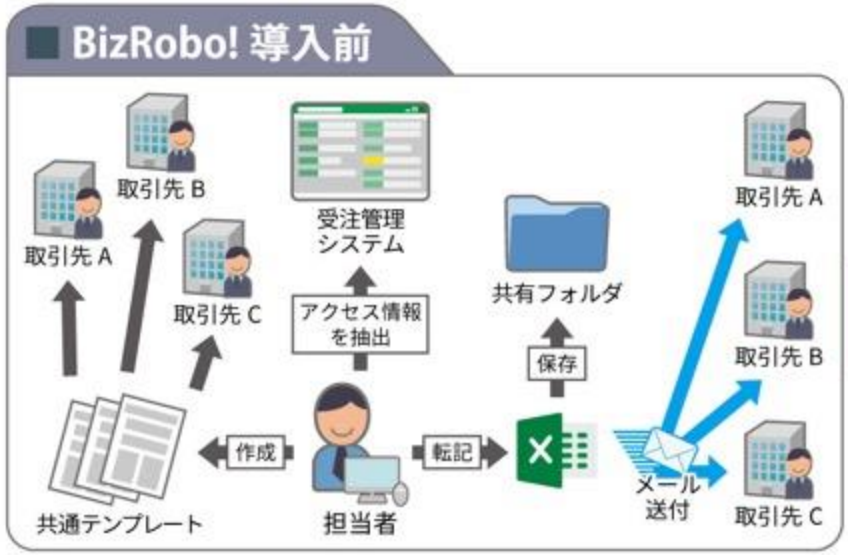
- 在庫更新業務は始業時に1時間をかけて担当者が実施していたが、作業負担がゼロにとなった
- 更新を日次から1時間毎にすることができたため、在庫情報Webサイトへの反映時間を大幅に短縮

© OPEN, Inc. All rights reserved.

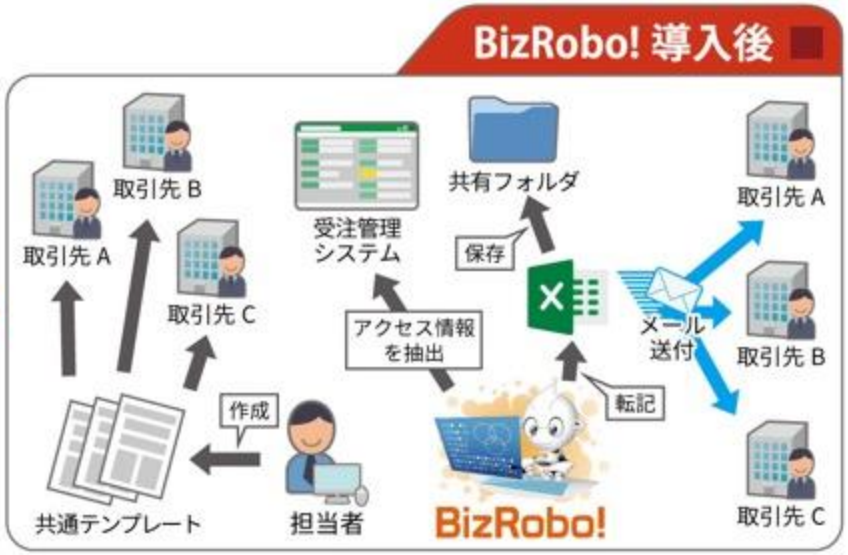
商品の納期見通しを通知する業務

選定理由

- 全国100拠点でそれぞれ取引先（計2万社）を有しており、処理量が非常に多かった
- 数100種類の商品の納期を日次で処理する必要があったため、業務担当者が電話対応などでカバーしていた
- 納期回答書が取引先によって異なるケースがあり、そのため処理が煩雑になっていた



1. 担当者は納期回答書の共通テンプレートを各取引先ごとに作成
2. 受注管理システムから、商品の納期見通し情報を抽出
3. 納期見通し情報をエクセルのテンプレートに転記、共有フォルダに保存
4. 納期回答書のエクセルを取引先にメール送付



1. 担当者は納期回答書の共通テンプレートを各取引先ごとに作成
2. ロボットは受注管理システムから、商品の納期見通し情報を抽出
3. 納期見通し情報をエクセルのテンプレートに転記、共有フォルダに保存
4. 納期回答書のエクセルを取引先にメール送付

実施効果

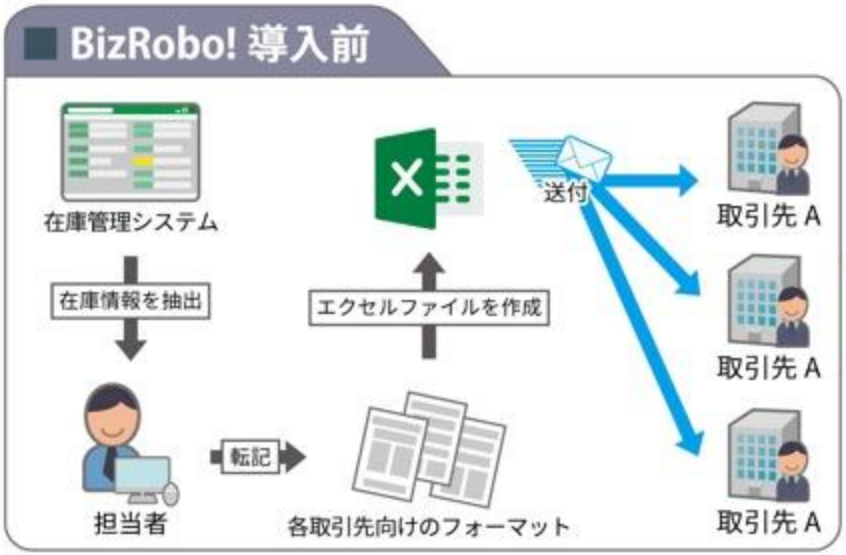
- 年間200時間程度の余剰時間を創出
- 日次で実施していた当業務の負担が例外パターンを除いてほぼゼロとなった
- 従来多発していた入力ミスや回答への催促がなくなり、スピーディーに対応できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

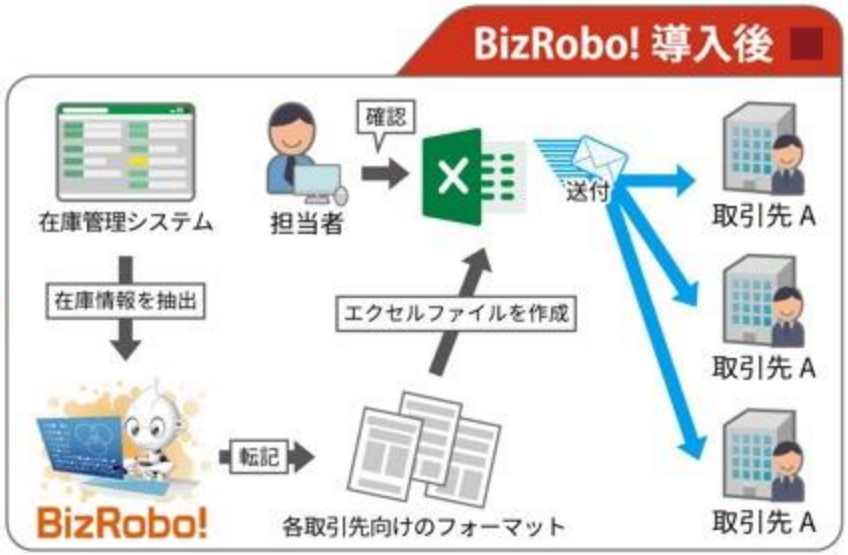
販売店向けに在庫表を配信する業務

選定理由

- 全国に2万社ある取引先に対して在庫表（対象商品、納期、価格などの情報）を定期配信するため、処理量が膨大だった
- 取引先によって対象の商品が異なるのはもちろん、在庫表のフォーマットが異なる場合があり、人手で対応する必要があった



1. 担当者は在庫管理システムを参照し、各取引先向けの在庫情報を抽出
2. 在庫情報を各取引先向けのフォーマットに転記し、
   エクセルファイルを作成
3. エクセルをメールに添付し、取引先へ送付



1. ロボットは在庫管理システムを参照し、各取引先向けの在庫情報を抽出
2. 在庫情報を各取引策向けのフォーマットに転記し、
   エクセルファイルを作成
3. 担当者はエクセルファイルを確認
4. ロボットはエクセルをメールに添付し、取引先へ送付

実施効果

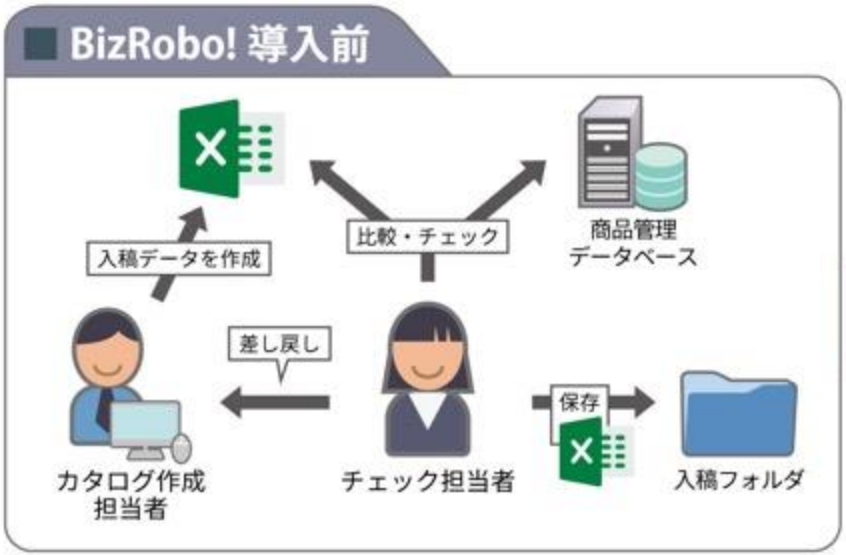
- 年間120時間の余剰時間を創出
- 単純なルーティンワークを減少し、お客様対応などの人が行うべき業務に集中できるようになった
- 同様の業務を行っている他拠点に展開することで、ロボットによる効果を最大化できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

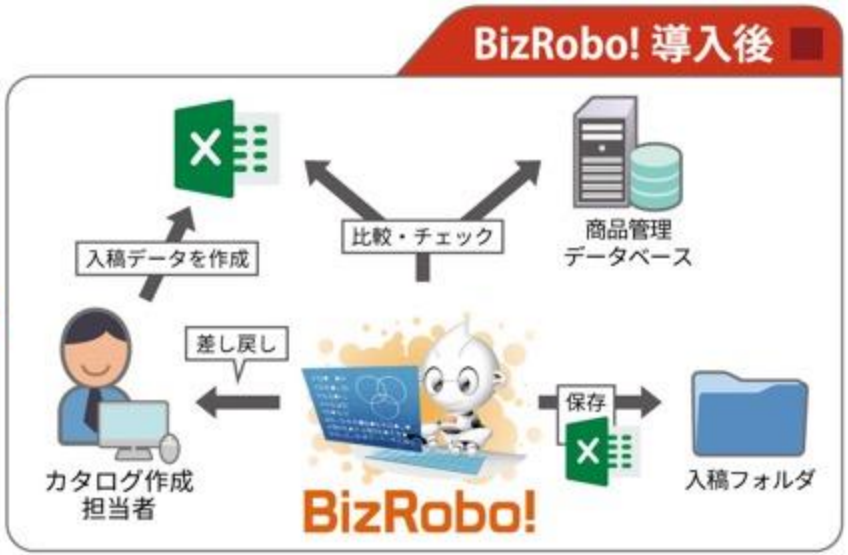
カタログ表現ルールをチェックする業務

選定理由

- 表現ルールに沿っていないカタログがあるとサービス品質が下がり、クレームリスクも高かった
- 年間で500種類以上のカタログをチェックする必要があり、単純に業務負荷が高かった
- ミスが許されない減点方式の業務であるため、チェックを担当する社員の心理的負担が大きかった



1. カタログ作成担当者がエクセルでカタログの入稿データを作成
2. チェック担当者が、入稿データに「内規NGワード」および「知財NGワード」が含まれてないかチェック(含まれれば差し戻し)
3. チェック担当者が、商品のスペック情報と商品管理データベースの登録情報が一致しているかチェック(含まれれば差し戻し)
4. 担当者はチェックが完了すれば入稿フォルダに保存



1. カタログ作成担当者がエクセルでカタログの入稿データを作成
2. ロボットが、入稿データに「内規NGワード」および「知財NGワード」が含まれてないかチェック(含まれれば差し戻し)
3. 商品のスペック情報と商品管理データベースの登録情報が一致しているかチェック(含まれれば差し戻し)
4. 担当者はチェックが完了すれば入稿フォルダに保存

実施効果

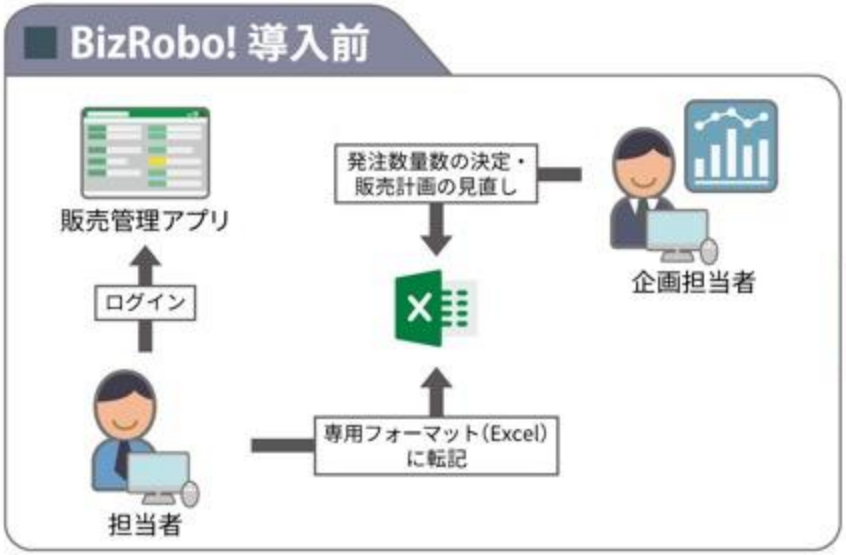
- 年間で360時間の余剰時間を創出し、チェック担当者の心理的な負担（ミスできない状況や、クレームリスク）を軽減
- 余剰時間を商品・サービスの開発、業務品質の向上に充てることができた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

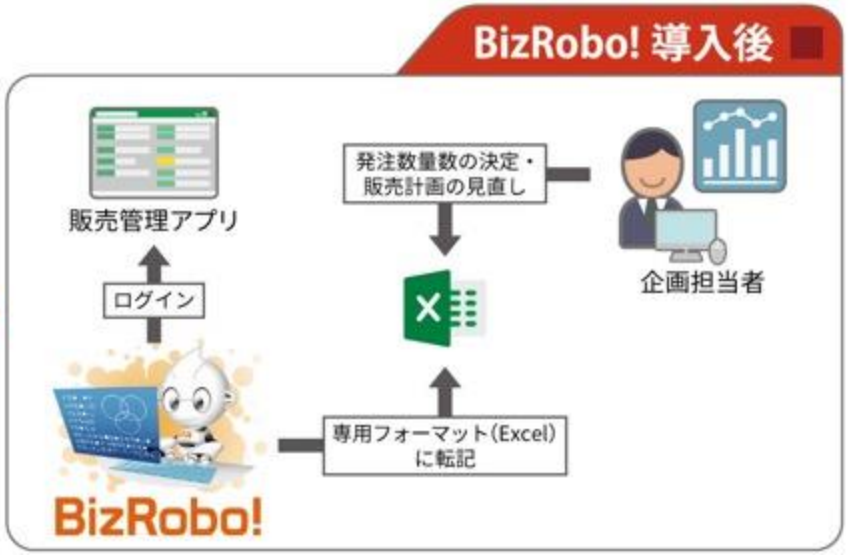
販売実績を集計する業務

選定理由

- 開発商品の種類が1200SKUあり、それぞれに対して週次で多くのデータを集計する必要があった
- 集計データをもとに発注数や販売計画を立案するため、データ集計の即時性と正確性の向上が重要だった



1. 集計担当者は販売管理アプリにログイン
2. 毎週の販売数量・店舗在庫数量・DC在庫数量、DC出庫数量を専用フォーマット(Excel)に転記
3. 企画担当者は集計データをもとに、今後の発注数量数の決定や販売計画の見直しを行う



1. ロボットは販売管理アプリにログイン
2. 毎週の販売数量・店舗在庫数量・DC在庫数量、DC出庫数量を専用フォーマット(Excel)に転記
3. 企画担当者は集計データをもとに、今後の発注数量数の決定や販売計画の見直しを行う

実施効果

- 週に32時間かかっていた業務をロボットがすべて代行できるようになった
- データの集計をよりスピーディにできるようになり、企画担当者が任意のタイミングで発注数量数の決定や販売計画の見直しを行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

競合店の価格を集計・出力する業務

選定理由

- 競合店の商品数が非常に多く、人手でデータをまとめることは行えていなかった
- 類似の、Web上からデータを収集する業務が複数あり、ロボットのヨコ展開が行いやすいと判断した

【ロボット導入前】
1. ロボット導入以前は行っていなかった業務

【ロボット導入後】
1. ロボットは競合店の各種Webサイトにアクセス
2. ロボットは商品名と値段を抽出
3. ロボットは抽出したデータを１つのExcelデータに転記し、集計データを作成

実施効果

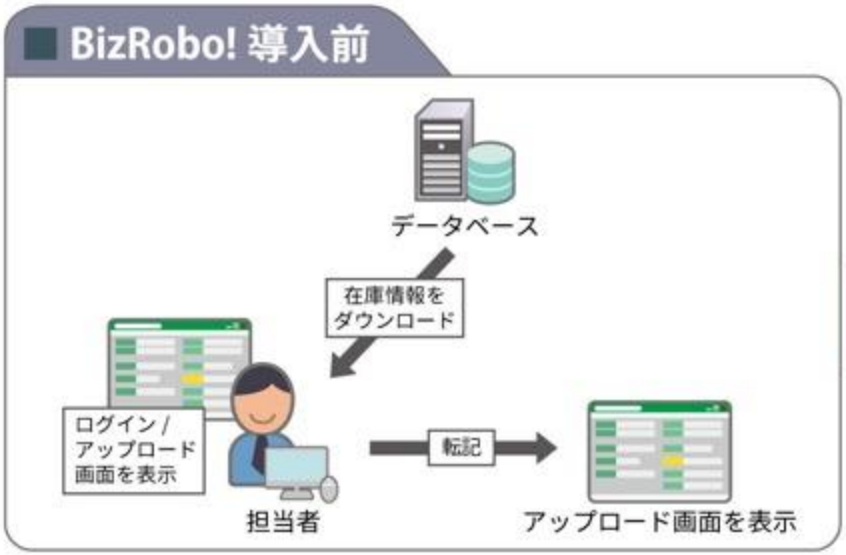
- 競合店の価格情報をタイムリーに共有できるようになり、集計データは商品企画会議でも頻繁に使用されるようになった
- 価格情報以外にも、「天気・気温・降水量のデータ」や「ゴム・合板・段ボールの相場価格」など、様々なデータを集計するロボットを同様の手順で作成できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

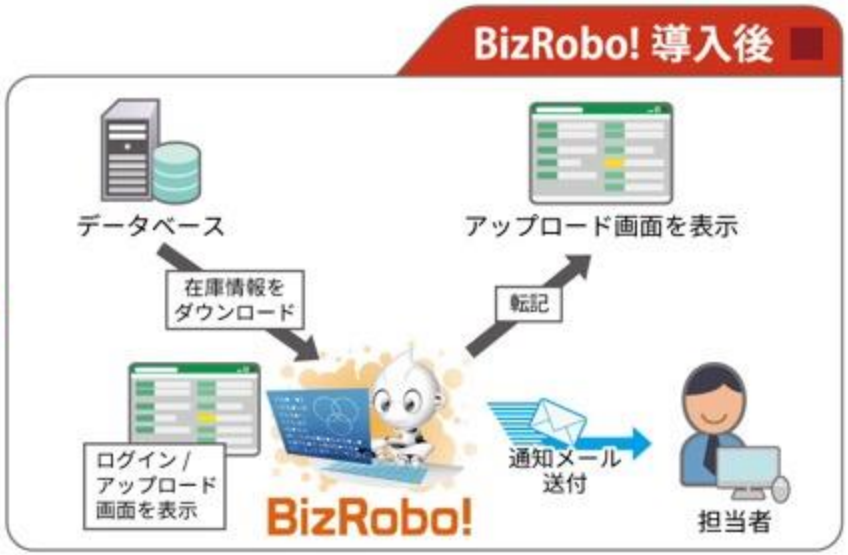
商品をWeb上の販売サイトに登録する業務

選定理由

- 月で合計5時間程度の、少量の業務だが、発生がランダムで担当者のスケジュールが乱れる要因だった
- 少量だが複数のルーティンワークがあり、担当者のストレスがたまっていた



1. 担当者はWebの販売サイトにログイン、
   在庫データアップロード画面を表示
2. データベースから商品ごとの在庫情報をダウンロード
3. ダウンロードしたデータを、
   アップロード用のフォーマットに1つずつ転記



1. ロボットはWebの販売サイトへログインし、
   在庫データアップロード画面を表示
2. データベースから商品ごとの在庫情報をダウンロード
3. ダウンロードしたデータを、アップロード用のフォーマットに転記
4. 担当者に完了通知メールを送付

実施効果

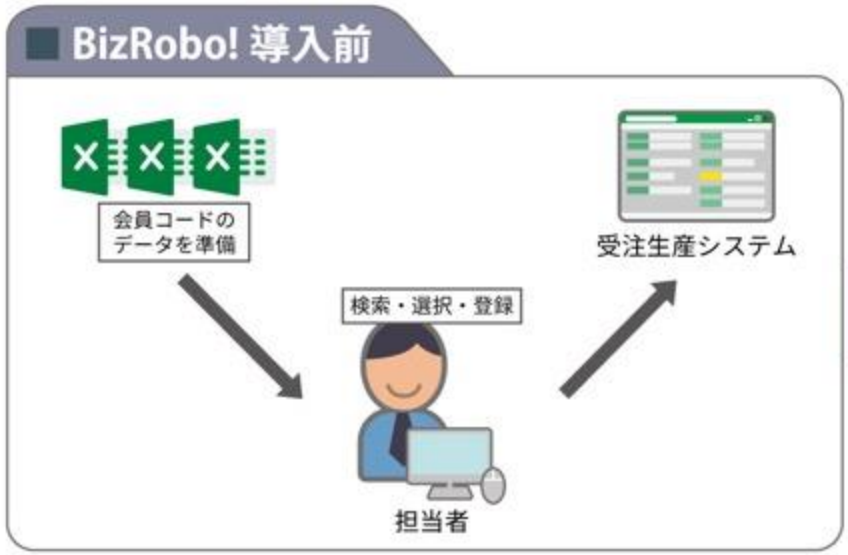
- 毎日1時間かけていた作業をロボットが全て代行するため、多くの余剰時間を創出
- 転記ミスや作業のし忘れがなくなり、顧客からの問い合わせやクレームの減少にもつながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

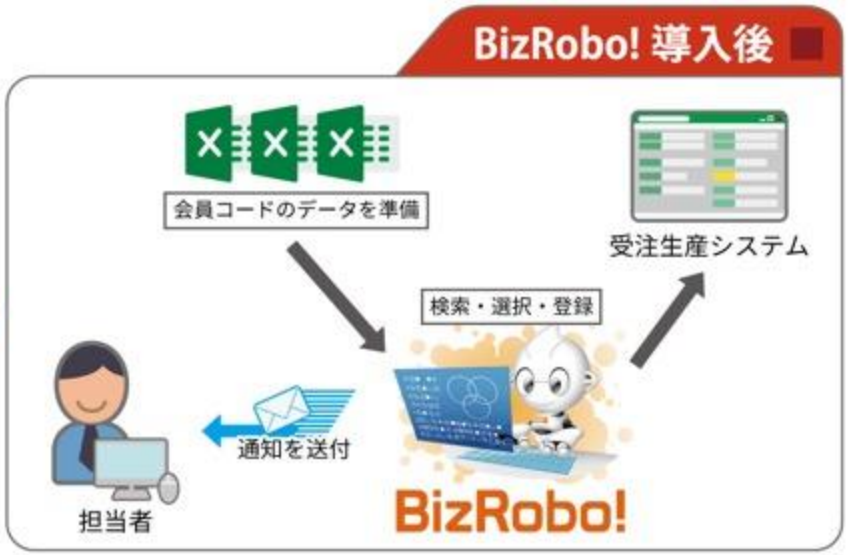
商品仕様の変更に伴い、契約情報を一括で変更する業務

選定理由

- 8000件以上の処理数があり、システム登録と目視での確認に130時間かかっていた
- 不定期かつ突発的に発生する業務であり、担当者は業務スケジュールの急な変更を余儀なくされていた



1. 担当者は商品仕様の変更と変更対象となる会員コードのデータを準備
2. 受注登録システムを開き、対象の会員コードを検索
3. 会員コードを選択し、契約情報を変更し登録
4. ２～３の手順を件数分繰り返し
5. 入力後、ミスがないか再確認



1. 担当者は商品仕様の変更と変更対象となる会員コードのデータを準備
2. ロボットは受注登録システムを開き、対象の会員コードを検索
3. 会員コードを選択し、契約情報を変更し登録
4. ２～３を件数分繰り返し
5. 作業完了の通知を担当者に送付

実施効果

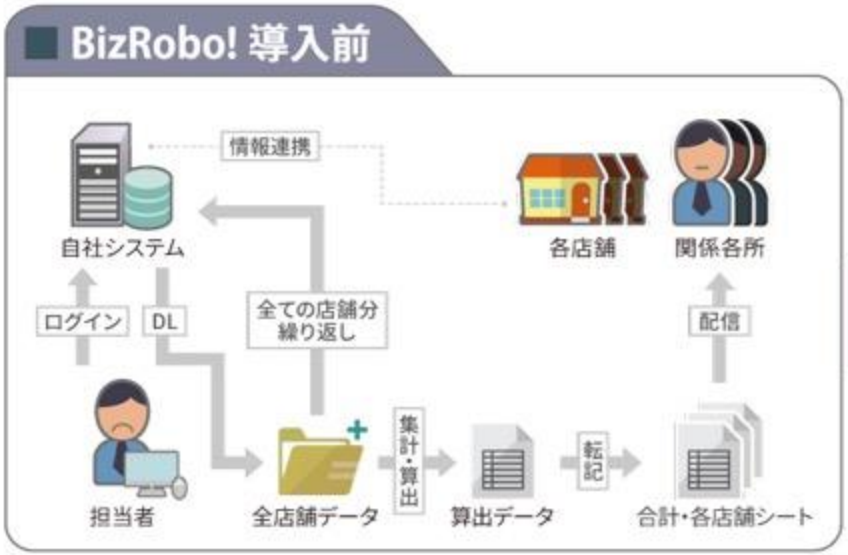
- 業務時間が130時間から10時間に減少し、担当者は最終確認のみで済むようになった
- 以前は担当者が急いで行っていたためミスが発生していたが、人為的ミスがなくなった
- 担当者が時間に追われることがなくなり、単純な作業ミスがなくなり、プレッシャーから解放された

© OPEN, Inc. All rights reserved.

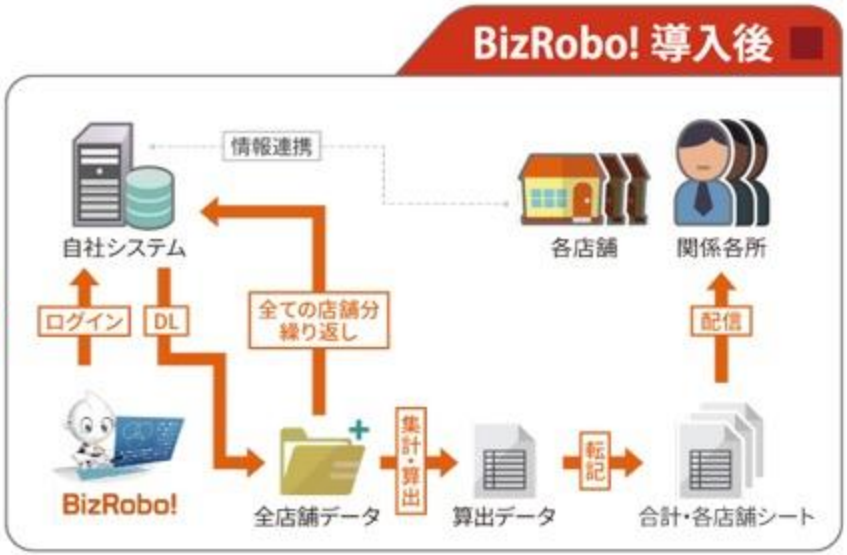
各店舗のレジ情報の取得・集計・報告業務

選定理由

- 日々レジ情報を集計しており、人での集計には限界が来ていた
- 社内システムからダウンロードした後のExcelでの定型業務だったためRPAを検討



1. 毎朝、社内システムにログインし、レジ別の実績をダウンロード。これを店舗の数だけ繰り返す
2. Excelでレジ種別ごとに合計、各レジ種別の利用率を算出する
3. 各店舗毎のシートへの転記 及び 全店舗の合計シートへ転記する
4. 実績を関係各所へメール配信する



1. ロボットが社内システムにログインし、レジ別の実績をダウンロード。これを店舗の数だけ繰り返す
2. Excelでレジ種別ごとに合計、各レジ種別の利用率を算出する
3. 各店舗毎のシートへの転記 及び 全店舗の合計シートへ転記する
4. 実績を関係各所へメール配信する

実施効果

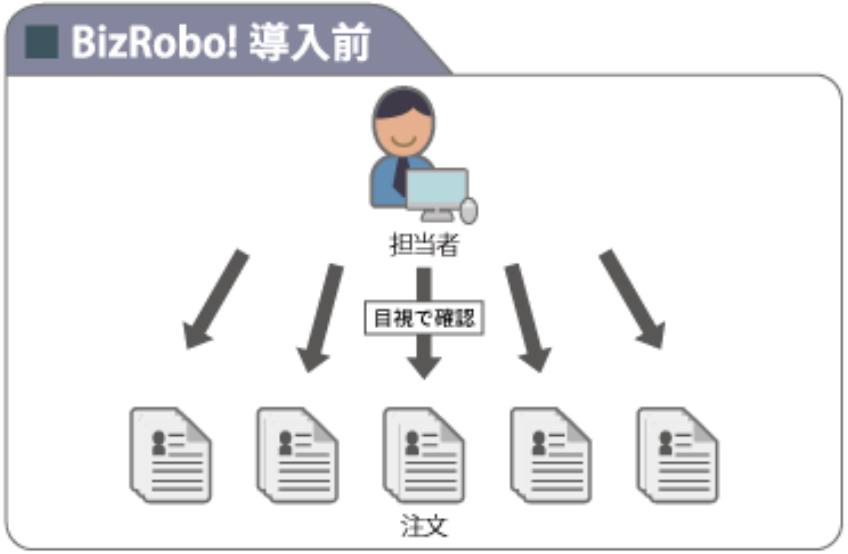
- 集計業務の時間が大幅に短縮（導入前：8店舗で1時間 → 導入後：33店舗で５分）
- 集計ミスがゼロに
- 今後、店舗が増えても”変換表(集計対象の一覧表)”に追記するだけで集計が可能になった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

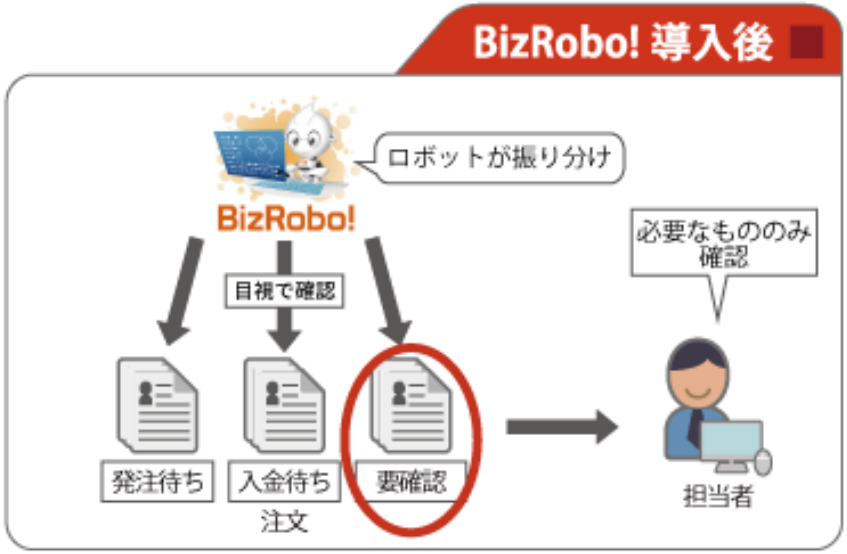
新規注文を確認する業務

選定理由

- 自社サイトでの販売に加え、主要なECモールへの出店など約10万点にものぼるアイテムを取り扱っている
- 事業拡大に伴い、業務量の増大が課題になってきていた



1. 担当者が配送日時指定や要望を確認
2. お客様が注文された商品が個人宅配送できるものか確認
3. 支払い方法の確認
4. 確認後、必要に応じてステータスを変更する



1. ロボットが配送日時指定や要望を確認
2. お客様が注文された商品が個人宅配送できるものか確認
3. 支払い方法の確認
4. 確認後、必要に応じてステータスを変更し振り分け
5. 担当者が必要なもののみを確認する

実施効果

- 年間1,000時間相当の余力を創出
- 業務のボトルネックだった受注確認の迅速化により、後工程がそろって前倒しされ、業務全体が円滑化
- 業務に余裕が生まれ、単純作業から解放された社員が、新たな企画などを考える時間を多く持てるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

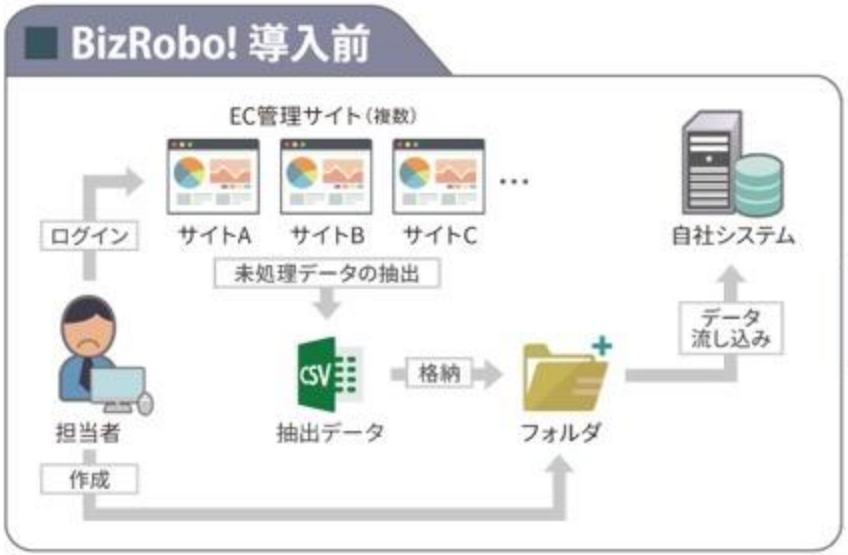
EC受注データを各管理サイトからダウンロードし、所定フォルダに保存する作業

卸売・小売

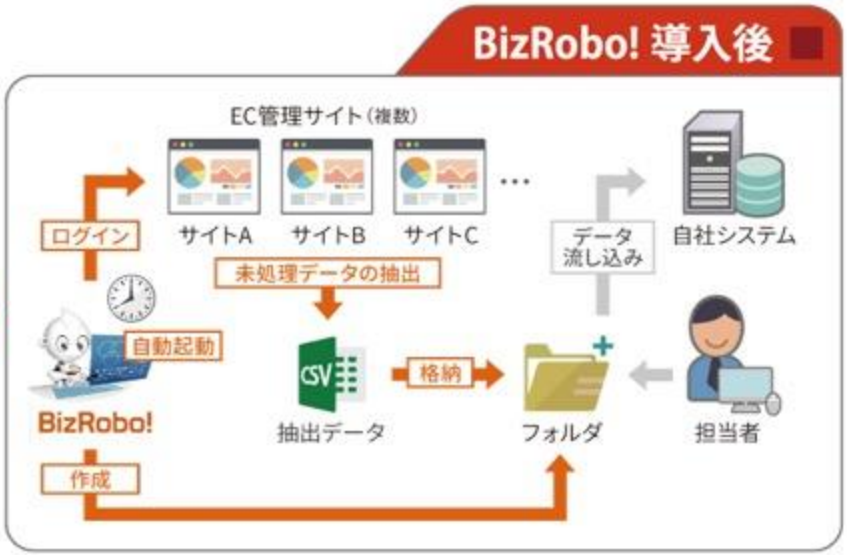
情報システム部

選定理由

- コールセンター強化の優先方針や組織再編などで増大する業務への対応を迫られたことで、しばしば残業が発生
- 事務の効率化による生産性向上が急務となっていた



1. 担当者が各EC管理サイトにログイン
2. 前日まで処理したデータを確認し、未処理データを抽出する
3. 所定の場所にフォルダ作成し、データを格納する
4. ダウンロードした未処理データを自社システムへ取り込む



1. ロボットが始業前の時間帯に各EC管理サイトにログイン
2. 前日抽出したデータ以降に注文された受注をデータ抽出する
3. 所定の場所にフォルダを作成し、データを格納する
4. 担当者は出勤後、
   所定フォルダに保存されたデータを自社システムへ取り込む

実施効果

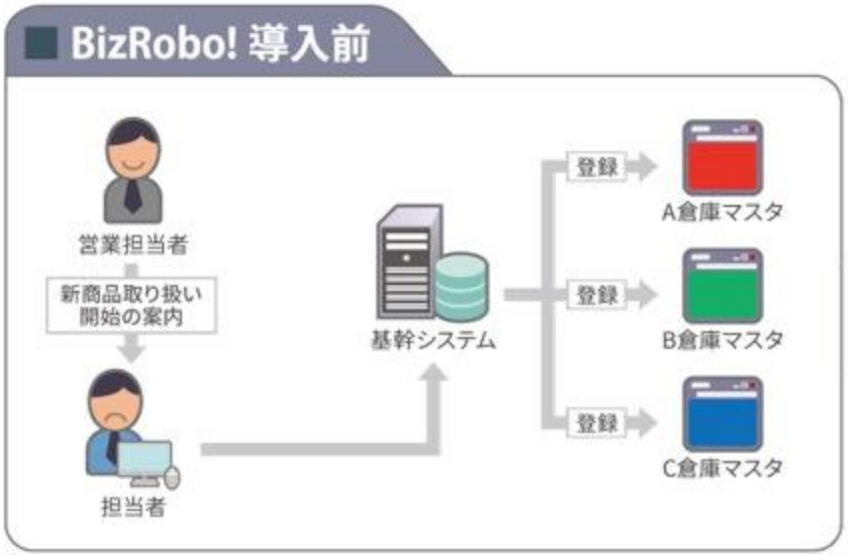
- 従来1人あたり月20～30時間生じていた残業が、10～15時間と半減した
- スケジュール実行機能を使い、始業前に自動処理させることで、翌朝出社してすぐ仕事を始められるようになった
- 手入力と確認の2人体制で処理していたのが、処理結果を確認する1人だけで済むようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

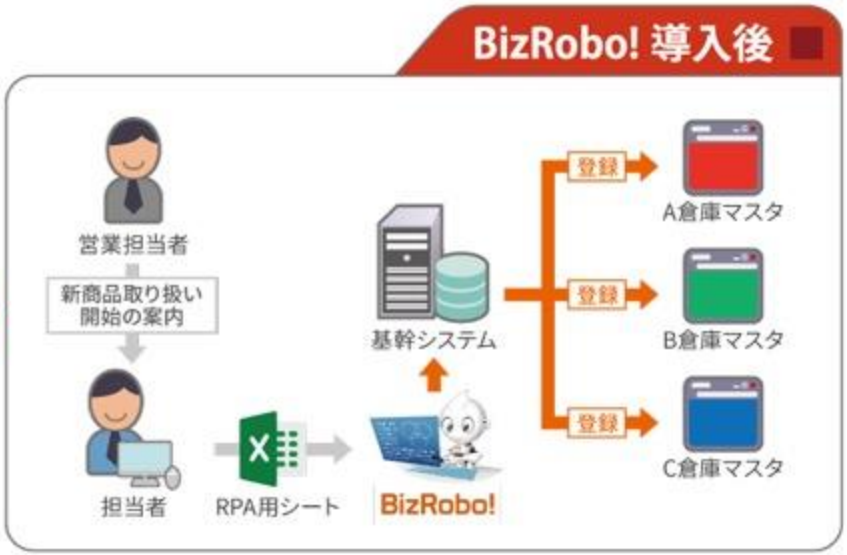
社内基幹システムへのマスタ登録作業

選定理由

- グループ再編や基幹システム刷新のプロジェクトを通じ、既存業務の標準化・効率化に取り組んできた
- 社外との接点が多いなどの理由でシステム化が難しい業務の効率化が必要だった



1. 営業担当者から、新商品取り扱い開始の案内を受領
2. 担当者が、受領した商品を倉庫単位で基幹システムにマスタ登録し、すべての倉庫で同じ作業を繰り返す



1. 営業担当者から、新商品取り扱い開始の案内を受領
2. 担当者が、受領した商品をRPAインプット用シートに転記
3. ロボットが全ての倉庫に対してマスタ登録する

実施効果

- 従来ベテラン事務員が月60時間かけていた作業を、ほぼ完全な自動処理に移行させた
- 年18万時間相当のロボット化が射程にとらえることができた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

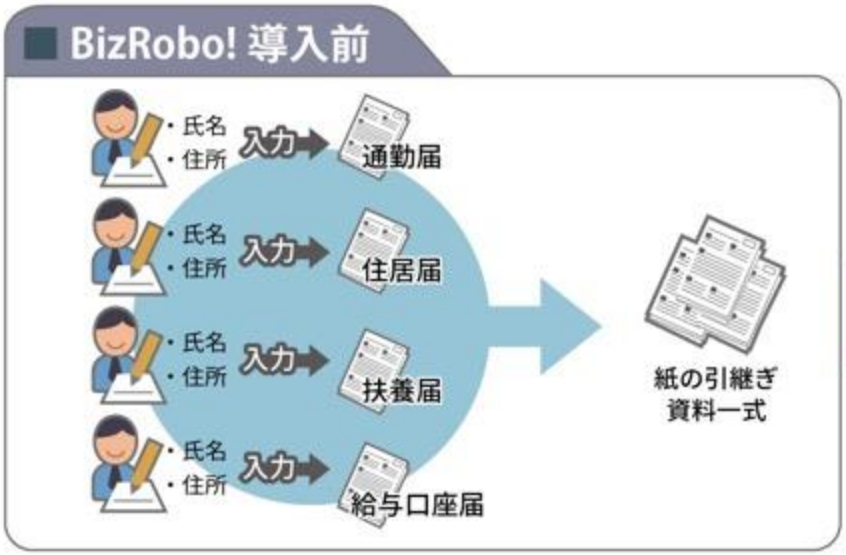
官公庁・自治体

© OPEN, Inc. All rights reserved.

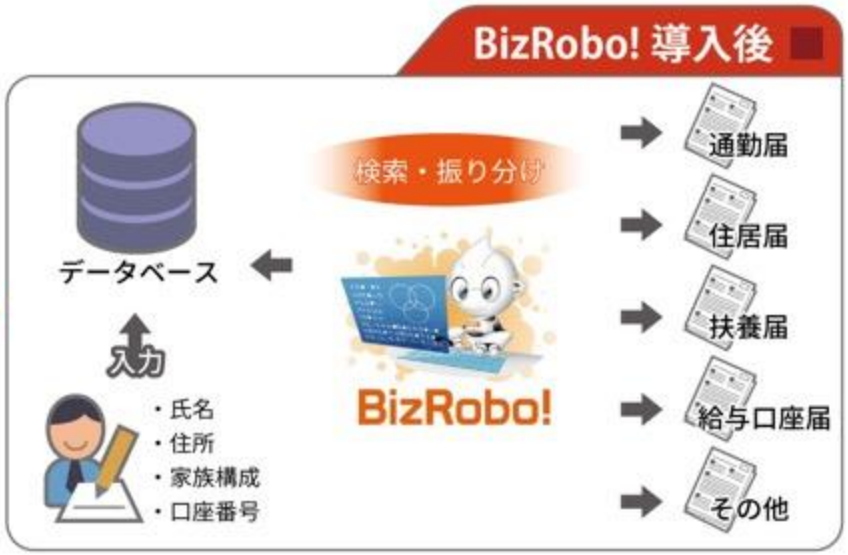
職員の基本情報を入力し、書類作成する業務

選定理由

- 基本的に紙による引継ぎのため、業務効率化が難しい
- 個別のシステムごとに職員の基本情報等を繰り返し入力しているため、非効率



1. 各職員が、個別のシステムごとに書類を作成
2. 同じ情報を別々の書類に何度も入力



1. 職員の基本情報(所属・職位・住所・メールアドレス等)をシステムに登録
2. ロボットは基本情報を検索・振り分け
3. 振り分けた情報を各々の書類に転記し、印刷

実施効果

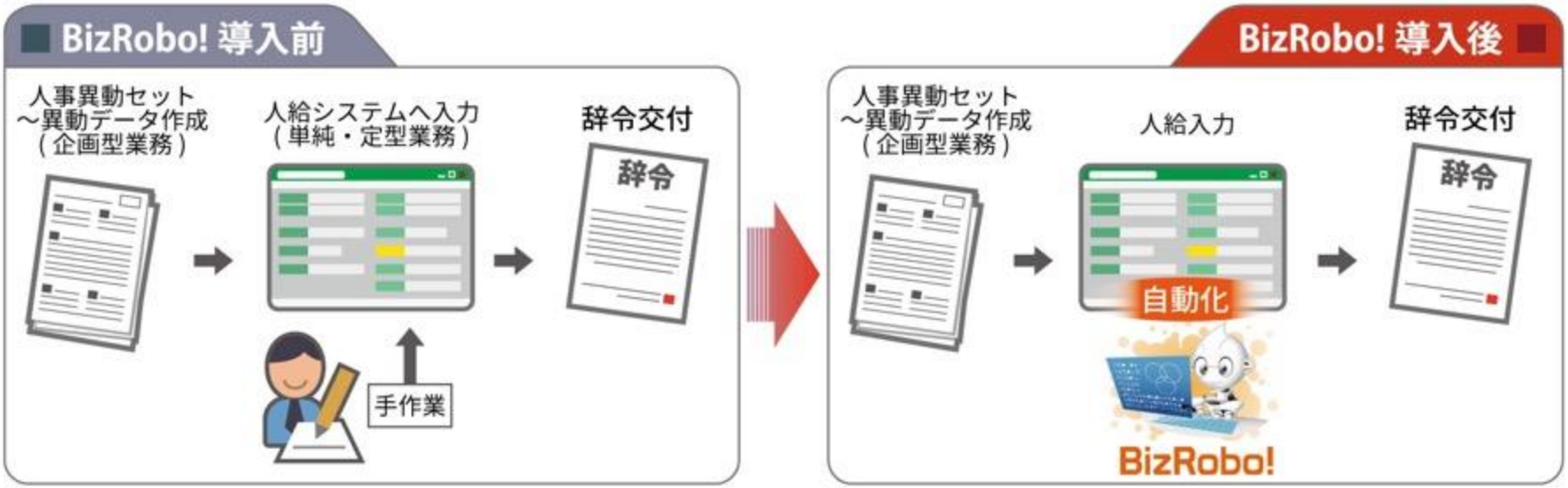
- 手作業だった人給システムへの入力作業をロボット化することで、年間150時間の時間を削減
- BizRobo!がサーバ実行型のため複数システムにまたがった作業を他部署の人と連携できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

人事異動時に、基本情報を入力する業務

選定理由

- 毎年1,300人が異動し、人事・給与システムの登録内容を毎年変更していた
- 約2,000件の変更があり、繁閑差がありピーク時には数人がかりで、終日登録作業を行っていた
- 単調な転記作業ではあるが、決してミスの出来ない業務だった



1. 職員は人事異動データを人事・給与システムに入力
2. 担当者はシステムの内容に基づき、辞令を交付

1. ロボットは人事異動データを人事・給与システムに入力
2. 担当者はシステムの内容に基づき、辞令を交付

実施効果

- 作業時間を約3分の1未満へ短縮
- 初期段階では他社製品を検討していたが、画像認識で要素が上手く認識できないため、オブジェクト認識が可能なBizRobo!miniを選択
- IT部門ではなく、業務を一番よく知る秘書課職員がロボットを１から作成し管理・運営ができた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

時間外勤務を手入力する業務

選定理由

- 複数課でそれぞれの担当者が入力業務を行うため、メールでの通知タイミングがバラバラになったり、メールのフォーマットが統一されていないという問題があった
- 時間外勤務命令は早く職員に通知したいが、担当者が忙しく業務が行えない場合は、その通知が遅くなる場合があった

1. 管理担当者が時間外勤務命令簿に各職員への命令を入力
2. 各課の担当者が名簿を読み込み、その内容を勤怠管理システムに手入力
3. 各課の担当者は時間外勤務命令が出ている職員に対し、時間外勤務の日時をメールで送付

1. 管理担当者が時間外勤務命令簿に各職員への命令を入力
2. ロボットがすべての課の時間外勤務命令簿を一斉に読み込み、勤怠管理システムにその内容を転記
3. 時間外勤務命令があるすべての職員に対し、時間外勤務の日時をメールで一斉送付

実施効果

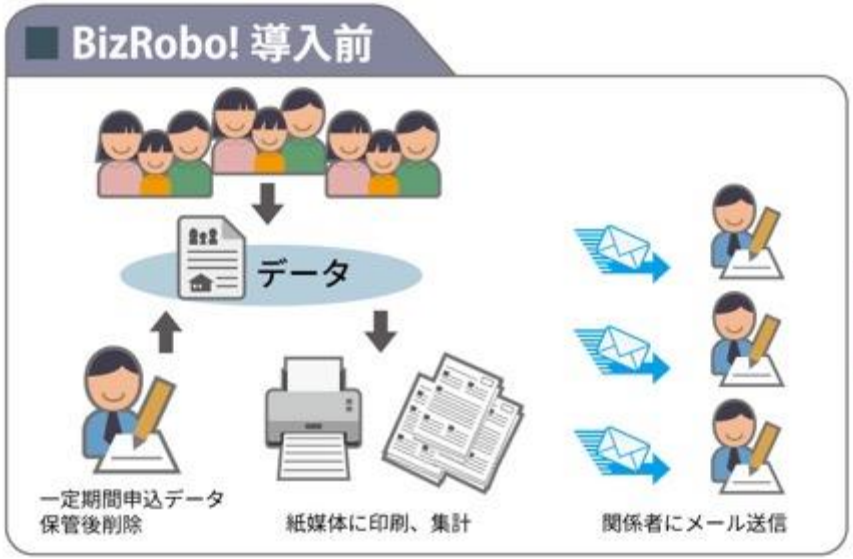
- 他2業務と合計して、年間約500時間の余剰時間を創出
- RPA導入前はメール通知のタイミングがバラバラで、場合によっては遅れることもあったが、ロボット導入後は一両日中に必ず該当者全員に通知メールが届くようになった
- 人が手作業で行う場合と比べて、入力ミスや登録漏れを防ぐことが可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

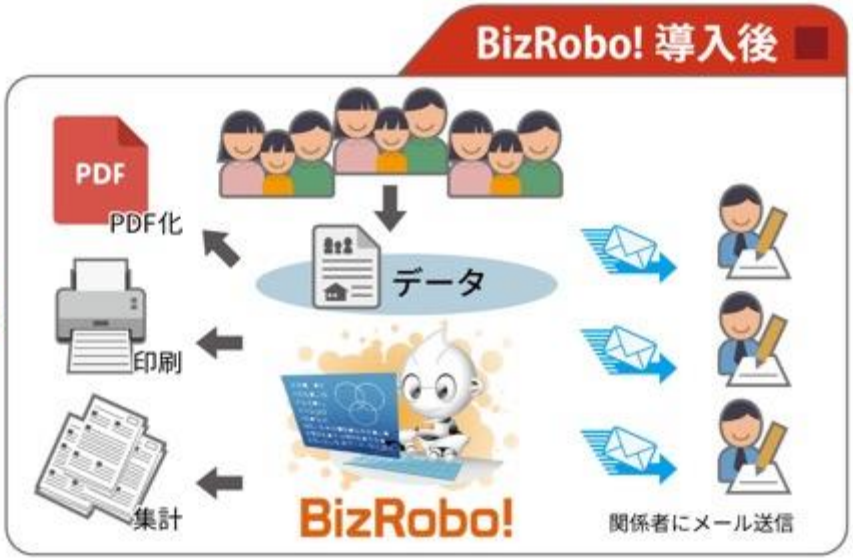
インターネット受付情報印刷業務

選定理由

- 毎年3月,4月に業務量が一時的に増大し、残業して業務を行っていた
- 完全にルーティンワークのため業務に対する職員のモチベーションが下がっていた
- 申し込み資料は紙媒体で保管する必要があり紛失の恐れがあるため、システム内でも一定期間保管する必要があった



1. 住民は水道・ガスの申込情報をデータで送付
2. 担当者はデータを紙媒体に印刷、申込件数を集計
3. 手続き終了後、一定期間申込データを保管した後に、申込データを削除
4. 担当者は関係者に対し、水道・ガス申込情報をメールで通知



1. 住民は水道・ガスの申込情報をデータで送付
2. ロボットはデータを紙媒体に印刷、申込件数を集計
3. 手続き終了後、申込データをPDFとして保存した後にデータを削除
4. ロボットは関係者に対し、水道・ガス申込情報をメールで通知

実施効果

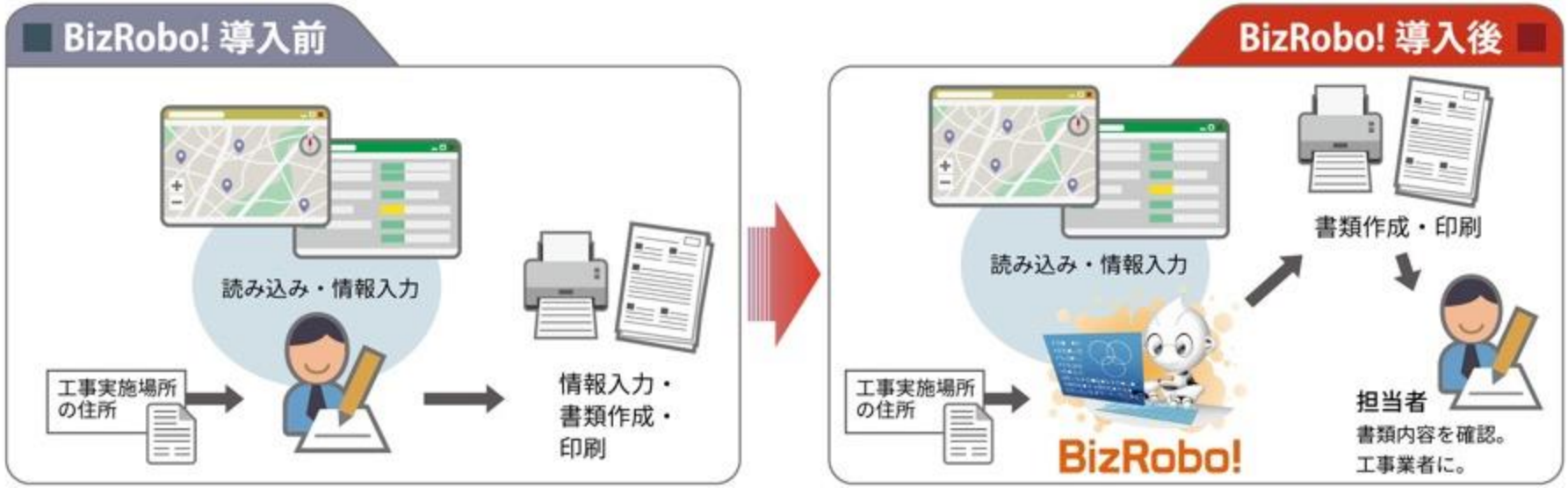
- 他2業務と合計して、年間約500時間の余剰時間を創出
- データを自動でPDFとして保存する機能を加えることで、業務プロセスがより効率的になった
- 申込情報を漏れなく正確に管理することが可能となった
- 職員のモチベーション向上に貢献した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

地図情報を閲覧し、印刷する業務

選定理由

- 作業が多く、人手で行うと確認漏れが起こりうる
- 作業頻度が高いためRPA導入による業務時間の短縮効果を体感しやすいと判断し、導入検証として実施
- 同じような作業が他の課にも多いため、導入検証がうまくいけば将来的なスケール化にもつながると判断



1. 他の課の職員は工事実施場所の住所を送付
2. 担当者は工事実施場所周辺の地図情報を読込み
3. 地図情報と工事実施場所住所や工事期間を入力し、工事業者に渡すための書類を作成
4. 書類を印刷し、工事業者に譲渡

1. 他の課の職員は工事実施場所の住所を送付
2. ロボットは工事実施場所周辺の地図情報を読込み
3. 地図情報と工事実施場所住所や工事期間を入力し、工事業者に渡すための書類を作成
4. 書類を印刷、担当者は書類を工事業者に譲渡

実施効果

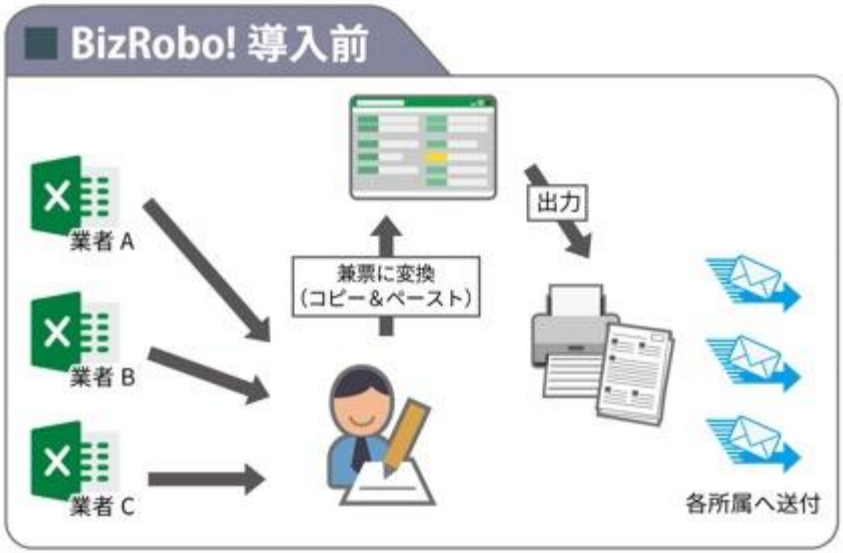
- 他2業務と合計して、年間約500時間の余剰時間を創出
- 業務の効率化が行え、印刷漏れを防ぐことができるようになった
- 作業頻度が高く、かつ手作業中心の業務を自動化できたことで、同じような他の課の業務に横展開することが可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

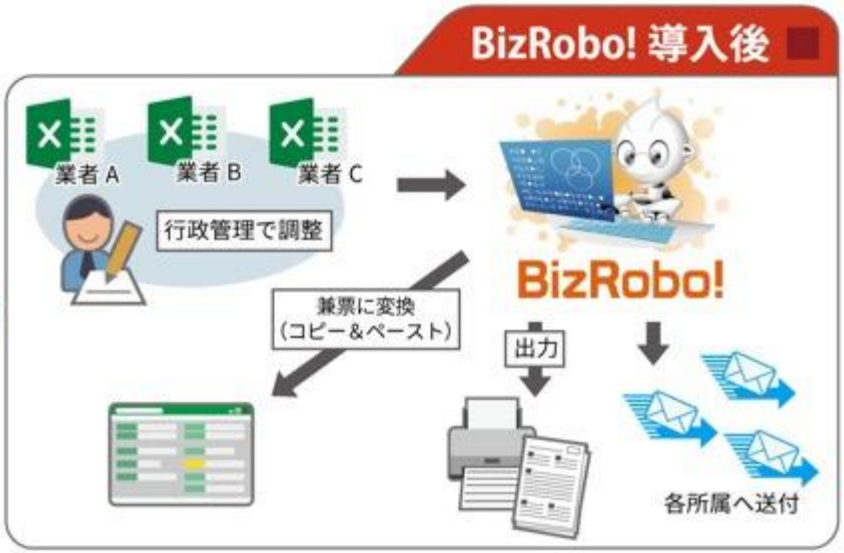
複写機使用料の支払い帳票を作成する業務

選定理由

- 単純作業かつ繰り返し作業であり、自動化による効果や、他の業務への拡大の可能性が高い
- 元データのエクセルのフォーマットが業者によって異なるが、そのような場合でもRPAが対応可能か検証したい



1. 業者が作成したエクセルデータを受信し、行政管理で調整
2. １のデータを基に、兼票に変換（データのコピー＆ペースト）
3. 兼票を出力し各所属へ送付して決裁開始



1. 担当者は業者が作成したデータを受信、行政管理で調整
2. ロボットは１のデータを基に、兼票に変換
3. 兼票を出力し各所属へ送付
4. 担当者は決済作業を開始

実施効果

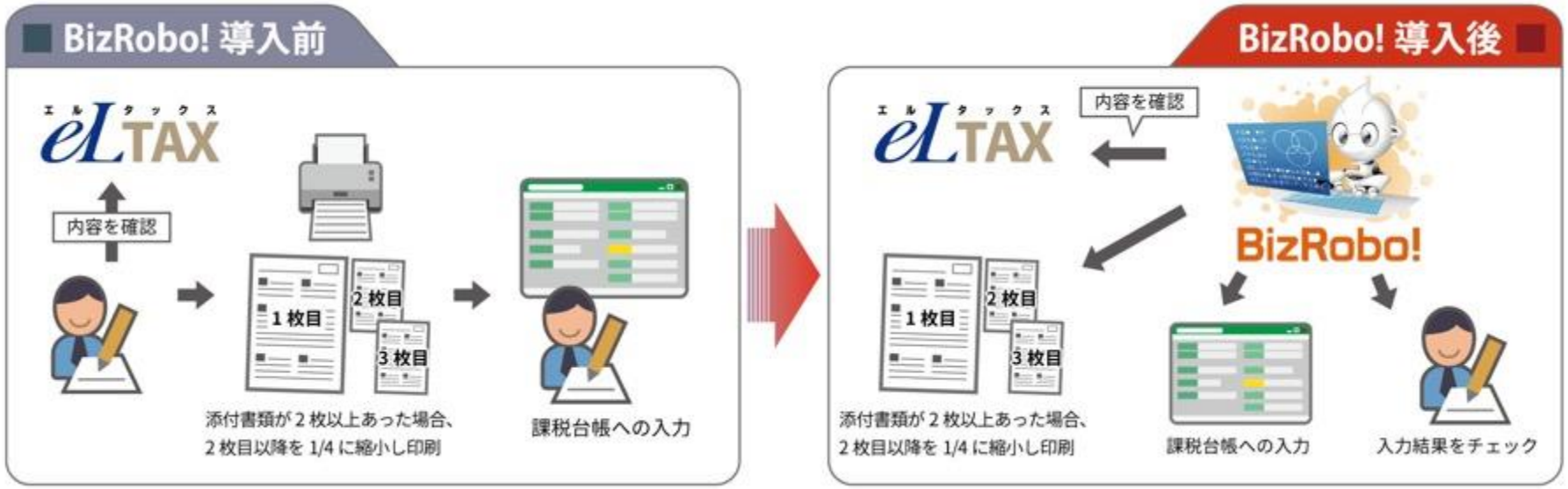
- 従来は担当者の作業時間は144時間だったが、
  ロボット導入後は担当者の作業時間は6時間、ロボット稼働時間が1.8時間となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

法人市民税申告書の印刷及び課税台帳化

選定理由

- 納期が確実に決定している業務のため、業務量が多い場合は頻繁に残業が発生していた
- 確実にミスなく入力する必要があり、人力での入力の場合ダブルチェックが必要となり、時間と手間がかかる



1. 担当者はeLTAXで提出された法人市民税申告書の内容を確認
2. 添付書類が2枚以上あるかどうか確認
3. 2枚以上あった場合、2枚目以降を1/4に縮小し印刷
4. 課税台帳へ入力

1. ロボットはeLTAXで提出された法人市民税申告書の内容を確認
2. 添付書類が2枚以上あった場合、2枚目以降を1/4に縮小し印刷
3. ロボットはデータを課税台帳へ入力
4. 担当者はロボットの入力結果をチェック

実施効果

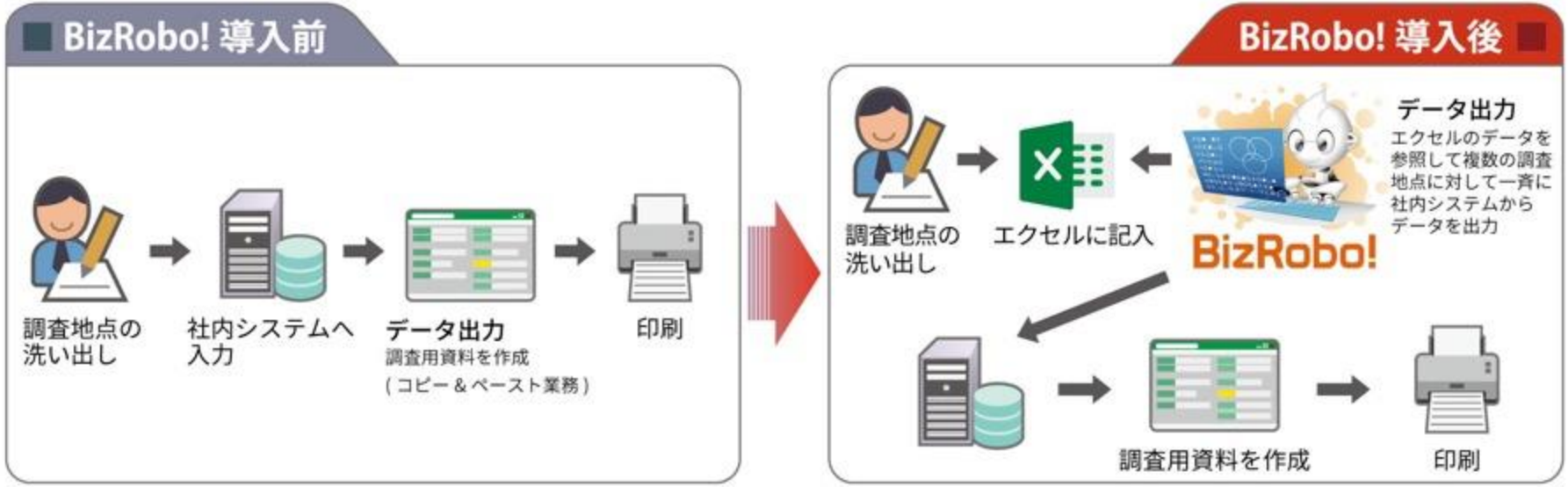
- 毎年22時間かかっていた作業をほとんどすべてロボットに任せることが可能となった
- 担当者はチェックするだけとなり、チェックする人員も2人から1人に

© OPEN, Inc. All rights reserved.

現況調査資料を作成する業務（固定資産税・都市計画税）

選定理由

- 書類のフォーマットが統一されており、ロボットに任せやすいと判断
- 将来的に税率が変わってもロボットのパラメ-タを変更するだけで対応可能なため、システム化よりRPAに任せる方が適切と判断



1. 担当者は調査地点の洗い出しを行う
2. 調査地点を社内システムへ入力
3. 社内システムからデータを出力
   (住宅地図/航空写真図/地番家屋図/土地家屋台帳)
4. 上記の情報をもとに調査用資料を作成し、印刷

1. 担当者は調査地点を洗い出し、まとめてエクセルに記入
2. ロボットはエクセルのデータを参照し、
   複数の調査地点に対して一斉に社内システムからデータを出力
   (住宅地図/航空写真図/地番家屋図/土地家屋台帳)
3. 上記の情報をもとに調査用資料を作成、印刷

実施効果

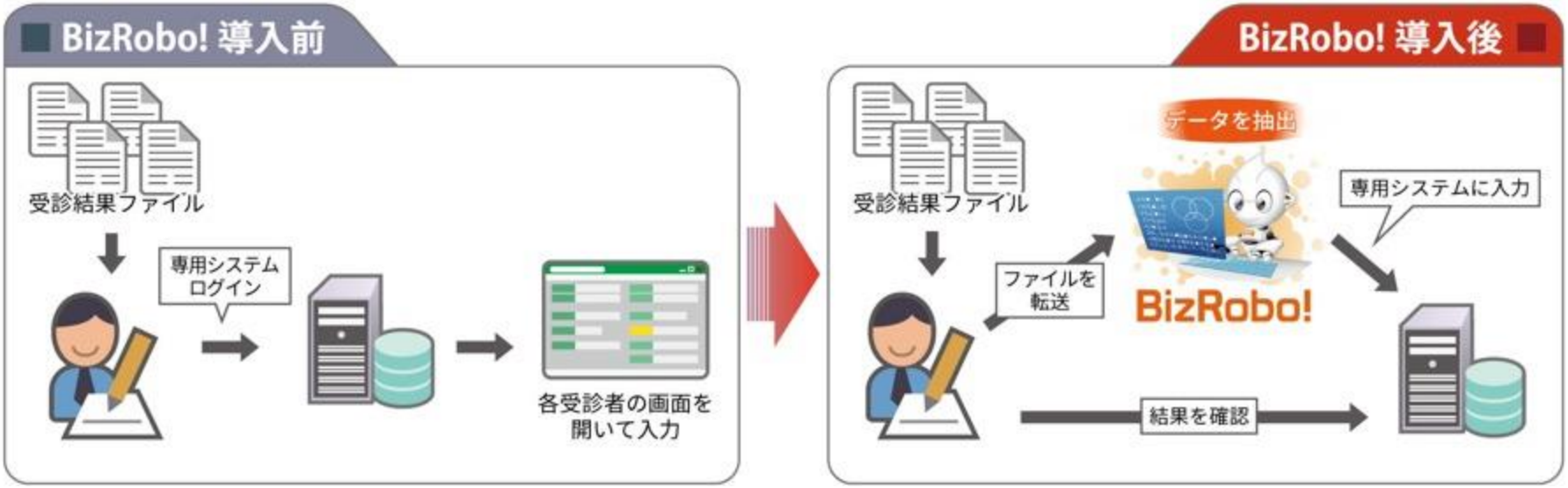
- 毎年2,160時間かかっていた担当者の業務時間を、半分の1,080時間に削減
- 印刷したい場所の地番をあらかじめまとめて、エクセルで作成しておくことで、
  ロボットが一斉に資料を作成できるような業務フローに変更できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

健康診断に関連する業務

選定理由

- 年間200時間以上もの時間を要する、ボリュームの大きい業務だった
- 年々健康診断の申込数が増えており、メインの業務に集中することが出来なくなっていた



1. 各医療機関(40以上)が健康診断の受診結果ファイルを送付
2. 担当者は専用システムにログイン
3. 各受診者の画面を開く
4. 診断結果を入力する

1. 各医療機関(40以上)が健康診断の受診結果がファイルを送付
2. 担当者はファイルをロボット専用のデータベースに転送
3. ロボットは各医療機関の名前を判別し、
   その医療機関専用のフォーマットに適した形でデータを抽出
4. ロボットは診断結果を専用システムに転記・入力

実施効果

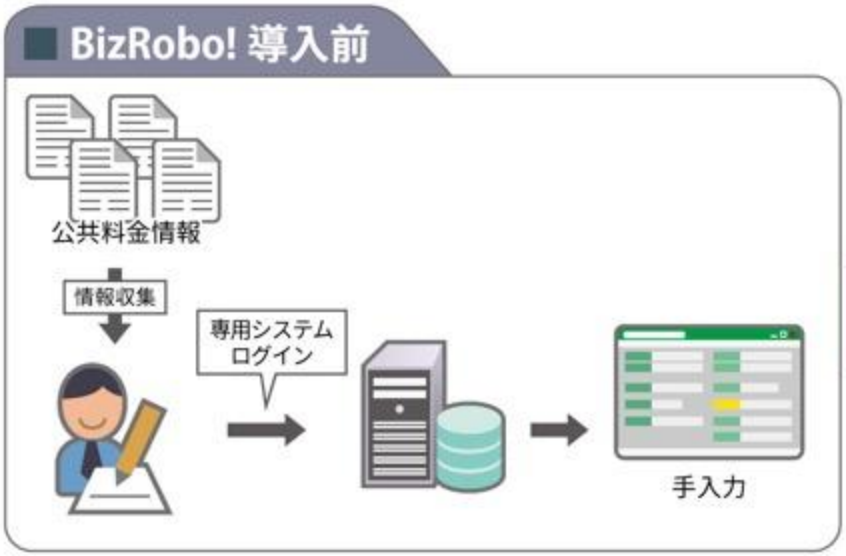
- 年間200時間以上を要していた業務時間を50時間まで短縮
- 職員がメインの業務に集中できるようになった
- 各医療機関ごとにファイルのフォーマットが異なり、それぞれに対応するロボットが必要であったが、
  主要な機関からロボットの適用をスタートし、段階的に適用範囲を広げていくことができた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

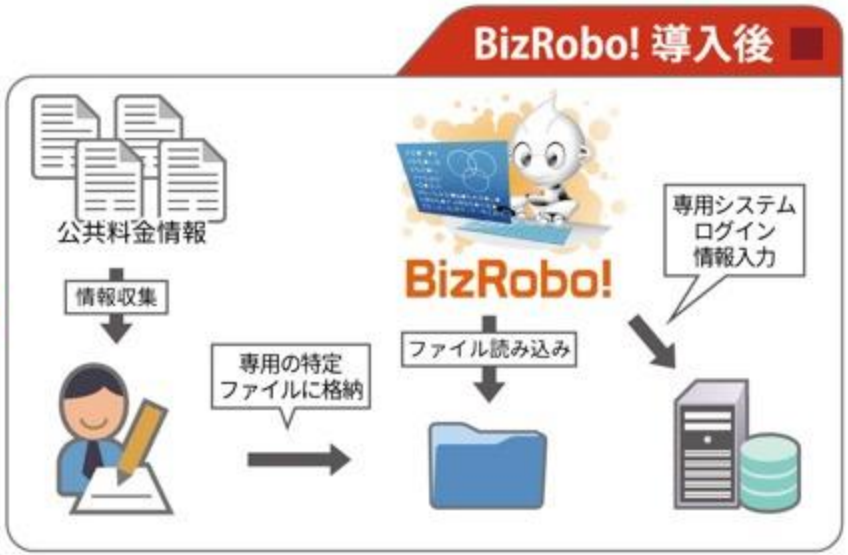
公共料金の支払い事務

選定理由

- 公共料金には「早収料金制度」があり、期限内に支払いができないと料金が高くなってしまうため すばやく伝票を作成しなければならないが、人力では多くの時間がかかっていた
- 上記の点が担当職員にとって精神的なストレスとなっており、解消したいとの要望が大きかった



1. 担当者は市内の全ての部署から公共料金情報を収集
2. 財務会計システムにログイン
3. システム上に情報を手入力



1. 担当者は市内の全ての部署から公共料金情報を収集
2. 引き落とし情報のファイルをロボット専用のファイルに格納
3. ロボットはファイルを読み込み、財務会計システムにログイン
4. 財務会計システムに情報を入力

実施効果

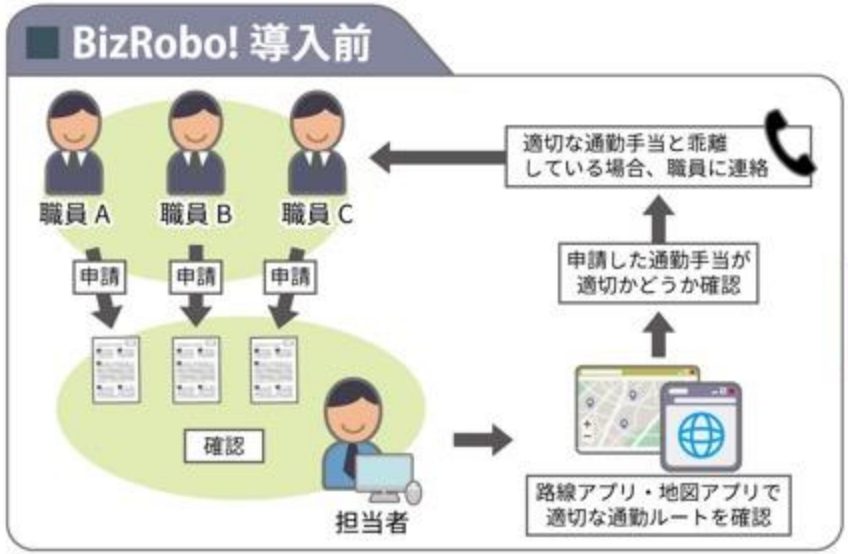
- 業務時間は年間100時間から50時間に変化し、50時間の余剰時間を創出
- 「期日を気にする必要がなくなった」と、現場担当者からは定性的な評価を得た
- 担当者の作業はエラーの確認のみとなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

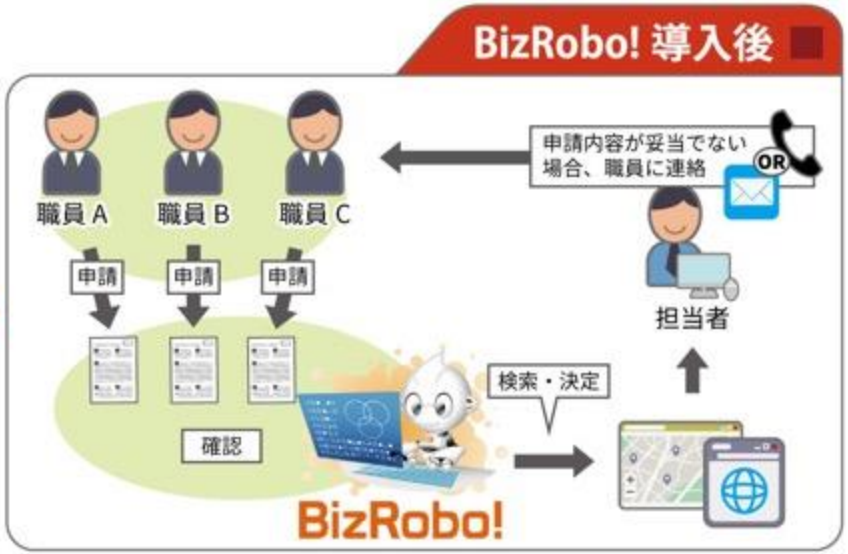
職員が申請した通勤手当の認定業務

選定理由

- 職員が申請した通勤手当の金額が妥当かどうか、路線情報サイトを検索して確認する業務
- 一件あたり20分時間がかかっており、かつ2000件ほどの量があるため、業務量が膨大だった



1. 各職員は住所・最寄り駅・通勤手当の金額を申請
2. 担当者は職員住所と職場勘の距離を確認
3. 最寄り駅を検索し、適切な通勤手当を決定
4. 申請内容が適切な通勤手当と乖離している場合、職員に連絡



1. 各職員は住所・最寄り駅・通勤手当の金額を申請
2. ロボットは職員住所と職場勘の距離を確認
3. 最寄り駅を検索し、適切な通勤手当を決定
4. 申請された通勤手当が妥当かどうか判断
5. 担当者は申請内容が妥当でない場合、職員に連絡

実施効果

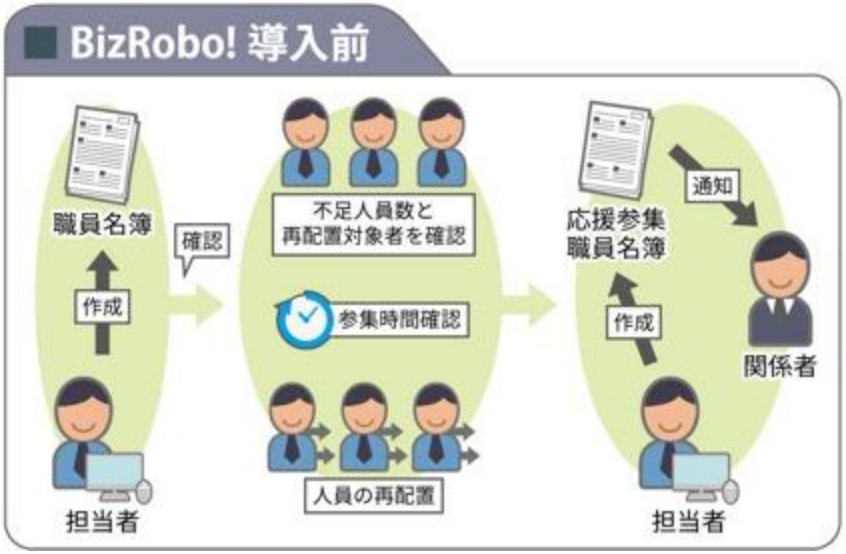
- 1件あたりにかかる時間が20分から7分に短縮
- 職員は一部だけを確認すればよく、業務負荷が大きく軽減
- サーバー実行できるため、この業務と並行して別の業務を行えたり、
  夜間や休日にロボットを稼働することで、担当者の業務時間を圧迫することなく導入できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

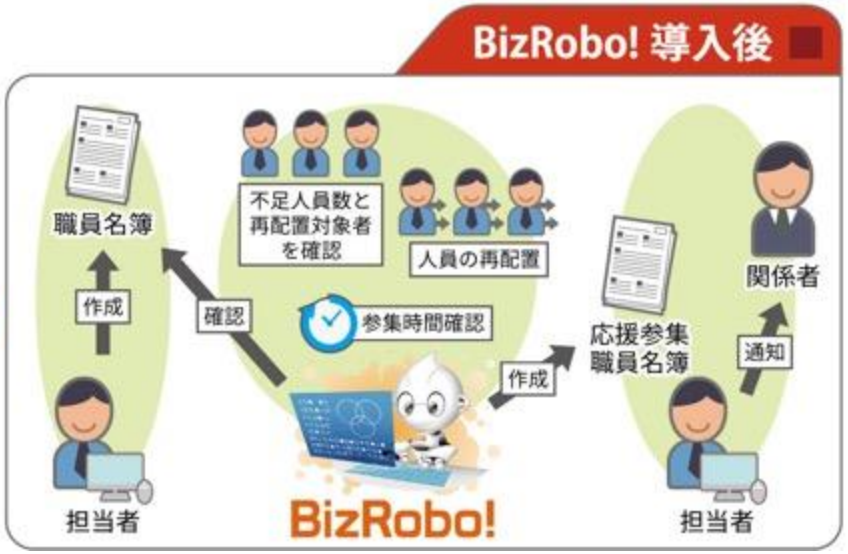
災害時の職員の配備計画作成業務

選定理由

- 1300人以上の職員について、大量の確認事項があり、処理に30日もの時間をかけていた
- 「不測人員数の確認」「自覚からの参集時間確認」「参集職員名簿の作成」など、大量の人員に対する業務が多くあり、業務量が尋常ではなかった



1. 担当者は職員名簿を作成
2. 不足人と再配備対象者を確認
3. 職員自宅からの参集時間を確認し、人員を再配備
4. 応援参集職員名簿を作成
5. 名簿を関係者に通知



1. 担当者は職員名簿を作成
2. ロボットは、不足人員数と再配備対象者を確認
3. 職員自宅からの参集時間を確認し、人員を再配備
4. 応援参集職員名簿を作成
5. 担当者は名簿を関係者に通知

実施効果

- 30日かかっていた処理時間を5日に短縮
- 確認漏れ、転記漏れなどが一切なく、確実に処理を行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

学童クラブの入会申請受付登録の業務（オンライン申請）

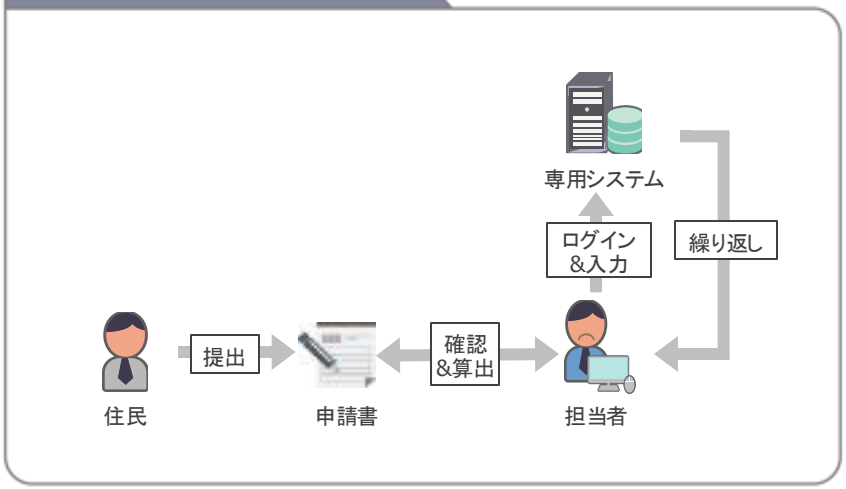
官公庁・自治体

子ども部門

選定理由

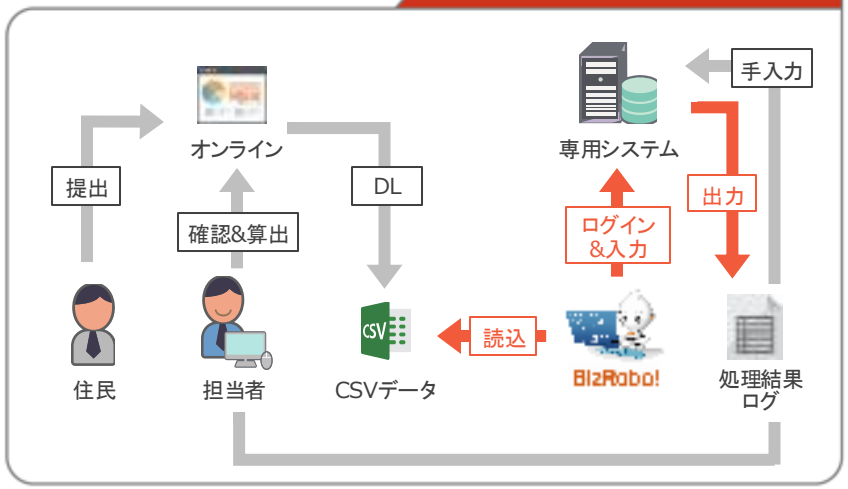
- 毎年、次年度入会の集中受付期間に多数の申込みがあるため、その期間は会計年度任用職員に入力業務を依頼しているが、受付件数が多いため入力ミスや計算ミスが散見されていた。
- 受付業務自体も職員の負担になっていたため、受付業務のオンライン化に付随して入力業務も自動化したいと考えたため。

BizRobo! 導入前



1. 住民は申請書を紙で提出
2. 担当者は紙の記入内容を確認後、指数を算出
3. 専用システムにログイン
4. 専用システム上に情報を手入力

BizRobo! 導入後



1. 住民は申請書をオンラインで提出
2. 担当者は申請内容を確認後、指数を算出し、CSVをダウンロード
3. ロボットがCSVを読込、専用システムにログイン後、情報を入力
4. ロボットが指数計算ミスや記入不備、処理結果等を常時ログ出力
5. 担当者はロボットで入力できない部分等を手入力で修正

実施効果

- 処理結果のログにより指数の計算ミスに気づけた。
- ロボットで入力した分の入力業務が削減された。
- 申請内容の不備やイレギュラーな申請などについて、手入力の際は付箋をつけてメモしていたが、今回はログが出力されたため件数や内容を確認しやすかった。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

学童クラブの入室申請受付登録の業務（紙申請＝AI-OCR利用）

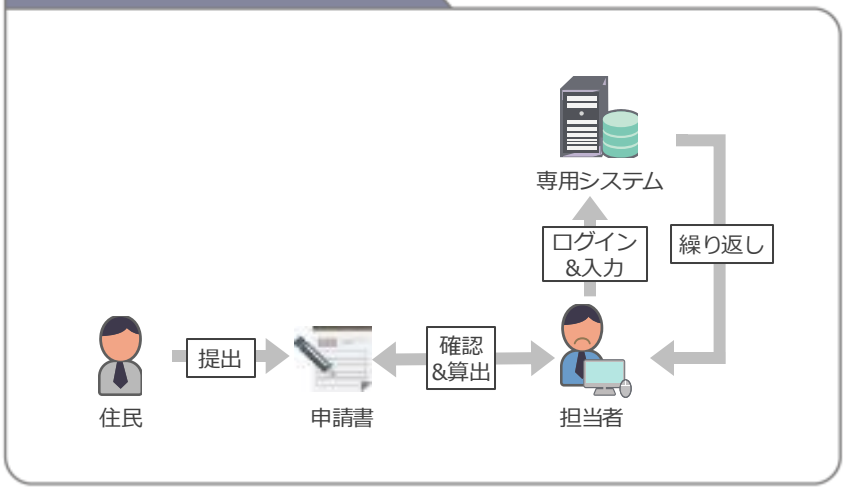
官公庁・自治体

子ども家庭部子育て支援課

選定理由

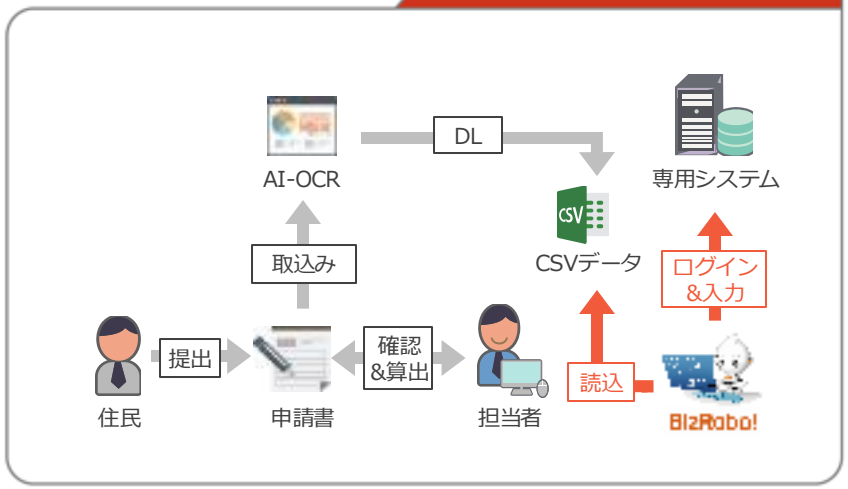
- 学童クラブは入所希望者に毎年申請をしていただいており、受付期間において職員の業務負担が大きく、特に入力作業に係る時間が多くなっていた。
- 業務にあたって自動化できる部分については自動化し、業務負担の軽減と効率化を図る目的から選定を行った。

BizRobo! 導入前



1. 住民は申請書を紙で提出
2. 担当者は紙の記入内容を確認後、指数を算出
3. 専用システムにログイン
4. 専用システム上に情報を手入力

BizRobo! 導入後



1. 住民は申請書を紙で提出
2. 担当者は記入内容を確認の後、指数を算出し、AI-OCRに取り込む
3. 担当者はAI-OCR取込データを確認後、結果CSVをダウンロード
4. ロボットがCSVを読込、専用システムにログイン後、情報を入力
5. ロボットが指数計算ミスや記入不備、処理結果等を常時ログ出力

実施効果

- 申請1件あたり、手入力では平均5分かかっていた登録作業が、ロボットを使用することにより、1件あたり平均1分15秒まで短縮できた。
- 申請者の入力（又は記載）不備がある場合、ログ出力により登録状況がすぐに判明した。
- 担当職員の業務時間が大幅に削減され、従来登録作業に割かれていた時間を他業務へと充てることができた。

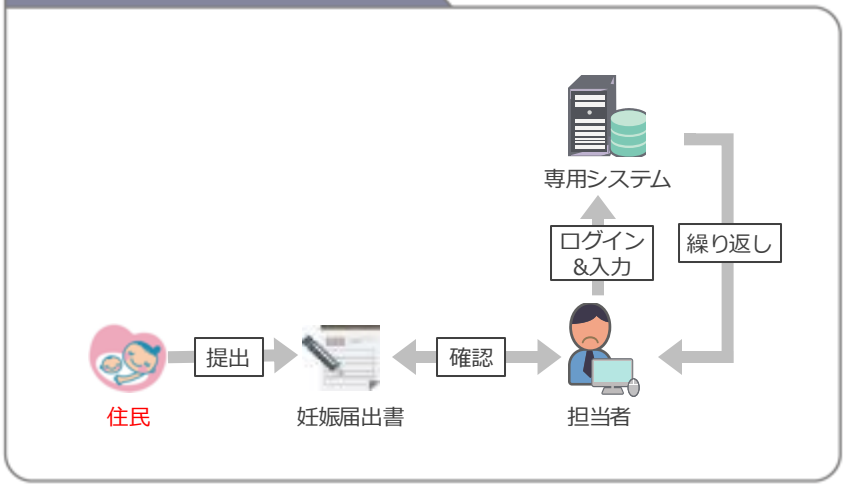
© OPEN, Inc. All rights reserved.

妊娠届出書受付業務

選定理由

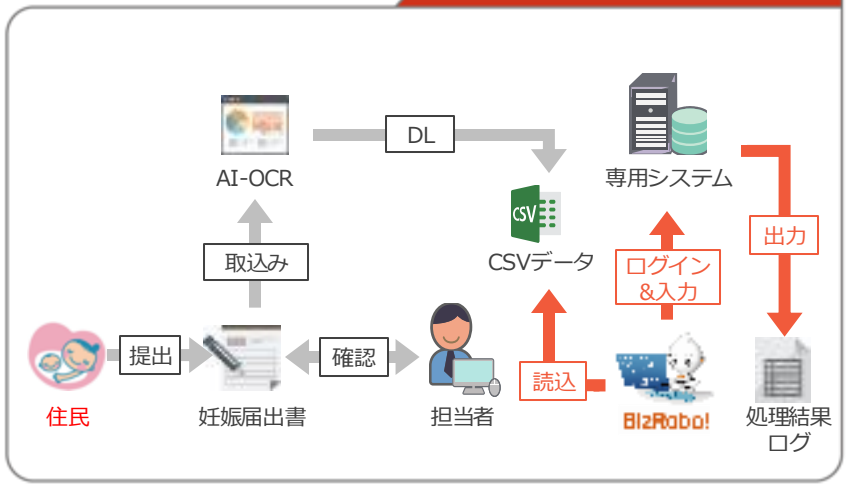
- ほとんどシステムへの転記のみという簡単な業務でもあり、自動化しやすいのでは、また自動化したいとの要望が大きかった。
- 件数が少ないために後回しになりがちな業務であったが、
  リアルタイムにシステムを入力することにより、早く後続作業へと連携できると考えていた。

BizRobo! 導入前



1. 妊婦の方は妊娠届出書を紙で提出
2. 担当者は紙の記入内容を確認
3. 担当者は専用システムにログイン
4. 担当者は専用システム上に情報を手入力

BizRobo! 導入後



1. 妊婦の方は妊娠届出書を紙で提出
2. 担当者は紙の記入内容を確認し、AI-OCRに取り込む
3. 担当者はAI-OCR取込データを確認後、結果CSVをダウンロード
4. ロボットがCSVを読込、専用システムにログインし、情報を入力
5. ロボットが記入不備や処理結果等を常時ログ出力

実施効果

- 妊娠届の登録作業をロボット化することにより、届出から入力までのリードタイムを短縮できた。
- 将来の妊娠届の電子申請化など、
  出生に関わる行政のワンストップサービスの枠組みを構築するための最初のステップを構築できた。
- 出生には、多様な届出が必要で、また複数部署が連携して行政サービスを提供しているため、
  作業のロボット化により、妊婦や新生児支援により多くの時間を充当できることが今後期待できる。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

保育所入所申込み及び保育の認定申請に関し、専用システムに入力をする

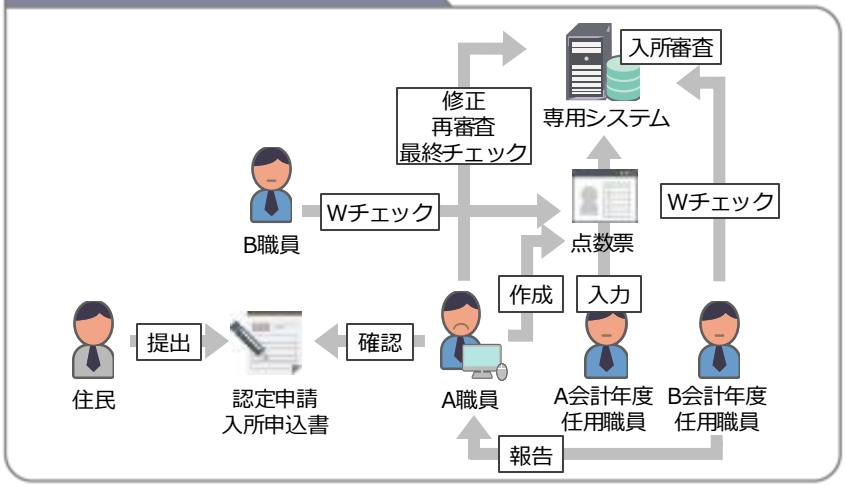
官公庁・自治体

子ども部門

選定理由

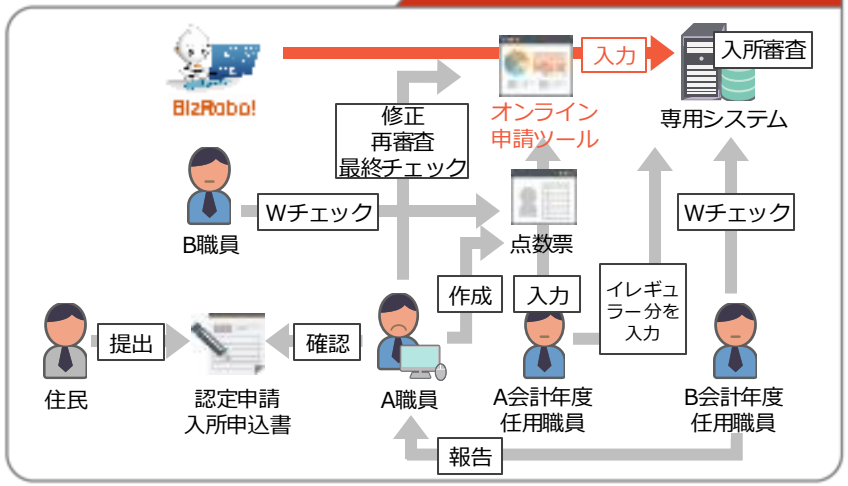
- 新年度4月入所の申込みは多量なため、2～3週間の限定で集中受付を開催している。その申込量は通常のひと月の10倍以上。
- 入力専用で会計年度任用職員5名を雇用しているが、専用システムの操作の研修や練習が必要でミスが多く、時間もかかる。
- ミスが多いことから、職員のチェックの労力とチェック後の修正も残業で対応している。

BizRobo! 導入前



1. 住民から認定申請と入所申込書を受理
2. A職員が書類確認＆保育要件の点数表を作成、B職員がWチェック
3. A会計年度任用職員がその点数表を見ながら専用システムに情報を直接入力
4. B会計年度任用職員がWチェック、間違いをA職員に報告し、修正（多量に発生）
5. システムで入所審査し、
   対応できない審査の判定をA職員が再審査、最終チェック

BizRobo! 導入後



1. 住民から認定申請と入所申込書を受理
2. A職員が書類確認＆保育要件の点数表を作成、B職員がWチェック
3. A会計年度任用職員が点数表を見ながら、一旦オンライン申請ツールに情報を入力
4. ロボットが③で入力した情報を専用システムに入力
5. ロボットが入力できないイレギュラー案件をA会計年度任用職員が手入力（少量）
6. B会計年度任用職員がWチェック、間違いをA職員に報告し、修正（少量）
7. システムで入所審査し、対応できない審査の判定をA職員が再審査、最終チェック

実施効果

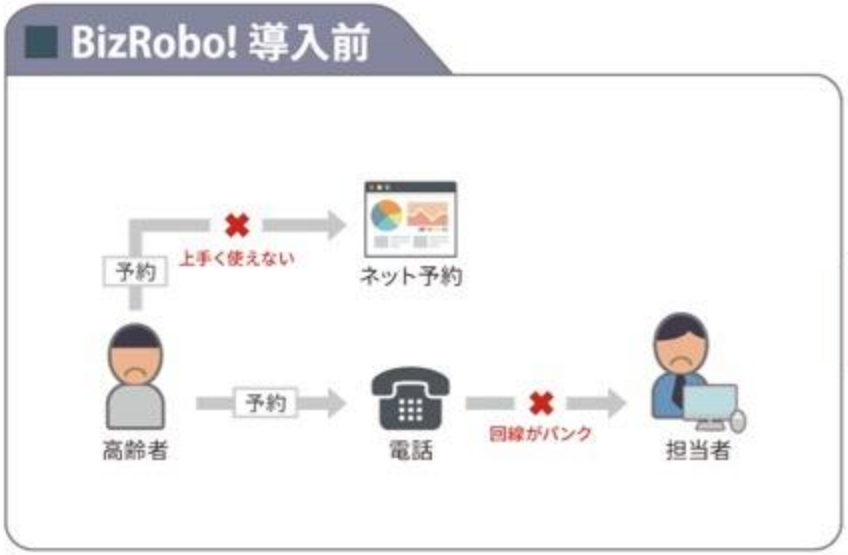
- 毎年5人で3週間ほどかかっていた作業時間が、1人をRPA対応に回しただけで2週間に短縮。
  全てをRPA対応にすることで、会計年度任用職員2～3名の削減が期待できる。
- 基本作業行程は増えているが、ミスが少なく時間の短縮が大幅に図れたため、
  Wチェックの時間・労力と、ミス修正の時間が大幅に削減された。
- 職員の審査業務負担軽減と、RPA入力用にオンライン申請ツールを職員用に作成活用したことが功を奏した。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

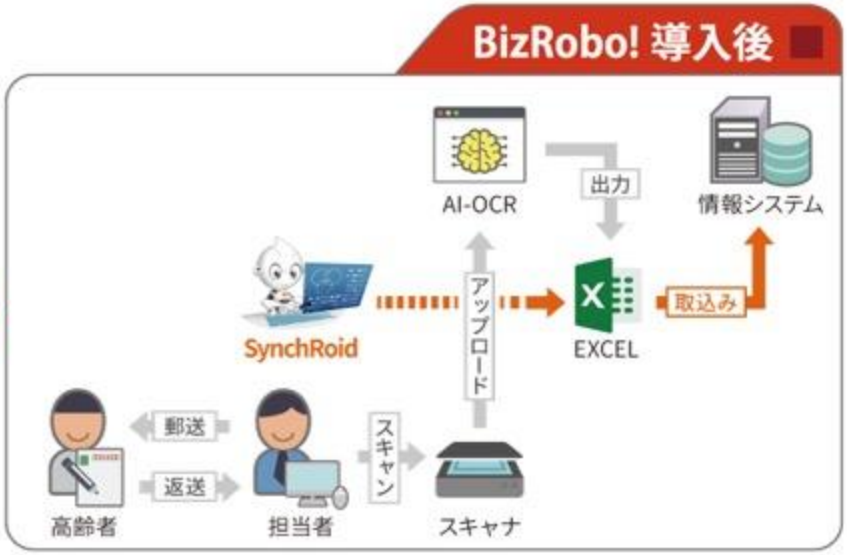
高齢者の新型コロナワクチン接種予約事務

選定理由

- 高齢者のコロナワクチン接種予約の受付は、電話で行うと回線がパンクし、ネットだと予約できない人が発生する課題を抱えていた
- ハガキで予約日を確定させるというアナログな手段を考えたが、
  バックヤードの事務処理として、短期間で大量の事務を行う必要があり、人員の増員だけでは対応が困難であった



1. 高齢者のコロナワクチン接種予約の受付電話で行うと
   回線がパンクし、
   ネットでは予約できない人が発生する課題を抱えていた



1. 仮接種日を郵送でお知らせ
2. その日で良い方は○を付けて市役所にハガキを返信する
3. 市は回収したハガキをAI-OCRでデータ化
4. 読み込んだデータをRPAで情報システムに取り込めるように加工

実施効果

- 全国的にワクチン接種予約の混乱が発生する中で、市民が簡単に予約でき、高い接種率につなげることができた
- 「なんでもデジタル」が良いのではなく、
  利用者の状況に応じて、アナログ×デジタルで、手段としてのデジタルをうまく活用することができた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

一

金融

© OPEN, Inc. All rights reserved.

スマホアプリの新規申し込みなどの受付データの業務システムへの登録作業

金融

カスタマーサポート

選定理由

- お客様に対するサービス提供のリードタイムを短縮し、勘定などにミスがないよう質を向上したい
- システム化する場合、データ連携機能の実装期間がほとんどなかったので、開発工数が少なく金融オペレーションにも多数実績のあるBizRobo!の方が適用効果が高いと判断した

1. 新規顧客がアプリ利用に必要な情報を入力（データベースに格納される)
2. 業務担当者がデータベースから情報を抽出・確認
3. DBから(勘定DBのフォーマットに合わせた)必要な情報だけを抜き出して伝票として作成
4. 伝票の情報を勘定系DBに登録

1. 新規顧客がアプリ利用に必要な情報を入力（データベースに格納される)
2. ロボットがデータベースから情報を抽出・確認
3. ひとつひとつの項目について、勘定DBに必要な情報かどうか判断
4. 伝票の情報を勘定系DBに登録

実施効果

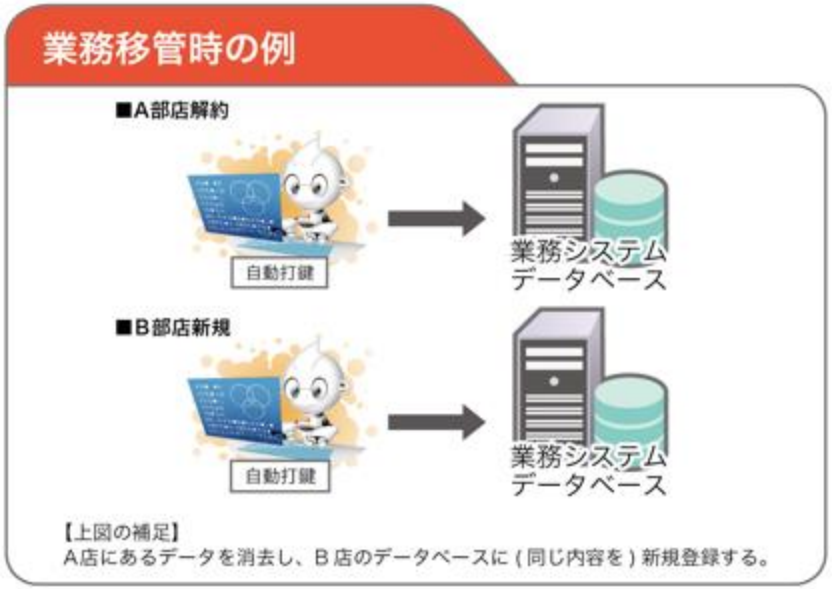
- 数百人単位の事務作業員を用意する必要があったが、これをロボットに代替できた
- ヒューマンエラーを無くすことができ、サービスの質が向上
- システム化の場合はサービス開始が半年～１年遅れる可能性があったが、BizRobo!によりスピーディにサービスを開始できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

システム導入時や業務移管時におけるデータ移行の業務

選定理由

- コストや納期の観点からシステム化が難かしい業務だった
- センターカットなどの一括登録機能がないシステムの場合は、データ移行のためのシステム開発に多くのコスト・期間がかかる
- コストかけずにかつミスのないデータ移行を実現する必要がある



新システムの導入時や、業務移管時にシステム移行が困難な場合、ロボットが自動打鍵することにより、整合性を確保したデータ移行を実現できる

実施効果

- システム化より移行作業が簡単
- システムに明るい要員が確保できなくても対応可能
- データ移行後の不整合がなくなった(データ整合の担保がしやすかった)

© OPEN, Inc. All rights reserved.

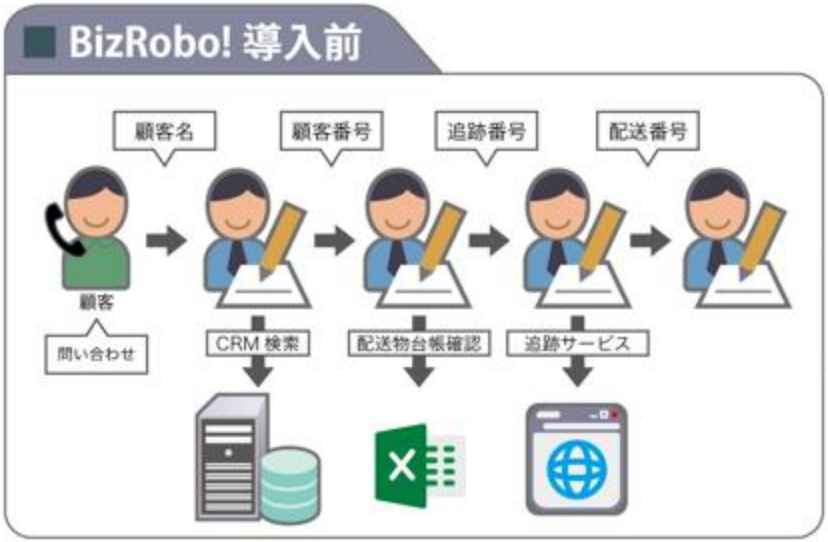
キャッシュカード送付や紛失対応などの配送状況問合せ対応業務

金融

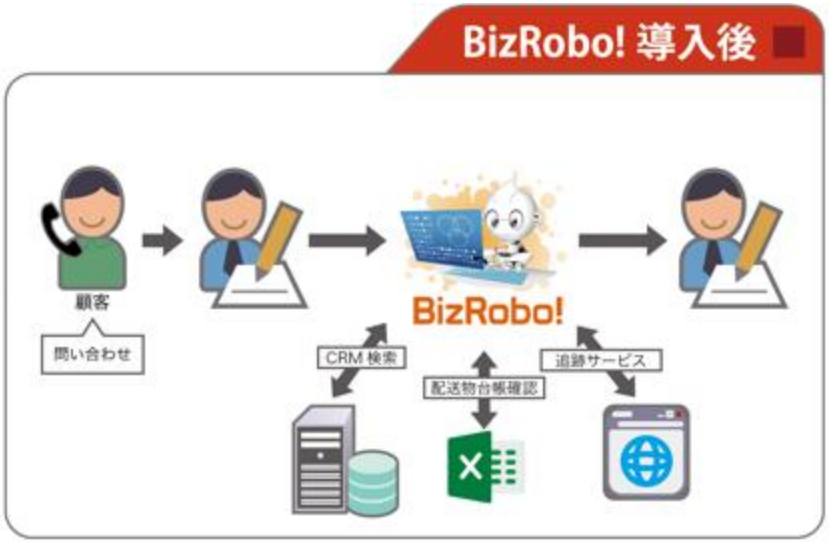
カスタマーサポート

選定理由

- １回あたりの処理対象件数は少ないが、発生頻度が多いため、担当者の業務時間をひっ迫していた
- 人手で行う作業が多いため、顧客からの問い合わせに対応する時間が長くなっていた
- 複数システムやWebブラウザを使う細かい業務のため、システム化するとコストや納期が増大するが、端末数にライセンスが紐づかないBizRobo!なら低コストかつ短期間で対応が可能



1. 顧客からの問い合わせを受ける
2. サポート担当者は各種情報システムを使用し、顧客番号・追跡番号・配送番号を確認する
3. 同時に電話対応を行う



1. 顧客からの問い合わせを受ける
2. ロボットは各種情報システムを使用し、顧客番号・追跡番号・配送番号を確認する
3. サポート担当者は電話対応を行う

実施効果

- ロボットがデータ検索や台帳確認をスピーディに行うため、顧客への応答時間を短縮することができた
- 同じ時間でもより多くの顧客に対応することが可能となり、お客様の満足度上昇につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

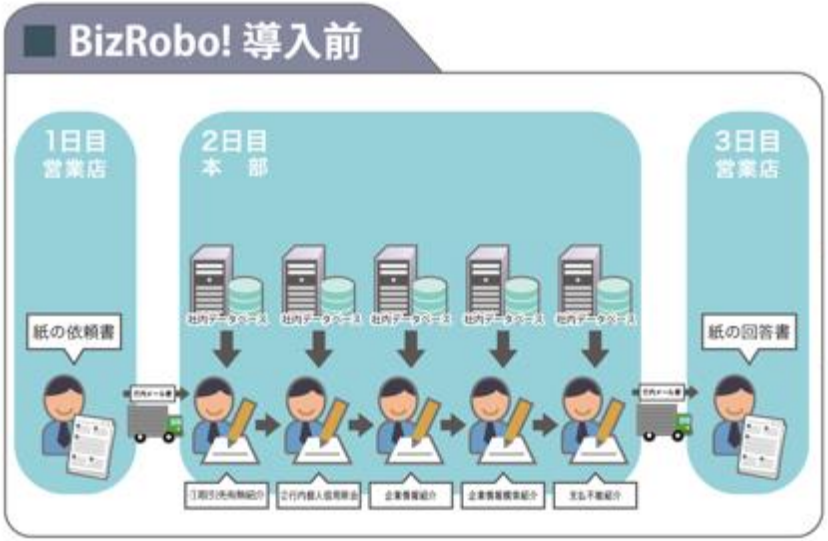
信用情報を受け取り、社内で精査し、回答書を営業店に渡す業務

金融

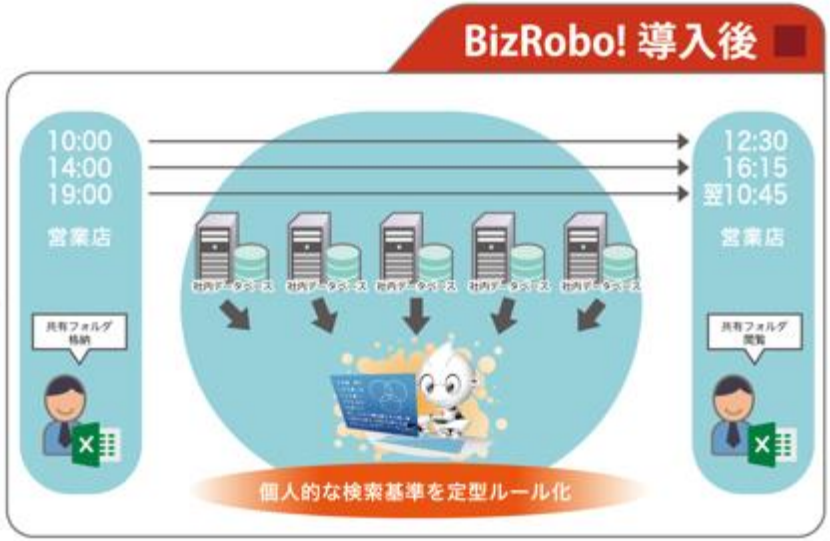
本部

選定理由

- 社内で資料を照会・精査するにあたり、業務量が多く回答まで３日の時間を費やしていた。
- 社内データベースに照会するにあたり、データベースの検索基準が属人化しており、基準や業務時間が不統一になっていた。



1. 営業店から依頼書が送付される
2. 担当者は取引先有無照会・行内個人信用照会・企業情報照会・企業情報検索・支払不能照会、を行う
3. 調査結果を営業担当者に送付



1. 営業店から依頼書が送付される
2. ロボットは取引先有無照会・行内個人信用照会・企業情報照会・企業情報検索・支払不能照会、を行う
3. 調査結果を営業担当者に送付

実施効果

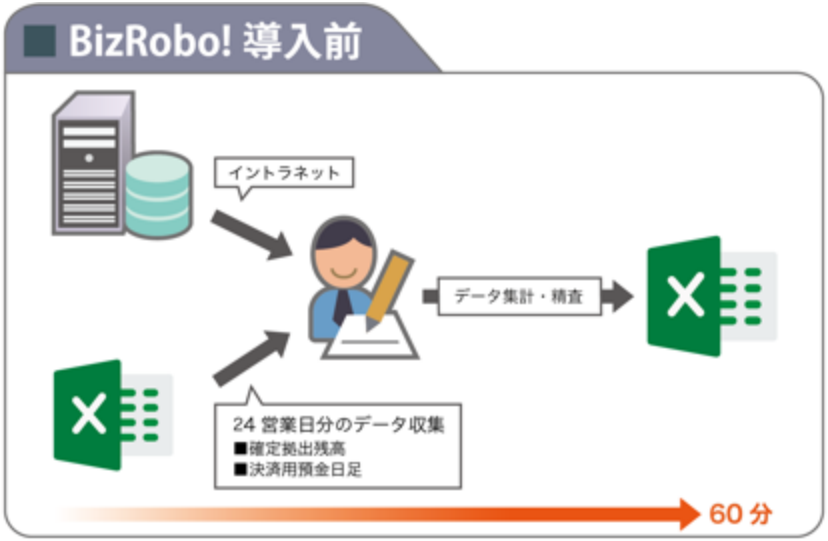
- 年間3600時間の余剰時間を創出
- BizRobo!を適用するにあたって、インプットを紙からエクセルに変えることによって、業務改革を行った
- 融資認定までのリードタイムを３日から１日に短縮
- 共有フォルダを閲覧すべき時間が確定しているため、営業担当者のスケジュール設定が容易となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

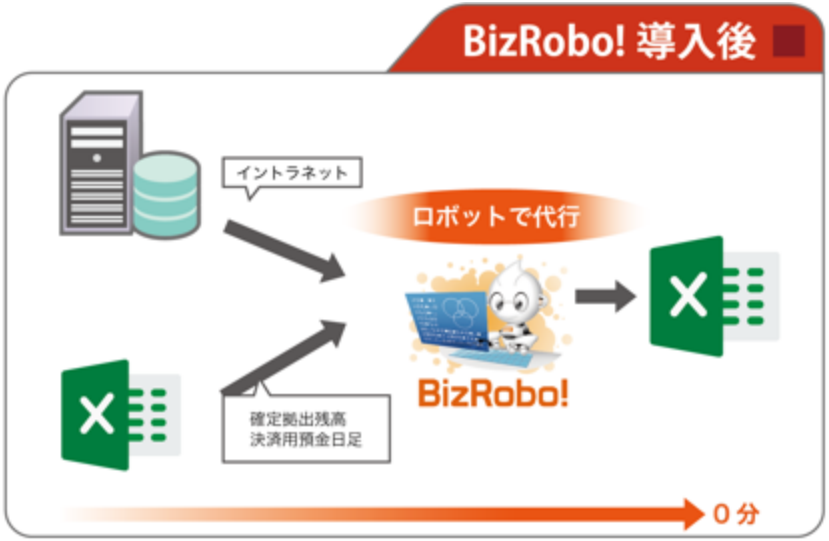
日本銀行に宛てる報告書を作成する業務

選定理由

- 24営業日分のデータをエクセルに張り付ける際、月初/月末営業日などの日付を調査する必要がある
- 報告書にミスは許されないため、正確さが非常に求められる
- 類似報告書の作成業務は日本銀行宛てが97、金融庁宛ては9あり、
  この業務のロボット化が成功すればこれらの業務にも簡単に横展開できる



1. 担当者はイントラネットと社内エクセルデータから、
   24営業日分の確定拠出残高や決済用預金日足などのデータを収集
2. データ集計と精査を行い、報告書を作成



1. ロボットはイントラネットと社内エクセルデータから、
   24営業日分の確定拠出残高や決済用預金日足などのデータを収集
2. データ集計と精査を行い、報告書を作成
3. 担当者は報告書を確認

実施効果

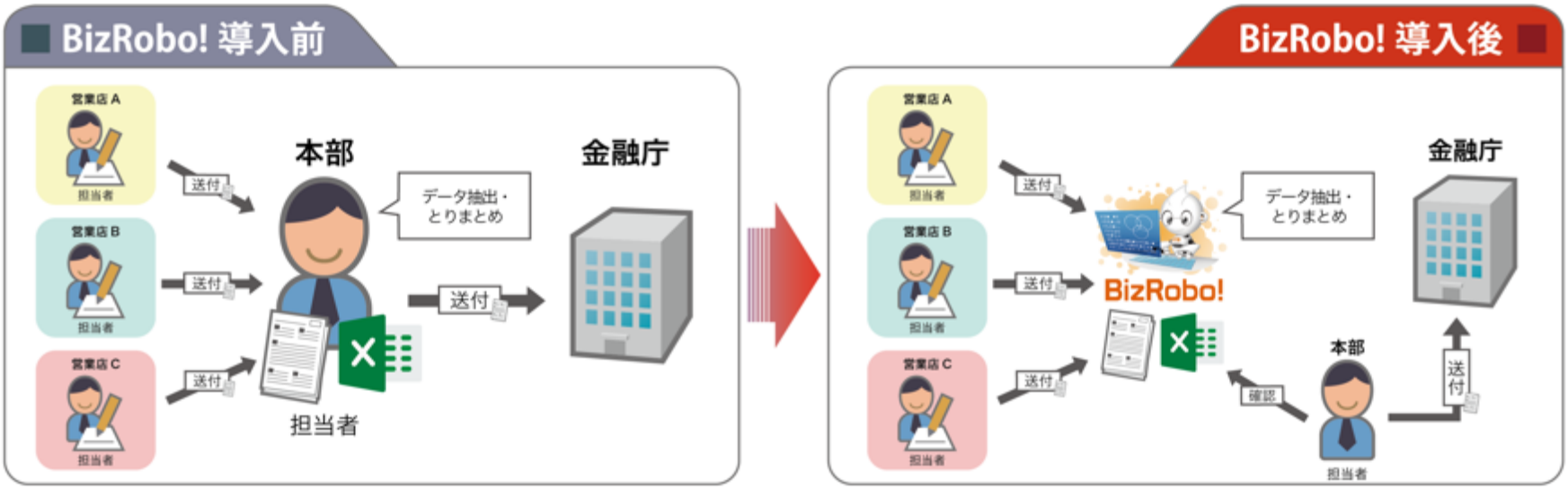
- ロボットの代行により、報告書の正確性を担保できるようになった
- 類似の業務に適用することにより、年間600時間以上の余剰時間を創出

© OPEN, Inc. All rights reserved.

全国の各営業支店からの情報を本部でまとめ、金融庁に報告書として提出する業務

選定理由

- 法改正や支店統廃合に伴う記入ルールの変更があり、システム化対応が難しく属人化した業務となっていた
- 80以上の支店数があり膨大な量の報告書を扱わなければならない



1. 営業店の担当者は本部に情報を送付
2. 本部の担当者は１つ１つの営業店データを個別に抽出
3. 全ての営業店データをとりまとめ、金融庁宛の報告書としてデータを加工
4. 本部の担当者は報告書を金融庁に送付

1. 営業店の担当者は本部に情報を送付
2. ロボットは１つ１つの営業店データを個別に抽出
3. 全てのデータをまとめ、金融庁宛の報告書としてデータを加工
4. 本部の担当者は報告書を確認
5. ロボットは報告書を金融庁に送付

実施効果

- 1,000時間分の業務をロボットが代行し、余剰時間を創出した
- 本部の担当者は提出遅れ、記載ミスがあった場合のスケジュール遅れによるストレスから解放

© OPEN, Inc. All rights reserved.

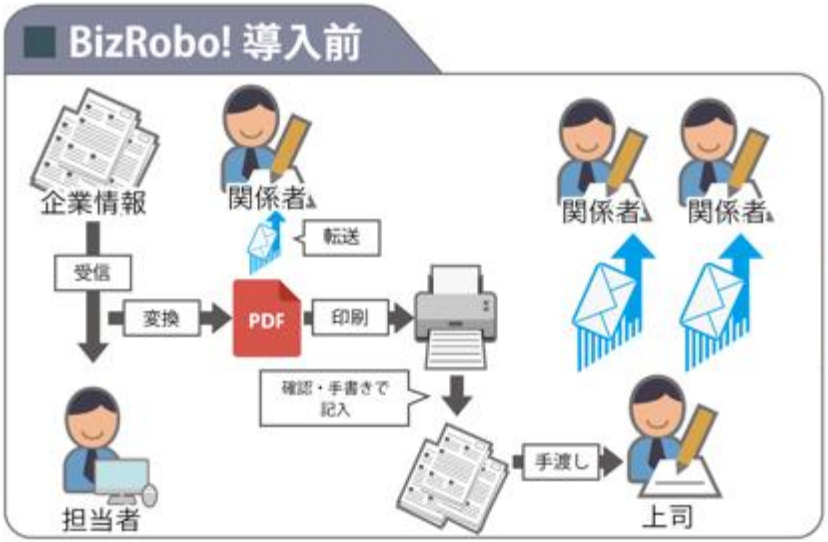
企業情報を受領し、自社と取引のある企業一覧資料を作成する業務

金融

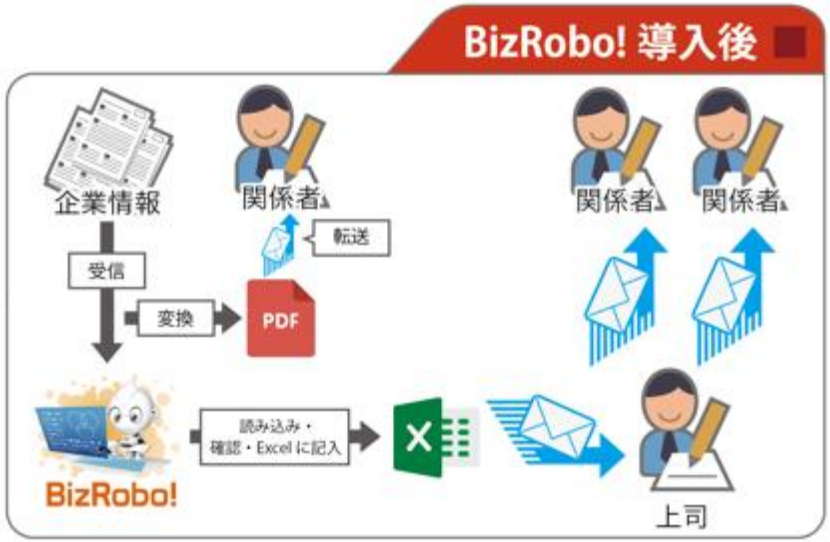
財務審査部

選定理由

- 対象とする企業数が多く、人手で行う場合一部の作業しか行えていなかった
- 上司の確認のために一度資料を印刷する必要があり、印刷コストが増加している



1. 担当者は企業情報を受け取り、PDFとして保存したうえで、関係者に転送
2. 企業情報PDFを印刷し、有効取引の有無を確認し、結果を手書きで記入
3. 有効取引がある場合、取引一覧データを印刷し、上司に渡す
4. 上司は印刷された資料を確認し、必要に応じて関係者にメール連絡



1. ロボットは企業情報を受け取り、PDFとして保存したうえで、関係者に転送
2. 企業情報を読み込み、有効取引の有無を確認し、結果をExcelに記入
3. 有効取引がある場合、取引一覧データをExcelに追記し、メールで送信
4. 上司はデータを確認し、必要に応じて関係者にメール連絡

実施効果

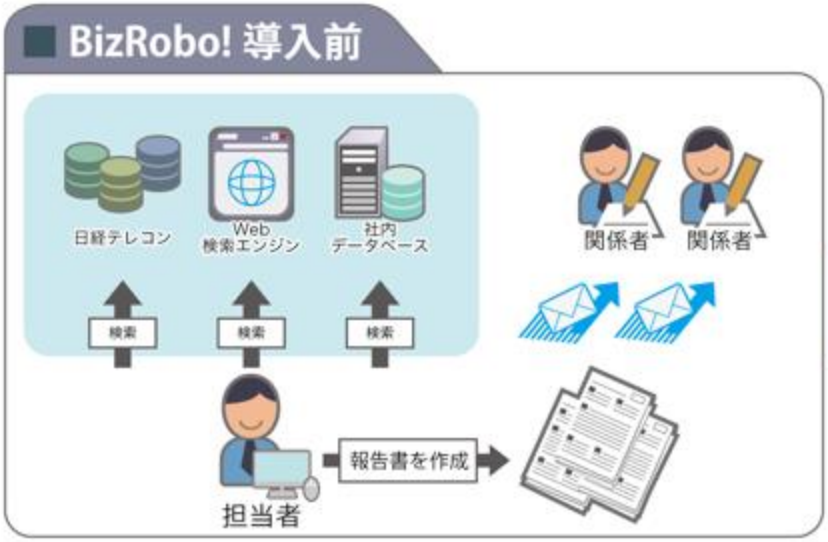
- 担当者が別の業務を行うことができる余剰時間を創出
- 企業情報の抜け漏れがなくなり、正確性と速さを両立

© OPEN, Inc. All rights reserved.

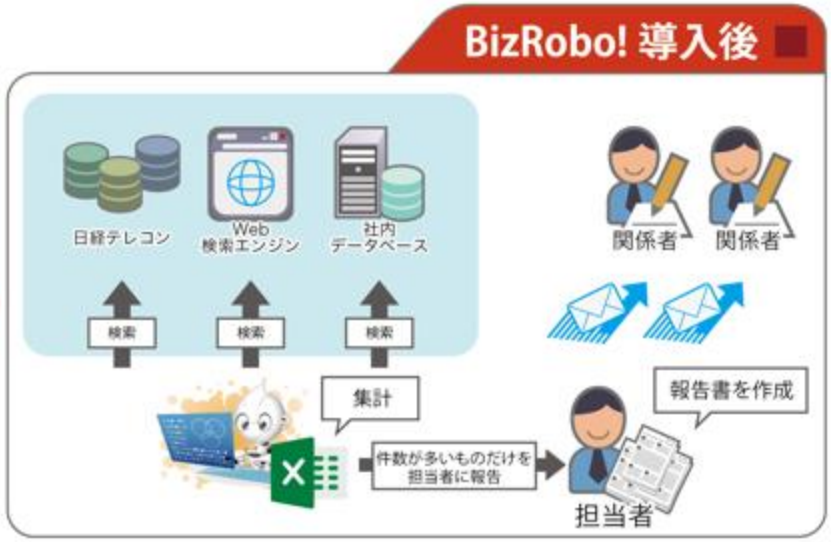
取引相手が反社会的勢力かどうかチェックする業務

選定理由

- 検索ワードが膨大にあり、人手では十分な量の調査が出来ていなかった
- 日経テレコン、Web検索エンジン、社内データベースと複数のアプリケーションで検索する必要があり、同じ作業の繰り返しとなっていた



1. 新規取引先候補について、反社かどうかの確認依頼がくる
2. 担当者は3種類のデータベース(日経テレコン、Web検索エンジン、社内データベース)それぞれについて、反社キーワードと組み合わせて検索
3. 複数の該当する検索結果がある場合、情報をまとめて報告書を作成
4. 作成した報告書を関係者に送付



1. 新規取引先候補について、反社かどうかの確認依頼がくる
2. ロボットは3種類のデータベース(日経テレコン、Web検索エンジン、社内データベース)それぞれについて、反社キーワードと組み合わせて検索
3. 各キーワードに対する件数を抽出し、まとめて集計
4. 件数が多いものだけを担当者に報告、担当者は関係者に送付

実施効果

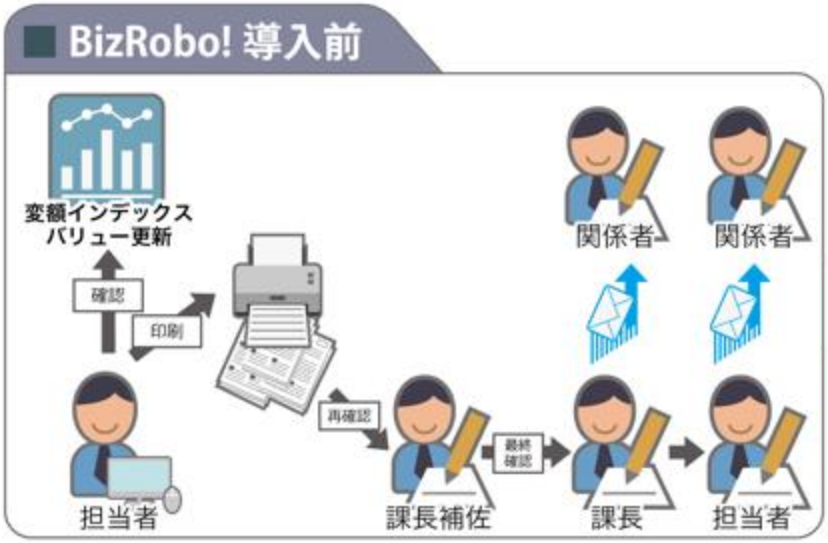
- 反社に該当する可能性のある取引先候補の場合のみ、担当者が業務を行うようになった
- 社外の有料データベースを閲覧する回数が少なくなり、経費の削減につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

変額インデックスバリューを確認する業務

選定理由

- 業務を20分以内に終わらせなければ自社サービスの停止につながる恐れがあるため、担当者に相当なプレッシャーがかかっている
- 値確認を目視で行うため、ミスを防ぐために多重チェックを行っており、これにも時間がかかっている



1. 毎朝、変額インデックスバリューが更新される
2. 担当者はインデックスバリューの更新内容を印刷し、値を確認
3. 課長補佐は印刷資料を確認し、値を再確認
4. 課長は印刷資料を確認し、値を最終確認
5. 担当者は最終確認後、
   関係者にインデックスバリューに関するメールを送付

1. 毎朝、変額インデックスバリューが更新される
2. ロボットはあらかじめ定まったルールによって値を確認
3. 関係者にインデックスバリューに関するメールを送付

実施効果

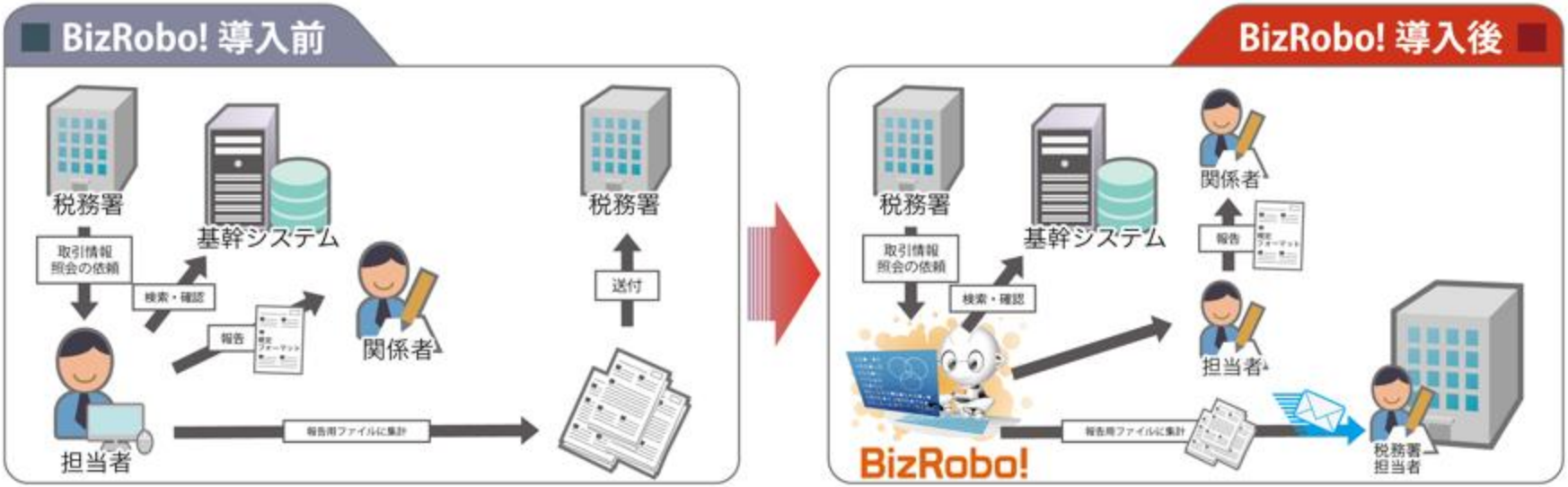
- 一連の作業を全てロボットが代行し、作業の高速化とヒューマンエラーの防止を実現
- ヒューマンエラー防止のため行っていた、上司による再確認・最終確認を廃止
- 資料の印刷が不要となったため、印刷コストを削減

© OPEN, Inc. All rights reserved.

税務署から依頼される、顧客取引を照会する業務

選定理由

- 導入前は 7,300 件の 照会依頼が未処理のまま残っていた
- 15人体制で取り組んでいるにもかかわらず、税務署からの依頼を迅速に対応できていなかった



1. 税務署から取引情報照会の依頼が来る
2. 基幹システムから該当する取引を検索
3. 必要な情報を抽出し、税務署からの情報と照会し、一致するかどうか確認
4. 不一致の場合は決められたフォーマットにて関係者に報告
5. 報告用ファイルに集計し、税務署担当者に送付

1. 税務署から取引情報照会の依頼が来る
2. ロボットは基幹システムから該当する取引を検索
3. ロボットは情報を抽出、税務署から来た情報と照会、一致するか確認
4. 担当者は不一致がある場合は内容を確認し、関係者に報告
5. ロボットは報告用ファイルに集計し、税務署担当者に送付

実施効果

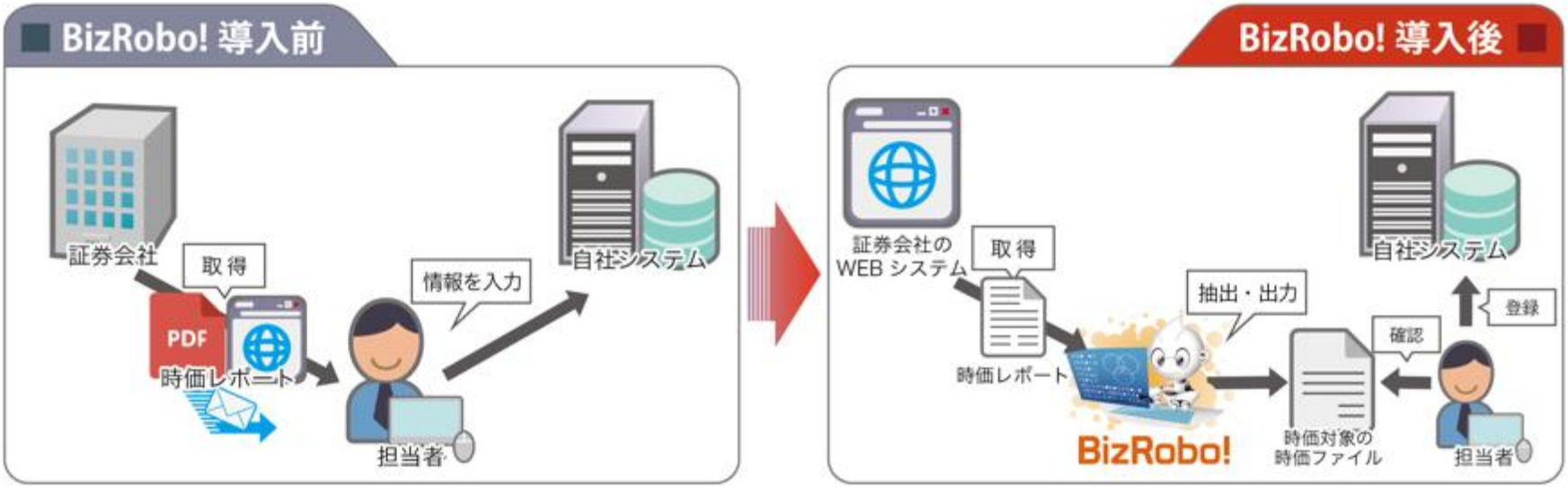
- 7000件以上残っていた未処理の照会依頼を2ヶ月で0件にすることができた
- 全社で年間3500時間以上の余剰時間を創出
- 担当者の数を15人から4人に削減し、人手が必要な他の部署に配置転換することができた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

有価証券の時価登録業務

選定理由

- 毎月20社程度の証券会社から様々な形式で時価レポートが送付され、登録対象は500銘柄以上あった
- 従来は担当者が目視でチェック、手入力していたため、業務負担が大きくミスも発生していた
- 当業務は毎月10日までに完了する必要があったが、証券会社からレポートが届くタイミングがバラバラだった



1. 担当者は証券会社から時価レポートを取得
   （WEB・PDF・電子メールの3種類）
2. 担当者は自社システムに銘柄ごとの情報を入力

1. ロボットは証券会社のWEBシステムにアクセス、
   時価レポートを取得
2. 時価レポートからデータを抽出、対象の時価ファイルを出力
3. 担当者は時価ファイルを自社システムに登録

実施効果

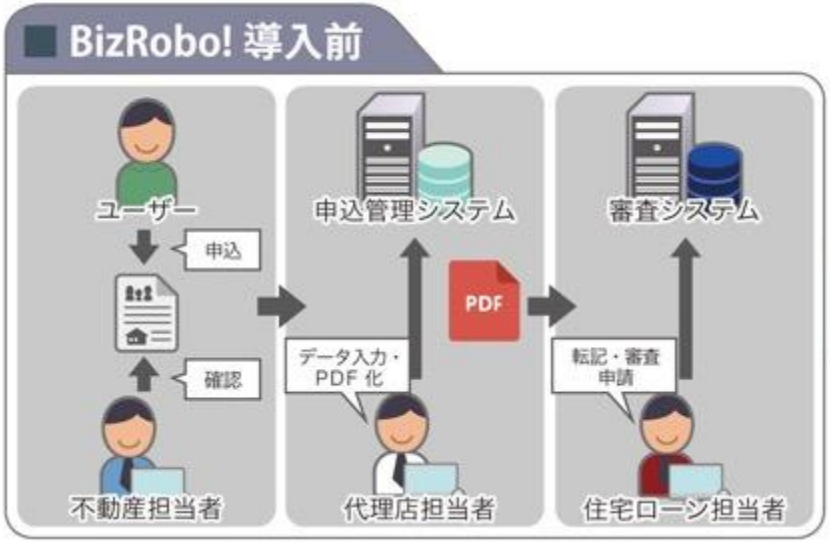
- 業務総量の約9割をロボットにより代行
- 導入以前は3名体制だったが、残1割を担当するにとどまり、他業務へ従事することが可能となった
- 証券会社のレポート形式が変更されてもロボットの修正により対応し、システムにかかる投資を抑制

© OPEN, Inc. All rights reserved.

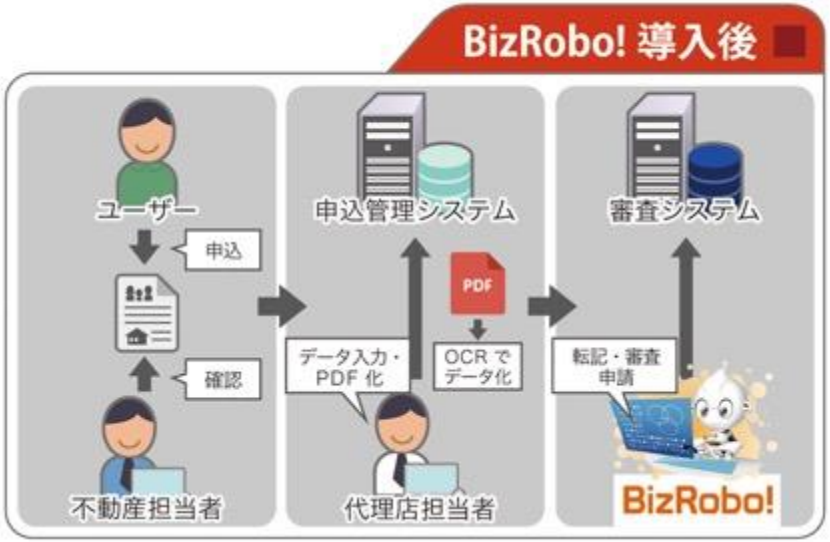
住宅ローン申込書の入力業務

選定理由

- 住宅ローンの審査に時間がかかっておりユーザーの満足度が低く、場合によってはクレームが発生していた
- 審査時間の短縮によってユーザー満足度を向上し、成約率を高めることを目的として業務を選定した
- 審査データ確認/入力作業の負荷が非常に大きかった（1回の申込あたり200項目）
- 住宅ローンの申し込み書は紙媒体で受け付けるため、生産性の向上が困難であった



1. ユーザーはローン申込（各フェーズで不備が確認された場合差し戻し）
2. 不動産担当者は内容を確認
3. 代理店担当者は申込管理システムにデータ入力、書類をPDF化
4. 住宅ローン担当者は申込データを確認
5. 審査システムに各データを転記、審査申請を行う



1. ユーザーはローン申込（各フェーズで不備が確認された場合差し戻し）
2. 不動産担当者は内容を確認
3. 代理店担当者は申込管理システムにデータ入力、書類をPDF化
4. 代理店がPDF化したデータをOCRでデータ化
5. ロボットはデータを審査システムに転記、審査申請を行う

実施効果

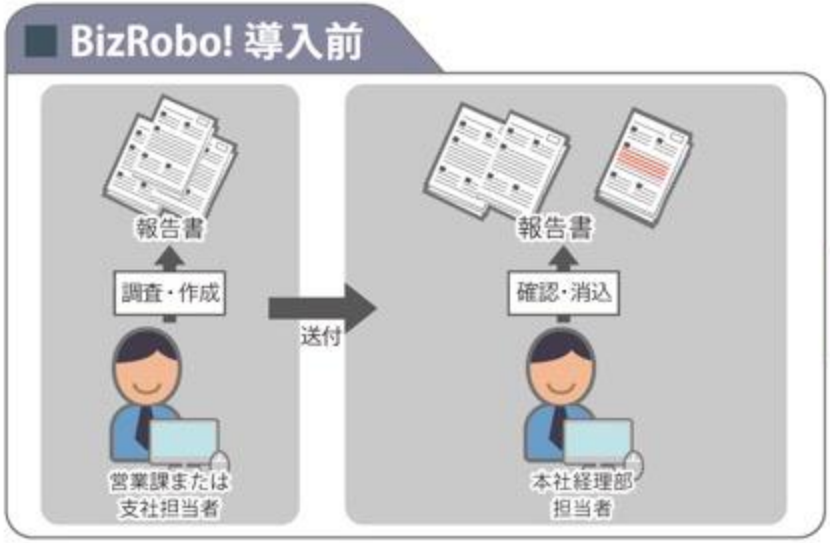
- BizRobo! Document を用いて、紙書類のデータ化と審査手続きを自動化
- 既存の業務フローにこだわらない柔軟な発想により、全体で大幅な工数削減を実現
- 審査時間を大幅に短縮し、顧客満足度の及び成約率向上につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

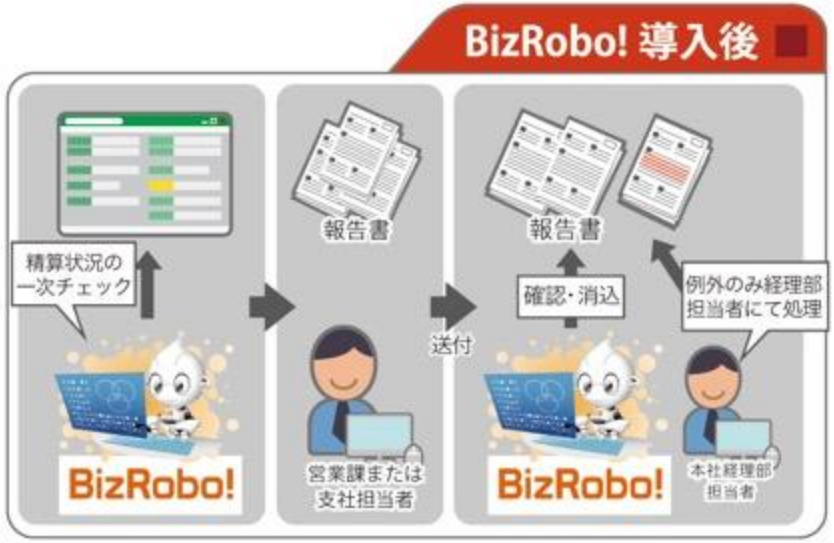
保険料の清算報告書を精査し、所定の金額を清算する業務

選定理由

- 全国の営業課、支社から毎月大量の報告書が送付されるため経理部の負担が大きかった
- 報告書に誤りが見つかった場合の営業課、支社への照会を行うケースのやり取り工数が増大していた



1. 営業課または支社は清算状況を調査し、
   報告書を本社経理部へ送付
2. 経理部の担当者は報告書を確認
3. 所定の金額を消込



1. ロボットは清算状況の一次チェックを実施
2. 営業課又は支社はロボットが対応できない請求対象を調査、
   報告書を本社経理部に送付
3. 報告書を確認、確認できない例外は経理部担当者が処理
4. 所定の金額を消込

実施効果

- ごく一部の例外以外は全てロボットが代行し、4万時間分の余力を創出
- ロボット導入以前は報告書が紙であったが、フローを再整備しエクセル形式に変更
- ロボットをきっかけとしたBPRの取り組みにもつながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

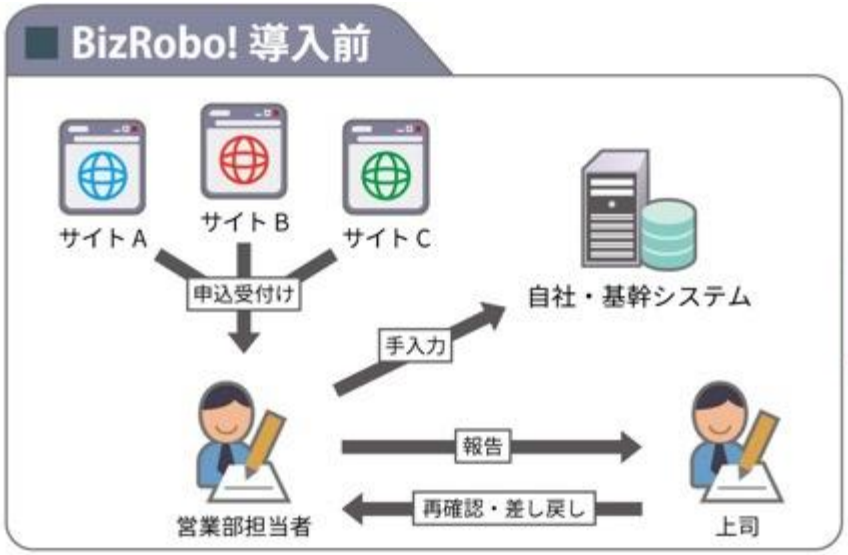
一
サービス

© OPEN, Inc. All rights reserved.

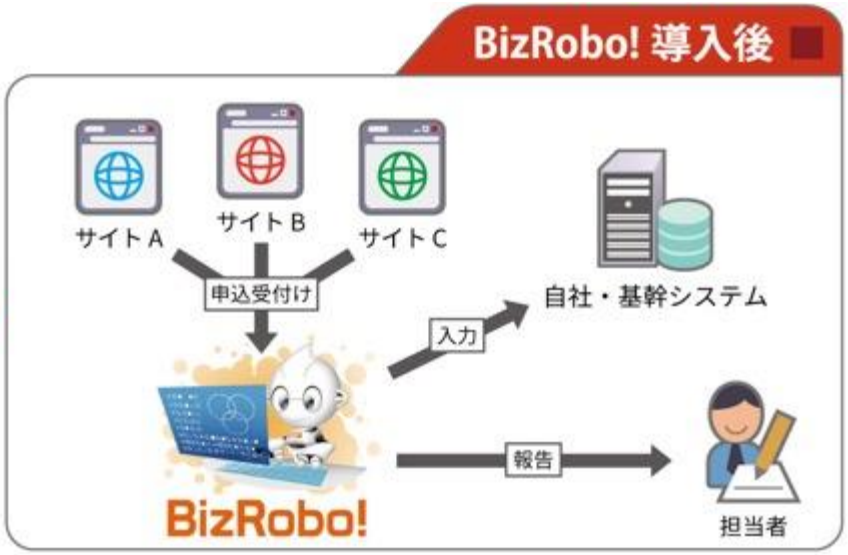
レンタカー予約受付情報を基幹システムに入力する業務

選定理由

- WEBからの申し込みが約50%であり、ロボットが代行することで大きく業務量を短縮できる見込みがあった
- 繁忙期は大幅に人員を増強する必要があった
- 本来ならば即時対応が望ましいが、完了処理までの期間を「1～2営業日」以内に設定せざるを得なかった



1. 複数のWebページからレンタカーの申込を受付
2. 担当者は自社システムにログインし、予約者情報を基幹システムに手入力
3. 上司に報告し、上司はミスがないか再確認
4. ミスがあった場合は改めて担当者が入力



1. 複数のWebページからレンタカーの申込を受付
2. ロボットは自社システムにログインし、予約者情報を基幹システムに入力
3. 担当者に業務終了の報告をメールで送付

実施効果

- 1期あたりのミスが10件から0件となり、ダブルチェック制度も廃止
- 1時間当たりの処理件数が10件から80件の8倍と飛躍的に増加
- 臨時人員を補強することなく繁忙期に対応することが可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

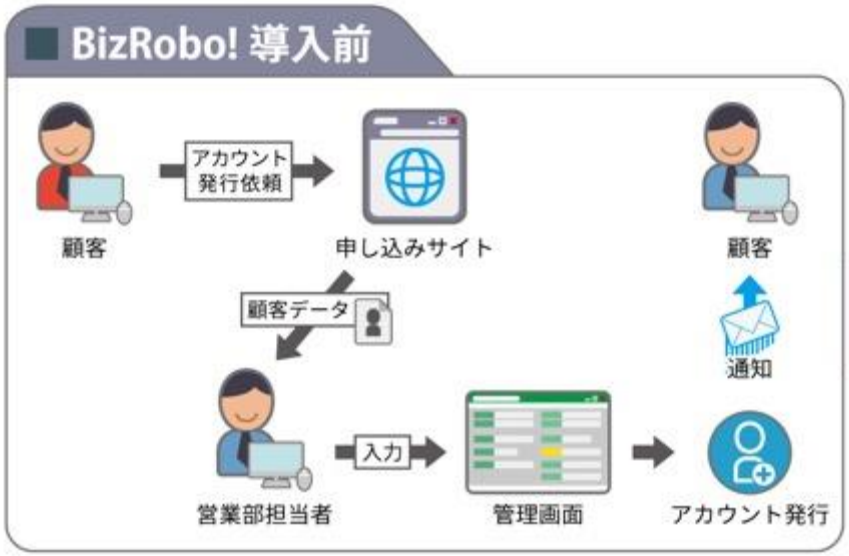
自社のWebサービスにおける顧客アカウントを発行する業務

サービス

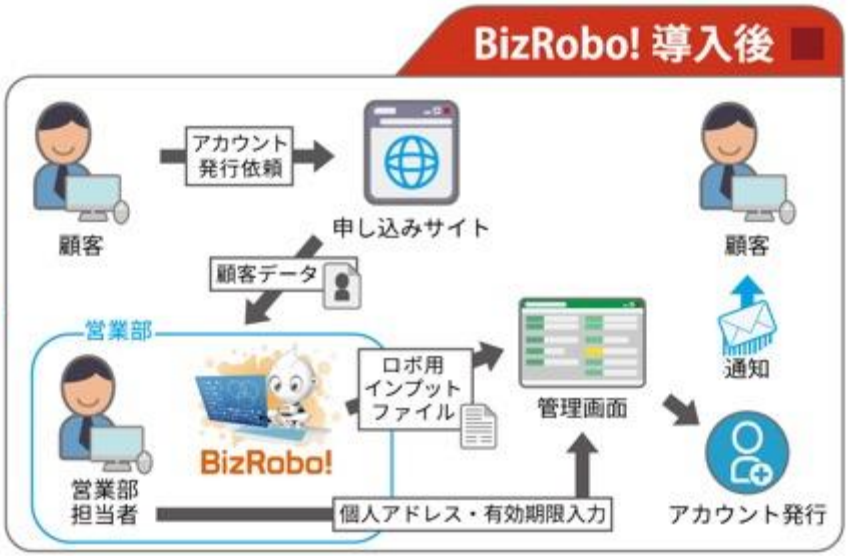
営業部

選定理由

- アカウント発行業務は顧客の要望ベースで随時発生し、営業担当に余計な工数がかかっていた
- アカウント発行に管理者権限が必要となり、管理者権限を有する社員が乱立し、困難だった



1. 顧客はWebページからアカウントの発行を依頼
2. 担当者は申込データを顧客管理アプリに転記
3. 顧客管理アプリに登録後、
   アカウントが発行され顧客にメールで通知



1. 顧客はWebページからアカウントの発行を依頼
2. ロボットは申込データを顧客管理アプリに転記
3. 顧客管理アプリに登録すると、
   アカウントが発行され顧客にメールで通知

実施効果

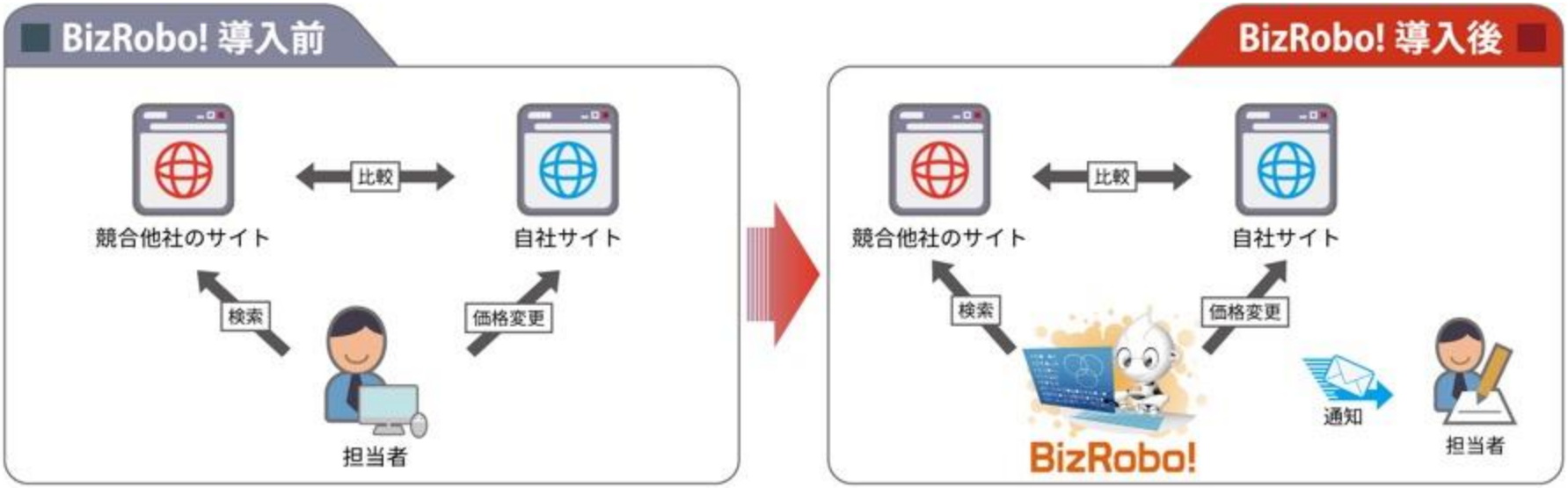
- アカウント発行がボタン一つで実行可能となり、営業担当の負担軽減
- 管理者数が少なくなり、アカウント発行状況の把握と管理が容易になった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

自社サイトの航空券価格を自動で修正する業務

選定理由

- 自社サイトの価格を他社より常に低くするため、リアルタイムで価格を更新する必要があった
- システム化すると納期が長くコストも高いため、BizRobo!を採用



1. 担当者は競合他社のサイトで航空券を検索
2. 自社サイトの価格と見比べ、他社より高いか安いか確認
3. 自社サイトの方が高い場合、価格を安く変更
   ※人手ではリアルタイムで全ての商品を確認することは不可能だった

1. ロボットは競合他社のサイトで航空券を検索
2. 自社サイトの価格と見比べ、他社より高いか安いか確認
3. 自社サイトの方が高い場合、価格を安く変更
4. 担当者に価格変更したことをメールで連絡

実施効果

- 自社サイトでの経由の申込数が2.5倍になり、収益が増大
- 他社の動きが把握でき、戦略を分析できるようになった
- システム化する場合と比べて、業務フローが変更しても柔軟に対応できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

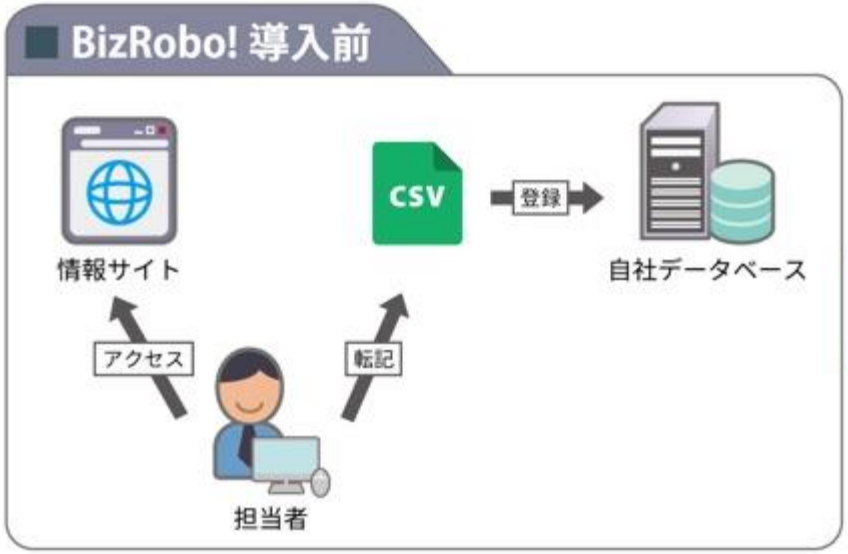
複数のWebサイトからデータを収集し、飲食店舗情報としてまとめる業務

サービス

マーケティング部

選定理由

- データ収集に多くの時間を使用し、肝心のマーケティング活用に労力を割けていなかった
- 複数のWebサイト毎にフォーマットが異なるため、システム化する場合は納期とコストの増大が問題となっていた



1. 担当者は飲食業の店舗情報が載っているWebサイトにアクセス
2. 店舗情報をコピーし、CSVに転記
3. CSVに転記したデータを、自社内のデータベースに登録
   ※70以上のWebサイトについて行い、
   手作業では収集データ量に限界があった

1. ロボットは飲食業の店舗情報が載っているWebサイトにアクセス
2. 店舗情報を抽出し、csvファイルに転記
3. CSVに転記したデータを、自社内のデータベースに登録

実施効果

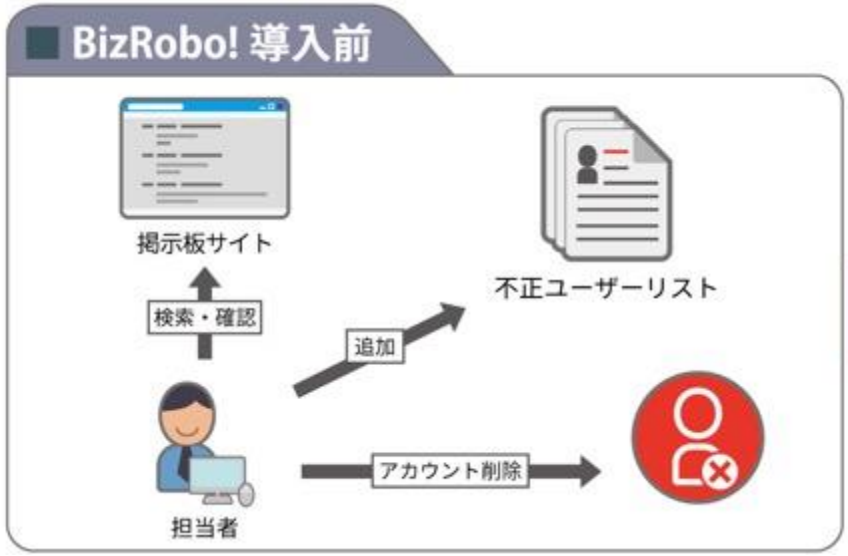
- 半年で70体のロボットを開発し、全てのWebサイトに対してロボットが情報収集を代行可能となった
- 情報収集の時間をマーケティング活動に充てることができ、高品質な提案を顧客に行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

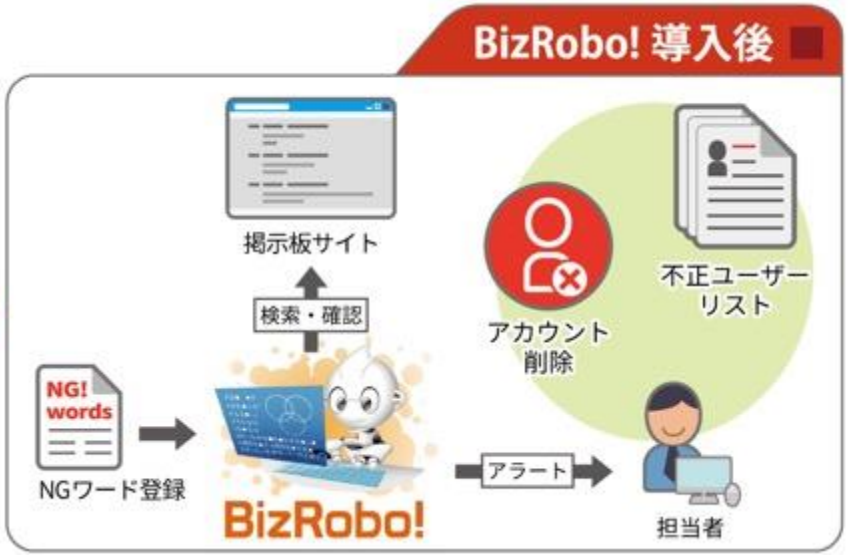
オンラインゲームの不正を監視する業務

選定理由

- 一部ユーザーの不正行為・違法取引が社会問題化し、消費者庁からサービス規制を検討されていた
- 不正を放置しておくと被害拡大につながるため、常に監視・摘発する必要があった



1. 担当者がオンラインゲーム掲示板を確認
2. 不正行為となるような書き込みを探索
3. 不正行為となる書き込みに対し、
   不正ユーザーリストへの追加やアカウント削除などを実行



1. あらかじめ、不正行為の可能性がある「NGワード」を登録
2. ロボットはオンラインゲーム掲示板の情報をすべて確認
3. 「NGワード」があった場合、担当者にアラートを送付
4. 担当者は書き込み内容を確認し、
   不正があれば不正ユーザーリストへの追加やアカウント削除など実行

実施効果

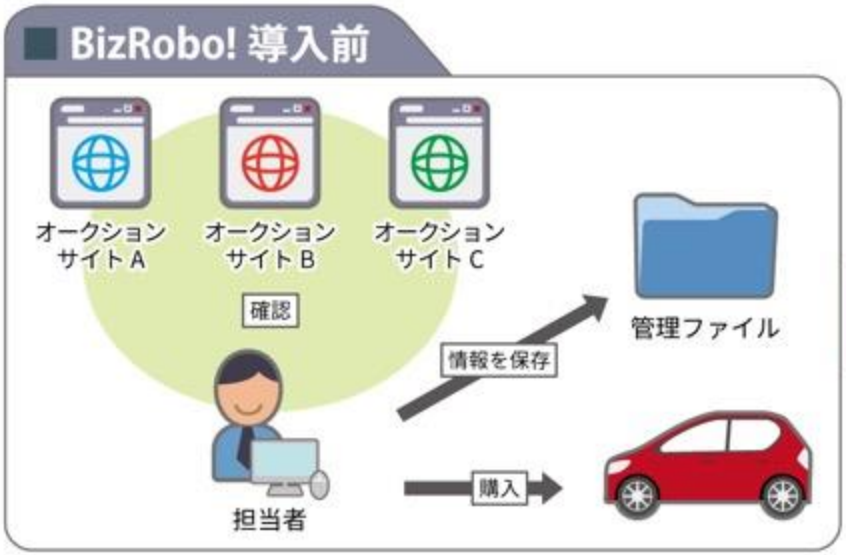
- 24時間365日休むことなく、常に不正を監視できるようになった
- 不正行為による問題が表面化する前に対応が可能となり、サービスの信用性が向上
- 消費者庁によるサービス規制を回避し、安定した市場拡大に寄与

© OPEN, Inc. All rights reserved.

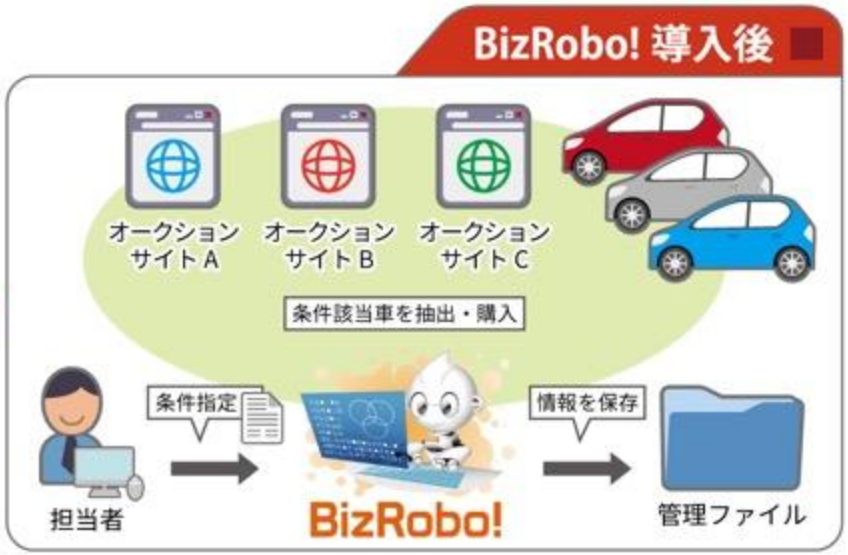
中古車オークションを監視し、情報収集する業務

選定理由

- 業者用中古車オークションサイトを毎日大量に監視する必要があり、担当者の業務時間を圧迫していた
- 売れ筋の中古車を見落としてしまうことが多くあり、売上アップの機会を失っていた



1. 担当者が中古車オークションを確認
2. 希望の条件を満たす中古車を、複数のオークション会場から捜索
3. 条件に合う中古車を購入し、自社の管理ファイルに情報を保存



1. 担当者はどのような条件の中古車がほしいか、あらかじめ設定
2. ロボットは全国の中古車オークションを確認
3. 希望の条件を満たす中古車を、複数のオークション会場から抽出
4. 条件に合う中古車を購入し、自社の管理ファイルに情報を保存

実施効果

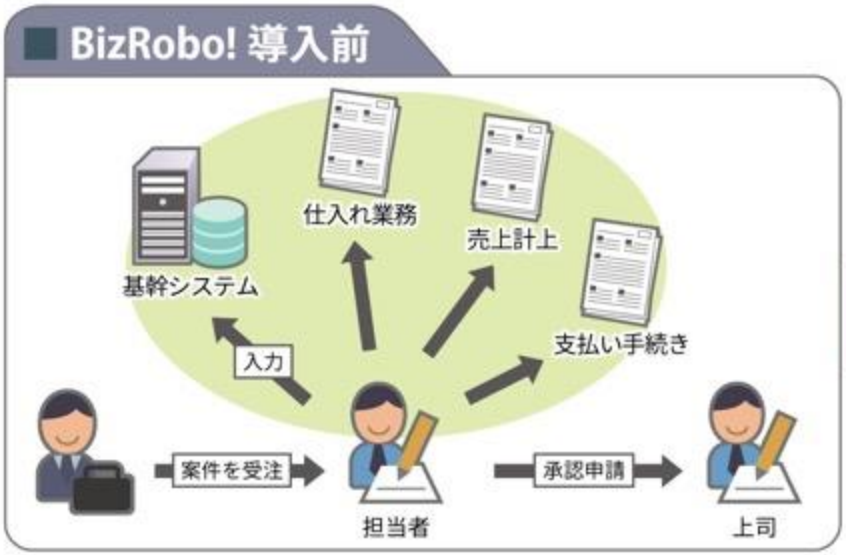
- 売れ筋の中古車数百件を漏らさず確保できるようになり、売上が3倍にアップ
- 年中無休で、夜寝ている間でも中古車を購入できるようになった
- 担当者の業務時間を圧迫せず情報収集を行い、他の業務と並行して業務を進められるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

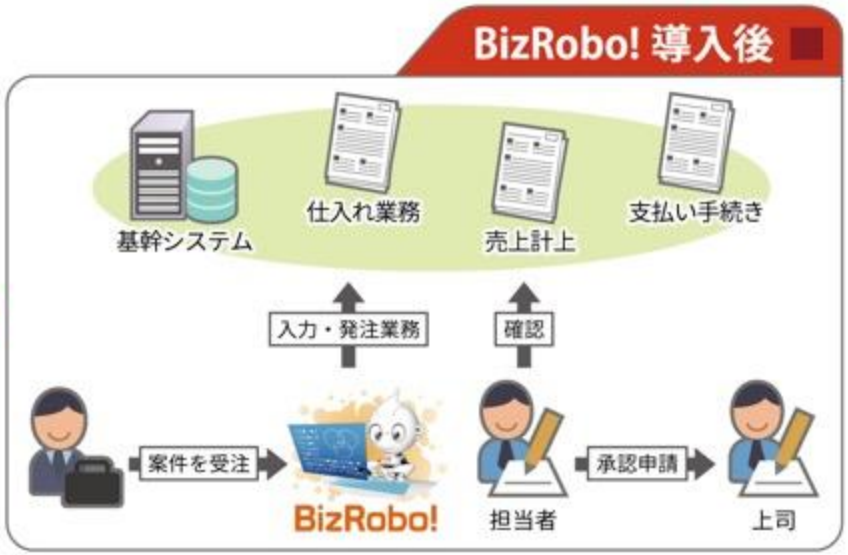
案件管理情報を入力する業務

選定理由

- 案件管理のための入力作業が10ステップ以上あり、時間がかかっていた
- 案件ごとに入金や上司の承認作業があり、非常に煩雑だった
- 業務が月末に集中し、担当者の業務時間を非常に圧迫していた



1. 担当者は案件を受注
2. 案件情報を基幹システムへ入力し、発注業務を行う
3. 仕入れ業務・売上計上・支払い手続きを行う
4. 上司は承認する



1. 担当者は案件を受注
2. ロボットは案件情報を基幹システムへ入力し、発注業務を行う
3. 仕入れ業務・売上計上・支払い手続きを行う
4. 担当者は確認し、上司は承認する

実施効果

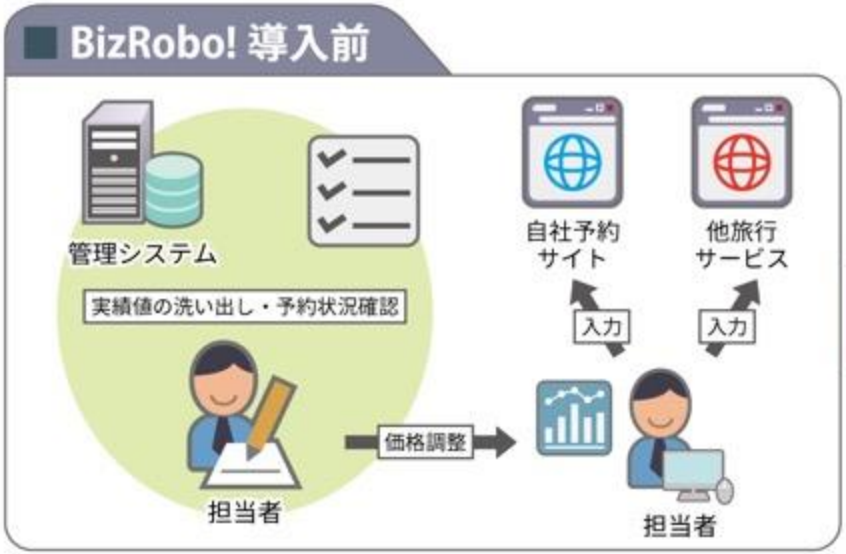
- ロボットが業務の一部を代行することにより、担当者の業務量が5分の1になった
- 月末に担当者の業務量が減り、受注獲得など売り上げ増大につながる業務を行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

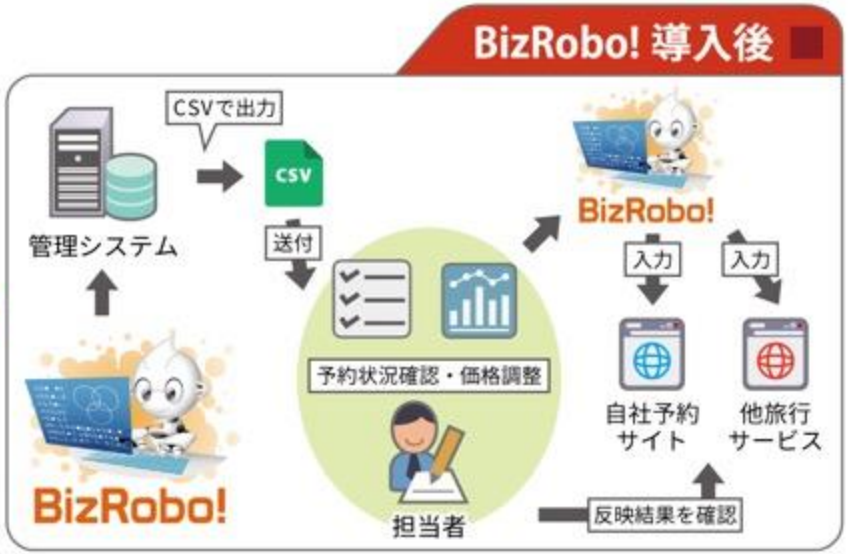
部屋の価格調整の実施
およびシステムへの価格反映を行う業務

選定理由

- ホテルの稼働率を高める（＝収益最大化）ためにはイールドマネジメントの果たす役割は大きい
- 料金を変更するにあたって、各媒体へ情報を反映するオペレーションが非常に煩雑であった。
- 複数の料金プランを毎日複数サイトに対して変更する必要があるため、業務担当者への負担が大きい



1. ホテル管理システムを参照し昨年の実績値を算出
2. ホテル管理システムを参照し、作業実施時の予約状況を確認
3. 1~2の工程を参考に、部屋の価格調整を実施
4. 調整後の価格を予約システム
   （自社予約サイト、他旅行サービス）に入力



1. ロボットはホテル管理システムから昨年の実績値をCSVで出力
2. 担当者が作業実施時の予約状況を確認
3. 1~2の工程を参考に、担当者が部屋の価格調整を実施
4. ロボットは調整後の価格を予約システムに入力し、
   人は入力完了後、反映結果を確認

実施効果

- イールドマネジメントは人が実施し、ロボットは負担が大きい各サイトへ価格反映する業務を代行するといった役割分担が可能となった
- システムへの反映業務時間を1日30分～1時間程度を確保できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

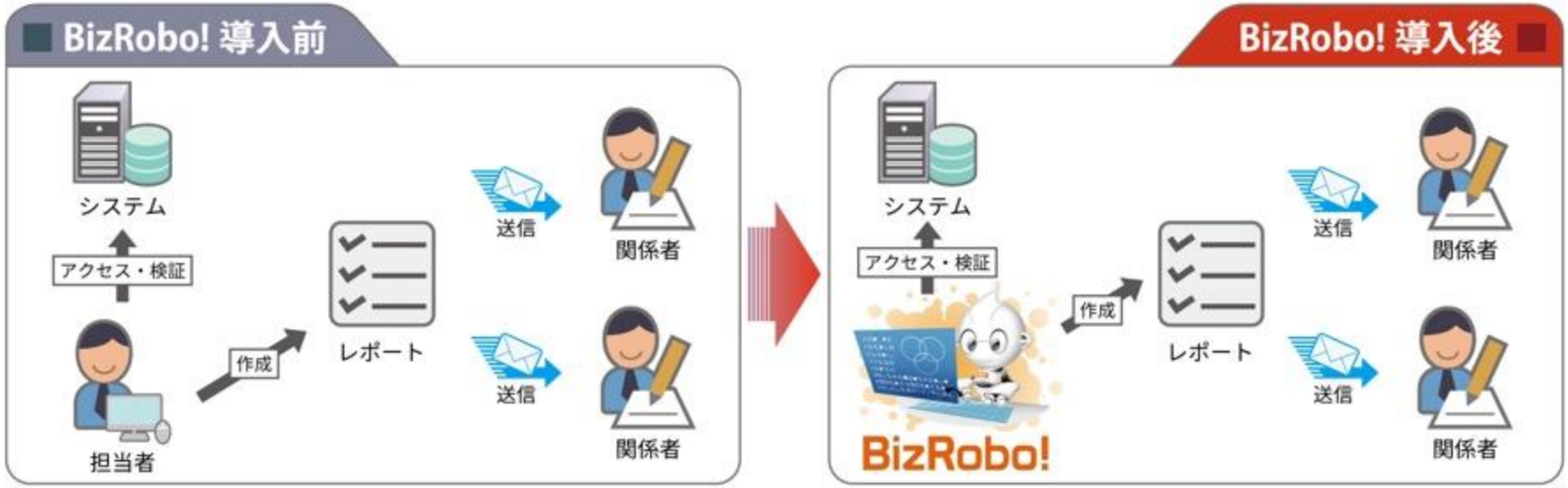
EDIシステム(電子データ交換システム)を監視し、サーバの疎通確認を行う業務

サービス

情報システム部

選定理由

- システムがダウンするとクライアントに多大な迷惑がかかるため、定期的に確認する必要があったが、担当者がいない夜中は迅速に対応できないこともあった
- 監視と報告レポート作成に時間がかかり、業務時間を圧迫していた



1. 担当者は業務時間中に1時間ごとにシステムにアクセス
2. サーバーの状態(疎通確認など)を検証
3. レポート(OK, NG, 集計情報)を作成し、関係者にメールを送信

1. ロボットは昼夜問わず、1時間ごとにシステムにアクセス
2. サーバーの状態(疎通確認など)を検証
3. レポート(OK, NG, 集計情報)を作成し、関係者にメールを送信

実施効果

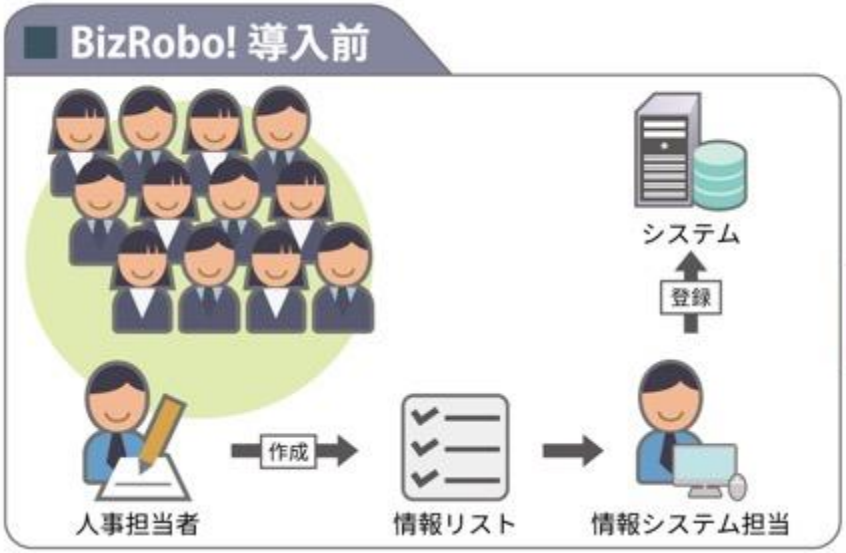
- 平日の業務時間中のみならず、24時間365日監視できるようになった
- 複数の関係者に迅速に連絡がいくため、トラブル時の対応速度が飛躍的に向上

© OPEN, Inc. All rights reserved.

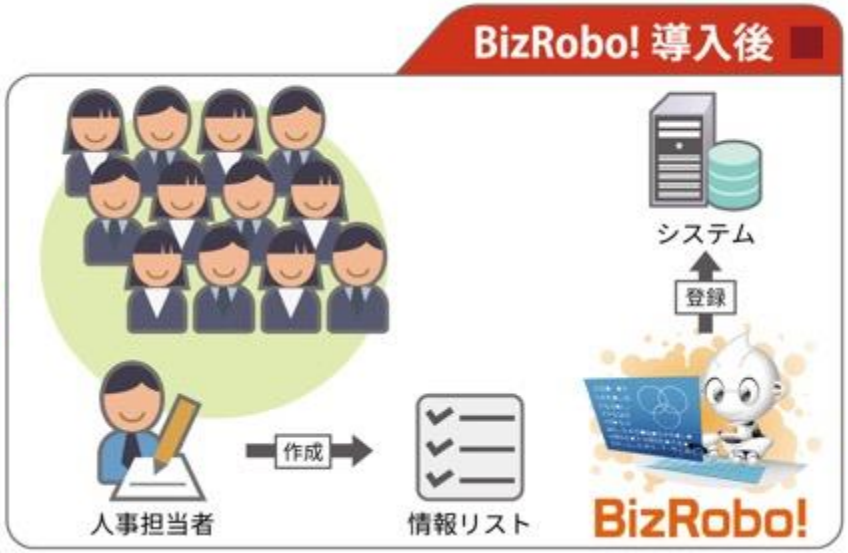
新入社員の入社手続きに関わる情報システム部の業務

選定理由

- 各システムのアカウント発行・ユーザー登録・権限設定など、複数の業務を社員ごとに個別で行う必要があった
- 数百人規模の新入社員がいる場合は、すべての登録終了までに１～２ヶ月かかっている。



1. 人事担当者が新入社員の情報リストを作成
2. 情報システム担当はリストの内容をもとに、各種システムのアカウント発行・ユーザー登録・権限設定を行う
   ※その他、入退室管理システムのID発行、個人メールやグループウェアのユーザー登録、社内ネットワークの設定などをそれぞれ行う



1. 人事担当者が新入社員の情報リストを作成する
2. 各種登録を全てロボットが行う

実施効果

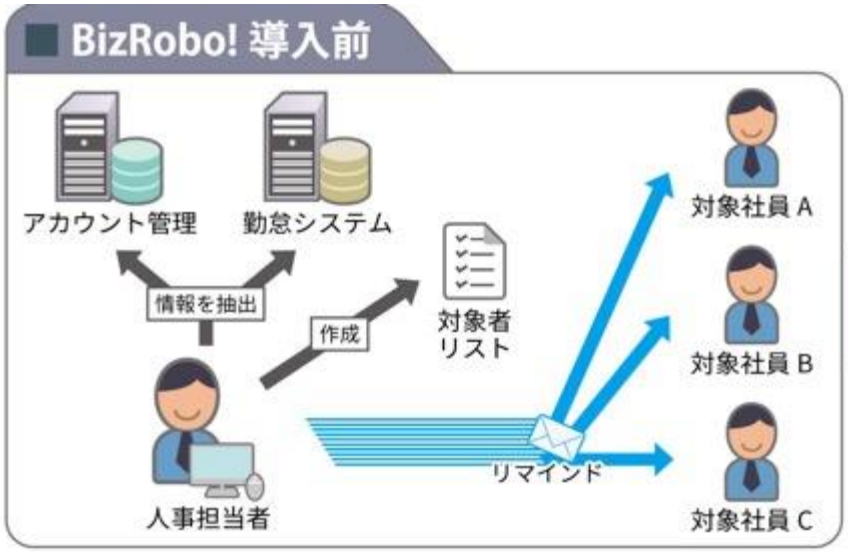
- 年度初めの新入社員が多い時期に情報システム担当者の負担を軽減し、余剰時間を創出
- 会社規模拡大にともなう本業務の増加にも対応し、業務の標準化にも成功
- 多くの業務を入社前までに終わらせる必要があったが、その時間的制約から担当者が解放

© OPEN, Inc. All rights reserved.

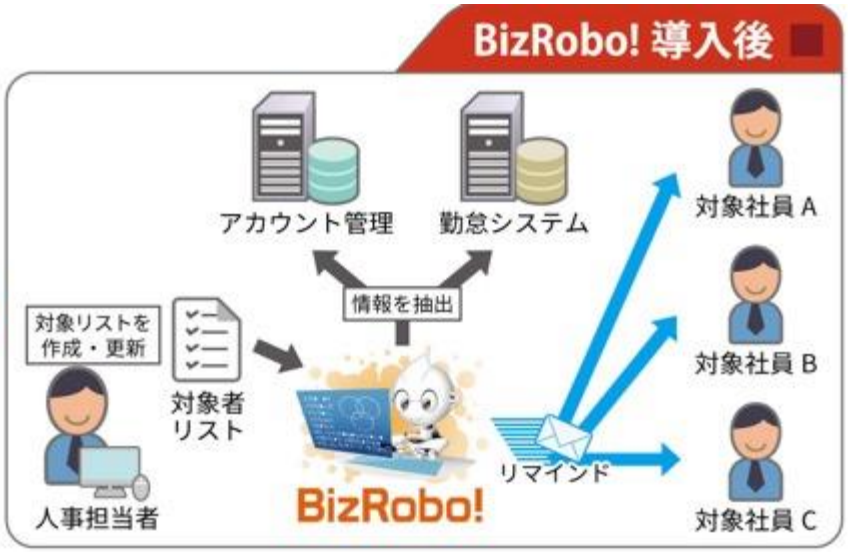
勤怠入力をリマインドする業務

選定理由

- オフィスに出社する社員はビル入館時に勤怠情報がシステムに自動入力されるが、
- 直行・直帰の多い社員は直接入力する必要があり、適時に勤怠時間が入力されないケースが多発
- 本来タイムリーに入力しなければならず、入力を促すリマインドを行っていたが、対象が数百名と多く、
- 人事担当者が不満を抱えながら作業をしていた



1. 人事担当者は各システム(アカウント管理、勤怠)から情報を抽出
2. 担当者は対象者リスト(社員番号、氏名、アドレス、未入力日数)を作成
3. 対象者にメールでリマインド



1. 人事担当者は対象リストを作成・更新
2. ロボットはリストをもとに情報を抽出
3. 対象者にメールでリマインド

実施効果

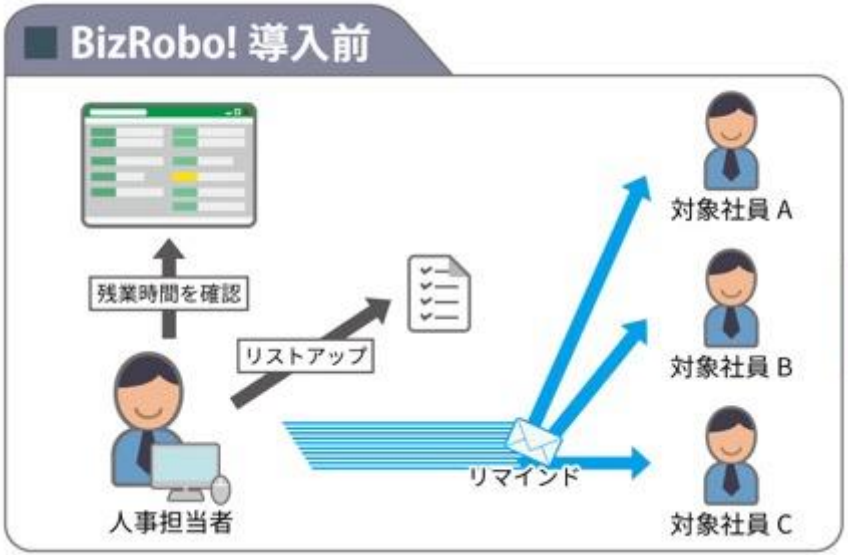
- リマインドメールによって適時に勤怠入力を行う社員が増加
- 4名で行っていた業務が短時間で毎日できるようになった
- 月間116時間の余剰時間を創出し、惰性で行っていた業務から人事担当者を解放

© OPEN, Inc. All rights reserved.

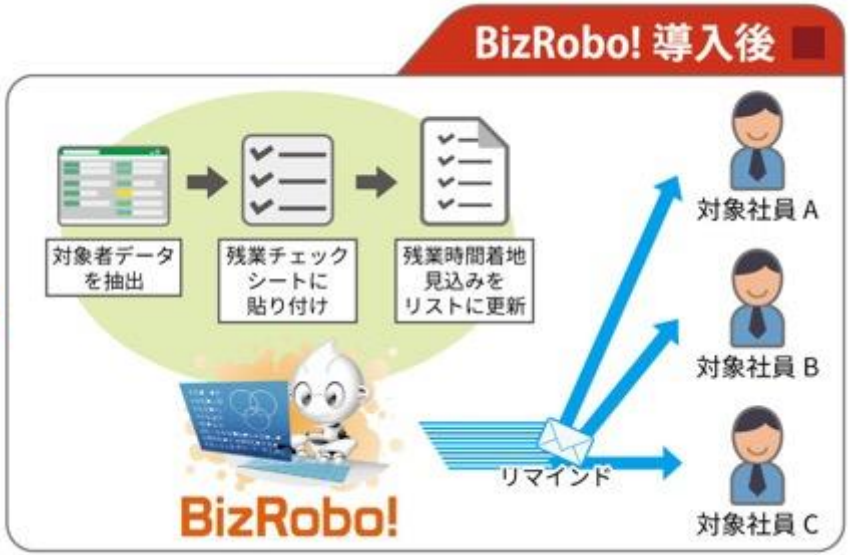
労働時間をモニタリングする業務

選定理由

- 残業時間削減のためのモニタリングを月末までに実施する必要があった
- 勤怠システム単体では月末の残業時間着地見込みの算出ができず、チェックが煩雑
- 人事が個別に要注意な従業員をチェックしているが、全員分の実施は工数的に不可能



1. 担当者は各社員の残業時間を確認
2. 基準を超過する見込みのある社員をリストアップ
3. 対象社員にメールでリマインド



1. ロボットは勤怠システムから対象者データを抽出
2. 勤怠システムから勤怠データを取得し、残業チェックシートを更新
3. 残業時間着地見込みをリストに更新
4. 基準超過者にリマインドメールを送付

実施効果

- 人事担当者が手動でやっていた際は、百数十人の従業員しかチェックできていなかったが、全社員を対象に労働時間のモニタリングが可能となった
- 月200時間の余剰時間を創出した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

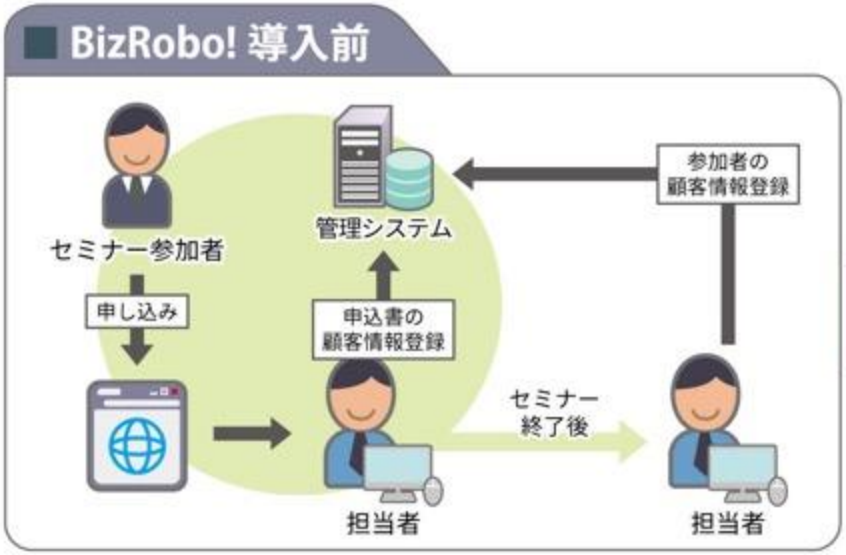
セミナー参加者の情報を顧客情報システムに登録・更新する業務

サービス

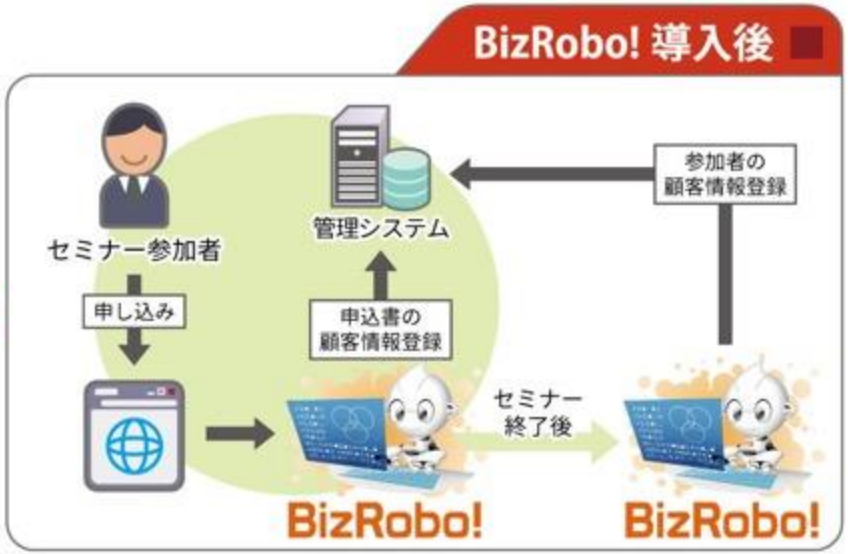
顧客管理部

選定理由

- 6000人規模の自社イベントの参加者情報を顧客管理システムに転記・更新する業務
- 顧客情報の登録に1件当たり5分かかっており、合計500時間以上かかっていた
- スタッフ30名で毎日夜10時頃まで残業する必要があり、精神的・肉体的な負担が大きい



1. Web経由でセミナー参加者の申込情報が送付
2. 担当者はWeb申込者の顧客情報を顧客管理システムに登録
3. セミナー終了後、担当者はセミナー参加者の顧客情報を顧客管理システムに登録



1. Web経由でセミナー参加者の申込情報が送付
2. ロボットはWeb申込者の顧客情報を顧客管理システムに登録
3. セミナー終了後、ロボットはセミナー参加者の顧客情報を顧客管理システムに登録

実施効果

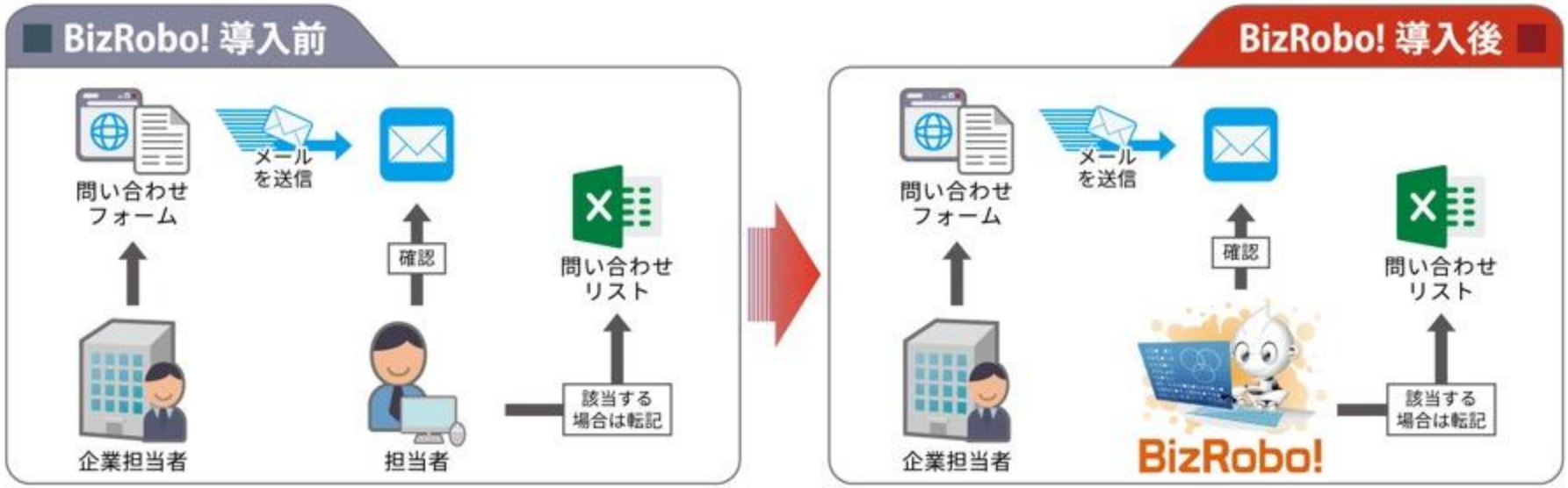
- 従来は複数人が一斉に作業することで顧客管理システムの動作が遅くなることもあったが、現在はロボットが夜間に全ての作業を実行
- 残業がほとんどなくなり、焦りからくるミスも減少

© OPEN, Inc. All rights reserved.

自社のWebサイトへの
掲載希望企業からの問い合わせをまとめる業務

選定理由

- 自社のWebサイトに案件や広告の掲載を希望する企業からの、問い合わせをリスト化する必要があった
- 新規事業のため現時点の問い合わせ数は少ないが、今後問い合わせ数が飛躍的に増加する場合に備えて、処理速度が圧倒的に早いロボットに代行させたい



1. 企業は問い合わせフォームからメールを送信
2. 担当者は「自社のWebサイトに情報の掲載を希望する企業」からの問い合わせかどうか確認
3. 該当する場合、担当者は問い合わせリスト(Excel)にデータを転記

1. 企業は問い合わせフォームからメールを送信
2. ロボットは「自社のWebサイトに情報の掲載を希望する企業」からの問い合わせかどうか確認。
3. 該当する場合、ロボットは問い合わせリスト(Excel)にデータを転記

実施効果

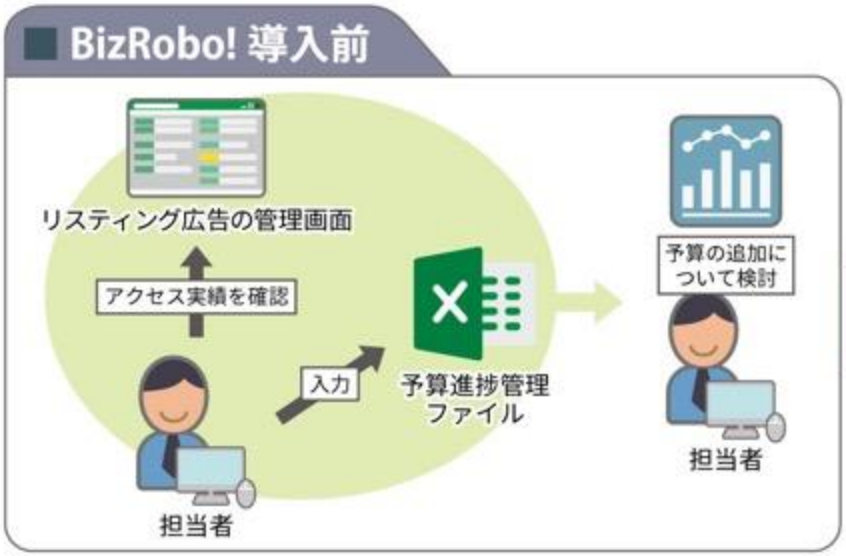
- 1件あたり5分かかる作業をロボットが完全代行
- 今後問い合わせが飛躍的に増加した場合の対応オペレーションも構築

© OPEN, Inc. All rights reserved.

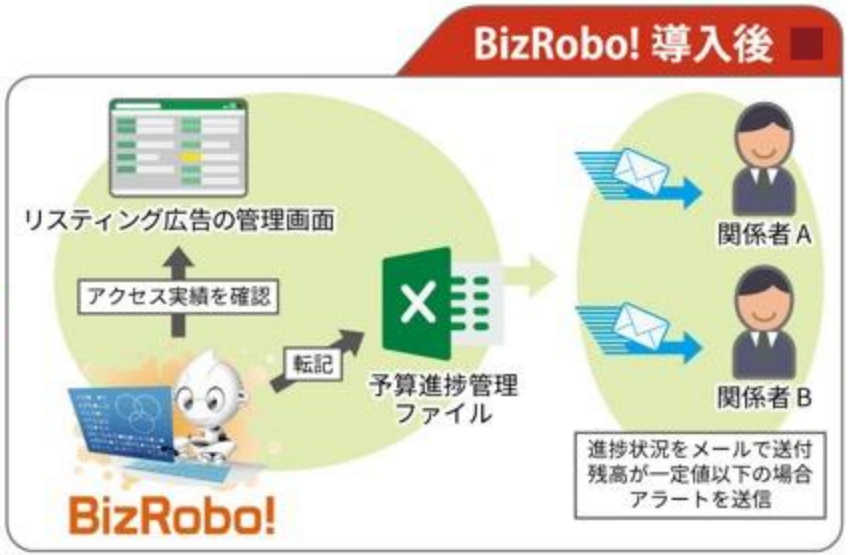
リスティング広告の予算と残高を確認する業務

選定理由

- 広告がクリックされた回数によって広告費用が日次で変化するため、残高の予測がしづらい
- 残高が少なくなると即時に対応する必要があるため、毎日チェックする必要がある



1. 担当者はリスティング広告の管理画面にアクセス
2. 前日の実績を確認し、予算進捗管理ファイル(Excel)に入力
3. 残高が少ない場合、予算の追加について検討



1. ロボットはリスティング広告の管理画面にアクセス
2. 前日の実績を抽出し、予算進捗管理ファイル(Excel)に転記
3. 関係者に予算の進捗状況をメールで送付
4. 残高が一定値以下の場合、ロボットは関係者にアラートを送信

実施効果

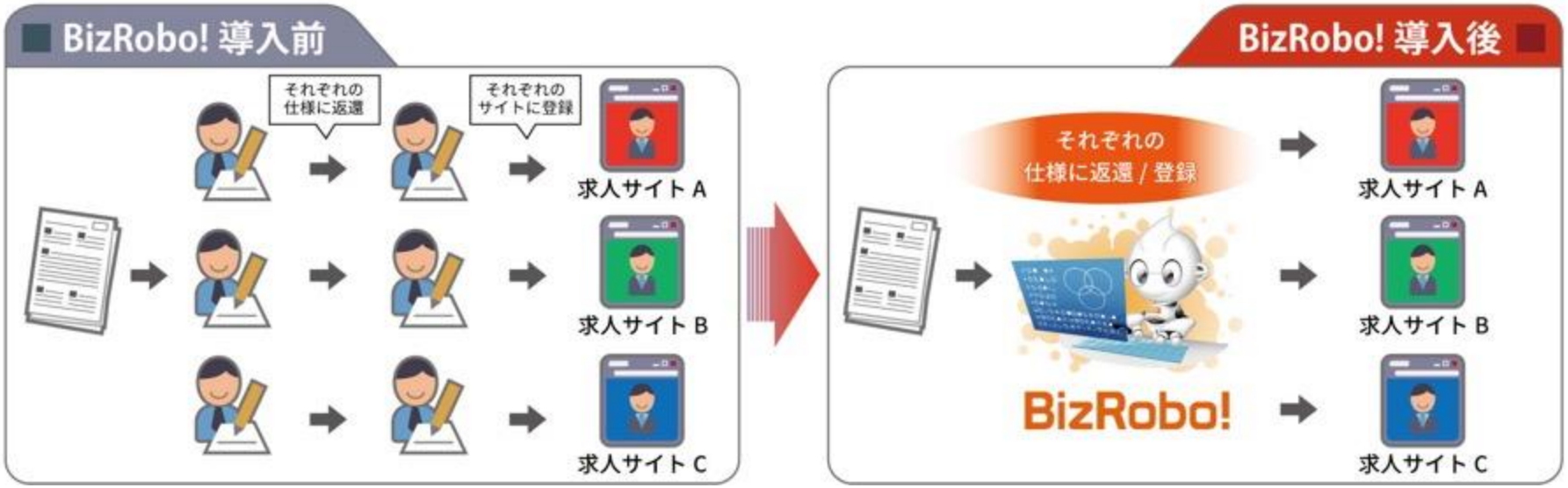
- 広告サイトを毎日チェックすることなく、予算の進捗を関係者全員で共有できるようになった
- 予算が少ない場合のみ対応すればよく、月20時間の余剰時間を創出

© OPEN, Inc. All rights reserved.

求人サイトへの入稿を行い、案件登録を行う業務

選定理由

- １つの同じ情報を複数の求人情報誌に合わせた仕様に変換するため、かなりの工数がかかっていた



1. 担当者は自社内の基幹システムにある案件情報を確認
2. 複数の求人サイト(リクナビ派遣、dodaなど)にアクセス
3. それぞれの求人サイトにおいて複数の情報を入力し、登録
   ※それぞれの求人サイトにおいて、入力する情報は違うフォーマットになっており、このデータを作成する作業が非常に負担となっていた

1. ロボットは社内データベースから案件情報を抽出
2. ひとつの案件情報に対して、求人情報サイト毎に複数のロボットが稼働
   ※例えば「リクナビ派遣に登録するロボット」「dodaに登録するロボット」
3. それぞれのロボットはそれぞれの求人サイトのフォーマットにあわせて、案件情報を入力し登録

実施効果

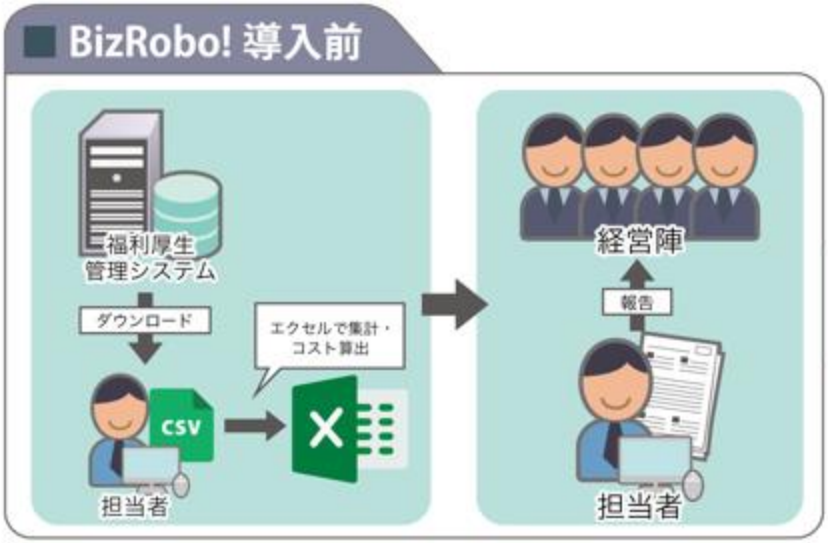
- この業務単体では月120時間の業務時間削減に成功
- 新規人材の採用を抑制し、残業時間も削減でき、付加価値の高い業務に工数を展開可能となった
- エンジニアではないスタッフでもある程度容易に扱えるため、 117体のロボット現場が作成できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

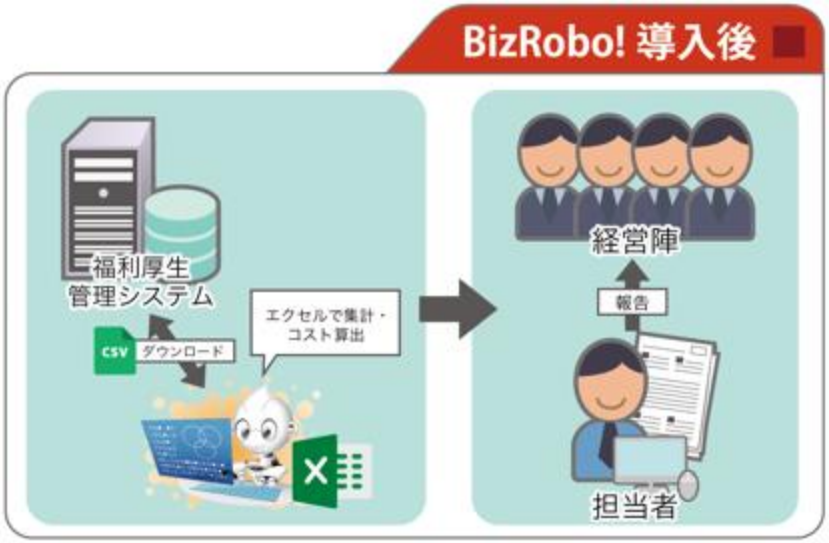
福利厚生の利用者を確認する業務

選定理由

- 複数の福利厚生メニューを従業員向けに提供しているが、活用されているかの確認ができておらず、従業員の満足度を測りかねていた
- コスト削減を経営から求められていたが、福利厚生にかけている固定コストの評価が正しく行えていなかった



1. 担当者は福利厚生管理システムにアクセスし、
   月次で利用者データをCSV形式でダウンロード
2. CSVファイルをエクセルに転記し、エクセル関数で利用者を集計
3. エクセルで利活用度、従業員1人あたりの福利厚生コストを算出
4. 集計結果を経営陣に報告



1. ロボットは福利厚生管理システムにアクセスし、
   月次で利用者データをCSV形式でダウンロード
2. CSVファイルをエクセルに転記・集計
3. 利活用度と福利厚生コストを算出
4. 担当者は集計結果を経営陣に報告

実施効果

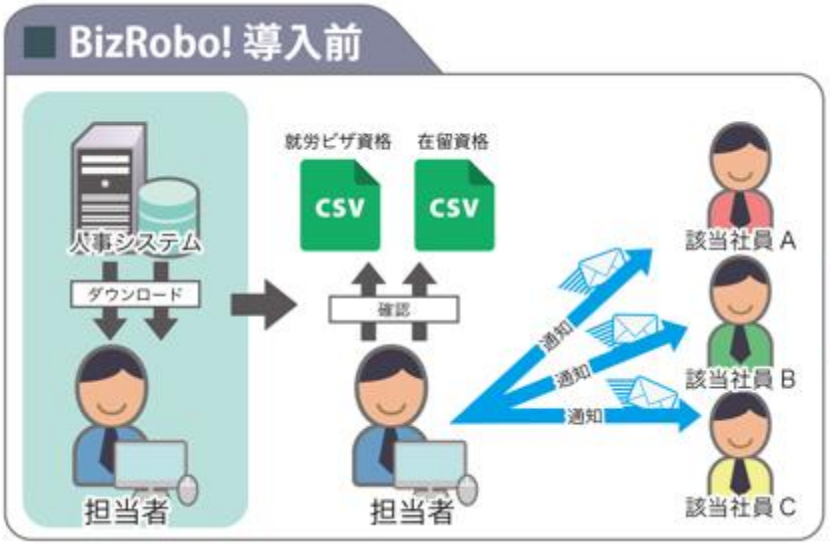
- 1回あたりの作業時間は少なく(30分)、作業が面倒で実施していない部分があったが、
  もれなく実施することができた
- 福利厚生と充実と従業員満足度の向上を可視化し、より良い福利厚生の提供が可能になった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

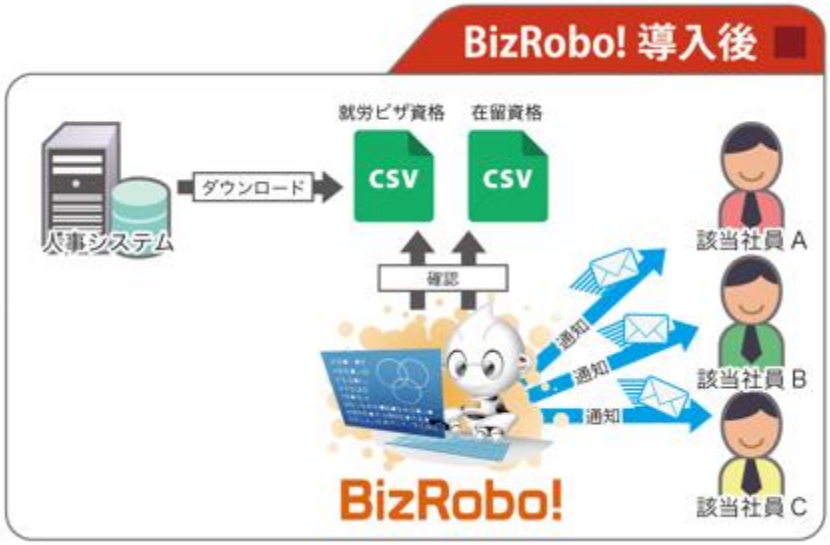
在留資格データを抽出し、作成を実施する業務

選定理由

- 在留資格チェック対象である外国籍の社員が多数在籍しており、人事担当者の業務負担が大きかった
- 在留資格を有していない社員が所属していると指導を受けるため、リスク管理の点からも重要な業務だった
- 在留資格を有していない社員は帰国する必要があるため、ミスがあると業務への影響が大きい



1. 担当者は人事システムにアクセス
2. 就労ビザ資格、在留資格の2つのCSVをダウンロード
3. CSVファイルを確認し、一定期間内に更新が必要な社員を確認
4. 更新が必要な社員に通知を送付



1. ロボットは人事システムにアクセス
2. 就労ビザ資格、在留資格の2つのCSVをダウンロード
3. CSVファイルを確認し、一定期間内に更新が必要な社員を確認
4. 更新が必要な社員に通知を送付

実施効果

- 2種類の異なるデータの参照の際にミスが生じていたが、ロボットによりチェック漏れがなくなった
- ロボットが勝手に月次で処理を行うため、担当者負担がゼロとなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

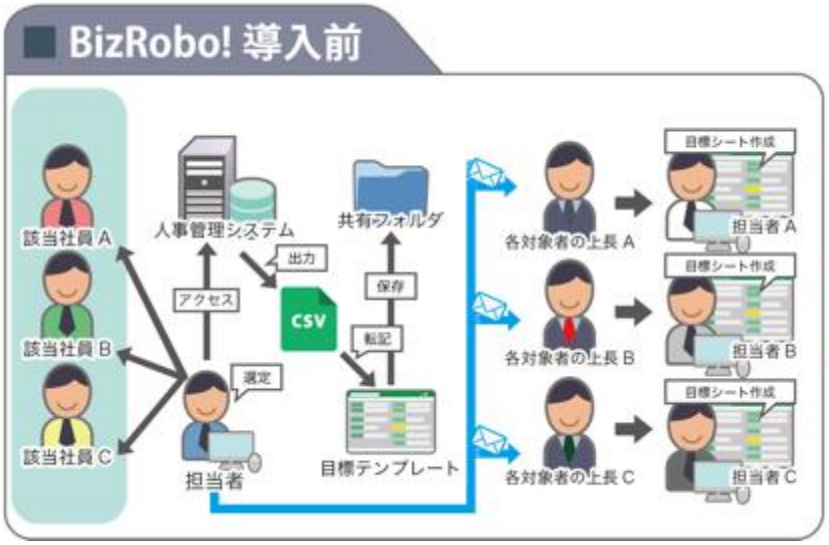
月次評価対象者を人事管理システムから抽出し、目標シートを作成する業務

サービス

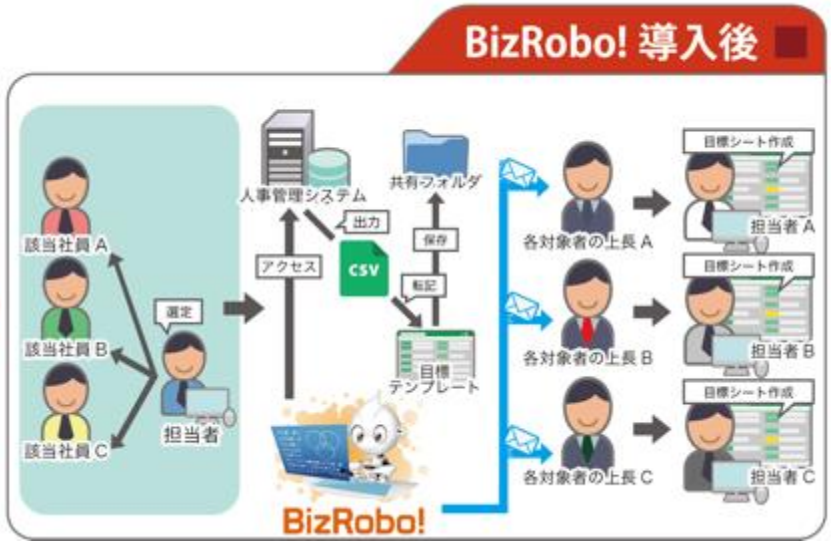
人事部

選定理由

- 正社員以外にも数十社から出向や外部協力会社を受け入れており、処理量やパターンが非常に多かった
- 処理完了までに1営業日程度かかり、毎月実施する必要があるため、人事担当者の負担が大きかった
- 目標シート作成対象者のリストに漏れが発生すると、正しく人事評価が行えないためミスが許されなかった



1. 担当者は対象となる社員属性を選定
2. 人事管理システムにアクセスし、対象者のファイルをCSVで出力
3. ファイルから必要情報を目標シートのテンプレートに転記
4. 各対象者の上長にメールにて送付
5. 各担当者が目標シートを作成



1. 担当者は対象となる社員属性を選定
2. ロボットは人事管理システムにアクセスし、対象者のファイルをCSVで出力
3. 出力したファイルから必要情報を目標シートのテンプレートに転記
4. 各対象者の上長にメールにて送付
5. 各担当者が目標シートを作成

実施効果

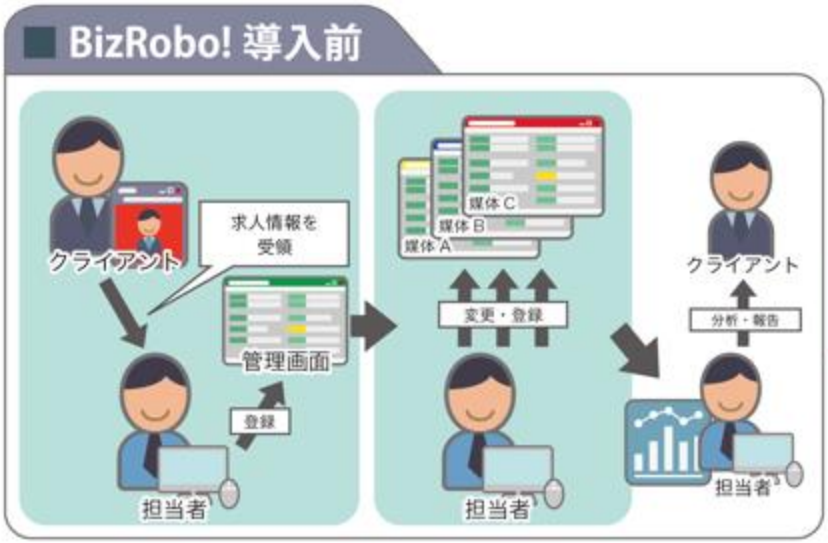
- 目標シート作成の漏れがなくなり、人事担当者の負担が減少
- 目標の設定やフィードックといった本来実施すべき業務をタイムリーに実施することが可能になった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

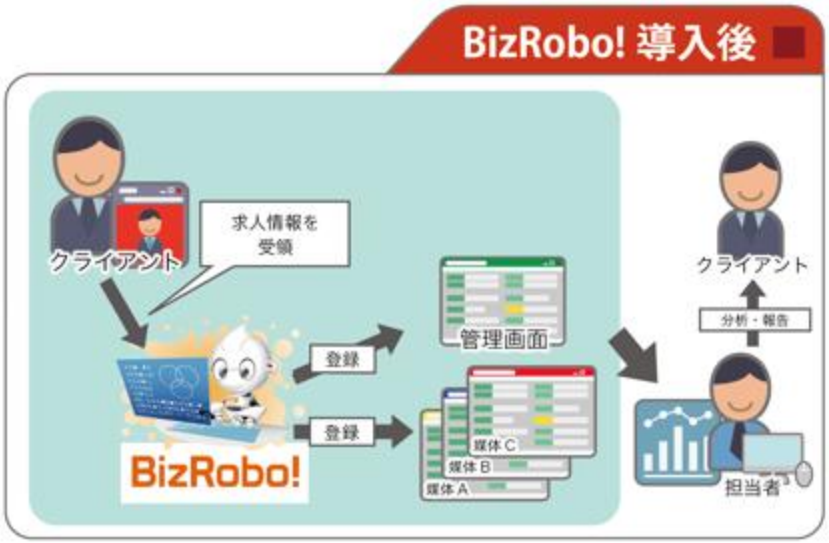
複数の求人媒体に求人情報を掲載する業務

選定理由

- 採用管理システム（ATS）の運用代行事業を行っており、当業務にかかる人的工数が増加していた
- 採用は繁閑差が大きいため、繁忙期には人が足りず、閑散期には人が余るといった状況が発生していた
- クライアントによって求人情報を更新する頻度が高く、その都度の対応が求められていた



1. クライアントから求人媒体に掲載する求人情報を受領
2. 担当者はATSのクライアント管理画面に遷移し、求人情報を登録
3. 登録した求人情報を媒体ごとにフォーマットを変更し、登録
4. 求人媒体ごとの応募数やコンバージョン率を測定し、クライアントに報告



1. クライアントから求人媒体に掲載する求人情報を受領
2. ロボットはATSのクライアント管理画面に遷移し、求人情報を登録
3. 登録した求人情報を媒体ごとにフォーマットを変更し、登録
4. 求人媒体ごとの応募数やコンバージョン率を測定し、クライアントに報告

実施効果

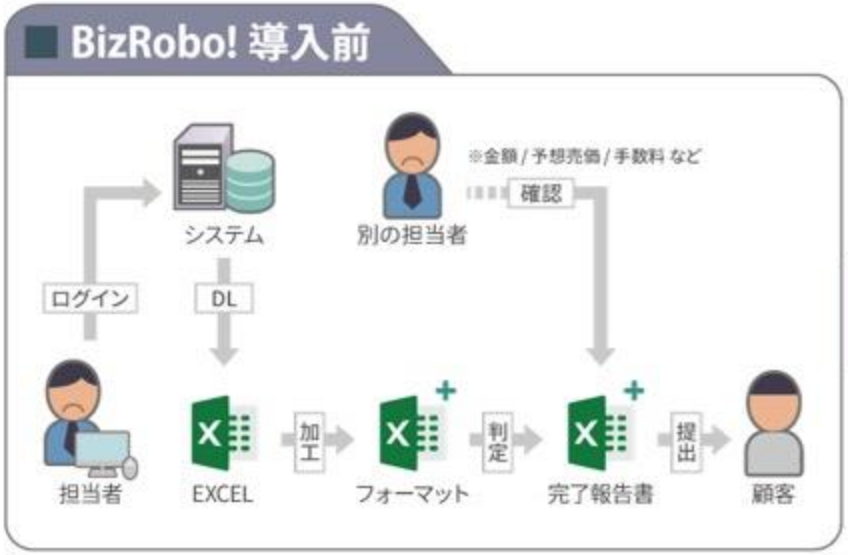
- 求人情報の掲載だけでなく、応募情報管理・選考プロセス管理・内定者情報管理などATSの他機能にもBizRobo!を水平展開
- 繁忙期、閑散期によって稼働するロボット数を調整し、派遣などの人件費を削減
- 1企業あたりの処理時間が30分から5分以内となり、最新情報を掲載するまでのスピードが向上

© OPEN, Inc. All rights reserved.

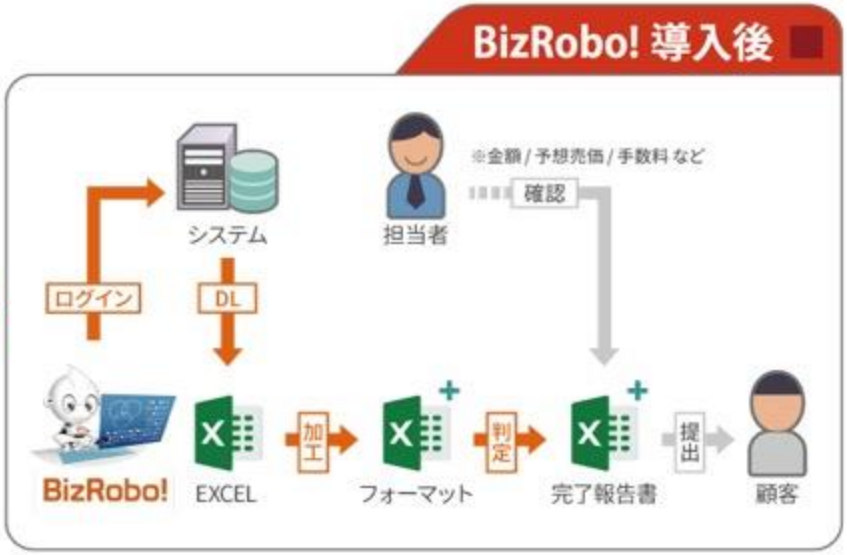
お客様へ報告するデータを処理する業務

選定理由

- 営業日は毎日提出する必要があり、ルールに基づいてはいるが複雑であるため覚えるまでに時間がかかる
- 複雑であるため、1回の作業で3時間以上かかる事もあり、ミスが発生する可能性も高い
- お客様に提出するデータのため、ミスは許されず、作業者と確認者のダブルチェックの運用を行っている



1. システムにログインし、データを出力
2. お客様用のフォーマットに変更
3. 買取判定ごとに金額・予想売価価格・検品手数料などを入力
4. 作業担当者と別の担当者でWチェック
5. お客様に提出



1. ロボットがシステムにログインし、データを出力
2. お客様用のフォーマットに変更
3. 買取判定ごとに金額・予想売価価格・検品手数料などを入力
4. 担当者が確認・修正
5. お客様に提出

実施効果

- 年間で約240時間の削減
- 人に教えるのも難しかった業務が確認だけになり、2人での対応が1人で可能になった
- RPA化した際に業務を行っていた人がRPAに興味を持ってくれた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

情報・通信

© OPEN, Inc. All rights reserved.

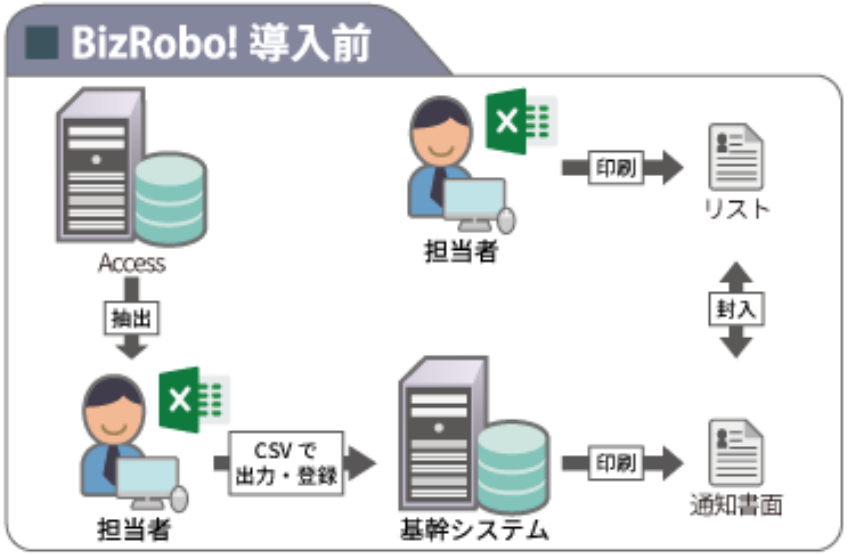
通知物（WEB明細閲覧に係るログイン情報）の発行・印刷業務

情報・通信

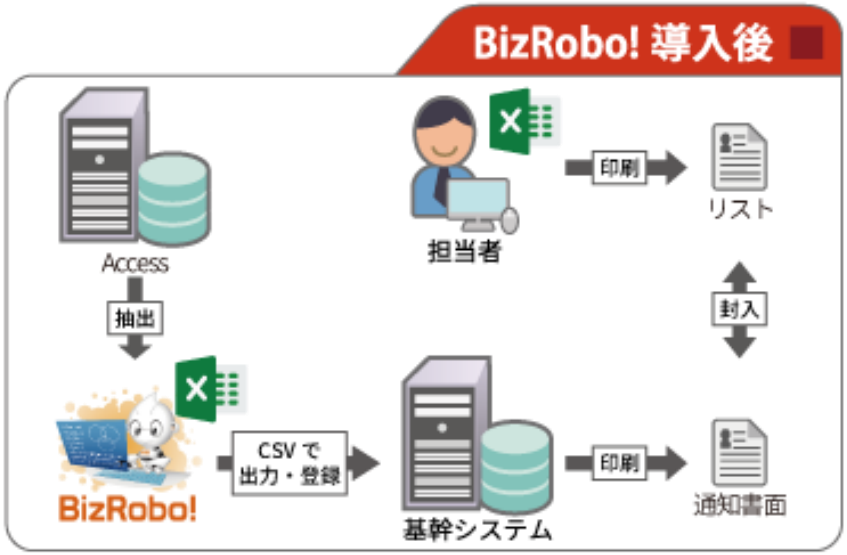
お客さまサービス部
CRMグループ

選定理由

- 作業頻度が高く、出勤前の早朝にデータ抽出～印刷までを自動化する事により、出勤後の人的作業の短縮を図った
- 必要な作業が単純なため、RPA移行もスムーズだった



1. 担当者がAccessでの対象データを抽出
2. 担当者がExcelでのデータ成形（重複の削除など）、CSVデータを作成
3. 担当者が基幹システムへCSVデータを読み込み、通知書面を印刷
4. 担当者がExcelからリスト印刷
5. 担当者が書面封入作業し後続部署へ引渡



1. ロボットがAccessでの対象データを抽出
2. ロボットがExcelでのデータ成形（重複の削除など）、CSVデータを作成
3. ロボットが基幹システムへCSVデータを読み込み、通知書面を印刷
4. 担当者がExcelからリスト印刷
5. 担当者が書面封入作業し後続部署へ引渡

実施効果

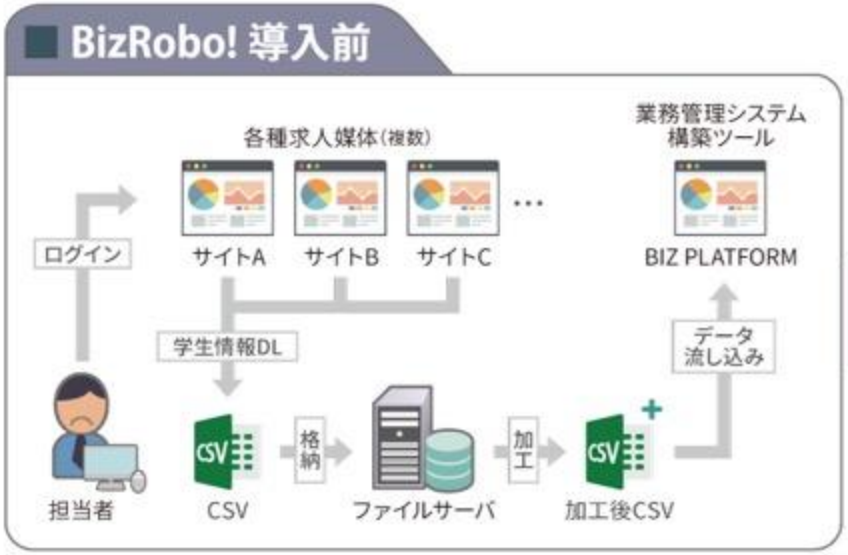
- 業務の多少面倒な部分がRPA化された為、簡単な作業のみ行えばよくなった
- データ件数が多い場合のプリンタの占拠が無くなった
- グループ内で輪番で実施していた業務をRPA化する事で、業務負荷の軽減を実感できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

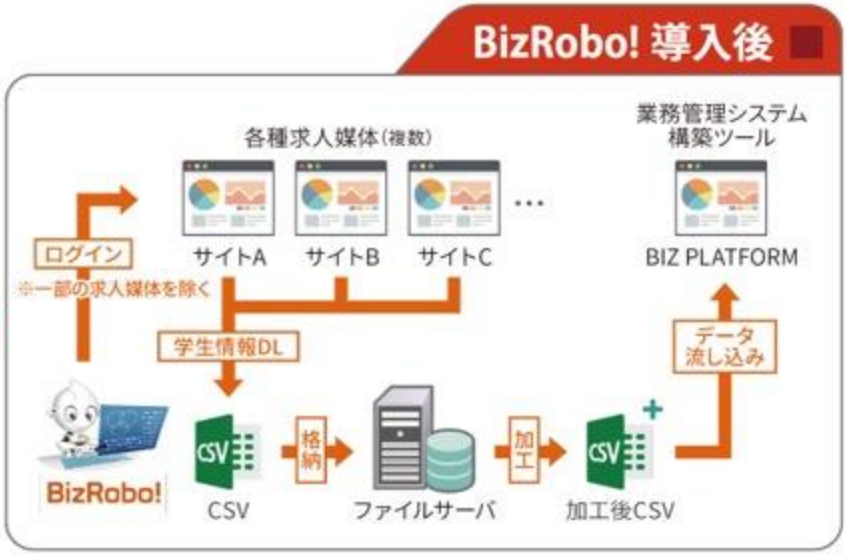
学生情報を管理システムに取り込む作業

選定理由

- 1000人を超える学生情報をExcelなどで管理しており、選考状況の把握に時間がかかる
- 複数の求人媒体から同じ学生がエントリーすることもあり、電話番号などが違っていたりと項目マッチングの齟齬が頻繁にあった



1. 担当者が各求人媒体にログイン
2. 各求人媒体から学生情報を取得
3. ファイルサーバに格納した後、データを加工
4. 業務管理システムにデータを取り込む



1. ロボットが各求人媒体にログイン
2. 各求人媒体から学生情報を取得
3. ファイルサーバに格納した後、データを加工
4. 業務管理システムにデータを取り込む

実施効果

- 新卒採用期間内で大幅な工数削減を行ったことにより、スタッフの精神的な負荷の軽減にもつながった
- ロボット作成時に必要な業務マニュアル作成は業務の引き継ぎ時にも役立つ
- エラー対応などは利用部門で簡単に修正ができるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

製造

© OPEN, Inc. All rights reserved.

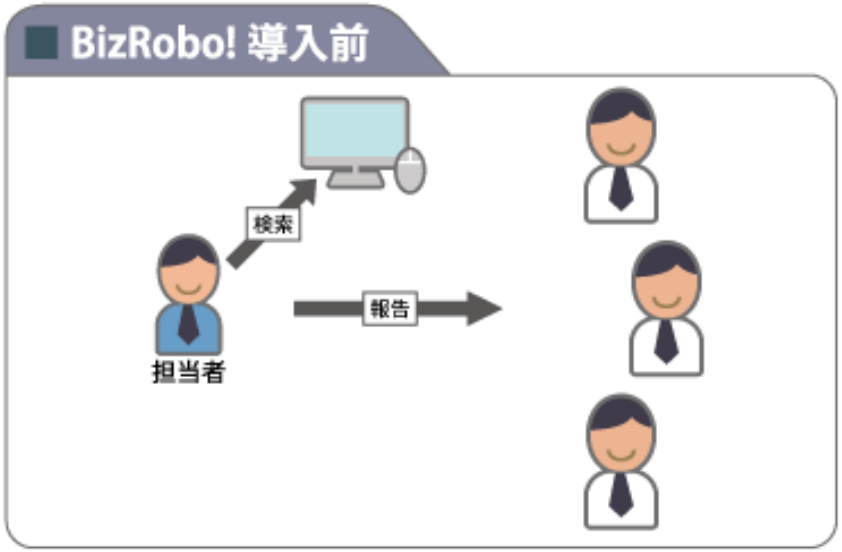
COVID-19の世界の感染状況が見れるWebページから、弊社と関係ある国を1つ1つクリックしてその感染者数を毎日会議で報告する業務

製造

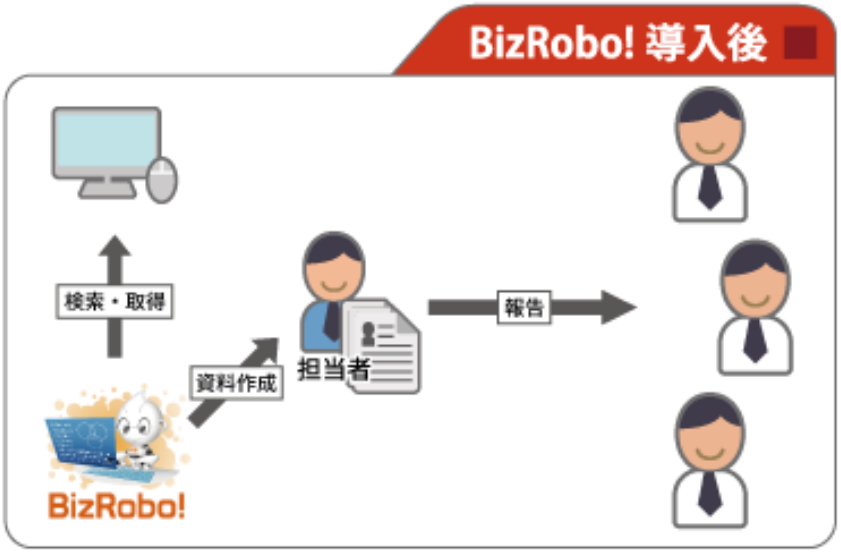
情報システム統括部

選定理由

- 200以上の国から25地域を探してクリックしており、選択肢が多い中クリック数も多いので間違いや抜けが度々発生していた
- 感染者推移のグラフ等が表示されていて数値だけでなくそのページを映しながら報告する必要があった
- また探すのに時間がかかり会議の時間が長くなっていた



1. Webページを開く
2. 対象の国を25カ所クリックし感染者数を報告する



1. ロボットがWebサイトを開く
2. ロボットが対象の国をクリックする
3. ロボットがスクリーンショットを取る
4. ロボットが2.～3.を25回繰り返す
5. ロボットがPowerPointにスクリーンショットを貼り付ける
6. 人が会議でPowerPointを使って報告する

実施効果

- 探す手間が無くなり報告時間の短縮
- 報告漏れや対象外の地域を選択するようなミスが無くなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

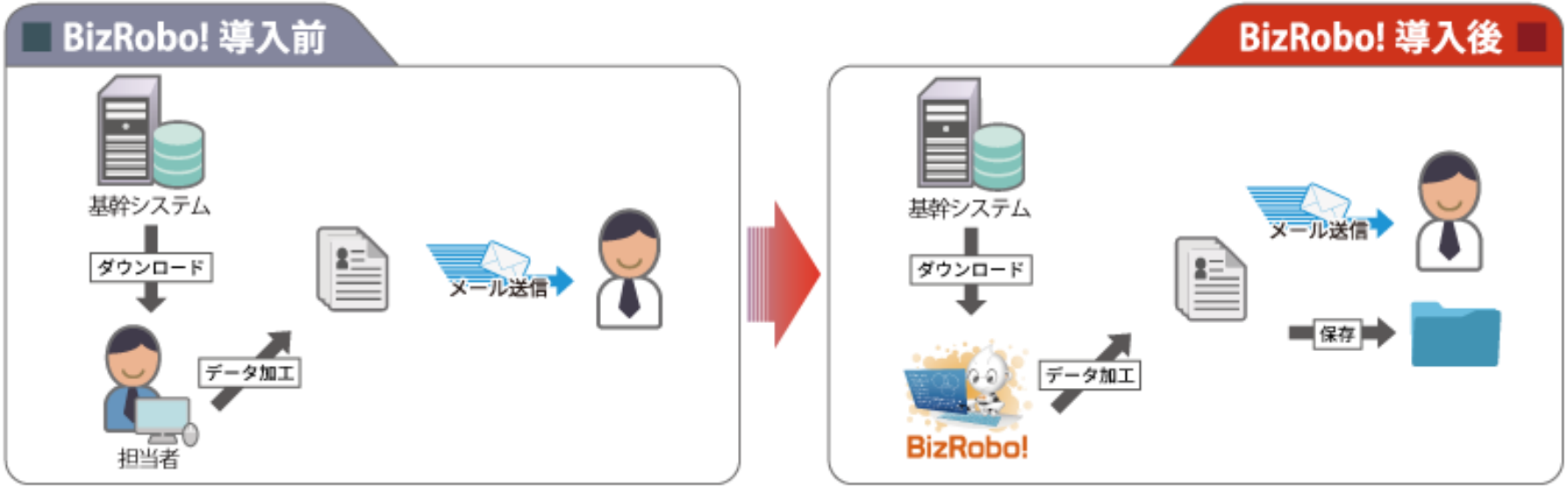
当日出荷した製品の明細をお客様や担当営業マンにメール配信する業務

製造

情報システム統括部

選定理由

- 複数の事業所で複数のお客様や担当営業マン宛に毎日配信する必要があった
- フォーマットはお客様や担当営業マン毎にバラバラでデータのダウンロードやデータを加工するのに工数がかかっていた



1. 基幹システムから出荷データをダウンロードする
2. お客様毎のフォーマットに加工する
3. お客様や担当営業マン宛にメールを送る
4. １～３を毎日複数回行う

1. ロボットが基幹システムから指定したフォーマットでExcelを作成
2. ロボットがメール配信、または所定のフォルダに保存する
3. １～２を毎日複数回行う

実施効果

- 多い月だと3,200～3,500帳票/月を自動作成できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

全社の固定資産データのエクセルを収集し、監査対象の事業所用の監査用のエクセルを作成する業務

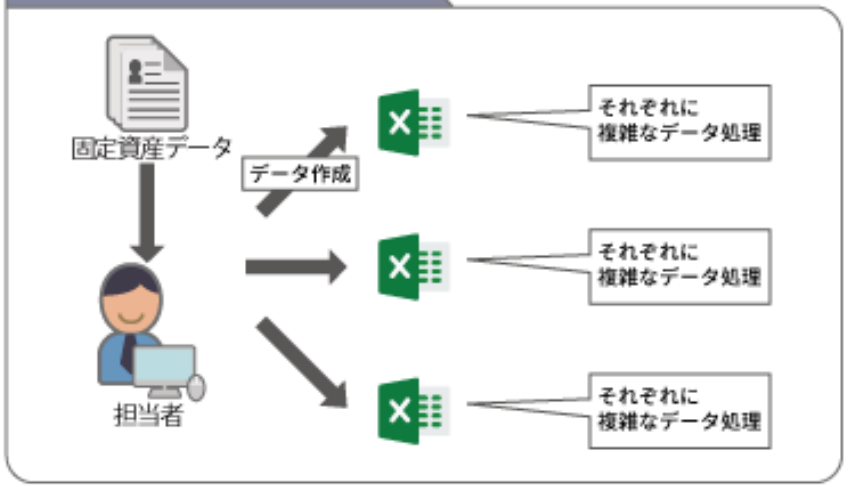
製造

情報システム統括部

選定理由

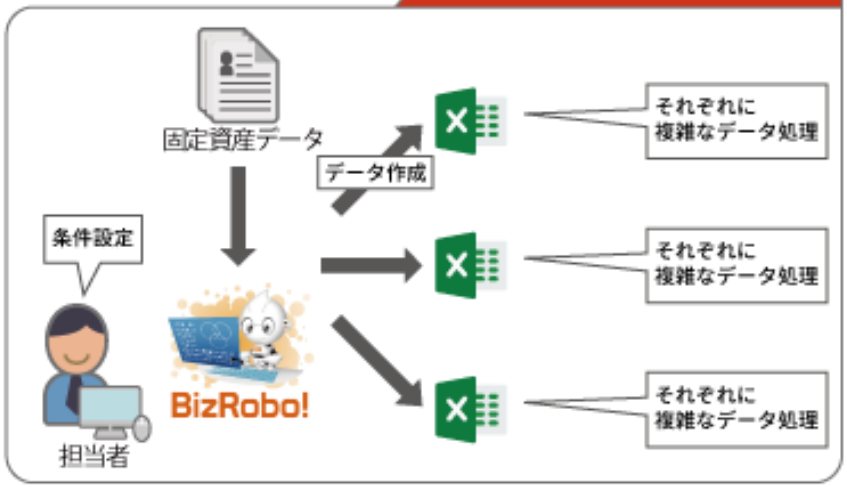
- 全社から集められたデータから事業所毎に監査用のエクセルを作成するのだが、
  まず集められたエクセルの書式がバラバラでさらに監査用のエクセルを作成する条件が非常に複雑で1つ作るのに数十分かかっていた

BizRobo! 導入前



1. 各事業所から固定資産データをもらう
2. 監査対象の事業所毎にエクセルを作成する
3. 事業所の全固定資産データのシートを作成する
4. 建設仮勘定用のシートを条件を指定して作成する
5. 貸与資産用のシートを条件を指定して作成する
6. 固定資産から条件を指定して抜粋したシートを作成する

BizRobo! 導入後



1. 各事業所から固定資産データをもらう
2. ロボットを使ってデータをDBにアップロードする
3. 作成したい事業所の条件をエクセルに書き込む
4. ロボットを実行すると指定した事業所のエクセルが作成される

実施効果

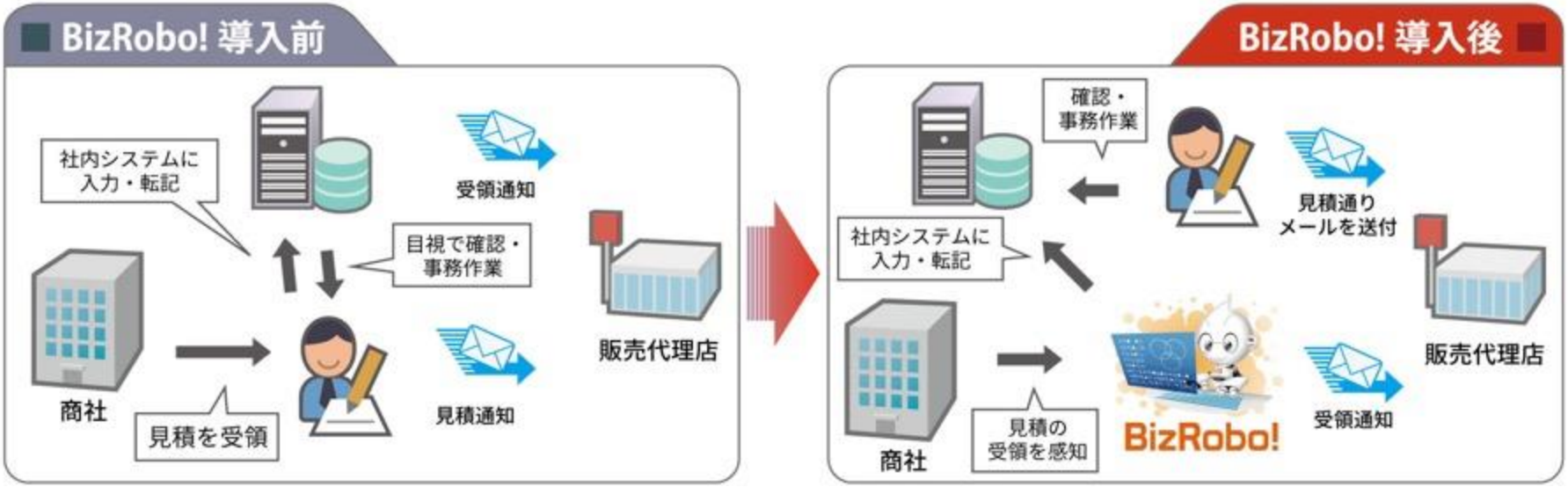
- 数十ある事業所に監査に行くタイミングで毎回手作りで作成していた
- 1社あたり数十分～ものによっては1時間以上かかっていたので、年間では100時間近い効果になっている

© OPEN, Inc. All rights reserved.

商社向け見積業務

選定理由

- 取引が1か月あたり80件以上あり、人間が行うとミスが少なからず生じていた
- 業務にかかる時間そのものは短いが、
  書類データの転記やメールの送付など細々とした作業が多く、ロボット化して従業員が他の業務に充てる時間を増やしたい



1. 担当者が商社からの見積を受領
2. 見積書のデータを社内システムに入力・転記
3. 販売代理店へ受領通知のメール送付
4. システム処理の結果を目視で確認し、事務作業を行う
5. 代理店に見積通知メールを送付(転記作業)

1. ロボットが見積の受領を感知
2. 見積書のデータを社内システムに入力・転記
3. ロボットが代理店へ受領通知のメールを送付
4. 担当者がシステム処理の結果を確認し、ロボットが事務作業を行う
5. 代理店に見積通リメールを送付(転記作業)

実施効果

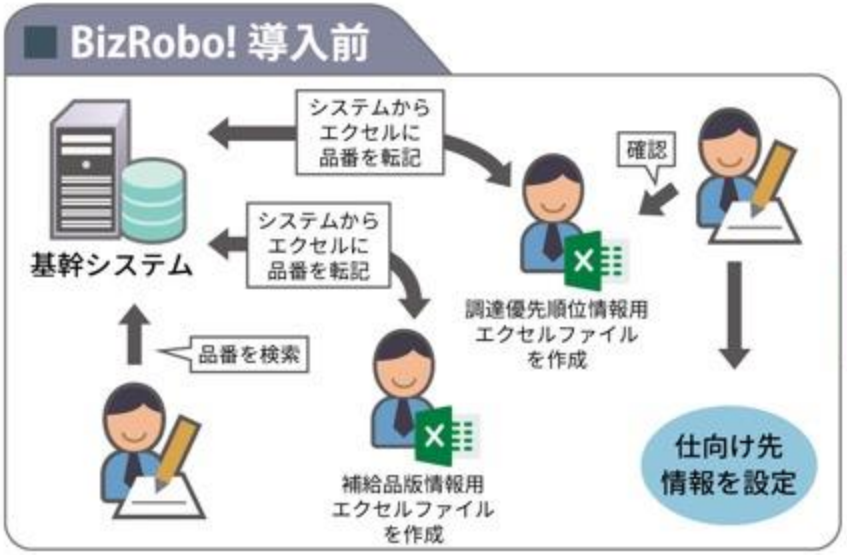
- この業務は月に30時間ほどかかっていたが、ロボット導入後は6時間ほどに短縮が可能になった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

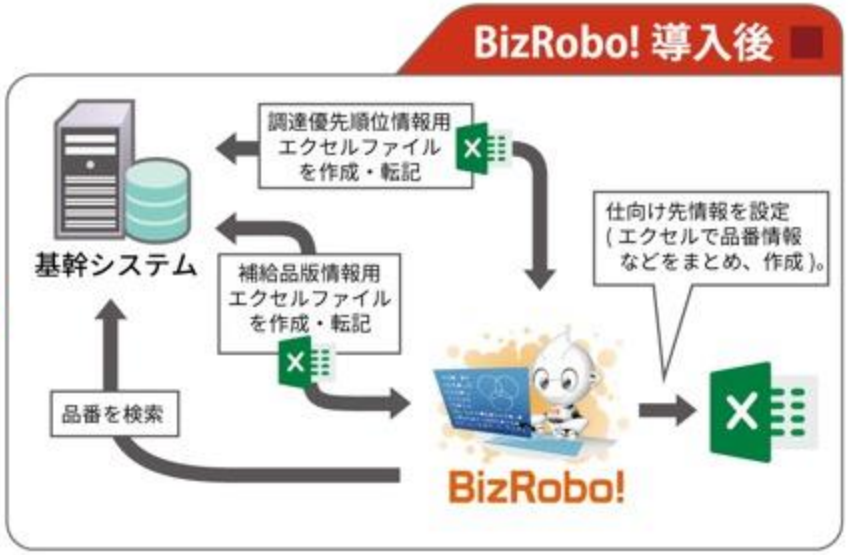
仕向け先特定業務

選定理由

- 補給品版情報を自社内の基幹システムで管理しているが、仕向け情報はシステムで自動処理できない。
  そのため大量の情報を人間が目視で検索・転記していた
- 品番は約65種類あり、検索パターンや検索量が膨大
- 1日約8時間、月に160時間かかるほど業務量が多い



1. 担当者が基幹システムで品番を検索し、表示された品番を転記
2. 補給品版情報をシステムからエクセルに転記
3. 調達優先順位情報をシステムからエクセルに転記
4. 確認結果に基づき、仕向け先情報を設定



1. ロボットが基幹システムで品番を検索し、表示された品番を転記
2. 補給品版情報をシステムからエクセルに転記
3. 調達優先順位情報をシステムからエクセルに転記
4. 確認結果に基づき、仕向け先情報を設定
   (エクセルで品番情報などをまとめ、作成)

実施効果

- 全体業務の75%をロボットが代行し、人間の作業量は160時間→40時間に減少
- ロボットが代行することにより、ロボが稼働している間に担当者は別の仕事が行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

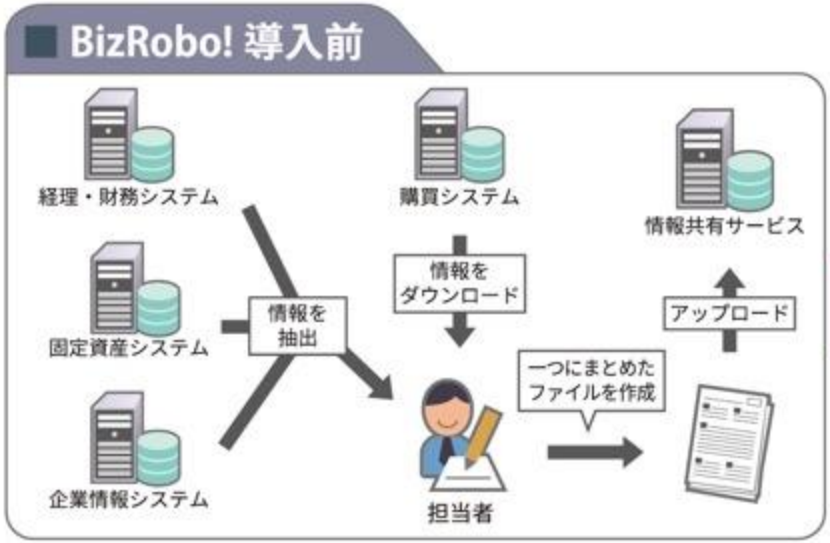
経理・財務・企業情報・購買システムの情報を出力し共有する業務

製造

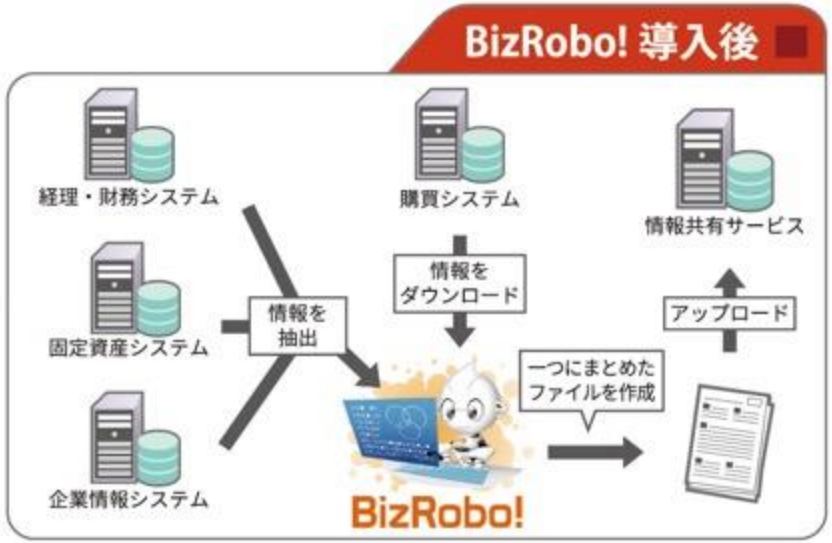
先端研究本部

選定理由

- ５種類の社内外のシステムを用いてデータを抽出・加工するため、システム間のデータの行き来が面倒
- 既存のデータを一カ所に集めるだけの業務のため、社員がモチベーションを維持しにくい
- それぞれの作業は単純だが、複数作業を行うと煩雑になりマニュアルでは効率が悪くなる



1. 担当者は経理・財務システムを起動し情報を抽出
2. 固定資産システムを起動し情報を抽出
3. 企業情報システムを起動し情報を抽出
4. 購買システムから情報をダウンロード
5. データを加工し、一つにまとめたファイルを作成し、アップロード



1. ロボットは経理・財務システムを起動し情報を抽出
2. 固定資産システムを起動し情報を抽出
3. 企業情報システムを起動し情報を抽出
4. 購買システムから情報をダウンロード
5. データを加工し、一つにまとめたファイルを作成し、アップロード

実施効果

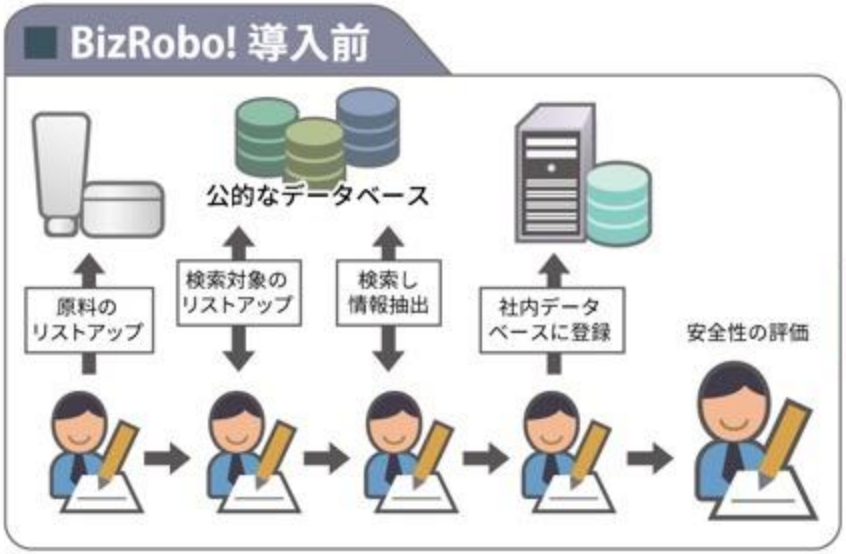
- マニュアルで行っていた業務全てをロボットに代行させることに成功
- 5種類のシステムを用いる業務でも、
  多くのアプリケーションに対応可能なBizRobo!は全て代行可能で他部門でもRPAの活用が始まった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

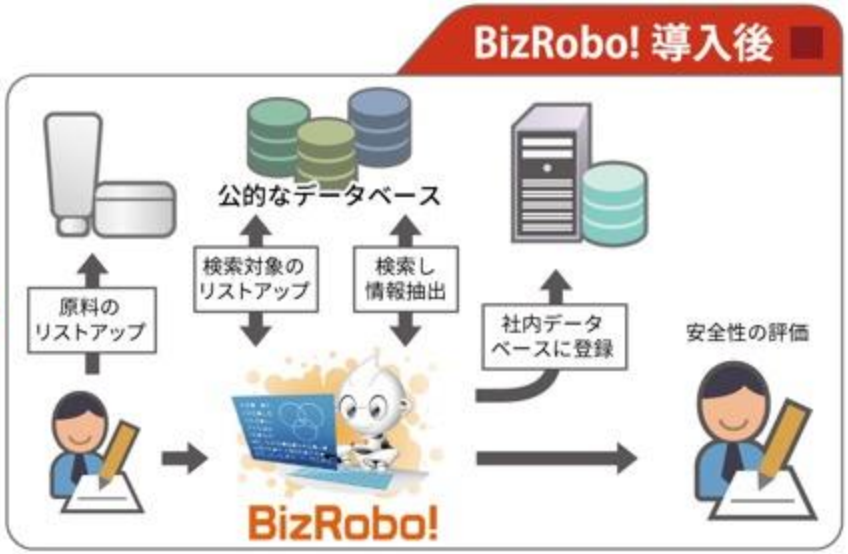
化粧品の原料の安全評価に関する業務

選定理由

- 一つの商品あたり数十件の原材料があり、それぞれについて複数のデータベースを確認する必要がある
- 評価基準をクリアしたものでないと既製品として出せないので、複数のデータベースから評価を何重にも行う必要があった
- 人手をかけて行うことが必要なため、業務量の削減が課題であった



1. 担当者が化粧品に使用している原料のリストアップ
2. 国内外の公的なデータベースの検索対象のリストアップ
3. 原料をデータベースで検索し、情報抽出
4. 抽出したデータを社内データベースに登録
5. データベースに登録した内容をもとに安全性の評価を実施



1. 担当者が化粧品に使用している原料のリストアップ
2. ロボットが国内外の公的なデータベースの検索対象のリストアップ
3. 原料をデータベースで検索し、情報抽出
4. 抽出したデータを社内データベースに登録
5. 担当者がデータベースに登録した内容をもとに安全性の評価を実施

実施効果

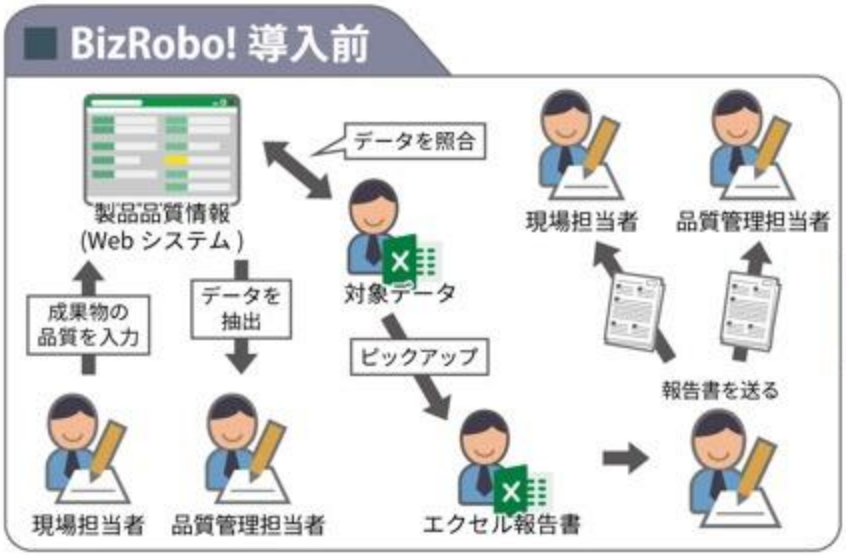
- 膨大な量の検索・情報抽出作業および安全評価に関わる情報収集工数の削減
- 安全性評価に人的リソースを割くことにより、安全性の向上と担当者の負担減少に寄与

© OPEN, Inc. All rights reserved.

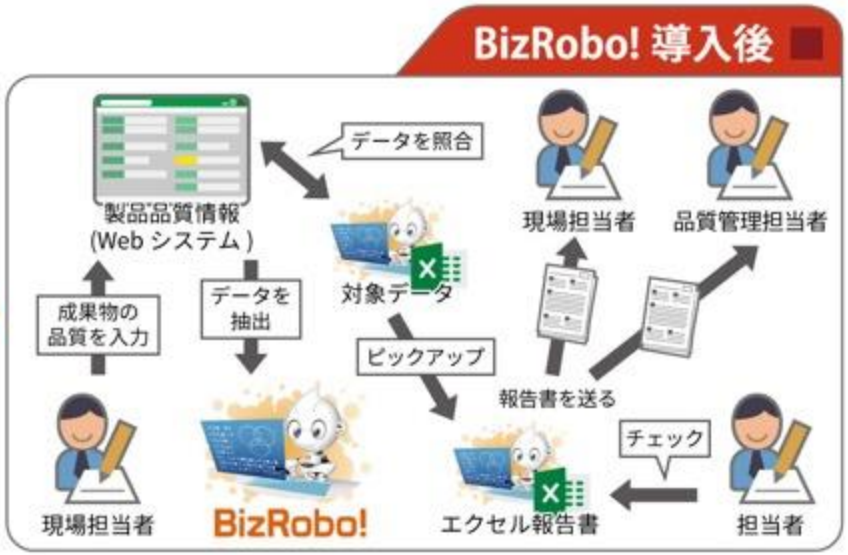
製品品質情報の管理業務

選定理由

- 品質が落ちてはならない
- 納品時期が決まっている中で品質管理担当者が必ずチェックし、品質担保のうえ納品する必要がある
- 担当者の数は増やせない中で業務量は一時的に大きくなるためRPAを導入して負担を減らしたい



1. 現場担当者が製品品質情報システムに対して成果物の品質を入力
2. 品質管理担当者がシステムからデータを抽出
3. 品質管理すべき対象データとシステム内のデータを照合
4. 抽出した結果の中から、品質をクリアしていないデータ(製品)をピックアップ
5. 不適合なものをエクセル報告書としてまとめ、他部署に報告書を送付



1. 現場担当者が製品品質情報システムに対して成果物の品質を入力
2. ロボットがシステムからデータを抽出
3. 品質管理すべき対象データとシステム内のデータを照合
4. 抽出した結果から、品質をクリアしていないデータをピックアップ
5. 不適合なものをエクセル報告書としてまとめ、他部署に報告書を送付

実施効果

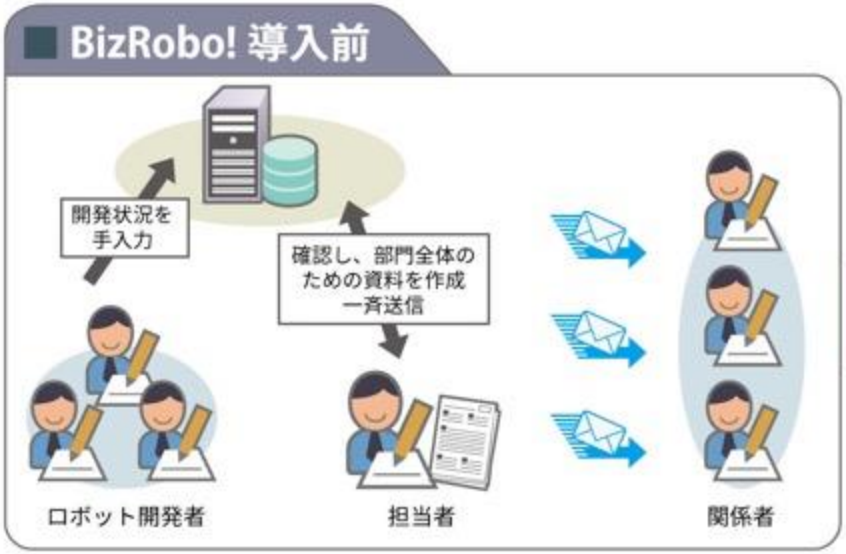
- 作業に関わる工数削減
- 品質向上に向けた新規施策提案・実現に注力でき、不適合製品の減少につながった
- データを簡単に可視化できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

RPAの開発状況を週ごとに集計し、メールで通知する業務

選定理由

- RPAを社内全体に展開していくなかで必要となった業務
- 他のプロジェクト管理にも応用が可能なため、プロジェクト管理ロボットの第一号として作成した



1. 各ロボットの開発者が、ロボットの開発状況を手入力
2. 担当者はデータを確認し、部門全体のための資料を作成
3. まとめたデータを関係者に一斉送信

1. 各ロボットの開発者が、ロボットの開発状況を手入力
2. ロボットはデータを確認し、部門全体に共有するための資料を作成
3. まとめたデータを関係者に一斉送信

実施効果

- 週報をもとにRPA推進やロボット開発の状況を議論することが可能となった
- 定例会議で情報共有の時間が短くなり、次のアクションプランを考える時間を増やすことが可能となった
- 他のプロジェクト管理にも同様のロボットを導入できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

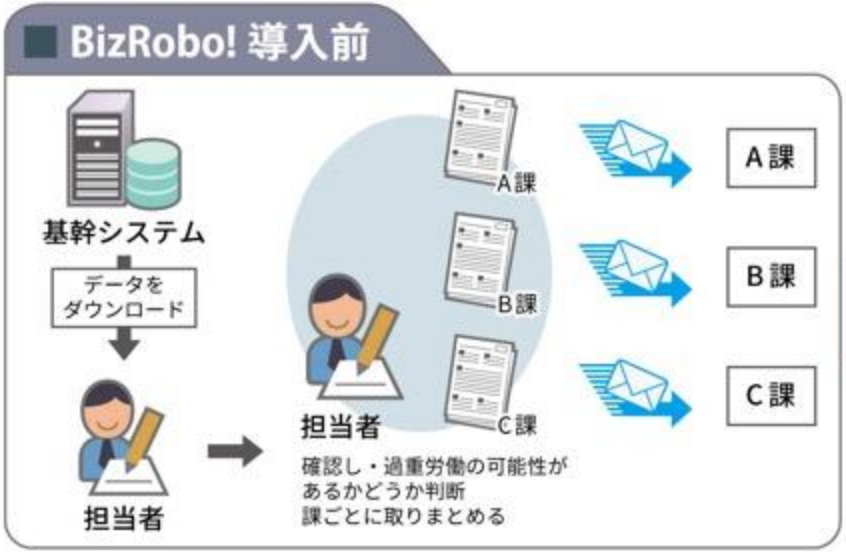
過重労働の可能性がある社員の上司にメールを通知する業務

製造

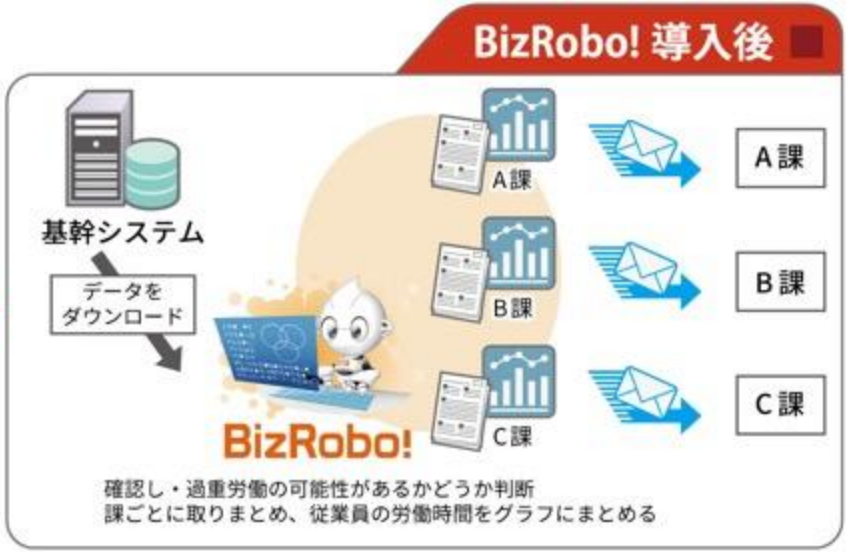
総務部

選定理由

- 社内において勤怠管理が厳しくなったため出来た新しい業務だが、忙しくあまり手が付けられていない
- ルールベースかつスケジュールが完全に定まっている(金曜日に１回行う)業務のため、RPAに任せやすいと判断した



1. 担当者は勤怠システムからデータをダウンロード
2. 各従業員の労働時間を確認し、過重労働の可能性を判断
3. 過重労働の可能性がある従業員のデータを課ごとに取りまとめる
4. 取りまとめた課ごとのデータを、各課の上司にメール送信



1. ロボットは勤怠システムからデータをダウンロード
2. 各従業員の労働時間を確認し、過重労働の可能性を判断
3. 過重労働の可能性がある従業員のデータを課ごとに取りまとめる
4. 各課ごとの従業員の労働時間をグラフにまとめる
5. 取りまとめた課ごとのデータとグラフを、各課の上司にメール送信

実施効果

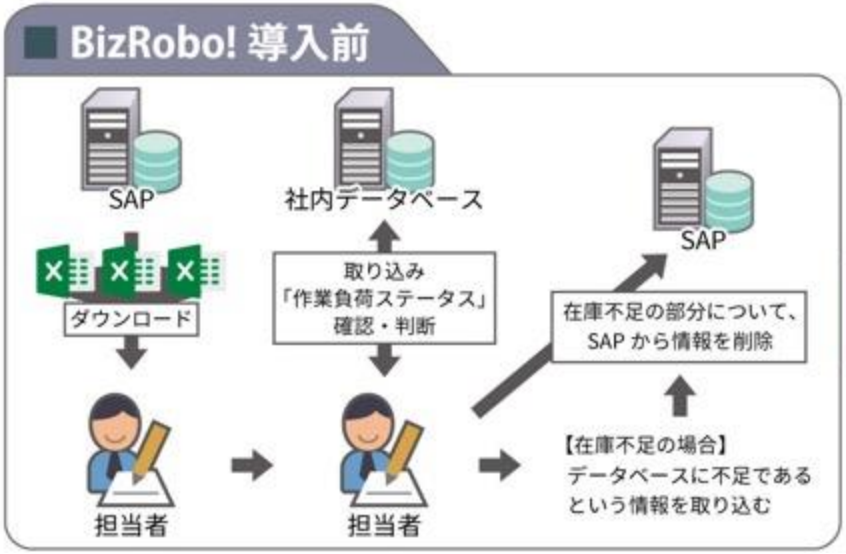
- これまで担当者が忙しく定期的に行えていなかったが、
  ロボットに代行させることで、必ず週1回業務を遂行できるようになった
- 従来はまとめてデータを送付するだけだったが、従業員のデータをグラフにしたものも添付するようになったため、
  上司は部下の労働状況を一目で把握できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

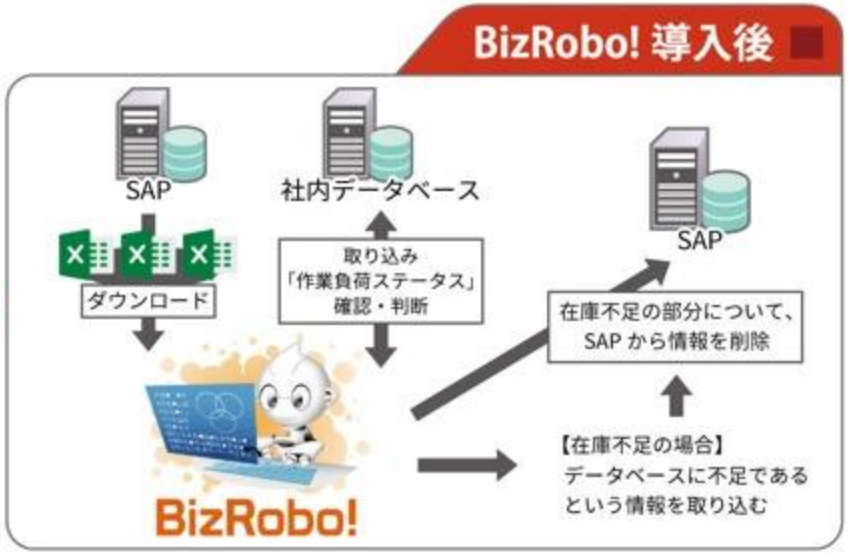
倉庫の在庫を編集する業務

選定理由

- 毎日決まったタイミングで行うルーティンワークのため、
  スケジュール管理が可能なBizRobo!で業務を代行することが適していると判断
- 時期によって業務量が変化するため、
  担当者の作業量も大きく変化し、この業務に束縛される時間を一定に保つためにもロボットによる代行を実施



1. 担当者はSAPから３つのExcelファイルをダウンロード
2. Excelファイルの内容を社内データベースに取り込む
3. データベースの「作業負荷ステータス」をもとに在庫不足か判断
4. 在庫不足の場合、データベースに不足であるという情報を更新
5. 在庫不足の部分について、SAPから情報を削除



1. ロボットはSAPから３つのExcelファイルをダウンロード
2. Excelファイルの内容を社内データベースに取り込む
3. データベースの「作業負荷ステータス」をもとに在庫不足か判断
4. 在庫不足の場合、データベースに不足であるという情報を更新
5. 在庫不足の部分について、SAPから情報を削除

実施効果

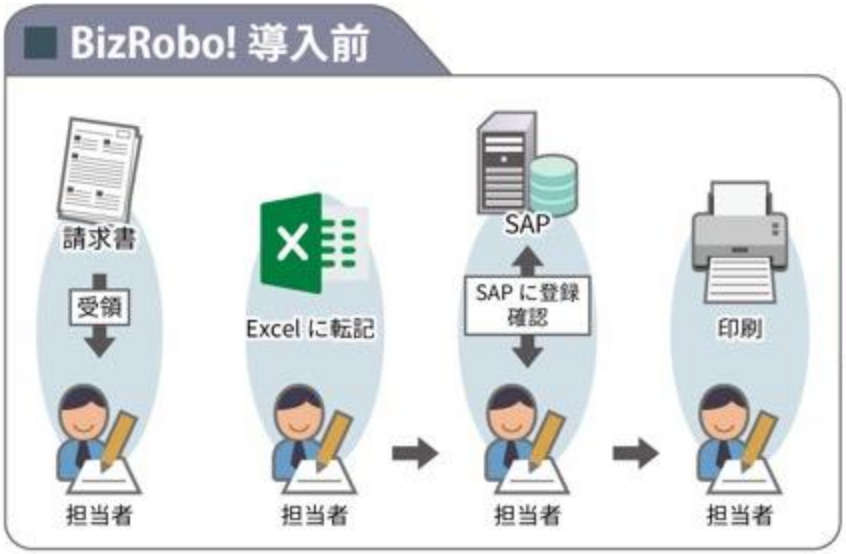
- 在庫が状況を自動的に確認することができるようになった
- 普段は定期的に稼働するようにしておいて、時期によっては稼働回数を任意で増やせる

© OPEN, Inc. All rights reserved.

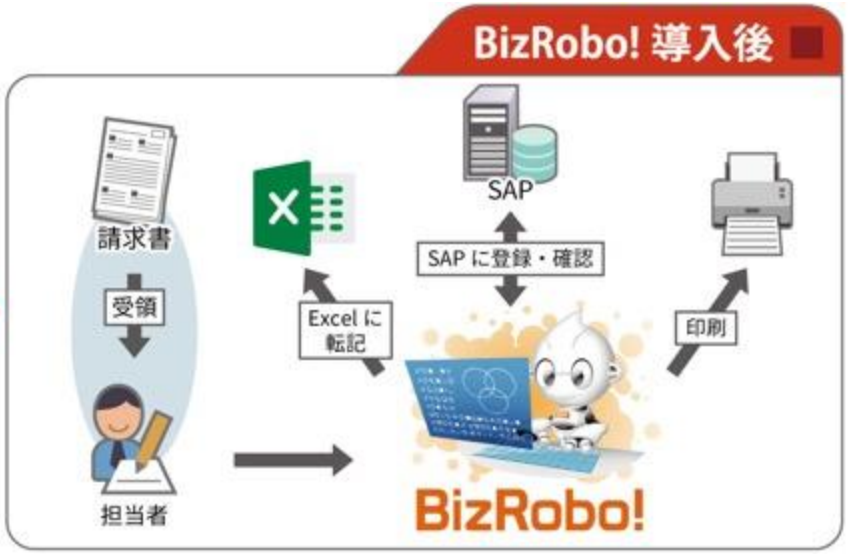
請求書の内容を経費として登録・印刷する業務

選定理由

- 本来ならば項目を詳しく分けて経費登録を行いたいが、
  項目が多くなると人手では対応できないため、大まかな「外注費」「雑費」などの名前で登録していた
- このような状況だと明細登録を見ても内容が何も分からず、コスト分析業務が全く行えない



1. 担当者はメールに添付された請求書を受領。
2. 請求書のデータをExcelに転記し、加工(行の入れ替えなど)
3. 請求書データの項目をまとめ、SAPに伝票として登録。
4. 請求書のデータとSAPに登録された伝票を突合し、
   ミスがないか確認し、伝票を印刷



1. 担当者はメールに添付された請求書を受領。
2. 請求書のデータをExcelに転記し、加工(行の入れ替えなど)
3. 請求書データの項目をまとめ、SAPに伝票として登録。
4. 請求書のデータとSAPに登録された伝票を突合し、
   ミスがないか確認し、伝票を印刷

実施効果

- 業務時間が40時間から2時間に
- ロボットが代行することにより、項目数が膨大でも短時間で業務を遂行できるようになった
- 明細登録の項目をより詳細に作成でき、詳細な伝票内容に基づいたコスト分析も行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

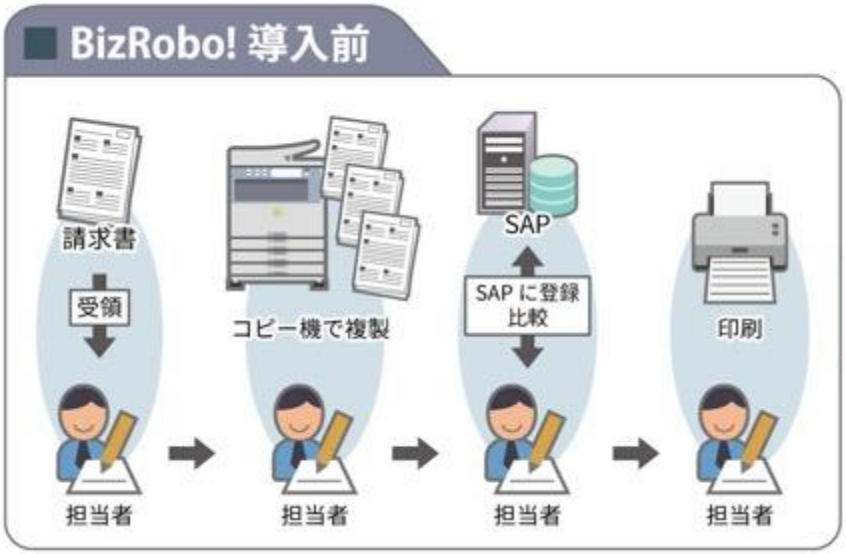
通信費請求書を
社内システムに登録・伝票として印刷する業務

製造

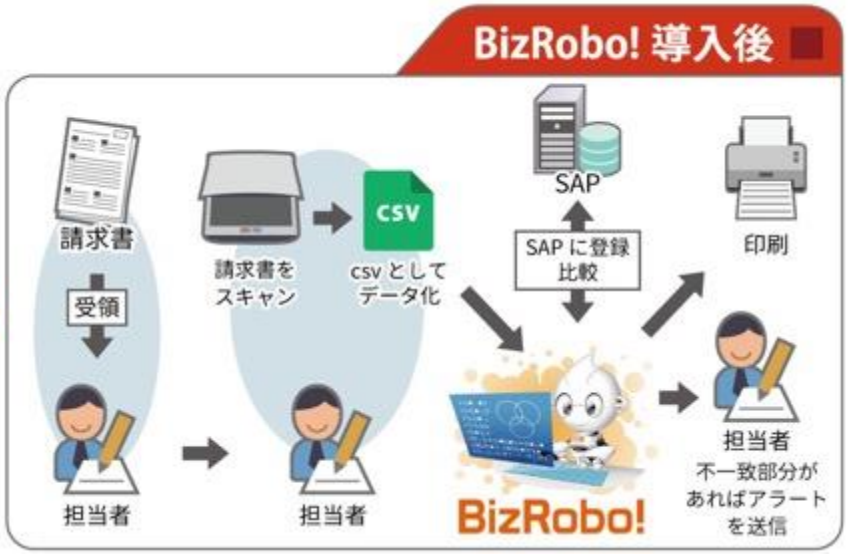
IT企画部

選定理由

- 人間が入力内容を肉眼で確認するために、一度請求書を全てコピーする必要があったが、これに時間がかかりかつ紙資源もムダとなっていた。
- 書類をデータ化する部分と、データを転記・修正する部分両方に時間がかかっており、OCRとBizRobo!の融合が適していると判断した。



1. 担当者は請求書を紙媒体で受領
2. 請求書をコピー機で複製
3. 請求書の内容を伝票としてSAPに登録
4. コピーした請求書とSAPの伝票の内容を肉眼で見比べる
5. 伝票を印刷



1. 担当者は請求書を紙媒体で受領
2. OCRにより請求書の内容をCSVとしてデータ化
3. ロボットは請求書データをSAPに伝票として登録
4. CSV化した請求書とSAPの伝票データを突合し、不一致部分があれば担当者にアラートを送信

実施効果

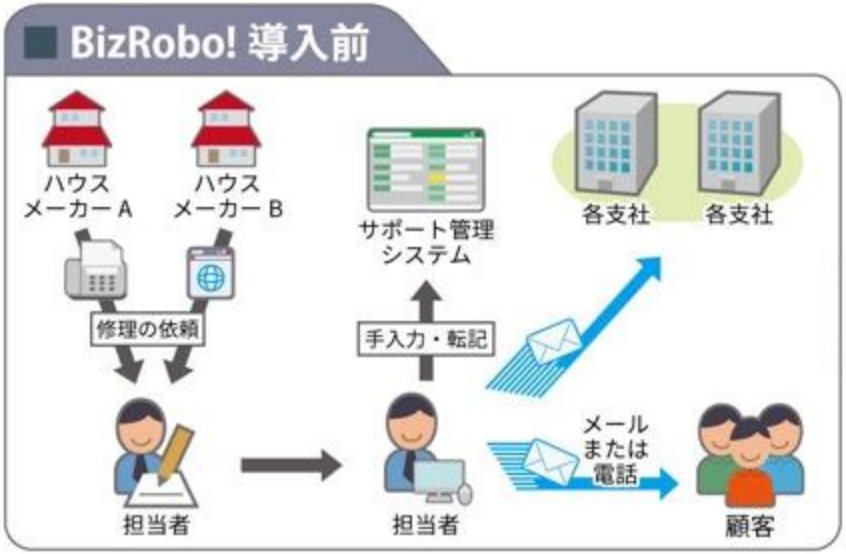
- １件あたりの登録作業スピードが13倍になった
- 業務全体の処理時間を22時間から2時間に
- OCRとBizRobo!を組み合わせることで、紙媒体に関わる業務でも一気通貫でロボットが代行可能

© OPEN, Inc. All rights reserved.

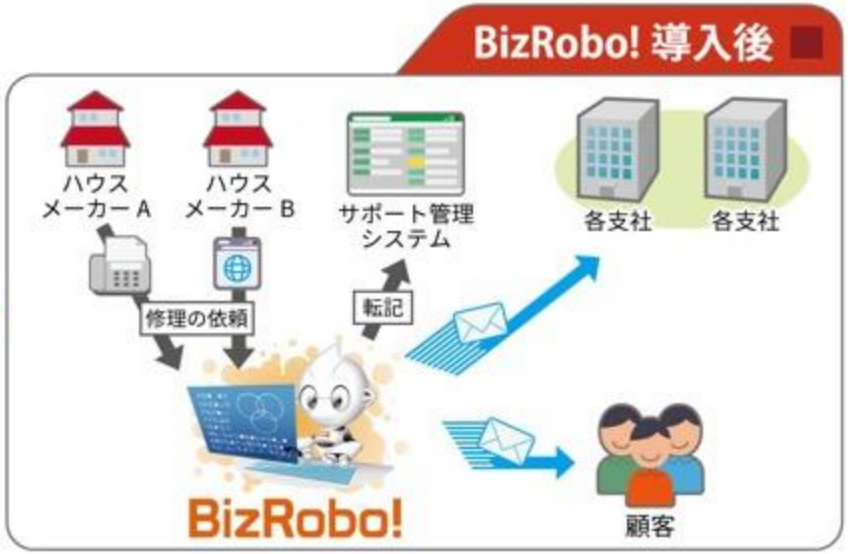
ハウスメーカーからの修理を受付する業務

選定理由

- 繁忙期と閑散期の受付数の差が2倍程度あり、時期によっては大幅に顧客への連絡が遅れていた
- FAXやWEB申し込みの転記作業に時間がかかり、対応スピードが鈍化し顧客満足度が低下していた
- 顧客ごとに申込みのシステムが違うため、電子データであっても人がデータを転記する必要があった



1. 顧客(ハウスメーカー)から修理の依頼が届く
   ※FAXの申し込みが80%、WEB申し込みが20%。
2. 担当者はサポート管理システムに申し込み内容を手入力・転記
3. 転記内容をもとに申し込み内容を各支社にメールで送信
4. 顧客に、申し込みを受け取った旨をメールまたは電話で連絡



1. 顧客(ハウスメーカー)から修理の依頼が届く
2. FAXの内容はOCRを用いて電子データに変換
3. ロボットは電子化された申し込み内容をサポート管理システムに転記
4. 電子化データの住所を判断し、各支社にメールを送信
5. 顧客に、申し込みを受け取った旨をメール送信

実施効果

- 繁忙期に修理手配が遅くなることに不満があったが、受付スピードの向上により満足度が向上
- 担当者は緊急性かつ柔軟性の必要な電話対応に多くの時間を使うことが可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

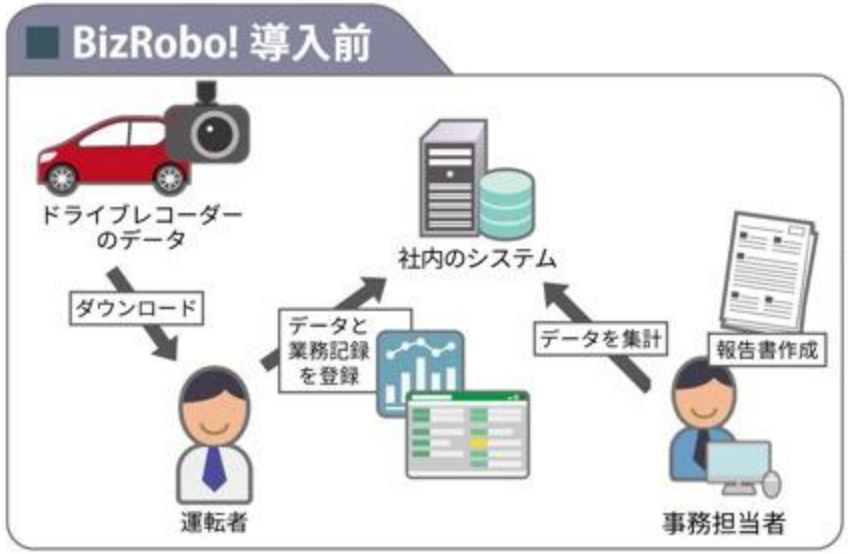
社用車のドライブレコーダーの運行データをダウンロード・整理する業務

製造

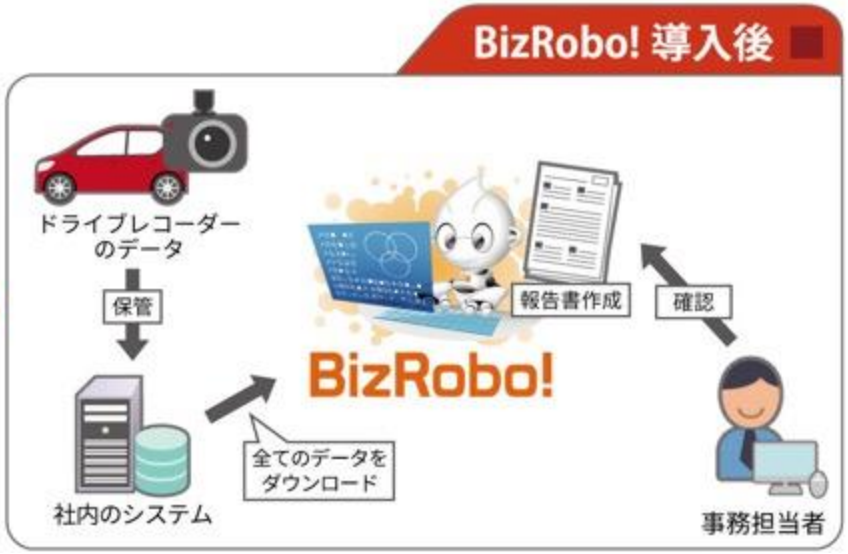
IT部

選定理由

- 1,000台以上の社用車があり、各々の運転者が各週に時間を見つけてドライブデータをダウンロードしていた
- 1,000台以上のデータを１つにまとめる必要があるため、非常に時間がかかっていた



1. 各々の運転者はドライブレコーダーのデータをダウンロード
2. 運転者はダウンロードしたデータと業務記録を社内のシステムに登録
3. 事務担当者はシステムのデータを集計し、
4. 部署や場所ごとに整理してまとめた報告書を作成



1. ドライブレコーダーのデータが１つのサーバーに保管
2. ロボットはサーバーから全てのデータをダウンロード
3. ダウンロードしたデータを部署や場所ごとに整理し、報告書を作成
4. 担当者は確認

実施効果

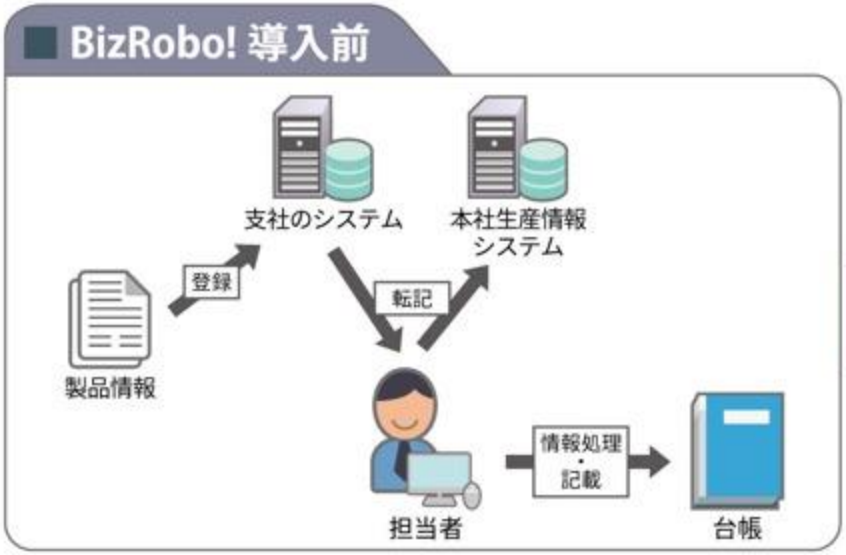
- 年間1万4,000時間相当の余剰時間を創出
- もともと1,000人の運転者が行っていた作業を、１台のロボットで代行可能
- 業務を全てBizRobo!が代行し、運転者と事務担当者はルーティンワークから解放

© OPEN, Inc. All rights reserved.

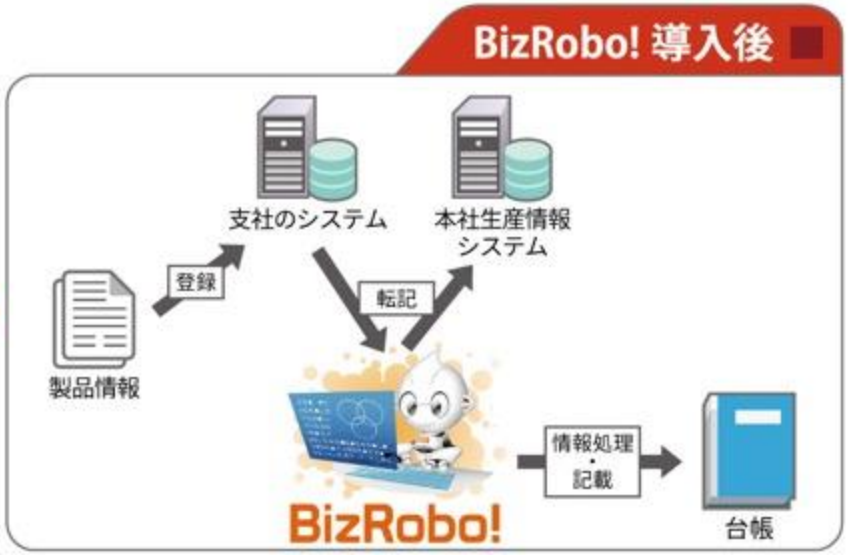
製品情報を複数の自社システムに書き込み、台帳に登録する業務

選定理由

- 社内で用いているシステムの画面遷移時間が非常に長く、担当者の待ち時間が非常に長い
- 1日あたりに登録可能な件数が少なく、製品情報取得からシステムへの登録まで数日かかる場合もある



1. 支社のシステムに製品情報がまとめて登録される
2. 担当者は製品情報の一部を本社の生産情報システムに転記
3. 同様に、顧客情報システム、販売情報システムにも転記
4. 最後に、転記して情報処理した結果を台帳に記載



1. 支社のシステムに製品情報がまとめて登録される
2. ロボットは生産・顧客・販売情報システムに製品情報を転記
3. ロボットは転記して情報処理した結果を台帳に記載

実施効果

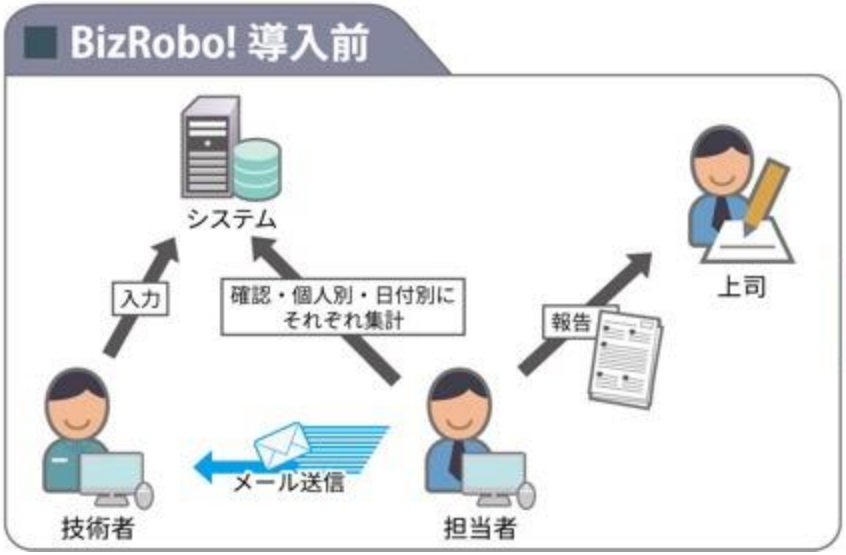
- 人間が行うには非効率な業務をロボットが代行し、月に160時間の余剰時間を創出した
- 1日の登録可能件数が60件以上となり、製品情報を取得してから1営業日以内にはシステムに登録できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

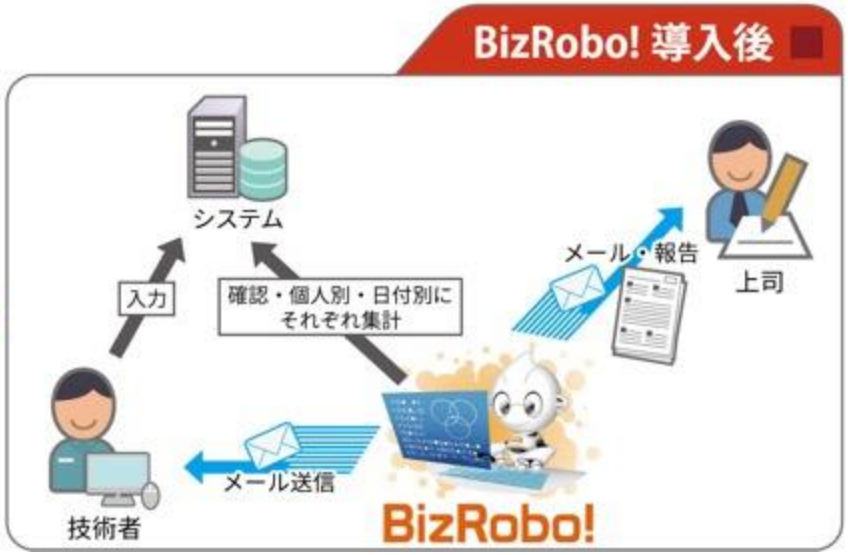
技術者の作業実績を集計する業務

選定理由

- 毎日始業に1時間必ず行う業務であり、そのために担当者はフレックス制が利用できなかった
- 土日に作業がある場合は、この1時間のためだけに担当者が出社する必要があった



1. 技術者は作業終了後、1日の作業実績をシステムに入力
2. 担当者はシステムの内容を確認し、個人別・日付別にそれぞれ集計
3. 作業時間が入力されていない場合、その作業者に
   入力漏れがあることをメールで通知
4. 担当者は毎週の作業実績をまとめ、上司に報告



1. 技術者は作業終了後、1日の作業実績をシステムに入力
2. ロボットはシステムのデータを抽出し、個人別・日付別にそれぞれ集計
3. ロボットは作業時間を入力していない作業者に、
   入力漏れがあることをメールで通知
4. 週次の作業実績をまとめ、上司に報告

実施効果

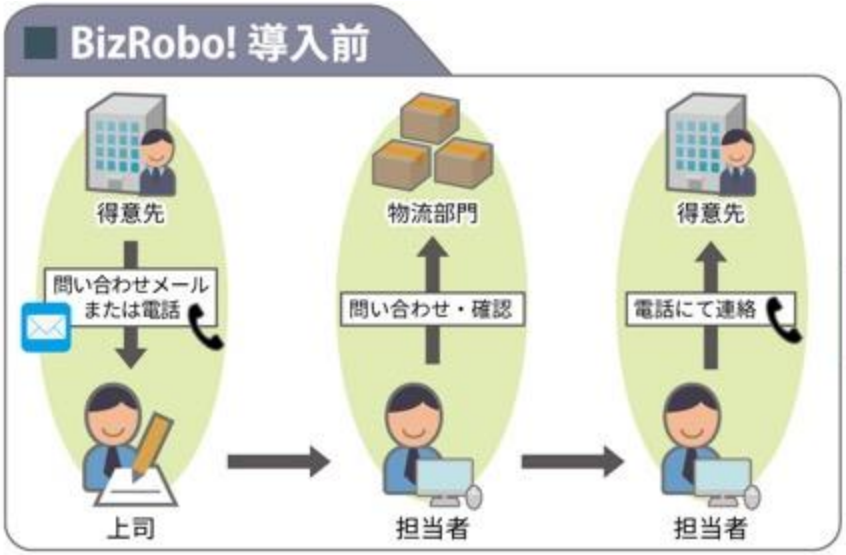
- 年間120時間の余剰時間を創出し、担当者がルーティーンワークから解放された
- 担当者はフレックス制の導入や休日出勤の削減ができ、働き方の自由度を大きく広げた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

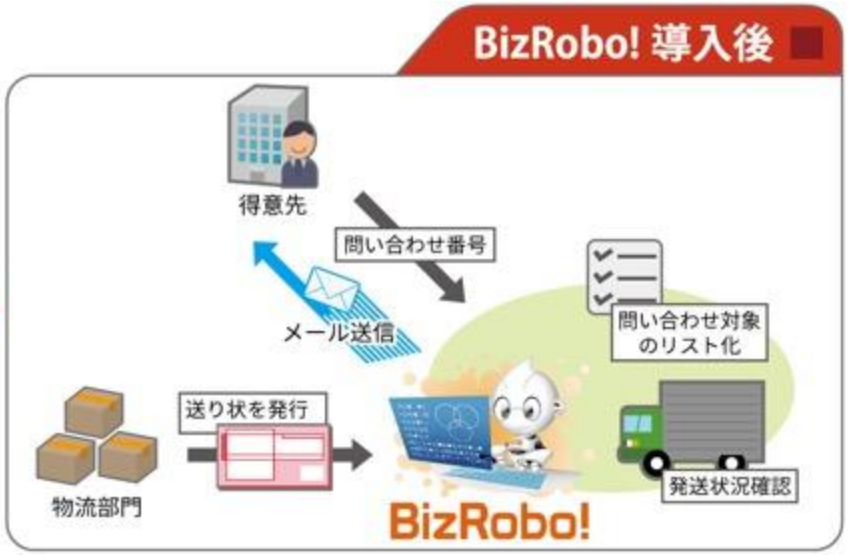
出荷状況のお問い合わせ対応業務

選定理由

- 出荷状況の問い合わせ対応が毎日5~10件あり、その都度業務が止まり作業者の負担が大きい
- 問い合わせごとに物流部門に確認する必要があり、対応にかかる工数が増大していた
- 問い合わせを行うのは主に得意の取引先のため、丁寧に対応する必要があった



1. 得意先から出荷状況の確認メールまたは電話を受領し確認
2. 物流部門に出荷状況を問い合わせる
3. 出荷状況を確認
4. 出荷状況を得意先で電話にて連絡



1. 物流部門にて送り状を発行、
   その際問い合わせ番号をロボットが得意先にメール送付
2. 問い合わせ番号をメールにて受領、問い合わせ対象をリスト化
3. ロボットが社内システムにて問い合わせ番号を参照し、発送状況を取得
4. 取得した発送状況を得意先にメールにて連絡

実施効果

- 問い合わせ対応にかかる工数が大幅に削減され、うんざりする業務から解放された
- ロボット導入にあわせて、既存の業務のやり方を変えるBPRも実施できた
- ロボット導入により、自社内での業務効率化につながったのに加え、得意先の満足度も向上

© OPEN, Inc. All rights reserved.

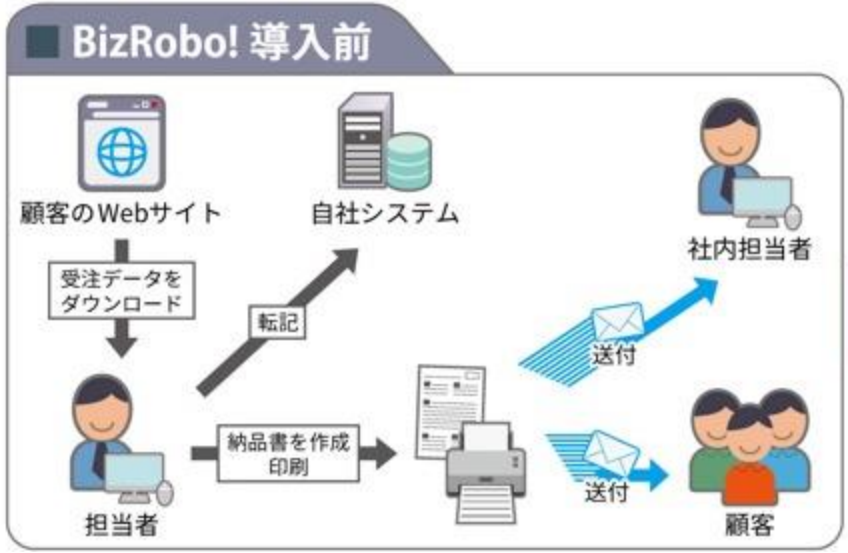
受注データを自社システムへ取り込み、納品書を出力する業務

製造

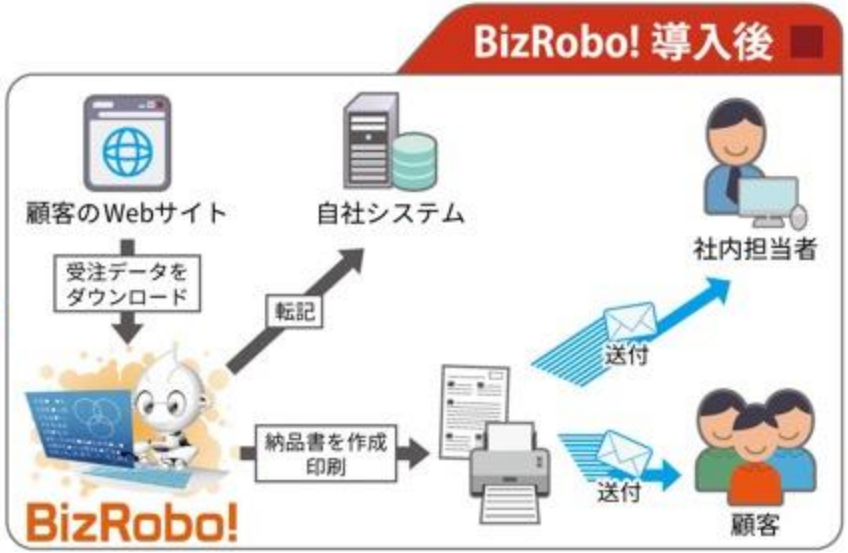
生産管理部

選定理由

- ヒューマンエラーが発生した際に、製品の納入遅れにつながる事態が発生していた
- 同様な業務へ水平展開できることを念頭に、ロボット化を目指した



1. 担当者は顧客のWebサイトから受注データをダウンロード
2. ダウンロードしたデータを自社システムに転記
3. ダウンロードしたデータと自社システムのデータから、納品書を作成
4. 納品書を印刷し、社内担当者と顧客に送付



1. ロボットは顧客のWebサイトから受注データをダウンロード
2. ダウンロードしたデータを自社システムに転記
3. データを抽出・転記し、納品書を作成
4. 納品書を印刷し、社内担当者と顧客に送付

実施効果

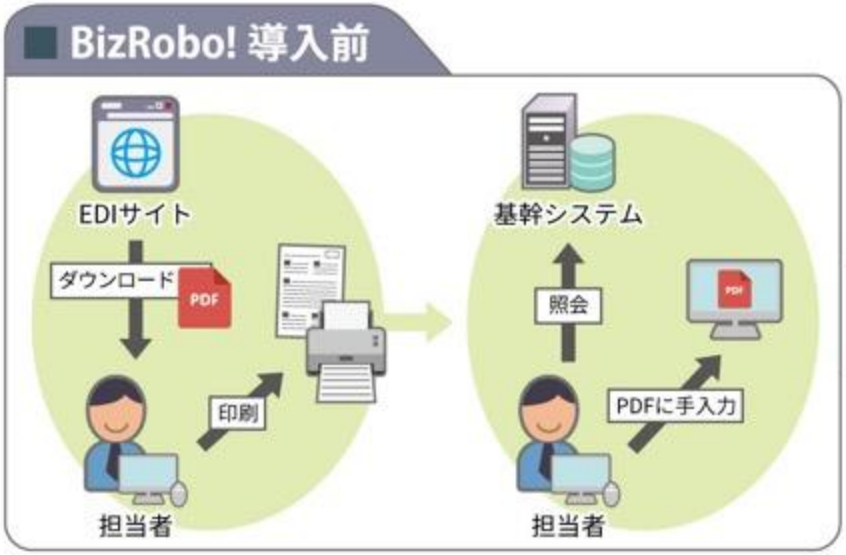
- １部署のみで年間200時間の余剰時間を創出、今後全社へ展開する予定
- 業務プロセスを見直し、ムダな業務フローを省くとともに、業務の標準化も促進
- 業務担当者のストレスを大幅に軽減

© OPEN, Inc. All rights reserved.

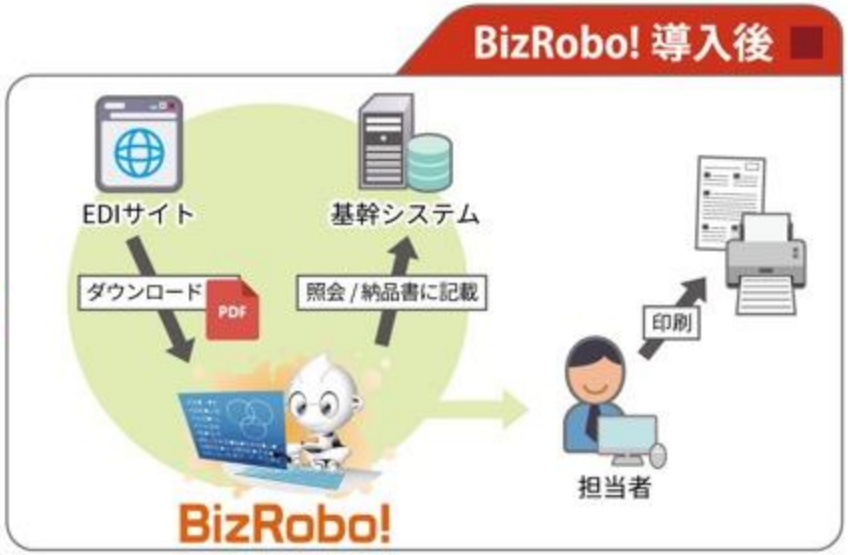
客先納品書への必要事項を手書きする業務

選定理由

- レガシーなシステムを利用しており、作業を人手で行うと1件あたり1時間近くもの時間を費やしていた
- 月に50件以上の件数があり、担当者は50時間以上を費やしていた
- PDFに注文書番号を手書きするなど、非システムかつ属人的な作業が残っていた



1. 担当者は顧客のEDIサイトにアクセスし、
   対象の納品書をダウンロード
2. 納品書を印刷
3. 納品書に記載されている注文番号を自社の基幹システムに照会
4. 自社における注文番号をPDFに手入力



1. ロボットは顧客のEDIサイトにアクセスし、
   対象の納品書をダウンロード
2. 納品書に記載されている注文番号を自社の基幹システムに照会
3. 自社における注文番号を納品書に記載
4. 担当者は納品書を印刷

実施効果

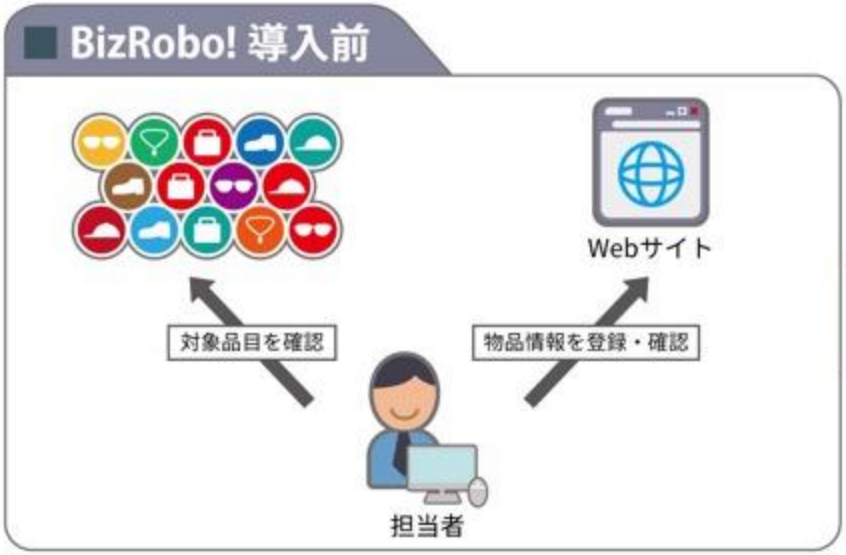
- 以前は毎月50時間かかっていた業務が、数分で終了するようになった
- 手書き要素がなくなり業務実行スピードも向上したため、顧客への対応が迅速に行えるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

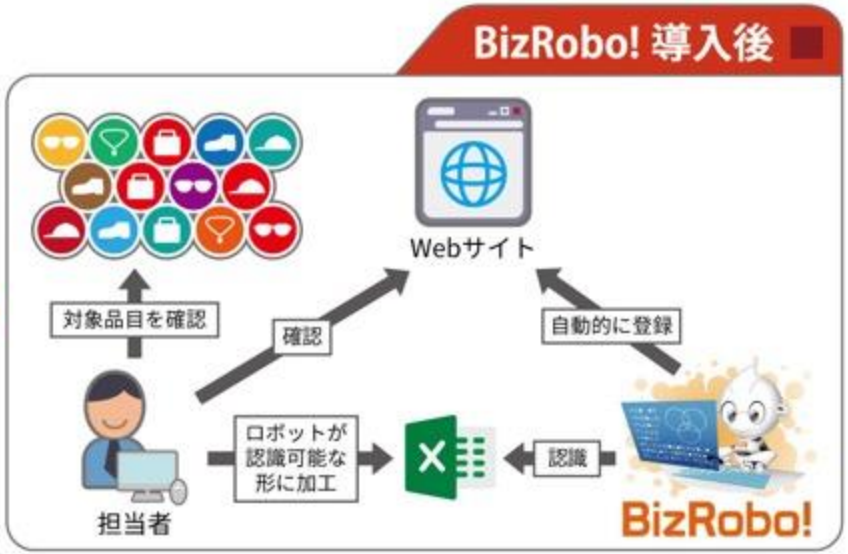
輸出入用Webサイトに物品内容を登録する業務

選定理由

- 月に30件ほどある業務だが、物品内容の登録項目が多く、手順が非常に煩雑だった
- 単純な転記作業の繰り返しであり、ヒューマンエラーの発生や担当者のモチベーション低下につながっていた



1. 担当者は対象品目を確認
2. Webサイトにアクセスし、1件ずつ物品情報を登録
3. 登録した内容にミスがないか十分に確認



1. 担当者は対象品目を確認し、
   品目リストをロボットが認識可能な形に加工
2. ロボットはWebサイトにアクセスし、全ての情報を自動的に登録
3. 担当者が確認

実施効果

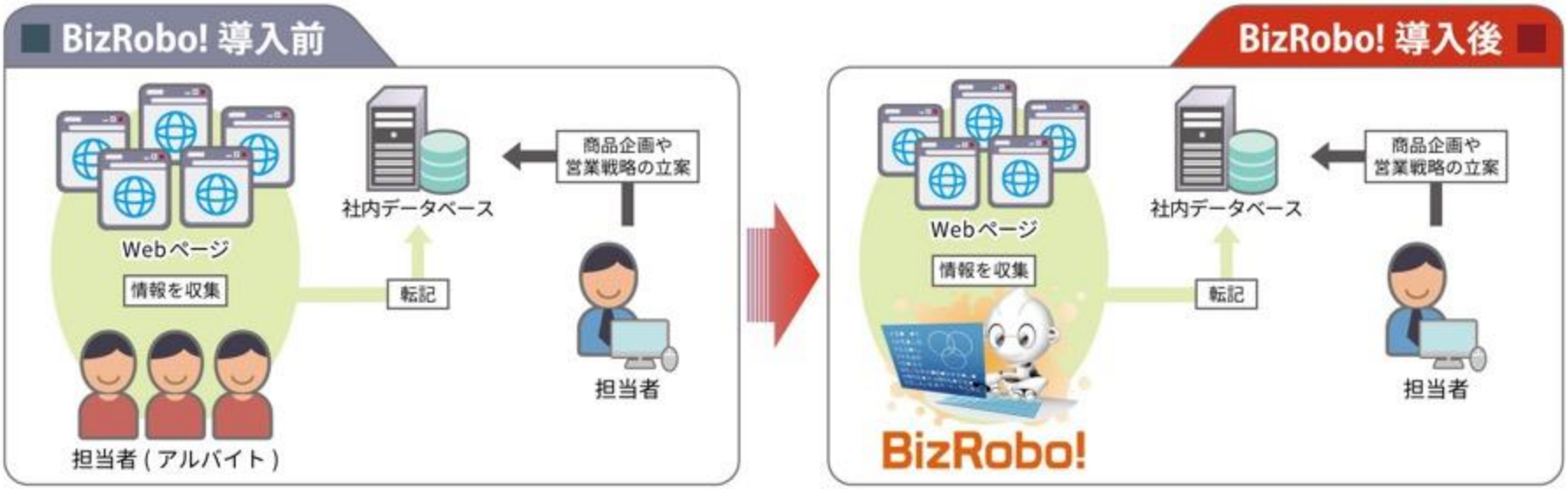
- 月30時間かかっていた業務を1時間に短縮
- これまで「事務作業が膨大」という理由で断念していた案件を受注でき、新規顧客の獲得につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

商品情報をWebサイトから収集し、登録する業務

選定理由

- 従来アルバイトを年に2回、20名雇っていた業務
- 作業量が多いため、一時的に専用の人員を雇うしかできなかった



1. 情報収集専用の担当者(アルバイト)を雇用
2. 担当者は様々なWebページから、自動車やタイヤに関する情報を収集
3. 社内のデータベースに転記
4. 商品企画や営業戦略の立案を行う担当者が使用

1. ロボットは様々なWebページから、自動車やタイヤに関する情報を収集
2. 社内のデータベースに転記
3. 商品企画や営業戦略の立案を行う担当者が使用

実施効果

- 年間2100時間以上の業務時間削減を実現
- 任意のタイミングでデータ収集を行えるようになった
- データ収集の「短サイクル化」が可能となり、商品や営業戦略への反映速度が上昇

© OPEN, Inc. All rights reserved.

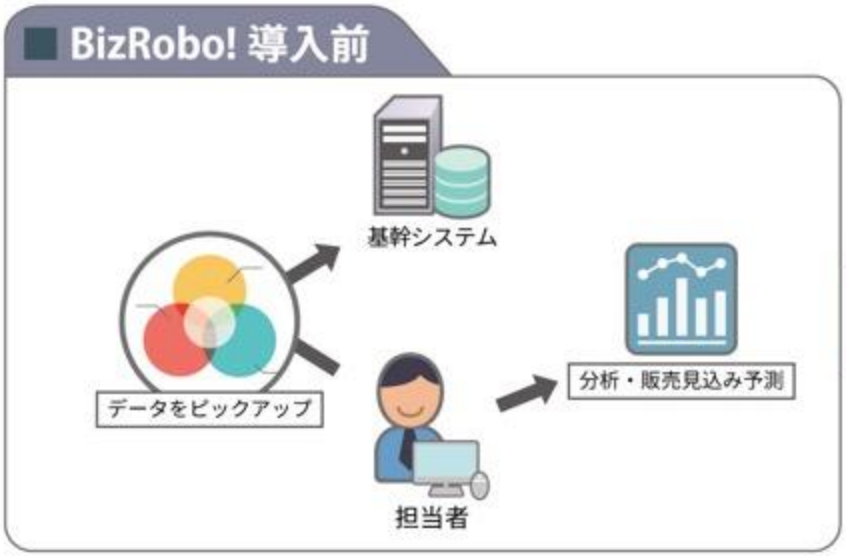
基幹システムからデータを収集し、販売見込みを予測する業務

製造

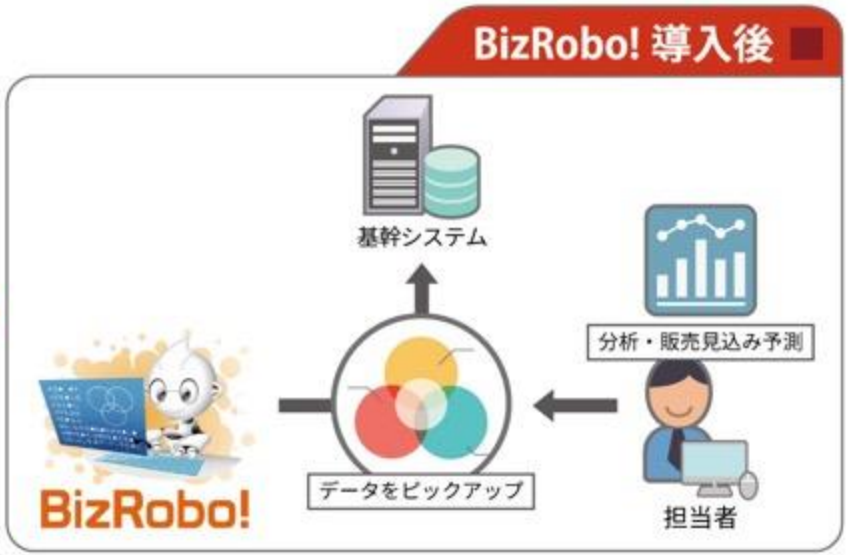
販売本部

選定理由

- 膨大な基幹システムからデータを収集する必要があり、人手で行うには限界があった
- データの収集に労力がかかっており、肝心のデータ分析や予測に十分な時間を使えていなかった



1. 担当者は基幹システムからデータをピックアップする。
   ※売上・マーケティング・季節などの様々な要因を考慮し、担当者が個々に情報を収集する。
2. 別の担当者がデータを分析し、販売見込みを予測する。



1. ロボットは基幹システムからデータをピックアップする。
   ※売上・マーケティング・季節などの様々な要因に対し、キーワード検索等を用いて自動で情報を収集する。
2. 別の担当者がデータを分析し、販売見込みを予測する。

実施効果

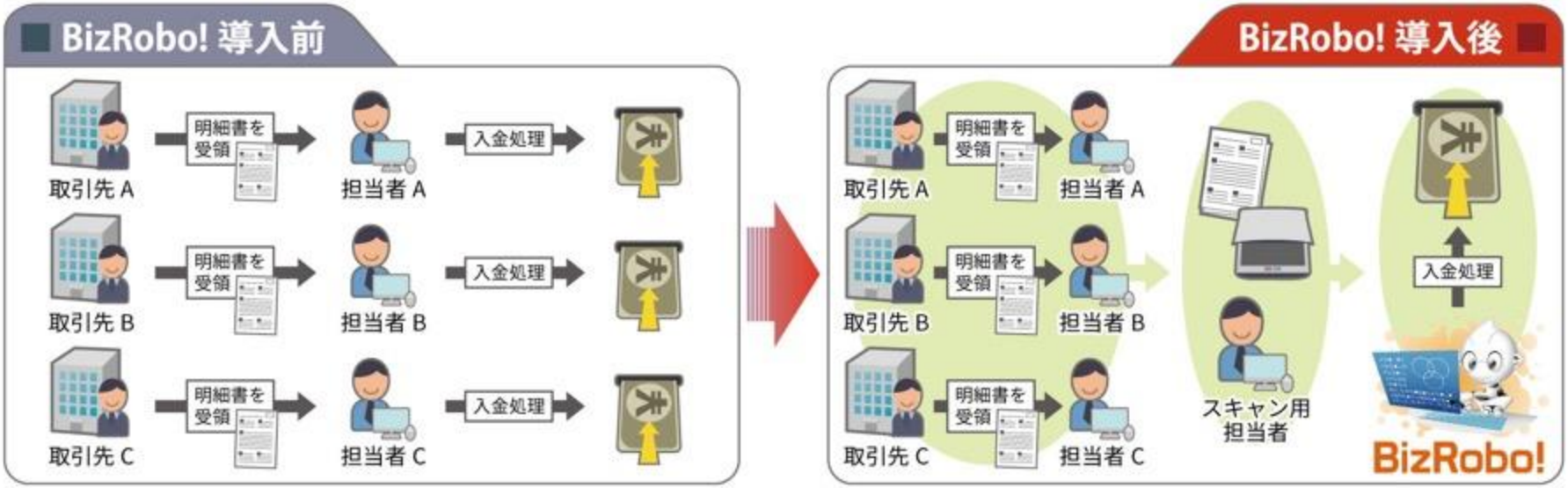
- 年間720時間の余剰時間を創出した
- データの収集範囲を広げ、正確性も高めることが可能となった
- データ収集はロボットが代行し、人間は分析と予測に集中できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

各取引先に入金を行う業務

選定理由

- 取引先から毎月段ボール一箱分にもなる紙の支払い明細書が届くため、毎月その処理に追われていた
- 紙データのため、RPA（BizRobo!）単体で実施するのは不可能な業務であり、OCRとの組み合わせが必須であった



1. 各取引先から支払い明細書を担当者が受領
2. 各々の担当者ごとに入金処理

1. 各取引先から支払い明細書を担当者が受領。
2. スキャン用担当者が支払い明細書をスキャン。
   （OCRの認識率が低いものは担当者が明細書をチェックし手入力）
3. ロボットは入金処理を行う

実施効果

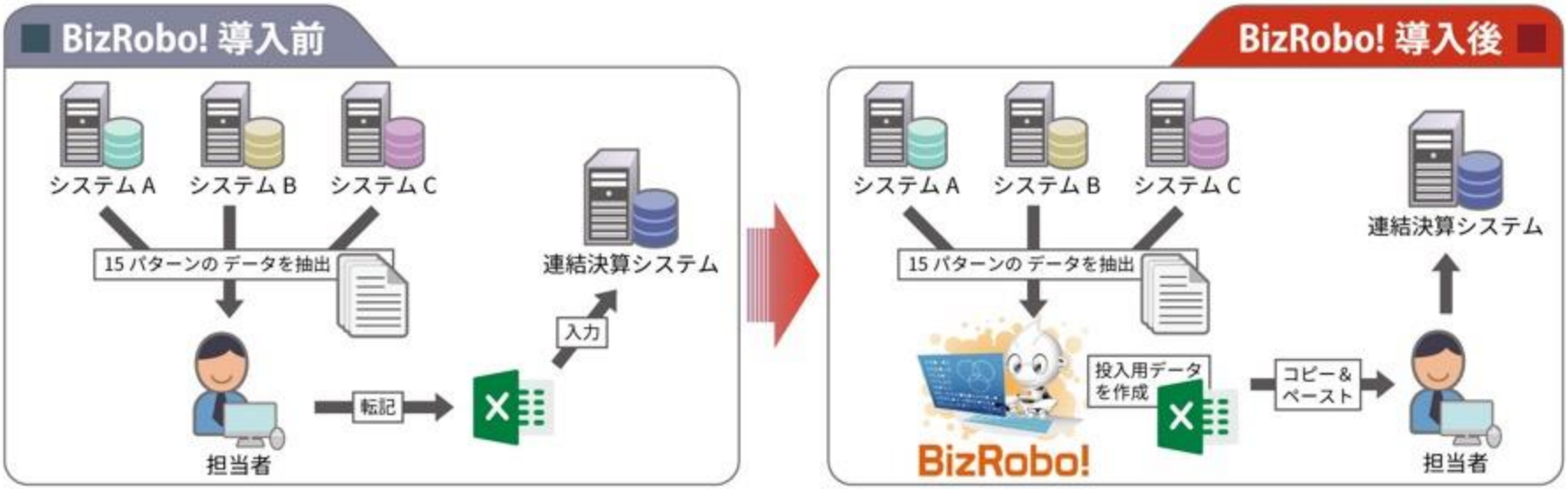
- 全社で毎月260時間かけていた業務を35時間に短縮し、担当者の余剰時間を創出した
- BizRobo!×OCR　の組み合わせで、紙のデータ化とルーティンワークの代行を同時に成功した

© OPEN, Inc. All rights reserved.

月次の連結決算業務

選定理由

- 親会社が使用する連結決算システムに、決算を毎月入力する必要がある
- M&Aを繰り返してきたため、社内システムが複数混在している
- システム間連携するためには相当な時間とコストがかかるため、システム投資判断ができていなかった



1. 経理担当者は複数システムから15パターンのデータを抽出
2. 担当者はエクセルに転記
3. 転記したデータをエクセル上で突合し、連結決算システムに入力

1. ロボットは複数システムから15パターンのデータを抽出
2. 連結決算システムへの投入用データを作成
3. 担当者はデータをコピー＆ペーストし、連結決算システムに登録

実施効果

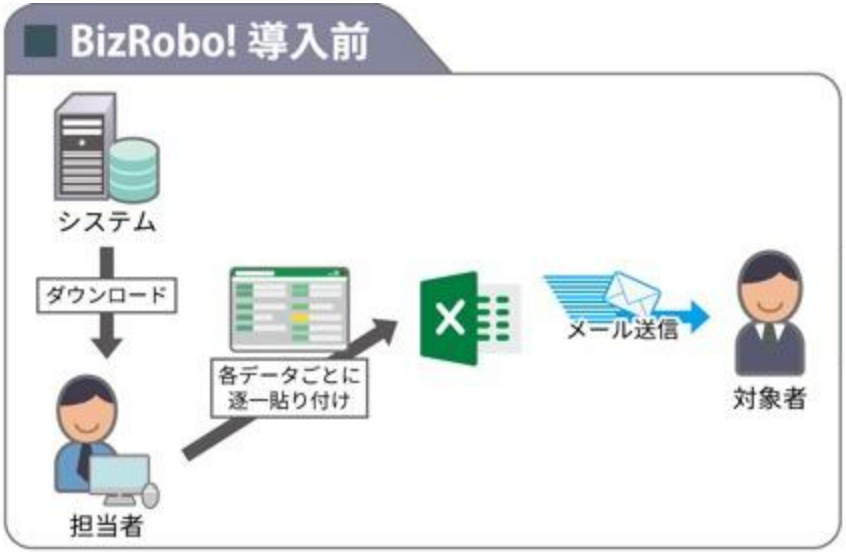
- 毎月12時間かけていた業務だが、担当者は一度のコピー＆ペーストと最終確認のみで完結できるようになった
- 納期が厳しいため、従来は残業ありきであったが、これがゼロになった
- 残業抑制だけでなく、担当者の身体/精神的負担軽減にもつながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

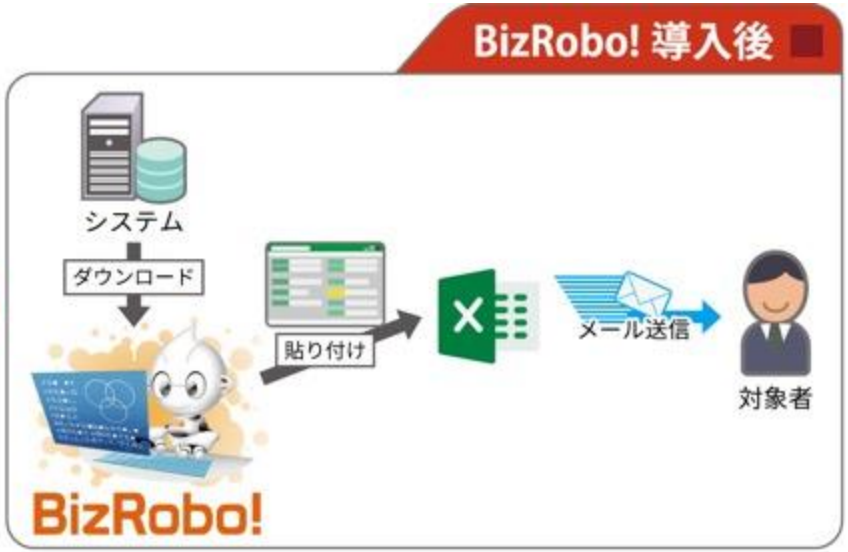
収支資料を作成し、配信する業務

選定理由

- 業務システムから工場の収支データをダウンロードするのに非常に時間がかかっていた
- 人手で作業を行うと、長時間拘束されてしまい、精神的な負担が大きかった
- 複数資料を複数の対象者に送信するため、資料の添付し忘れやメールの宛先間違いが発生していた



1. 担当者は業務システムから工場収支データをダウンロード
2. テンプレートのエクセルファイルにデータを貼り付け
3. 作成した収支チェック資料を対象者にメール送信



1. ロボットは業務システムから工場収支データをダウンロード
2. テンプレートのエクセルファイルにデータを貼り付け
3. 作成した収支チェック資料を対象者にメール送信

実施効果

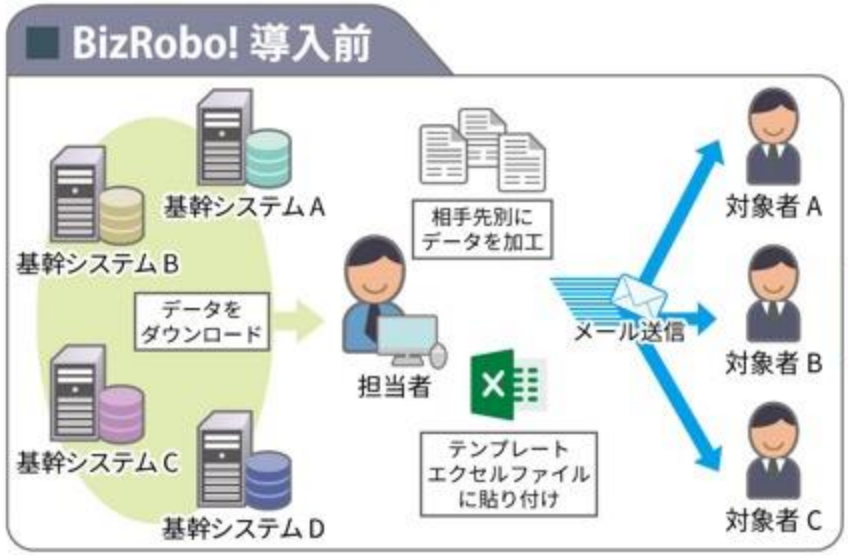
- 年間130時間の余剰時間を創出した
- 単純作業かつ長時間の待機から担当者が解放された
- データの添付ミスがなくなり、業務の正確性も高められた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

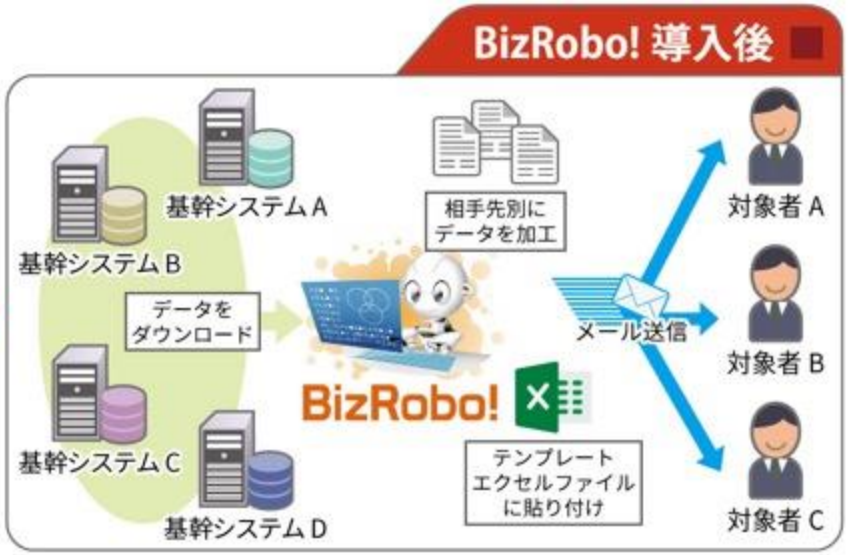
合計残高試算をチェックする業務

選定理由

- 毎月末に複数にわたるシステムから製品データと補修部品販売データを抽出し、合計残高試算表を作成する業務であった
- 月末にシステムからのダウンロード処理が集中し、待機時間が長く拘束時間が長かった



1. 担当者は4つの基幹システムから
   製品データと補修部品販売データをダウンロード
2. 相手先別にデータを加工
3. テンプレートエクセルファイルに貼り付け
4. 作成した合計残高試算チェック資料を対象者にメール送信



1. ロボットは4つの基幹システムから
   製品データと補修部品販売データをダウンロード
2. 相手先別にデータを加工
3. テンプレートエクセルファイルに貼り付け
4. 作成した合計残高試算チェック資料を対象者にメール送信

実施効果

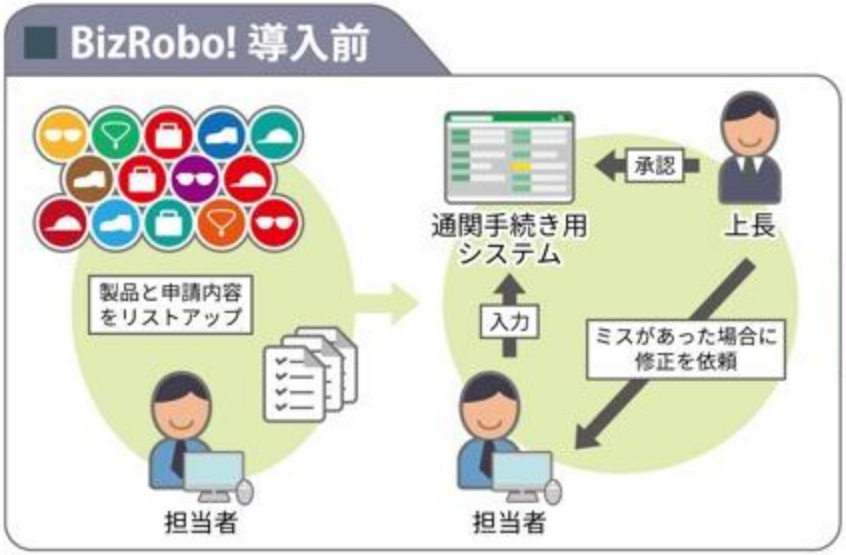
- ロボットが業務を全て代行し、年間100時間の余剰時間を創出
- データの加工・添付ミスを撲滅し、正確性も高めることが可能となった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

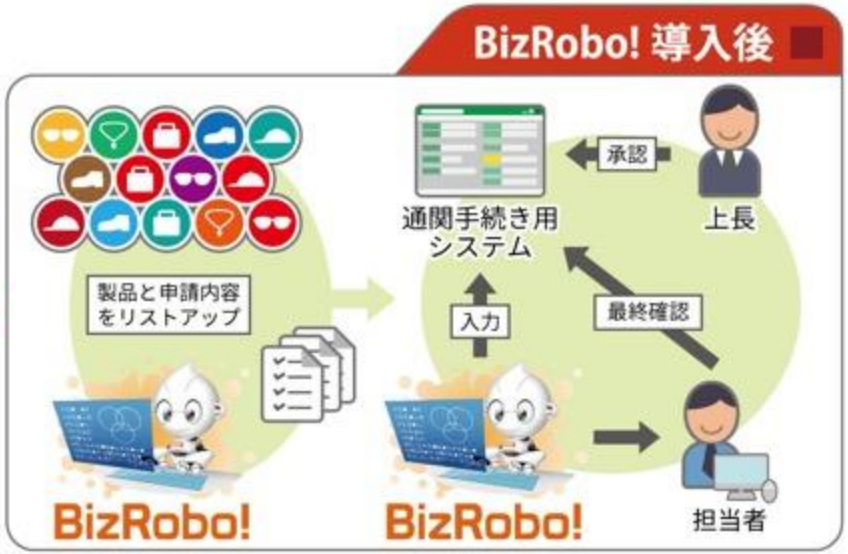
通関手続きの補助を行う業務

選定理由

- 製品発注から販売までのリードタイムを短縮し、売上アップにつなげたいというニーズがあった
- 海外支社では通関手続きが煩雑で、効率化を阻害していた
- 海外支社で展開する製品ラインナップが増加しており、通関手続きも比例して増加していた



1. 担当者は通関手続きに必要な製品と申請内容をリストアップ
2. 通関手続き用システムに入力
3. 最終確認し、上長が通関手続き内容を承認
4. 入力漏れ、ミスがあった場合に修正内容を入力



1. ロボットは通関手続きに必要な製品と申請内容をリストアップ
2. 通関手続き用システムに入力
3. 担当者は最終確認し、上長が通関手続き内容を承認
4. 入力漏れ、ミスがあった場合に修正内容を入力

実施効果

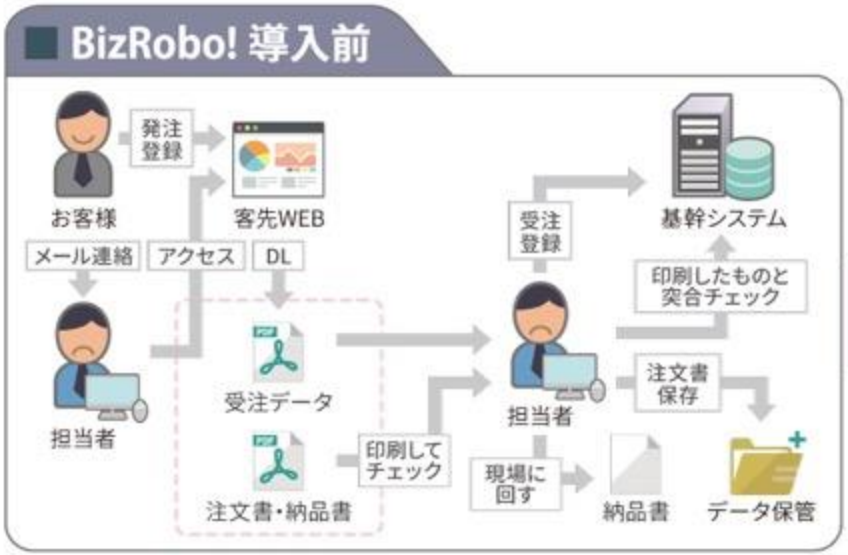
- 従来は最大500分かかっていた手続き時間を20分に短縮
- 1日がかりで行っていた業務を確認/承認作業のみの5分に短縮し、担当者の余力が生まれた
- リードタイムが短くなったことで商品ラインナップの増加につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

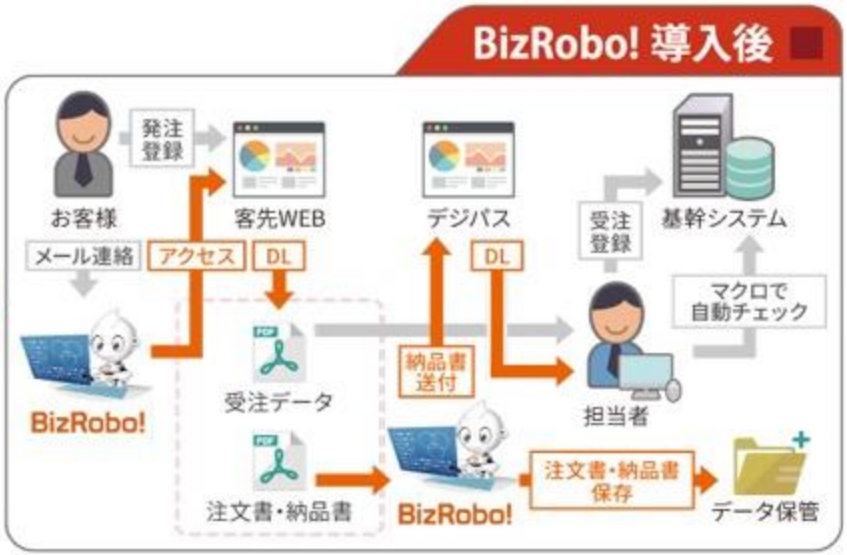
社内基幹システムへの受注登録と保管

選定理由

- 非常に工数がかかっていた作業だったため



1. お客様がWEB上に発注データを登録し、メールで連絡
2. 客先WEBより受注データと注文書、納品書をダウンロード
3. 注文書、納品書を印刷してチェック
4. 基幹システムに受注データを登録
5. 登録されたデータと、紙の注文書、納品書を突合チェック
6. 納品書は現場に回し、発注書を保存



1. お客様がWEB上に発注データを登録し、メールで連絡
2. ロボットが客先WEBから受注データと注文書、納品書をダウンロード
3. ロボットが発注書、納品書PDFを保存
4. ロボットが納品書PDFをデジパスに送付し、データに変換
5. 人間が基幹システムに受注データを登録
6. 人間がマクロで納品書データと登録データを突合チェック

実施効果

- チェック用の印刷物（月500枚以上）が不要となり、データ化されたことでマクロでのチェックが可能になった
- 工数削減により12時間/月の改善効果
- 多くの工数が削減されたことにより、担当者が営業活動、改善活動へより参加できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

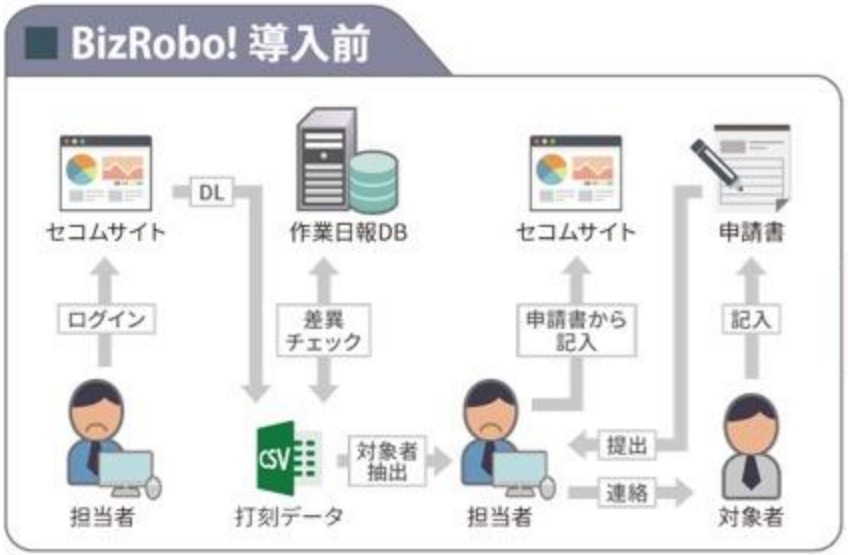
出退勤打刻の漏れや日報との差異を検出後、該当者に対応依頼メールを送信する作業

製造

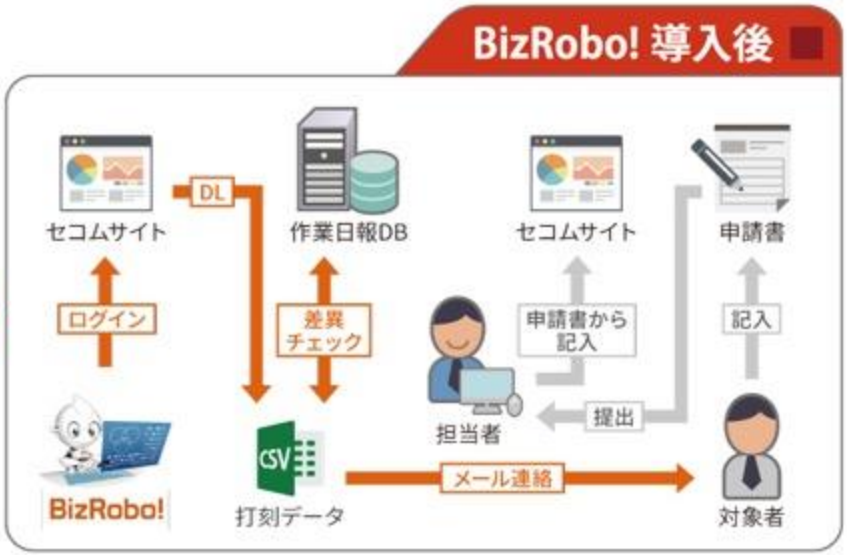
人事総務課

選定理由

- 日々行っている作業であり、作業日報と打刻状況を突合して確認するという手間もある
- 打刻により交通費の計算を行っているため間違えると給与処理に影響が出る



1. セコムサイトへログインし、打刻情報をcsvで取得
2. 作業日報データベースから作業状況を確認
3. 打刻と作業状況で差異があるものを抽出
4. 対象者へ打刻が無い旨を伝え、打刻忘れに伴う申請書の提出を促す
5. 申請書が提出されたらセコムサイトの打刻情報へ入力する



1. ロボットがセコムサイトへログインし、打刻情報をcsvで取得
2. ロボットが作業日報データベースから作業状況を確認
3. ロボットが打刻と作業状況で差異があるものを抽出
4. ロボットが対象者へ打刻が無い旨をメールで送信し、打刻忘れに伴う申請書の提出を促す
5. 申請書が提出されたら、担当者がセコムサイトの打刻情報へ入力する

実施効果

- 業務にかかる時間の90%が削減
- 自動で実施されるので、作業忘れやミスも無く実施できている
- 対象者への通知という能動的な行動が無くなり、心理的負担が減った

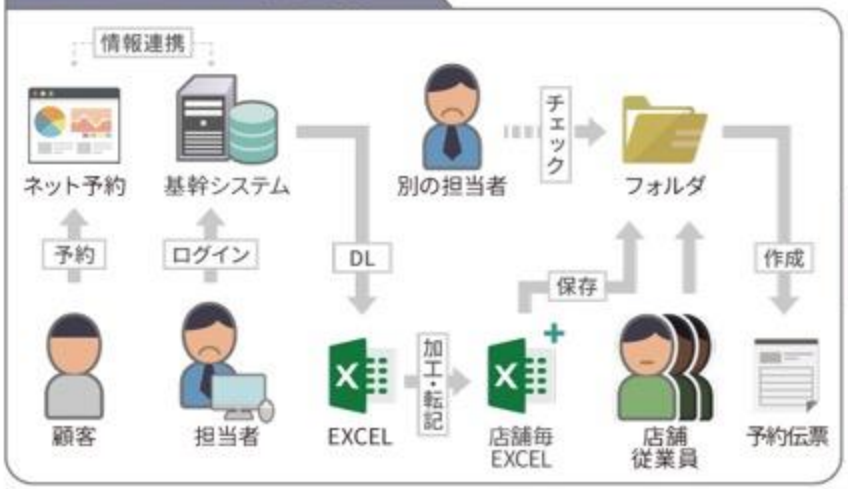
© OPEN, Inc. All rights reserved.

予約データから全店舗ごとのExcelデータを作成する業務

選定理由

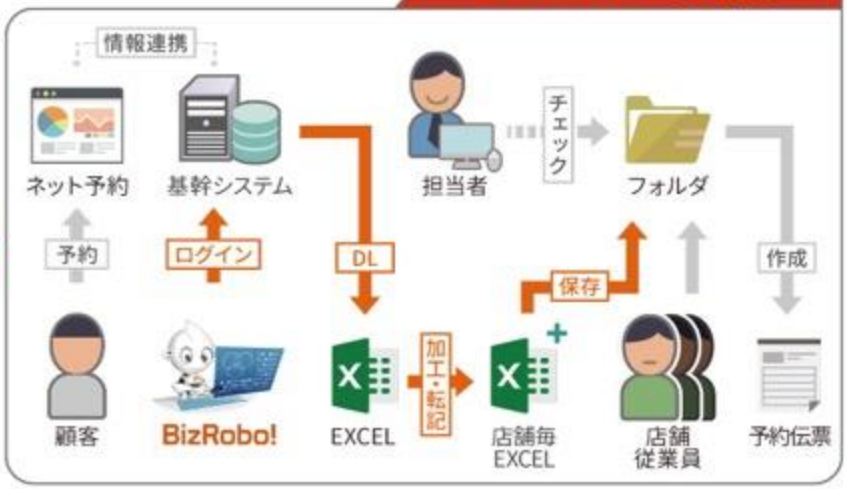
- 毎月全店舗分（約200店舗）の予約商品の発注リストの作成が発生しており、今後も増加が見込まれるため人力では対応しきれない
- 複数のファイル、シートを使用したデータ加工を行っており、処理が煩雑である
- WebシステムとExcelのみを用いて、かつルールに基づいた、毎月繰り返し発生する業務である

BizRobo! 導入前



1. 担当者が基幹システムへログインし、
   全店舗の商品予約データをダウンロード
2. ダウンロードデータを集計しやすい形に加工
3. 各店舗の変換用Excelファイルに転記し、
   顧客番号ごとの予約帳票と発注リストのシートを作成
4. 各店舗のExcelファイルに名前を付けて保存し、別の担当者が確認
5. 店舗従業員が発注リストに基づき予約伝票を作成

BizRobo! 導入後



1. ロボットが基幹システムへログインし、
   全店舗の商品予約データをダウンロード
2. ダウンロードデータを集計しやすい形に加工
3. 各店舗の変換用Excelファイルに転記し
   顧客番号ごとの予約帳票と発注リストのシートを作成
4. 各店舗のExcelファイルに名前を付けて保存し、担当者が確認
5. 店舗従業員が発注リストに基づき予約伝票を作成

実施効果

- 183時間/年を創出（1000分以上かかっていた作業が、10分で終了）
- 複数のデータ変換用シートを使用したExcel加工が不要になり、処理を簡素化できた
- 同じ作業を何度も行う中で発生する人的ミスが無くなった
- 現場の改善意識が向上し、部署全体で業務のRPA化が進んだ

© OPEN, Inc. All rights reserved.

一

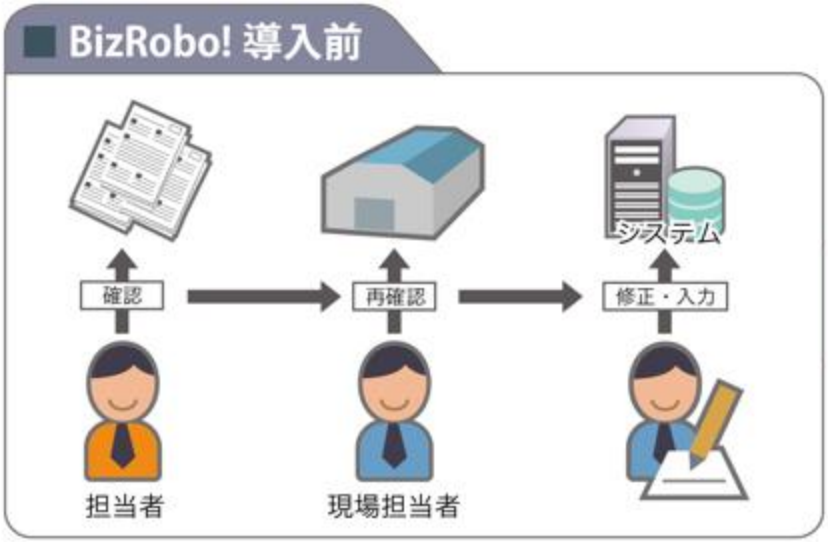
物流

© OPEN, Inc. All rights reserved.

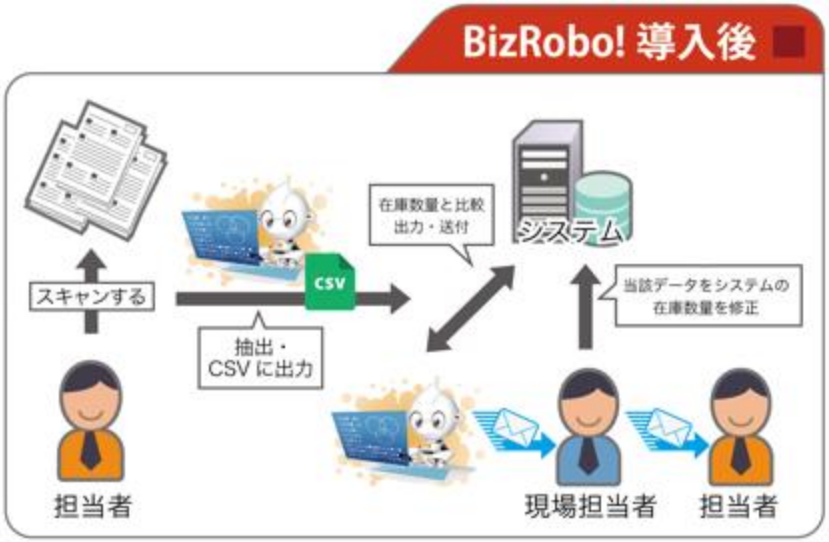
入出庫在庫数量を修正する業務

選定理由

- 紙とデータを見比べる業務があり、肉体的にも時間的にも職員の負担となっていた
- 入出庫在庫のずれがあるかどうか確認するために、時間がかかっていた
- 入出庫在庫の数量がずれると、数値を一致させるまで業務を終えることができなかった



1. 担当者が毎日送付される帳票を収集し、内容を確認
2. 帳票を基に、現場の担当者が入出庫在庫の数量を再確認
3. 担当者が帳票を見ながら、システムに入力された入出庫在庫の数量を見比べて、数量が異なる場合は修正



1. 担当者が毎日送付される帳票を収集し、スキャンする
2. ロボットはデータから情報を抽出し、CSVとして出力
3. CSVデータを読み込み、システムの在庫数量と比較した結果を出力後、担当者に出力結果を送付（現場担当者の1次確認）
4. 修正結果を担当者に送付（現場担当者の最終確認）

実施効果

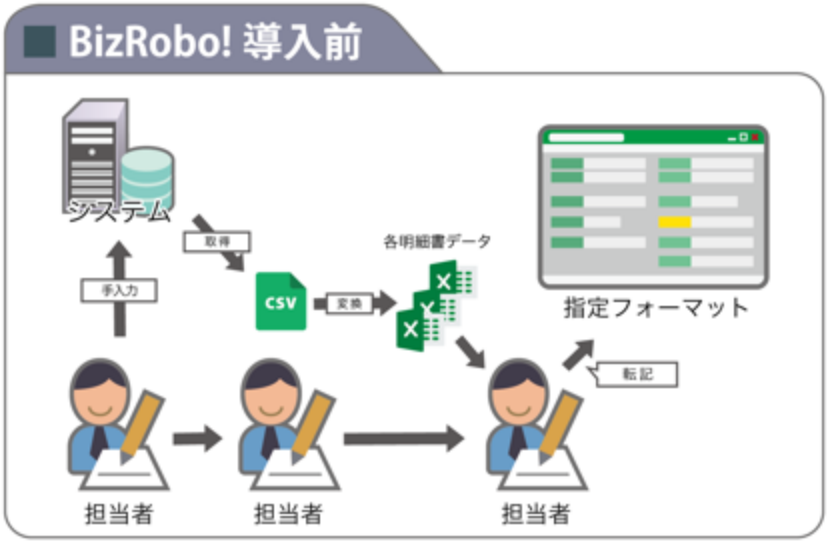
- システム化では対応できない紙業務においてもBizRobo!を活用し、業務全体での効率化を実現
- 目で確認した場合に必ず起こってしまうヒューマンエラー(確認漏れ)を排除できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

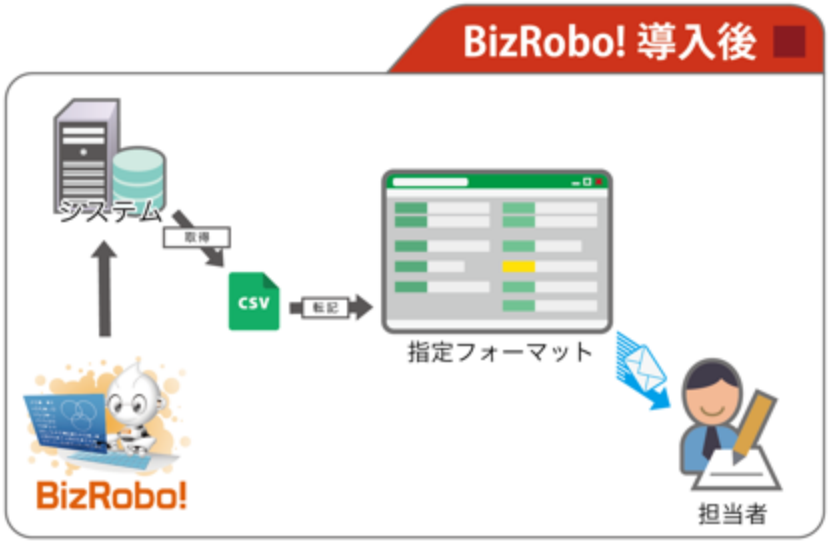
得意先別に統計資料を作成する業務

選定理由

- 対象数が多く、1つの作業にかかる時間も多いため、担当者の業務時間をひっ迫していた
- 得意先の情報を一括で入力・抽出することができず、同じ作業を何度も繰り返していた



1. 担当者がシステムに得意先を手入力し、
   得意先別の保管・荷役料明細書（CSV）を取得
2. 作成されたCSVファイルをExcelフォーマットに合わせて
   Excelファイルに変換するための一連の処理を行う
3. 生成された各明細書データから各項目をコピーし、指定フォーマットに転記



1. ロボットがシステムに得意先を入力し、
   得意先別の保管・荷役料明細書（CSV）を取得
2. CSVデータから必要なデータのみ抽出し、指定フォーマットへ転記
3. 転記したデータを出力結果として担当者に送付

実施効果

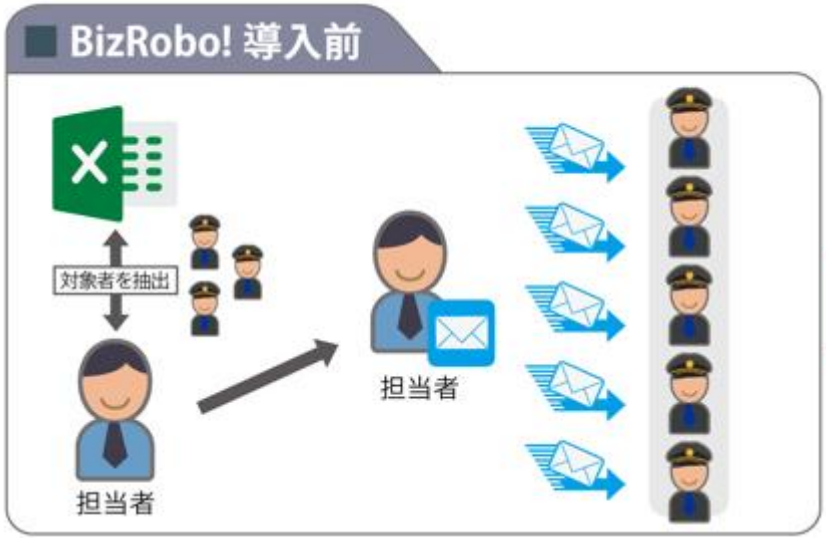
- 全ての業務をロボットが代行し、担当者はデータを確認するのみとなった
- システム化と比べてかなり安価に業務改善を行うことができた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

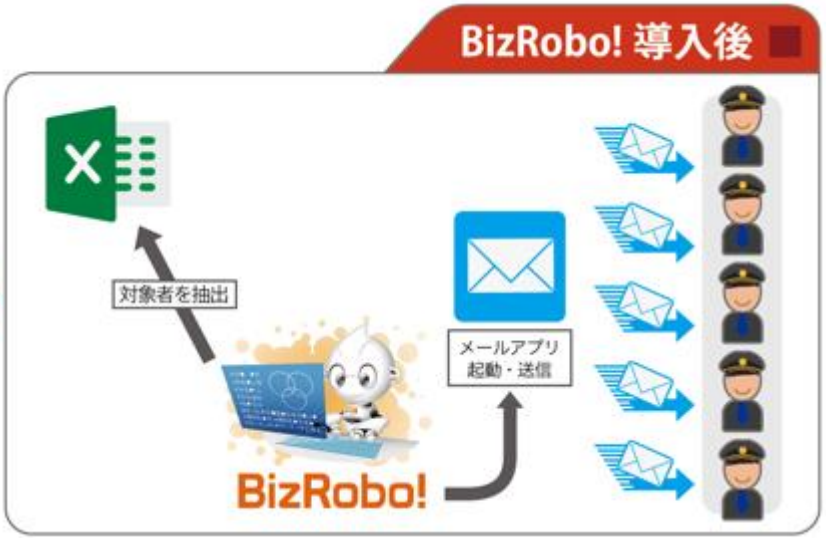
免許証の有効期限をチェックする業務

選定理由

- 業務上、車を利用する職員が多く、事故や更新漏れがあれば影響範囲が広かった
- 月々300件以上の社員の免許期限を確認する必要があり、80時間かかっていた



1. 担当者は社内のエクセルデータから、
   運転免許の期限間近の対象者を抽出
2. メールアプリを開き、対象者のメールアドレス入力・内容確認
3. 免許証の有効期限が近い旨をメールを送信



1. 月末毎にロボットが稼働
2. ロボットは社内のエクセルデータから、
   運転免許の期限間近の対象者を抽出
3. 免許証の有効期限が近い旨をメールで送信

実施効果

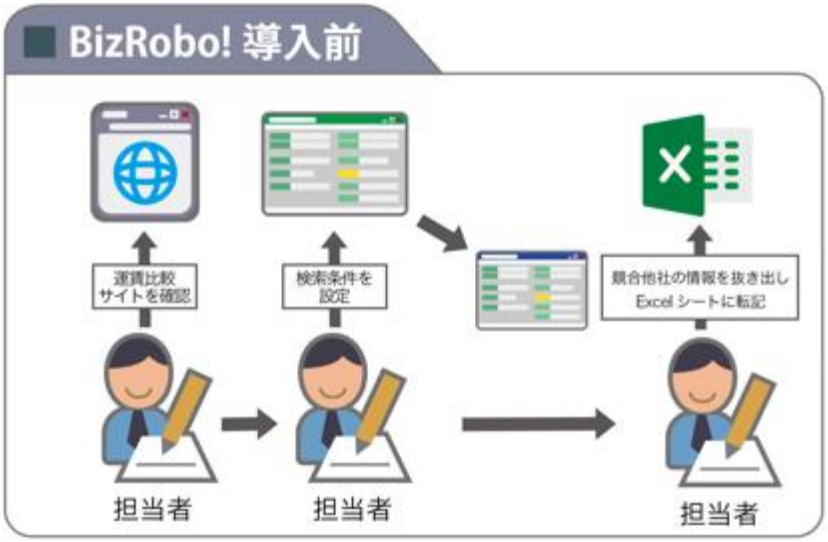
- 全ての作業をロボットで代行し、月当たり80時間の余剰時間を創出
- 確認漏れがなくなったので、登録ミスがあった場合のリスクをゼロにすることができた
- 圧倒的な量のルーティンワークから担当者が解放された

© OPEN, Inc. All rights reserved.

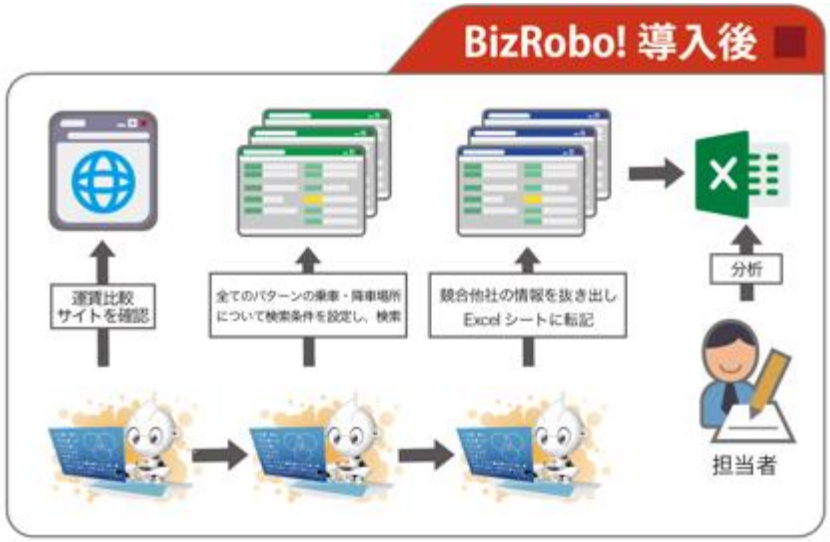
競合他社の高速バス運賃を調査する業務

選定理由

- 頻繁に行いたい業務だが、人の手ではタイムリーな調査ができていなかった
- 検索パターンが多量にあり、ごく一部のデータしか扱えてなかった(全てのパターンを調べきることができなかった)
- 調査にかかる工数が膨大で、本来行いたい分析業務ができていない状況だった



1. 担当者は高速バスの運賃比較サイトを確認
2. 代表的な乗車・降車場所について、検索条件を設定し、検索
3. 検索結果一覧から、競合他社の情報を抜き出し、会社名や運賃をまとめてExcelシートに転記



1. ロボットは高速バスの運賃比較サイトを確認
2. 全てのパターンの乗車・降車場所の検索条件を設定し、検索
3. 検索結果一覧から、競合他社の情報を抜き出し、会社名や運賃をまとめてExcelシートに転記
4. 担当者は作成されたExcelシートを確認し、他社の運賃について分析

実施効果

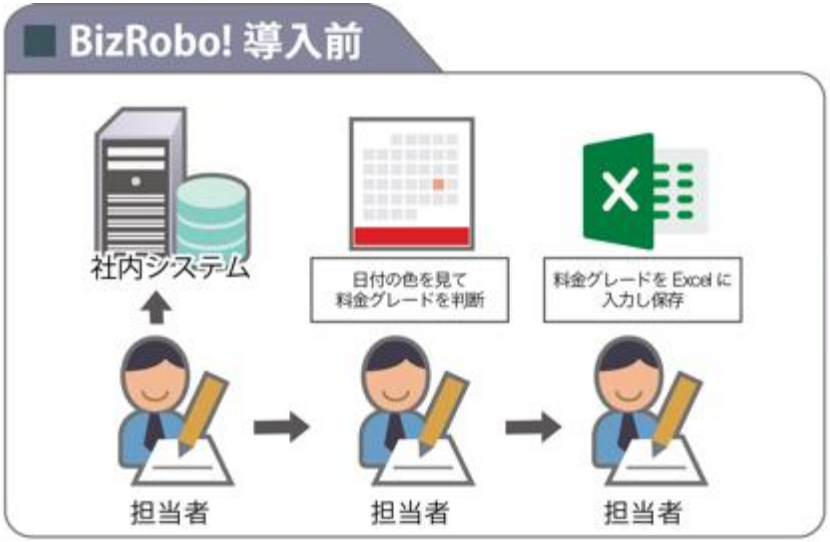
- 月8時間の業務時間を創出
- タイムリーに情報抽出して、全てのパターンを網羅できるようになった
- 情報の調査ではなく、分析に時間を割くことができるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

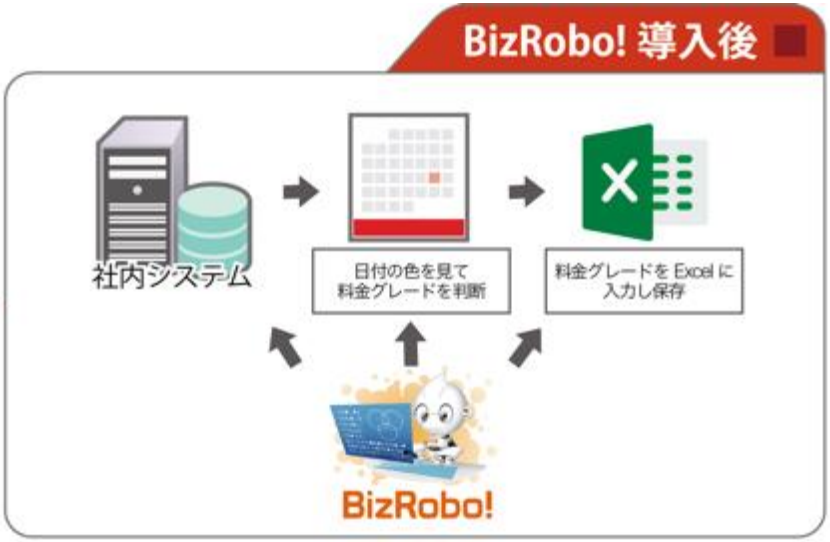
宿泊施設の料金グレードを取得する業務

選定理由

- 料金グレードが細分化されており、システム上で取得する際に人間が作業を行うと見間違えが発生していた（グレードを色で見分ける仕組みとなっていた）
- グレード取得対象が12施設あり、すべての施設の情報を取得するための人員負担が大きかった
- 月次の決まったタイミングで各施設の管理者への報告義務があり、タイムリーな対応が必要だった



1. 担当者は社内システムの料金グレードを表示する部分にアクセス
2. システム内のカレンダーの日付の色を見て、料金グレードを判断
3. 料金グレードをExcelに入力し保存
   ※料金グレードは毎日変化し、
   カレンダーの日付に色を付ける形で判断が可能



1. ロボットは社内システムの料金グレードを表示する部分にアクセス
2. システム内部の日付から、料金グレードを抽出
3. 料金グレードをExcelに入力し保存

実施効果

- デジタルレイバーの活用により、ミスなくよりタイムリーな情報提供が可能となった
- 月次報告作業を代替することにより、年間70時間の時間創出に成功

© OPEN, Inc. All rights reserved.

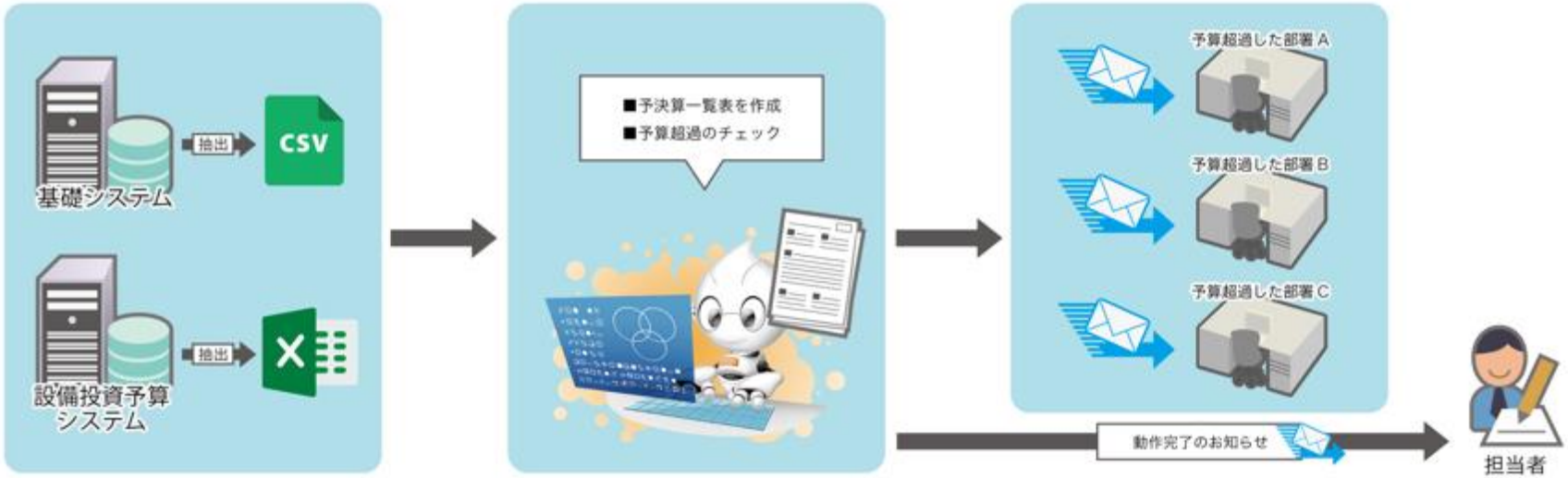
システムからデータ抽出し、予算超過部署にメール送信する業務

物流

経理部

選定理由

- 前期の決算で予算超過が発生し、その対応を経営層から求められていた
- その過程において、予算超過のプロセスおよび管理体制の可視化が必須だった
- 可視化は強く求められていた一方で、膨大な業務量になることが予測されたため、ロボット化をするに至った



【ロボット導入前】
1. ロボット導入以前は行っていなかった業務

【ロボット導入後】
1. 社内基幹システム・設備投資予算システムからデータを抽出し、予決算一覧表を作成
2. 予決算を計算し、予算超過をチェック
3. 予算超過した部署にのみ対象データをメール送付
4. ファイルを上書き保存し、動作完了の知らせを担当者に送付

実施効果

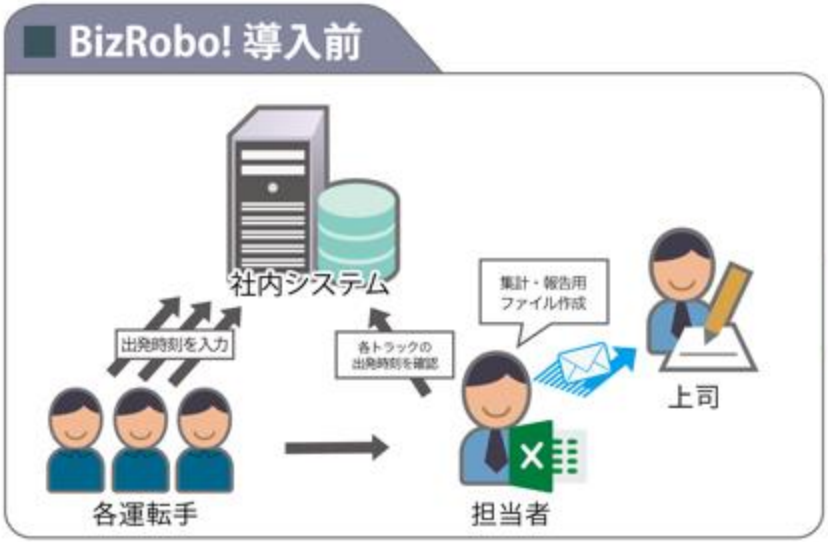
- 月40時間かかっていた業務時間が1時間となり、担当者の負担を軽減
- 予算管理の適正化、効率化
- 本来であればシステム改修を実施し予算超過対策を実施する予定であったが、ロボット化によりシステム投資予算の削減につながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

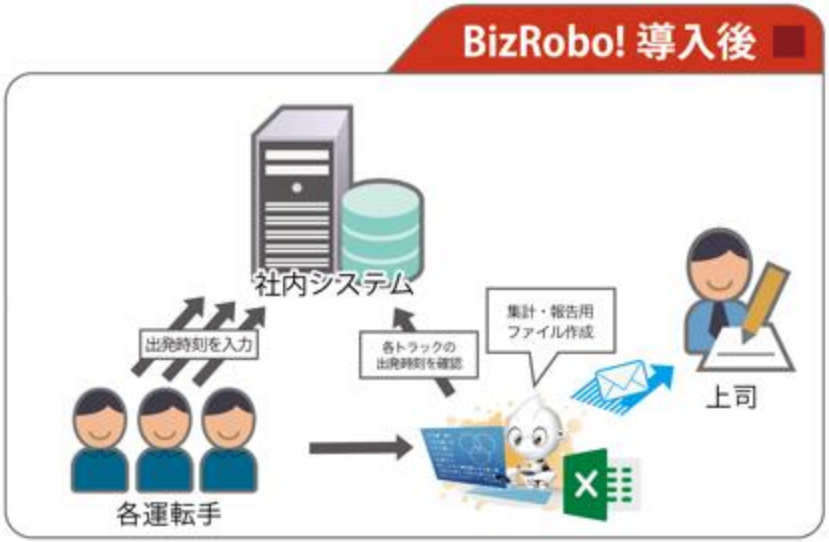
各拠点に向けてトラックが出発した時刻を集計する業務

選定理由

- 毎晩3000便以上のトラックの出発時刻を集計しており、人手で行うには多大な負担がかかっていた
- 出発時刻の集計に非常に時間がかかっており、出発が遅れた場合の原因分析を十分行えていなかった



1. 各運転手が社内システムにトラックの出発時刻を入力
2. 担当者は社内システムにログインし、各トラックの出発時刻を確認
3. トラックの出発時刻を集計してまとめ、報告用ファイルを作成
4. 上司に報告用ファイルをメールで送信



1. 各運転手が社内システムにトラックの出発時刻を入力
2. ロボットは社内システムにログインし、各トラックの出発時刻を確認
3. トラックの出発時刻を集計してまとめ、報告用ファイルを作成
4. 上司に報告用ファイルをメールで送信

実施効果

- 全社で50体以上のロボットを導入し、毎月360時間の余剰時間を創出
- 締め切り時刻前に急いで作業する必要がなくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

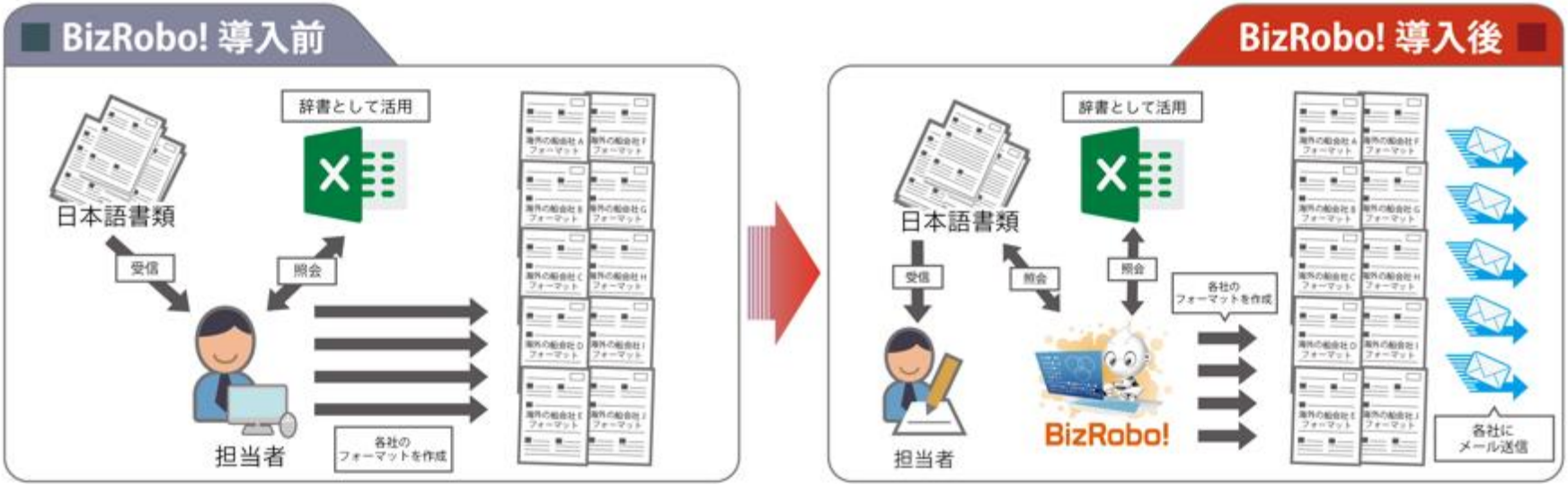
貿易用の和文の書類を、
海外の船会社用に英文に直す業務

物流

営業部

選定理由

- 複数の書類や対応表を一度に画面で開いて見比べる必要があるため、人力では対応しづらい業務だった
- 時期によって業務量が増減するため、担当者のスケジュール管理が難しくなっていた



1. 和文の書類が担当者に送付される
2. 日本語と英語を対応させたエクセルファイル(辞書として活用)を開く
3. エクセルファイルと照らし合わせながら、
   和文の書類内容を英文の書類内容に書き換え
   ※海外の船会社ごとにフォーマットが異なり、10数社に対して類似の業務がある

1. 和文の書類が担当者に送付される
2. ロボットはエクセルファイルと照らし合わせながら、
   和文の書類内容を英文の書類内容に書き換え
3. ロボットは英文の書類を海外の船会社にメールで送付

実施効果

- ロボットが1週間で50枚の書類作成をミスなく代行できるため、担当者の余剰時間の創出につながった
- 業務量が変動しても担当者に影響がないため、担当者のスケジュール管理に見通しが立ちやすくなった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

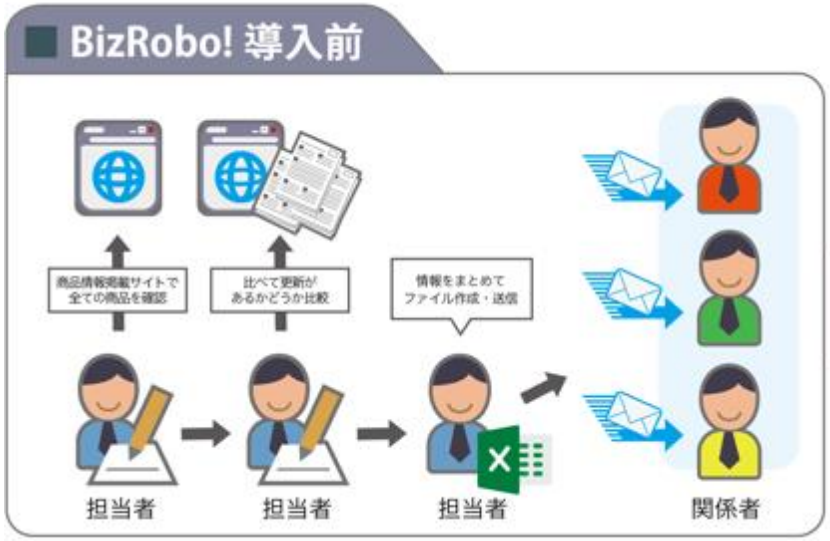
積荷商品の情報を検索し、更新がある場合に情報を書き換える業務

物流

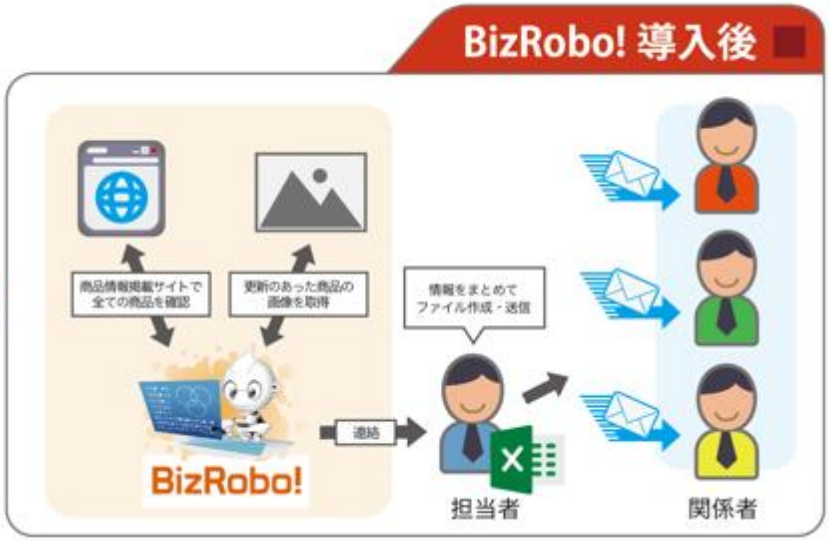
商品管理部

選定理由

- 不定期に情報が更新されるサイトから情報収集を行いたい
- 商品情報が更新されておらず、チェックが空振りに終わることが頻発していた
- チェックの対象が大量にあるため、長時間の作業がほとんどが無駄になっていた



1. 担当者は商品情報掲載サイトで全ての商品を確認
2. 現在の情報と比べて更新があるかどうか確認
3. 更新された商品があった場合、その情報をまとめてファイル作成
4. まとめたファイルを関係者に送信



1. ロボットは定期的に商品情報掲載サイトを監視し、更新があるか確認
2. 更新のあった商品の画像を取得し、担当者に連絡
3. 担当者は報告用ファイルを作成し、関係者に送信

実施効果

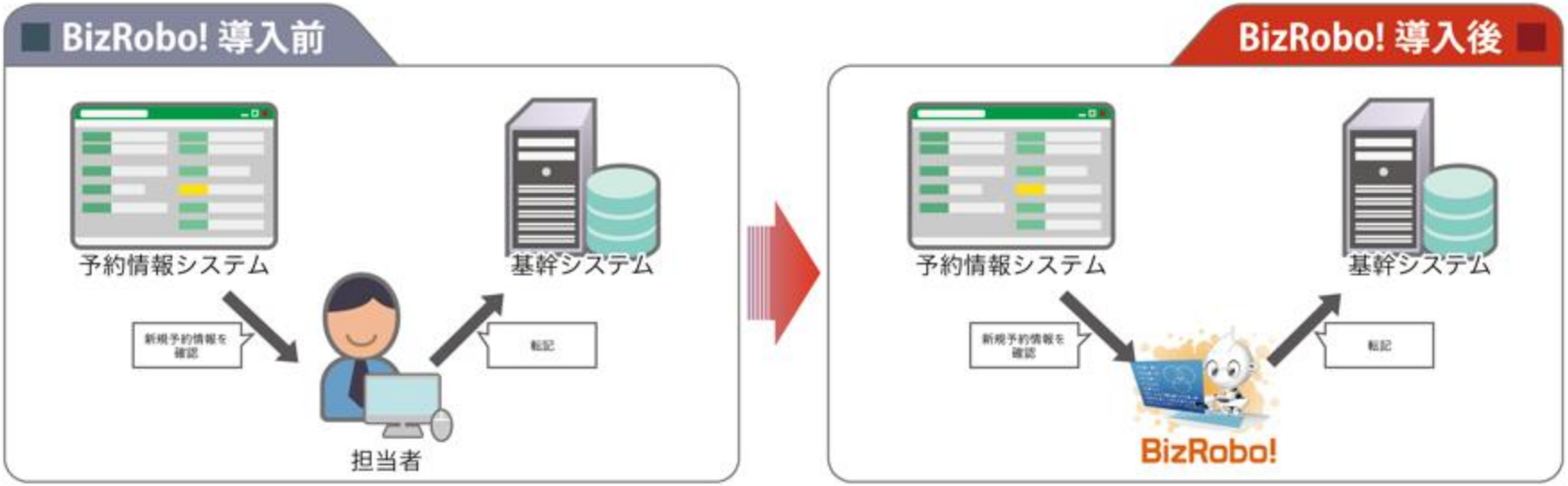
- 情報更新があった場合のみ、かつ更新された商品の情報のみ取得できるため大幅に業務時間が短縮
- 徒労に終わってしまう作業がなくなったため、担当者のモチベーション向上に大きくつながった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

予約情報を更新し、基幹システムに転記する業務

選定理由

- 毎週、通常時は300件、ピーク時には3000件以上の業務量があり、担当者の人数も状況に応じて2~５人に変化していた
- ピーク時には、週にのべ30時間の業務量があり担当者の負担となっていた
- 人が作業する場合エラー件数が10%と、かなり高い数値だった



1. 担当者は予約情報システムから、
   一週間分の新規予約情報を確認
2. 予約情報の一部を社内の基幹システムに転記
   ※人手で行う場合、上記作業を300～3000件繰り返し行う必要がある

1. ロボットは予約情報システムにログインし、
   一週間分の新規予約情報を確認
2. 予約情報の一部を社内の基幹システムに転記

実施効果

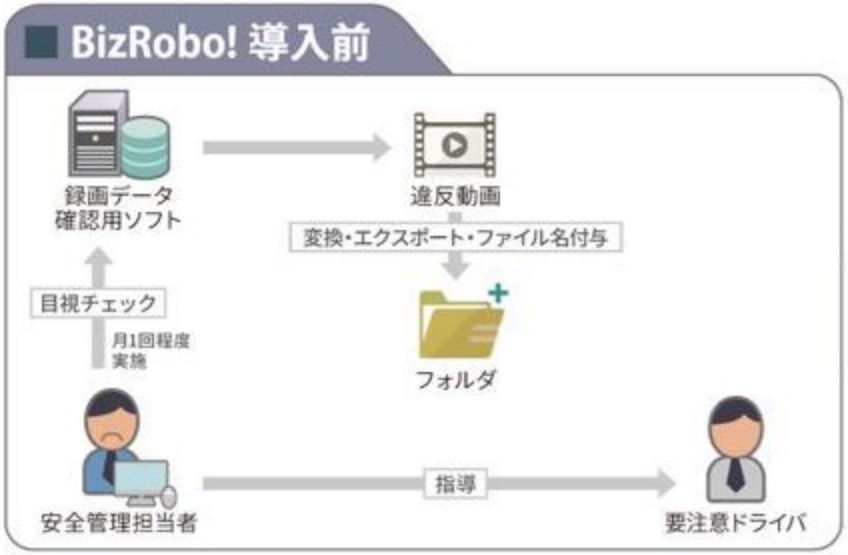
- ロボット２台が常に稼働し、ピーク時においても担当者5人分の業務を代行
- ヒューマンエラーがなくなり、正確な情報の更新が行えるようになった
- 人手で30時間かかっていた業務をロボットが6時間で終了するようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

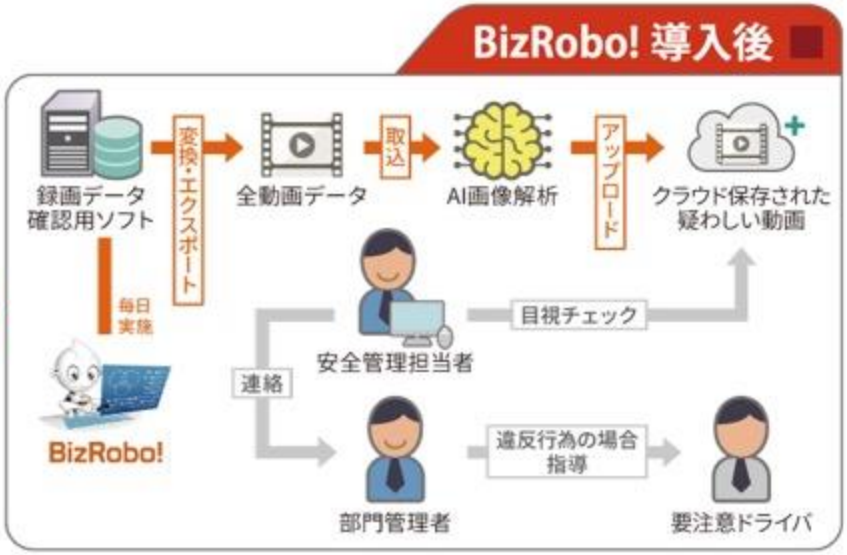
AI画像解析”DR-Vision”による車内カメラの映像解析業務

選定理由

- AIなど新しいツールを使った取り組みを加速させていきたいが、そのための専用機材を全て用意するのは難しかった
- 既存の機材（データ）を有効的に活用し、かつ人の手間増やさないためにRPA導入を検討



1. 月に1回、安全管理担当者が違反動画を目視でチェック
2. 違反動画を変換してエクスポートし、フォルダに保管
3. 安全管理担当者が直接、ドライバに指導



1. ロボットが車両・日付などの条件で動画を検索
2. 毎日およそ300件の動画を変換してエクスポート
3. 動画をAI画像解析に取り込み、疑わしい動画を解析
4. 部署毎に動画をクラウドにアップロード
5. 疑わしい動画のみ安全管理担当者がチェックし、各部門から指導

実施効果

- 毎日およそ4時間～5時間かかる業務を自動化
- ツール選定の選択肢を増やすことができるため、新しいシステム導入への負担が減った
- 安全運転への意識向上

© OPEN, Inc. All rights reserved.

一

不動産

© OPEN, Inc. All rights reserved.

Excelで管理している工程情報を基幹システムに入力する業務

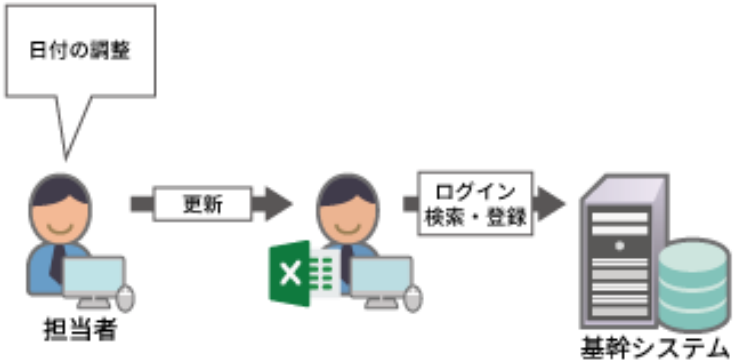
不動産

工程管理課

選定理由

- 年間5000棟以上の物件を取り扱っており、そのすべての物件の工程を管理している
- Excelにて工程を調整し、その変更内容を基幹システムにも入力する必要があり、かなりの時間がかかっていた
- 毎年物件数は増えており、対応時間は比例して増えていくため、その分RPAの導入効果が高いと判断

BizRobo! 導入前



1. 予定日を過ぎているなど工程の調整が必要な物件を確認し、担当者と相談しながら日付の調整を行う
2. Excelの工程を更新する
3. 基幹システムにログインする
4. 該当物件を検索し、最新の工程情報を登録する

BizRobo! 導入後

1. 予定日を過ぎているなど工程の調整が必要な物件を確認し、担当者と相談しながら日付の調整を行う
2. Excelの工程を更新する
3. ロボットが基幹システムにログインする
4. ロボットが該当物件を検索し、最新の工程情報を登録する

実施効果

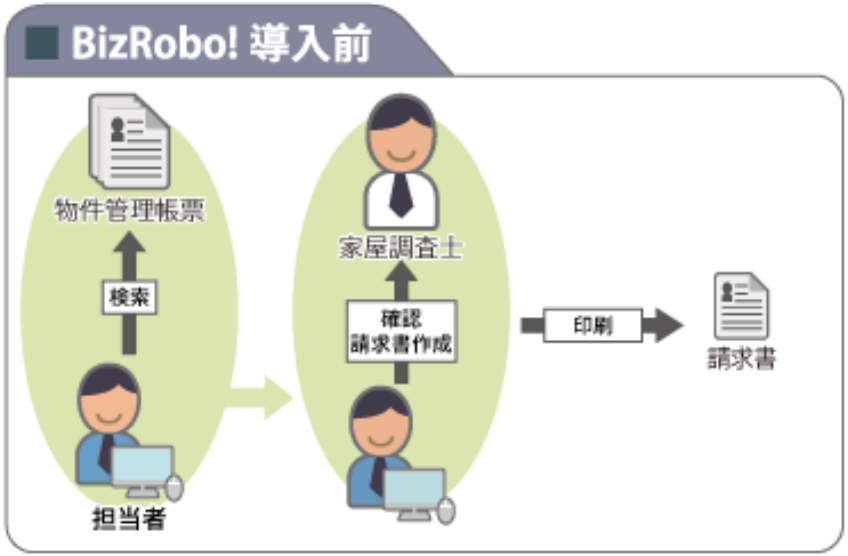
- 2020年度の1年間で、3480時間の削減を達成
- 基幹システムへの入力漏れ・入力ミスがなくなり、正しい情報をシステムに集約できるように

© OPEN, Inc. All rights reserved.

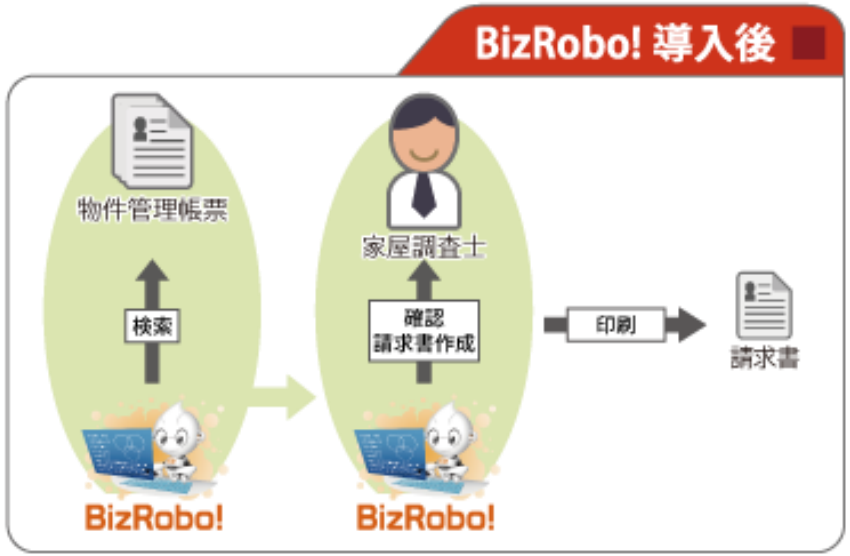
家屋調査士に対して、毎月請求書を作成する業務

選定理由

- 40~50くらいの家屋調査士に対して、それぞれその月に決算した物件分の金額を計算し、請求書を一つずつ作成
- この作業に毎月1~2営業日を費やしており、単純作業 且つミスが許されないというRPAの導入に最適な内容であった



1. 物件管理帳票の中から、その月に引き渡した物件を検索する
2. 家屋調査士を確認し、その家屋調査士ごとにの請求書を作成する
3. 請求書に金額など必要項目を入力する
4. 請求書を印刷する



1. ロボットで物件管理帳票の中から、その月に引き渡した物件を検索する
2. ロボットで家屋調査士を確認し、その家屋調査士ごとにの請求書を作成する
3. ロボットで請求書に金額など必要項目を入力する
4. ロボットから担当者に請求書ができたことをメールにて連絡
5. 請求書を印刷する

実施効果

- 担当者にとって時間的にも精神的にも負担となっており、
  それをほぼ自動化できたことによって担当者のモチベーション向上につながった
- 2019年度と2020年度を比較すると、仕入棟数・販売棟数共に増加しており
  契約管理課の業務量は約120%増加しているにも関わらず、同じ人数で労働時間は約12%減という結果に

© OPEN, Inc. All rights reserved.

検査会社会社から送られてきた建築確認済証を確認し、検査番号や面積をkintoneに登録する業務

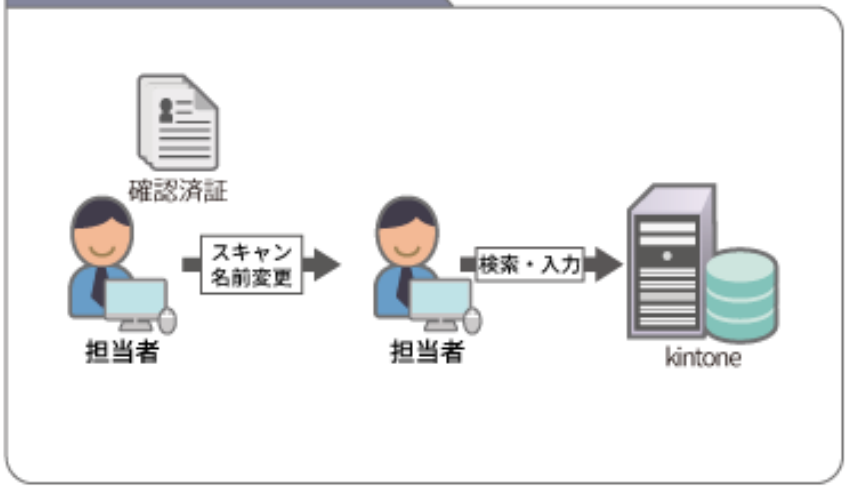
不動産

設計部門

選定理由

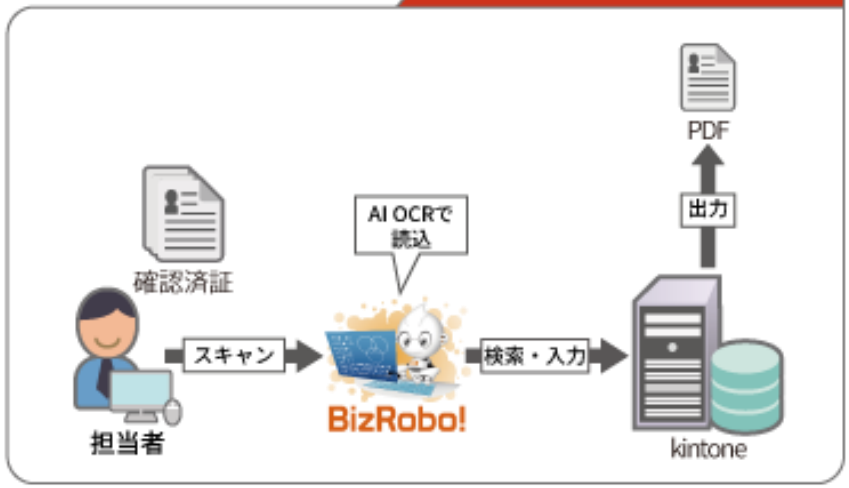
- 物件数に比例して業務量が増えるため、毎年担当者の業務負担が増えていた
- 人の手作業により転記ミスが発生していた

BizRobo! 導入前



1. 検査会社より確認済証が届く
2. 確認済証をスキャンしPDFファイルにする
3. PDFファイルのファイル名を物件名に変更
4. Kintoneにて該当物件を検索する
5. 確認済証に記載されている検査番号や面積等をkintoneに入力

BizRobo! 導入後



1. 検査会社より確認済証が届く
2. 確認済証をスキャンしPDFファイルにする
3. ロボットがPDFファイルを取得し、AIOCRで読み込み
4. ロボットがAIOCRの結果CSVをダウンロードし、そこから物件情報を取得
5. ロボットがKintoneに検査番号や面積を更新
6. ロボットがPDFのファイル名を物件名に変更し、保存

実施効果

- AIOCRやkintoneで用意されているAPIを利用し、
  OCRの処理からkintoneへの更新まですべて1つのロボット内で完結

© OPEN, Inc. All rights reserved.

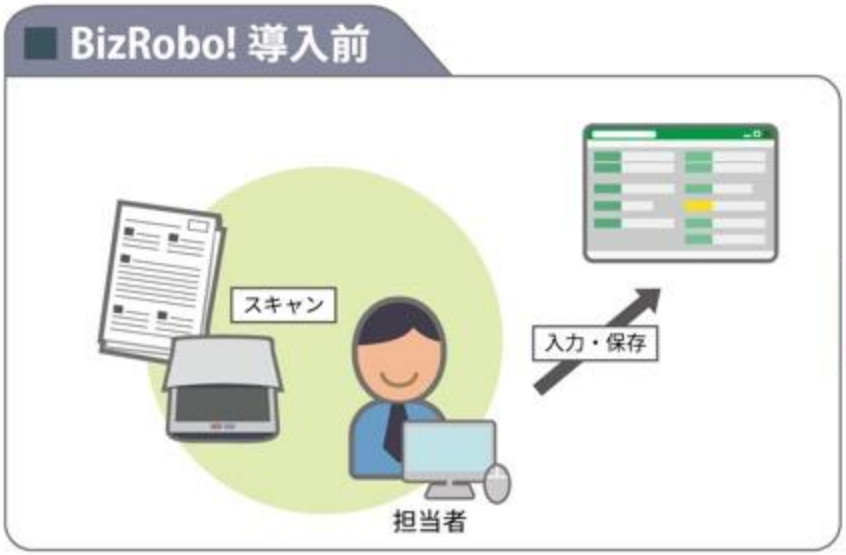
不動産情報のデータ化案件作業を行う物件情報の資料(紙媒体)をスキャンし、電子データとして保管・登録する業務

不動産

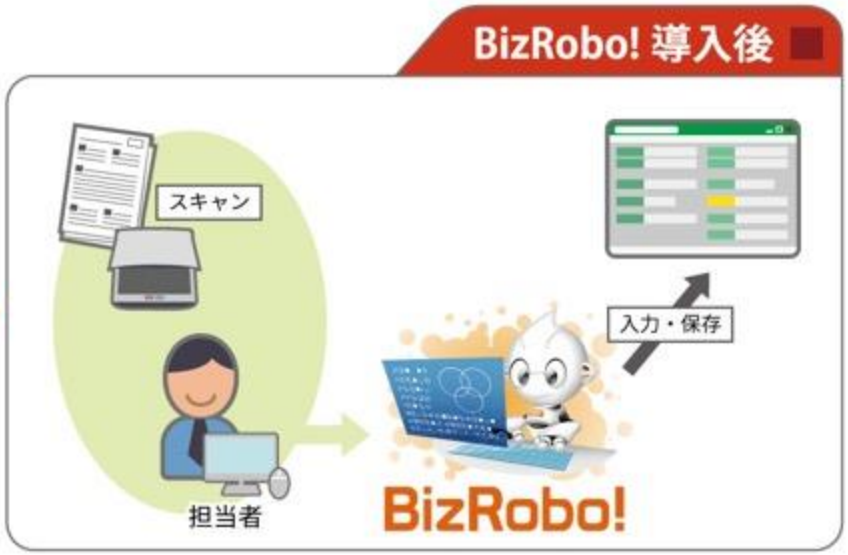
賃貸営業部

選定理由

- 従来は物件情報を紙に印刷していたが、今後はそれらをスキャンし電子化するように業務内容が変更した
- スキャン後のファイル名の決定や物件情報の設定が煩雑で、非常に手間がかかっていた



1. 担当者は紙に印刷された物件情報をスキャン
2. スキャンしたデータを確認し、物件情報を一つ一つ入力
3. 名前を付けて保存



1. 担当者は紙に印刷された物件情報をスキャン
2. ロボット(OCR)はデータを物件番号・住所などにわけて自動的に転記
3. 名前を付けて保存

実施効果

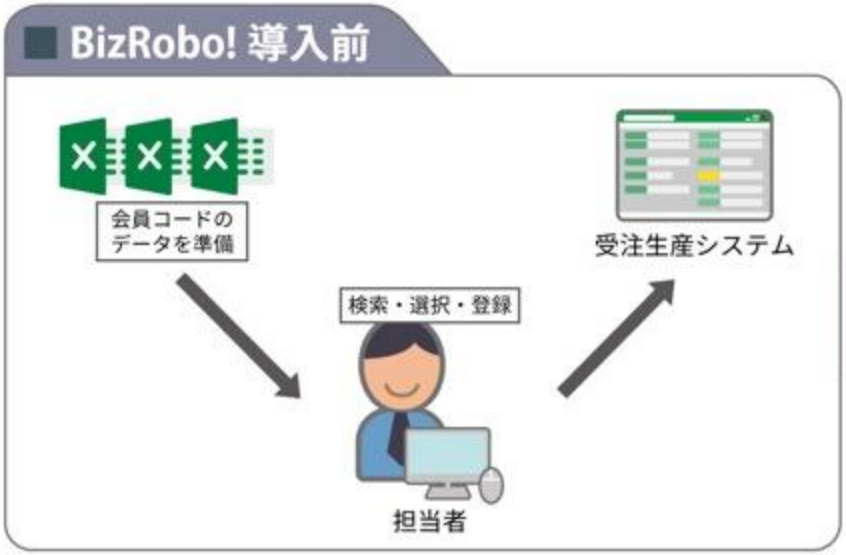
- 人が行うと曖昧な部分が多かったファイル名のつけ方を標準化することで、ファイル検索が容易になった
- 単純な転記作業をロボットが全て代行することで、担当者は余剰時間を創出できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

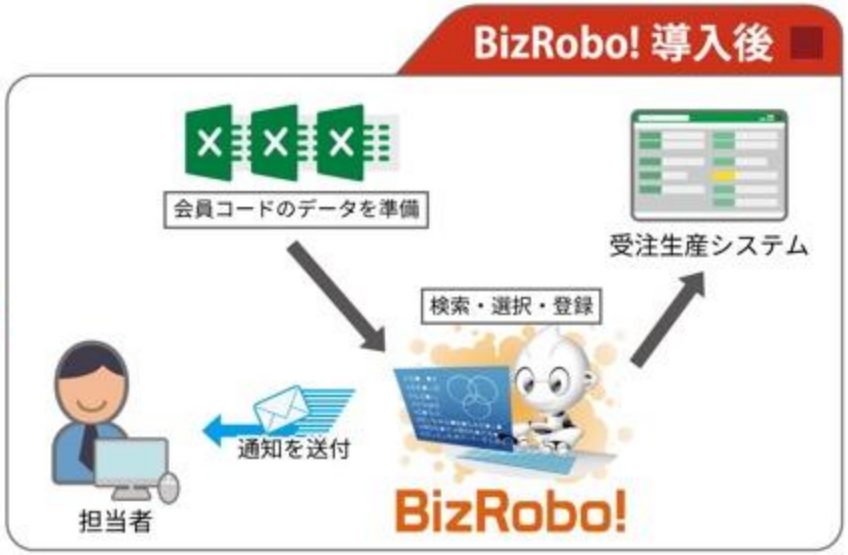
商品仕様の変更に伴い、契約情報を一括で変更する業務

選定理由

- 8000件以上の処理数があり、システム登録と目視での確認に130時間かかっていた
- 不定期かつ突発的に発生する業務であり、担当者は業務スケジュールの急な変更を余儀なくされていた



1. 担当者は商品仕様の変更と変更対象となる会員コードのデータを準備
2. 受注登録システムを開き、対象の会員コードを検索
3. 会員コードを選択し、契約情報を変更し登録
4. ２～３の手順を件数分繰り返し
5. 入力後、ミスがないか再確認



1. 担当者は商品仕様の変更と変更対象となる会員コードのデータを準備
2. ロボットは受注登録システムを開き、対象の会員コードを検索
3. 会員コードを選択し、契約情報を変更し登録
4. ２～３を件数分繰り返し
5. 作業完了の通知を担当者に送付

実施効果

- 業務時間が130時間から10時間に減少し、担当者は最終確認のみで済むようになった
- 以前は担当者が急いで行っていたためミスが発生していたが、人為的ミスがなくなった
- 担当者が時間に追われることがなくなり、単純な作業ミスがなくなり、プレッシャーから解放された

© OPEN, Inc. All rights reserved.

一
メディア

© OPEN, Inc. All rights reserved.

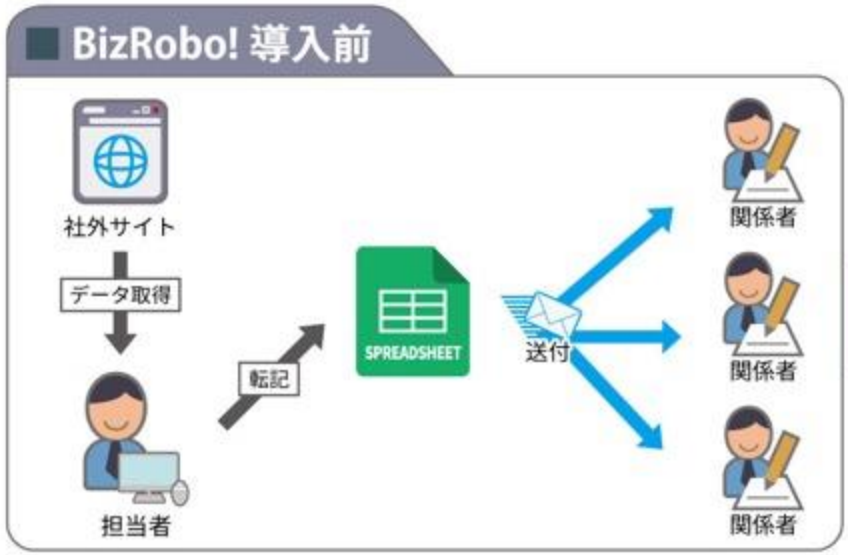
自社Webメディアでの広告効果データを取得し、社内に転記する業務

メディア

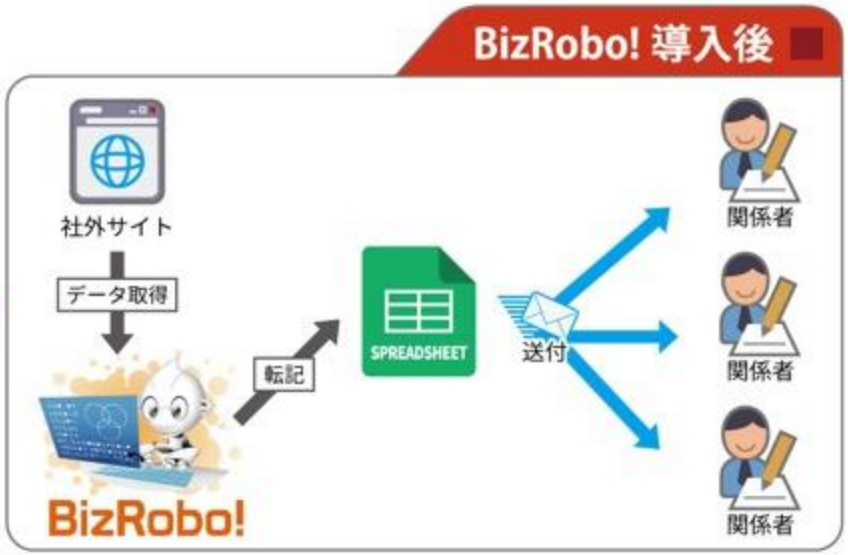
総務部

選定理由

- 業務の大半をWeb上で処理しており、
  ブラウザ内蔵型のBizRobo!により、Web関連作業を効率よくインフラコストをかけずに代替できると考えた
- 定型的なルーティンワークであり、RPAに任せるのに最適と判断



1. 担当者は社外サイトから、自社メディアの広告効果データを取得
2. 必要な情報を判別し、社内管理用のスプレッドシートに転記
3. 作成したスプレッドシートを関係者に送付



1. ロボットは社外サイトから、自社メディアの広告効果データを取得
2. 必要な情報を判別し、社内管理用のスプレッドシートに転記
3. 作成したスプレッドシートを関係者に送付

実施効果

- 作業が短時間で終了するため、データ分析などのより高度な業務に時間が割ける
- 全社において50ロボットが稼働し、月150時間の余剰時間を創出

© OPEN, Inc. All rights reserved.

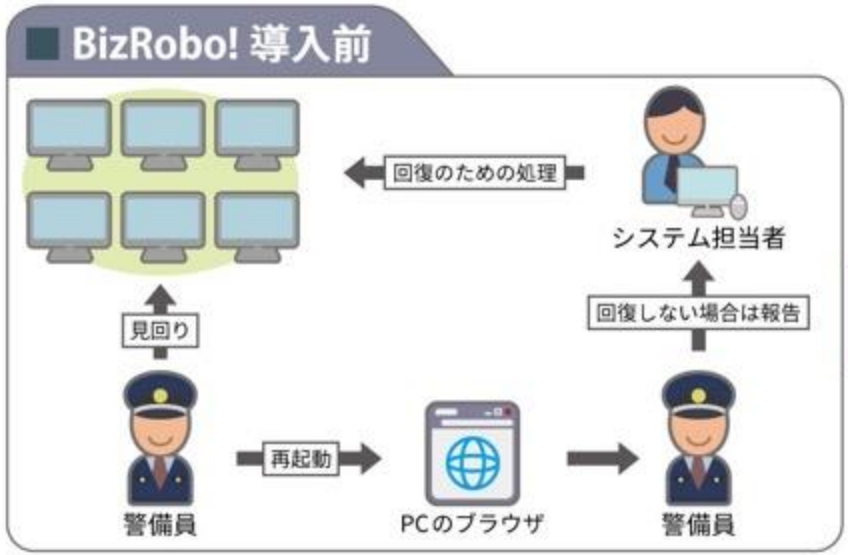
本社内の展示用テレビ端末が正常に動作しているか確認する業務

メディア

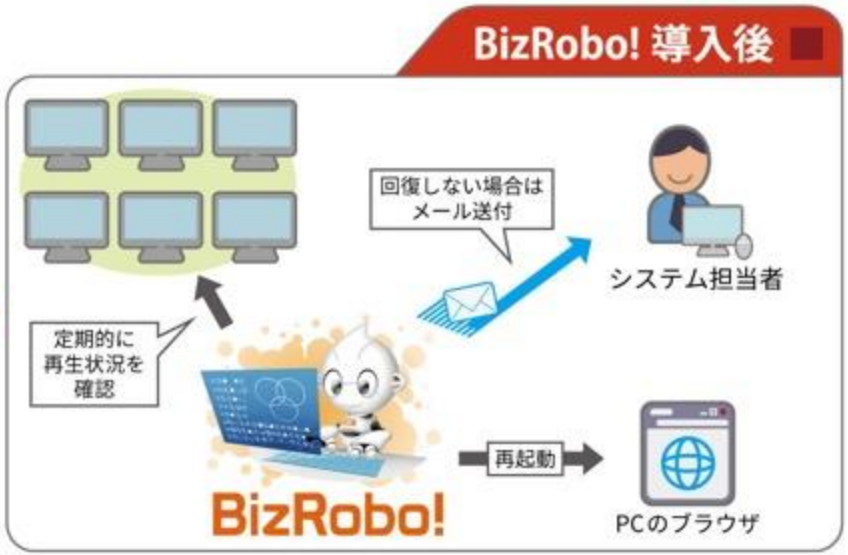
設備管理部

選定理由

- テレビ端末がランダムに停止することがあり、警備員が定期的に見回っていた
- 停止からシステム担当者への報告までタイムラグがあり、迅速な対応ができていなかった



1. 警備員はテレビ端末が停止していないか、定期的に見回りを行う
2. テレビ端末が停止している場合、警備員は再生PCのブラウザを再起動
3. 再起動しても回復しない場合、警備員はシステム担当者に報告
4. システム担当者はテレビ端末回復のための処理



1. ロボットは定期的に再生状況を確認
2. 停止している場合は、ブラウザを再起動
3. 再起動しても映像が再生されない場合、システム担当者にメールを送付

実施効果

- 警備担当者が見回りに行く必要がなくなり、負担が軽減
- 映像停止してから再生するまで、迅速な対応が可能

© OPEN, Inc. All rights reserved.

1ヶ月間実施するイベントの有料チケットの販売実績を把握する業務

メディア

イベント事業部

選定理由

- 夏に行われる期間限定イベントの有料チケットの販売実績を把握し、販売企画を検討していたが手作業では困難
- 毎日必ず集計するため、いかに短時間で大量の販売実績を集計するかがカギとなっていた
- 販売パターンが日々変化するため、稼働後も修正が容易に可能なBizRobo!で代行するのが適していた

【従来】
データ収集に非常に時間がかかっており、
データ分析に注力できていなかった

【導入後】
1. ロボットは、POSレジ・チケットサービス・自動券売機・天気情報などのデータを収集
2. 販売経路が分かるようにデータベースに登録
3. 担当者は集められたデータを確認し、翌日の販売数予測や企画を検討

実施効果

- POSレジ・チケットサービス・自動券売機など複数の販売経路別にデータをまとめ、短時間かつ正確に分析ツールに入力できる
- 1日1回しか行えなかったデータ分析のための定例会が、1日に何度もタイムリーに行える
- イベント中に業務フローが変化したが、BizRobo!の内容を書き換えることで迅速に対応できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

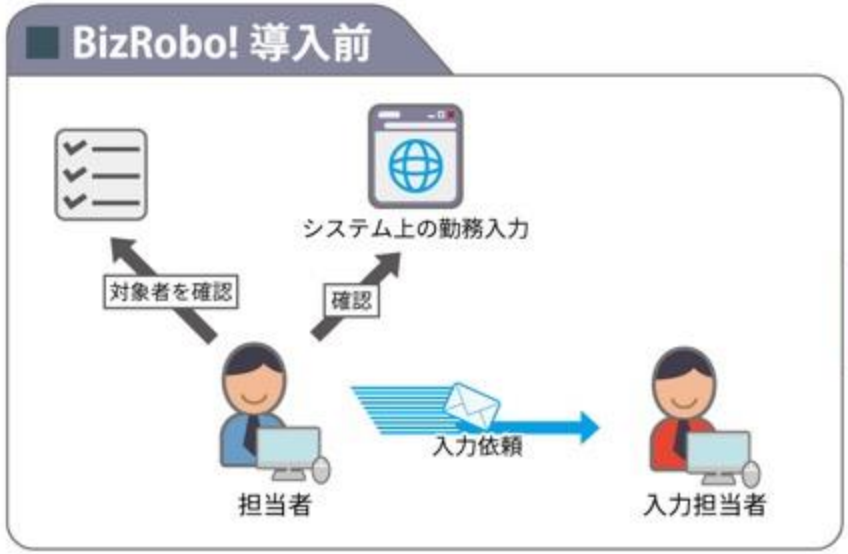
勤怠入力漏れをチェックし、入力依頼メールを送信する業務

メディア

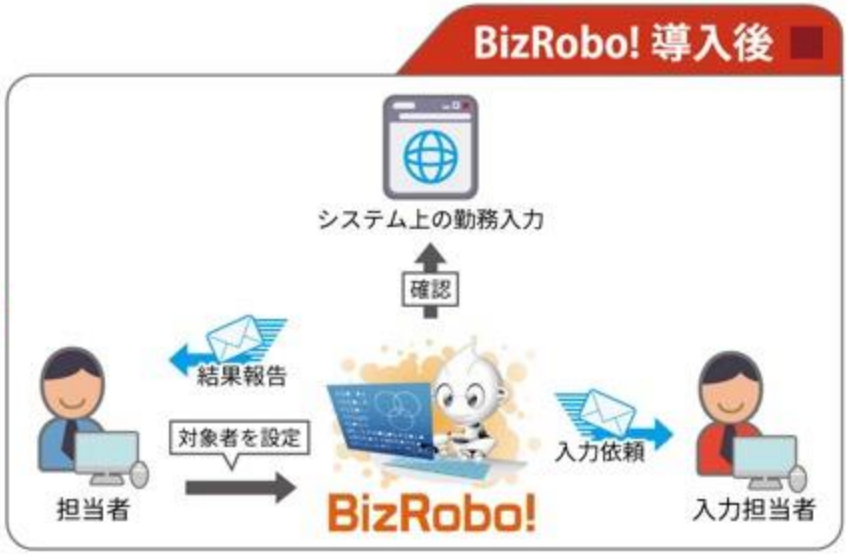
人事部

選定理由

- 勤怠入力チェック対象リストを逐一確認しながら入力依頼メールを送信するため、見間違いによるミスが発生していた
- 量の多いルーティンワークだが、非常に単調なため担当者のモチベーション低下につながっていた



1. 担当者は勤務入力チェック対象リストを印刷
2. リストを確認しながら、勤怠システムに勤怠入力がされているか確認
3. 勤怠入力がなされていない場合、該当者に勤怠入力の依頼メールを送付



1. 担当者は勤務入力チェック対象リストを作成し、ロボットに設定
2. ロボットはリストを確認しながら、勤怠システムに勤怠入力がされているか確認
3. 勤怠入力をしていない該当者に勤怠入力の依頼メールを送付
4. 勤怠入力をしていない該当者のリストを担当者に送付

実施効果

- 担当者は内容確認するのみで、入力漏れもなくなり、より正確な労働時間の把握につながった
- 既存システムを変更することなく、
  実働4日でロボットを作成することができ、システム改修と比べて大幅に短期かつ安価な業務効率化を実現

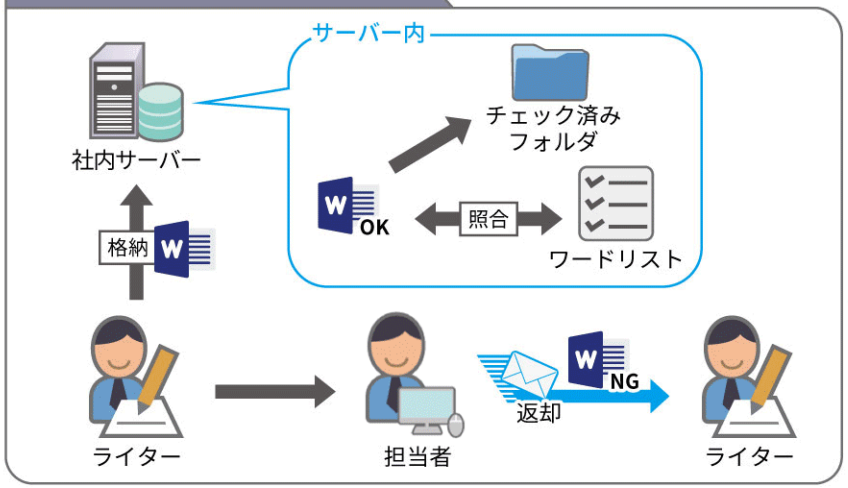
© OPEN, Inc. All rights reserved.

配信前の記事内容をチェックする業務

選定理由

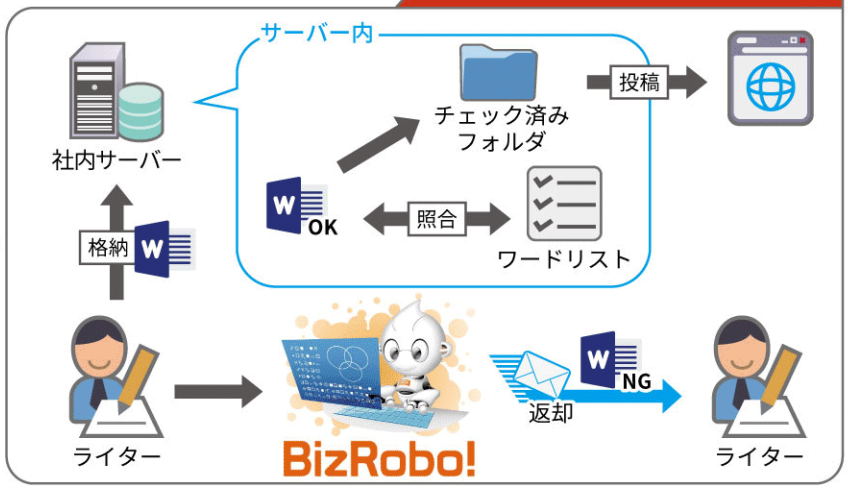
- 記事内容(プレスリリース等)における顧客ごとの必須ワード、NGワードを目検で確認する必要があり、担当者のストレス過多となっていた
- 毎月10000本以上の記事があり、顧客数も増大しており、業務量に対して人手が圧倒的に不足していた

BizRobo! 導入前



1. ライターが記事を作成し、社内サーバーに格納
2. 担当者が記事を確認し、記事内容とワードリストを照合し、目で確認
3. 3-1．記事内容に不備がなければ、記事をチェック済みフォルダに格納
   3-2．記事内容に不備があれば、コメントをつけた上でライターに返却

BizRobo! 導入後



1. ライターが記事を作成し、社内サーバーに格納
2. ロボットが記事を確認し、記事内容とワードリストを照合
3. 3-1．記事内容に不備がなければ、記事をチェック済みフォルダに格納
   3-2．記事内容に不備があれば、コメントをつけた上でライターに返却
4. 記事内容に不備がない場合、ロボットが記事を投稿

実施効果

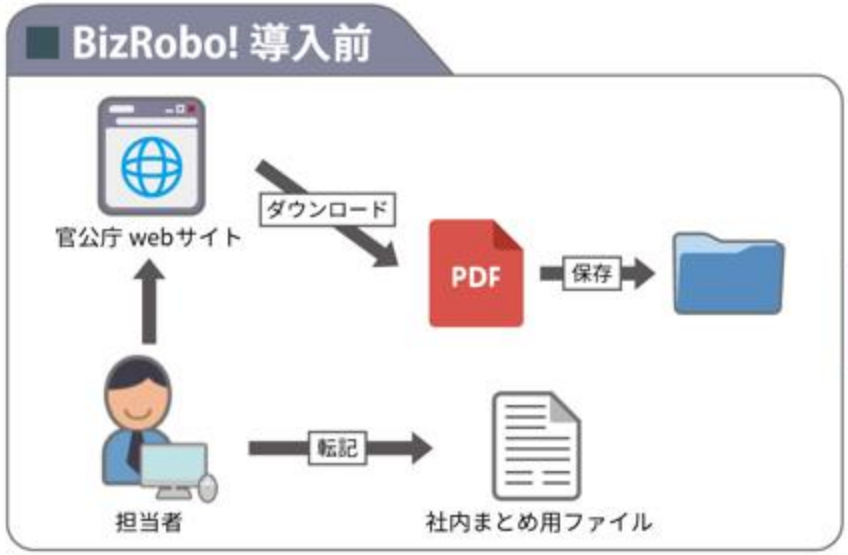
- チェック業務の工数が大幅に削減し、余剰時間を活用し、さらなる顧客獲得につながった
- ロボットが行うとチェックミスがなくなるため、チェックミスによるクレーム防止につながった
- 記事内容のチェックのみならず、記事の投稿まで一気通貫でロボットが代行できる

© OPEN, Inc. All rights reserved.

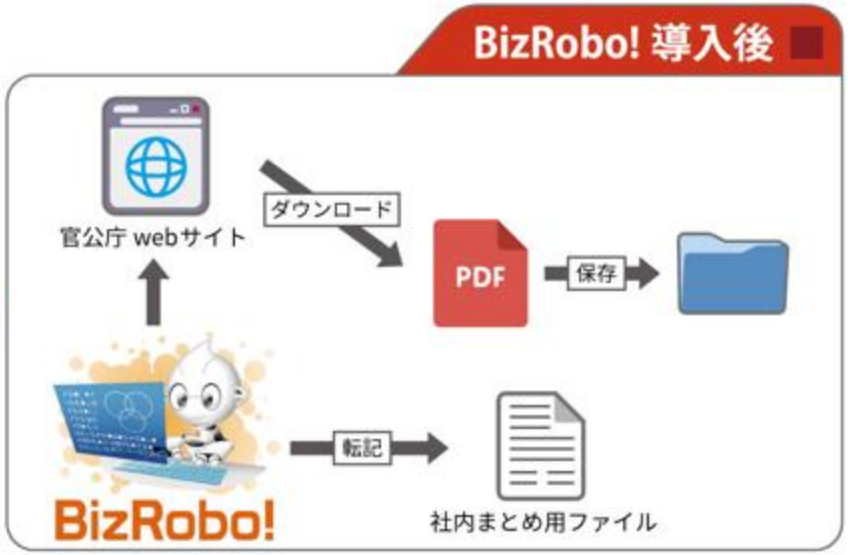
官公庁のWebサイトの新着情報を取得する業務

選定理由

- 官公庁のWebページ毎にレイアウトや取得項目が異なるため、
  Webページ毎に情報取得マニュアルを作成する必要があり、煩雑だった
- 新着情報を即座に顧客に提供する必要があり、24時間働くロボットの方が最適



1. 担当者は官公庁のWebサイトにアクセス
2. 所定のページをクリックし、記事タイトルや内容などをコピーし、
   社内のまとめ用ファイルに転記
3. PDFファイルなどがある場合、ダウンロードして所定の場所に保存
4. 上記操作を各Webページにおいて繰り返す



1. ロボットは官公庁のWebサイトにアクセス
2. 所定のページをクリックし、記事タイトルや内容などをコピーし、
   社内のまとめ用ファイルに転記
3. PDFファイルなどがある場合、ダウンロードして所定の場所に保存
4. 上記操作を各Webページにおいて繰り返す

実施効果

- データ情報収集にかかる時間を大幅に短縮し、顧客対応に多くの時間を割ける
- 類似の業務に対しても、
  ロボットを微修正することで対応でき、関連業務だけで20体以上のロボットを複数部署に展開

© OPEN, Inc. All rights reserved.

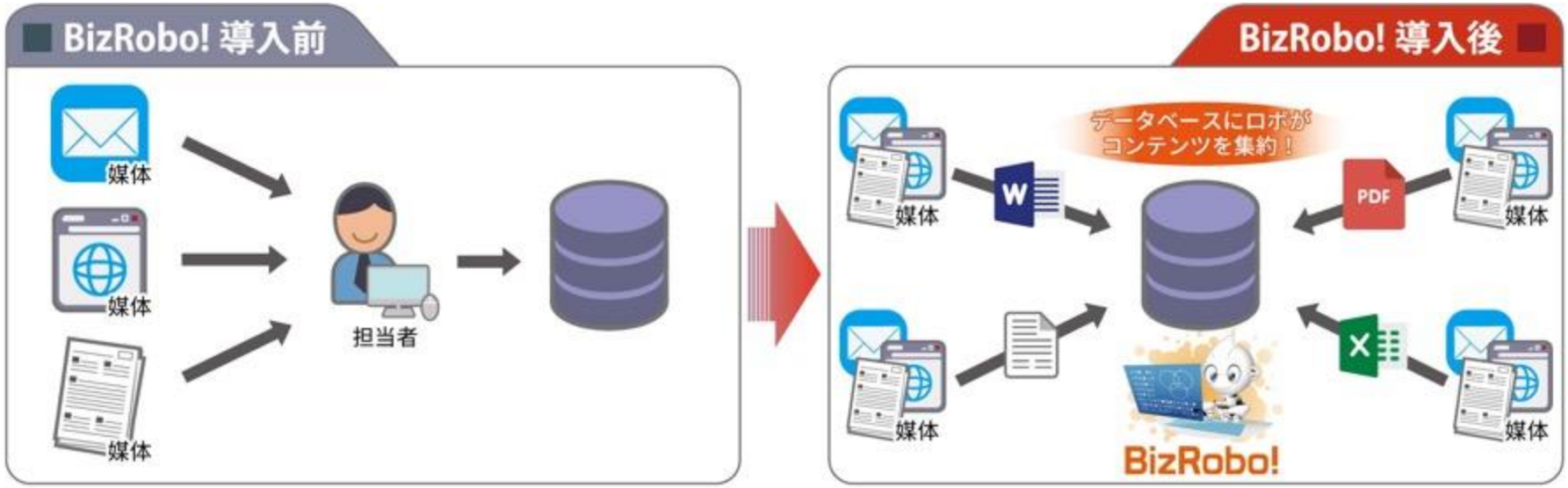
記事のネタ収集のため、
数百のコンテンツ媒体からデータ収集する業務

メディア

制作部

選定理由

- 毎日400～800もの媒体から情報を収集する必要があり、人手では非常に業務量が多い
- FTP, WEB, テキストデータ, メールなど、
  複数種類の媒体から収集する必要があり、今回全てに対応ができる「BizRobo!」で自動化することが適していた



1. 担当者は複数の媒体から情報を収集
2. それぞれのデータ形式に合わせて転記やダウンロードを実行
3. まとめたファイルをデータベースに入力
4. 上記を毎日400～800媒体に対して実施

1. ロボットは複数の媒体から情報を収集
2. それぞれのデータ形式に合わせて転記やダウンロードを実施
3. まとめたファイルをデータベースに入力

実施効果

- あらゆる媒体からのデータ情報収集時間を大幅削減し、
- 担当者を別業務にもアサインすることも出来るようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

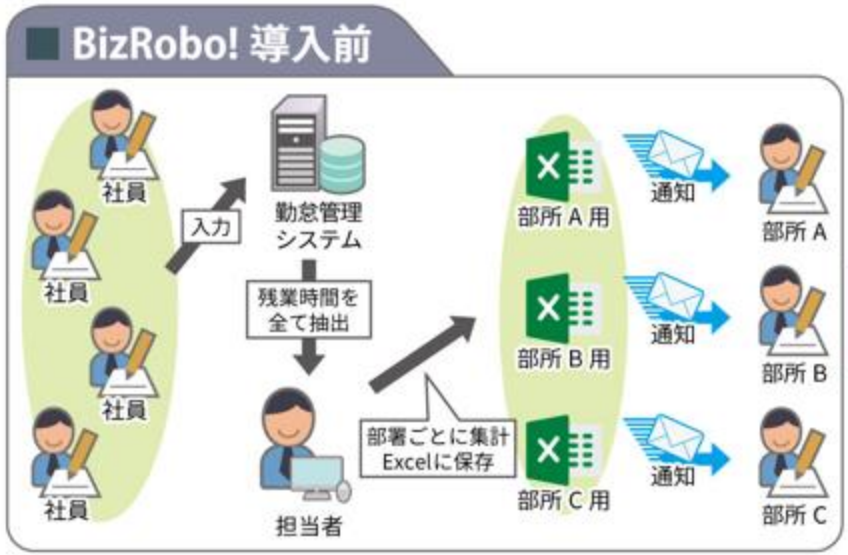
社員の残業時間を集計し、担当部署ごとにまとめて保存する業務

メディア

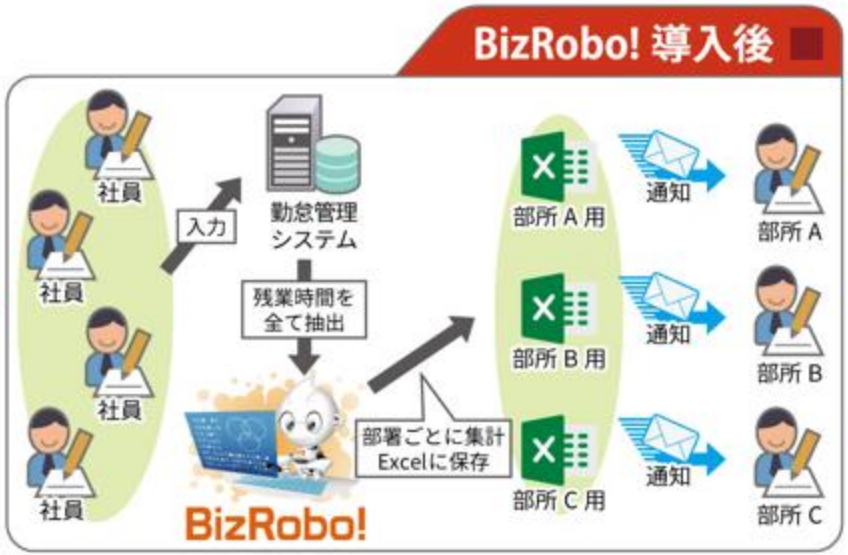
人事部

選定理由

- 勤怠管理から社員データを抽出・並び替え・整理するフローが25手順以上あり、煩雑な業務だった
- 約20の部署ごとに別々のデータをメールで送信する必要があり、担当者に負荷がかかっていた



1. 各社員が勤怠管理システムに自らの勤怠時間を入力
2. 担当者は残業時間を全て抽出
3. 残業時間データを並び替え、部署ごとにまとめる
4. 集計したデータをエクセルに保存し、各部署にメール送信



1. 各社員が勤怠管理システムに自らの勤怠時間を入力
2. 残業時間を全て抽出
3. 残業時間データを並び替え、部署ごとにまとめる
4. 集計したデータをエクセルに保存し、各部署にメール送信

実施効果

- 全ての業務をロボットが代行し、担当者のストレス削減ならびに余剰時間の創出
- 月に1回しか行わないイレギュラーな業務がなくなったため、担当者のスケジュール管理が楽になった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

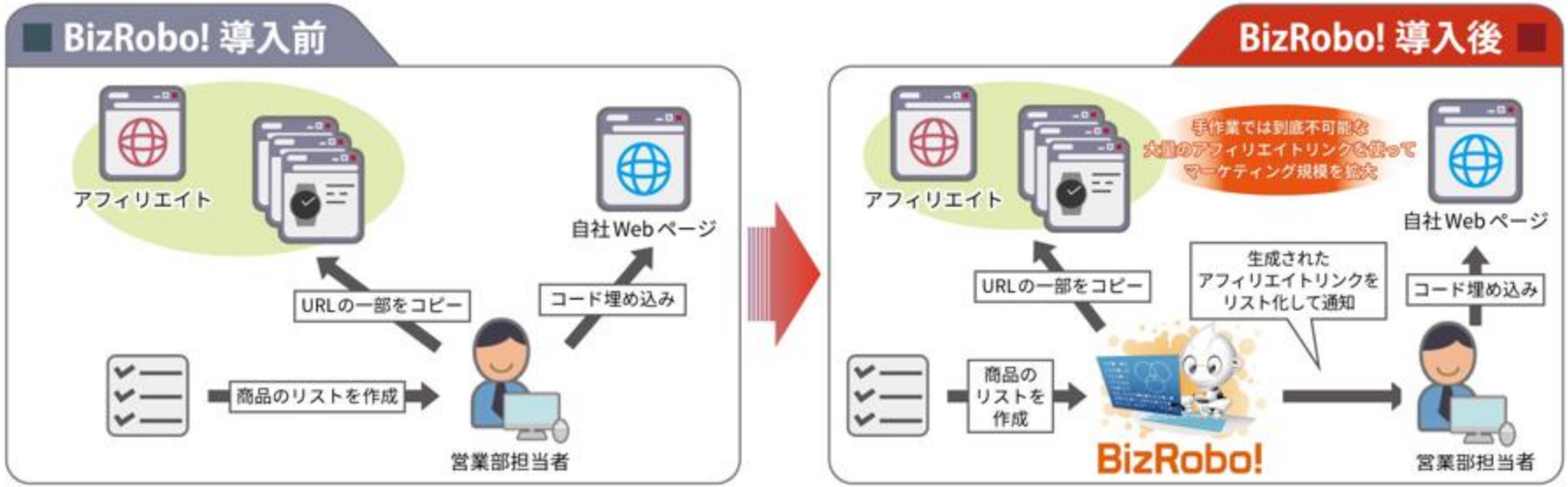
商品掲載サイトから
アフィリエイトリンクを作成する業務

メディア

マーケティング部

選定理由

- アフィリエイトリンクを策する商品リストが数百以上あり、手作業では到底不可能だった
- 商品名とアフィリエイトリンクが不一致となるミスが発生しており、ダブルチェックに時間と人手が必要だった



1. アフィリエイトリンクするターゲット商品のリストを作成
2. 担当者はアフィリエイトサービスサイトに移行し、特定商品のURLの一部をコピー
3. アフィリエイトリンクを作成
4. アフィリエイトリンクを自社で扱うWebページに埋め込む

1. アフィリエイトリンクするターゲット商品のリストを作成
2. ロボットはアフィリエイトサービスサイトで、商品のページのURLの一部をコピー
3. アフィリエイトリンクを作成
4. 全ての商品のアフィリエイトページを作成し、リストを担当者に送付
5. 担当者は、アフィリエイトリンクを自社で扱うWebページに埋め込む

実施効果

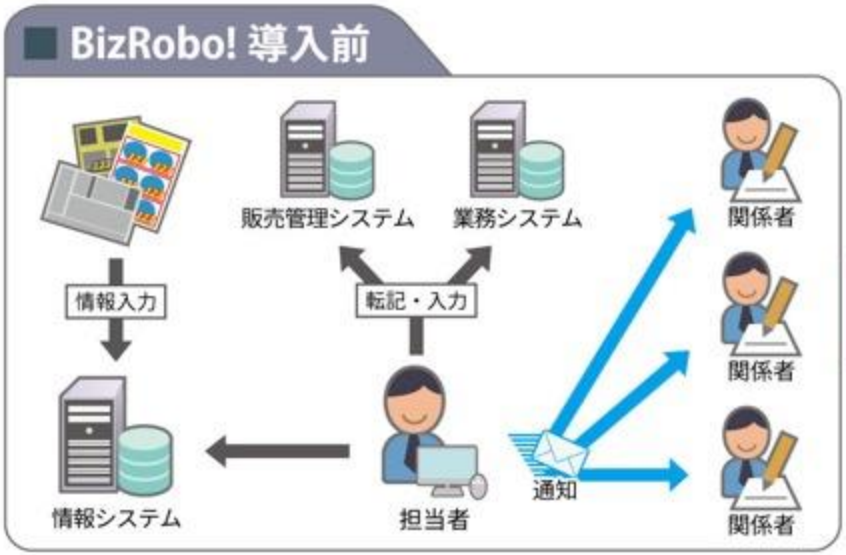
- 大量のリンクを、ミスなく一度に生成できるようになった
- 担当者は情報収集以外の、Webページ改善に注力できるようになった

© OPEN, Inc. All rights reserved.

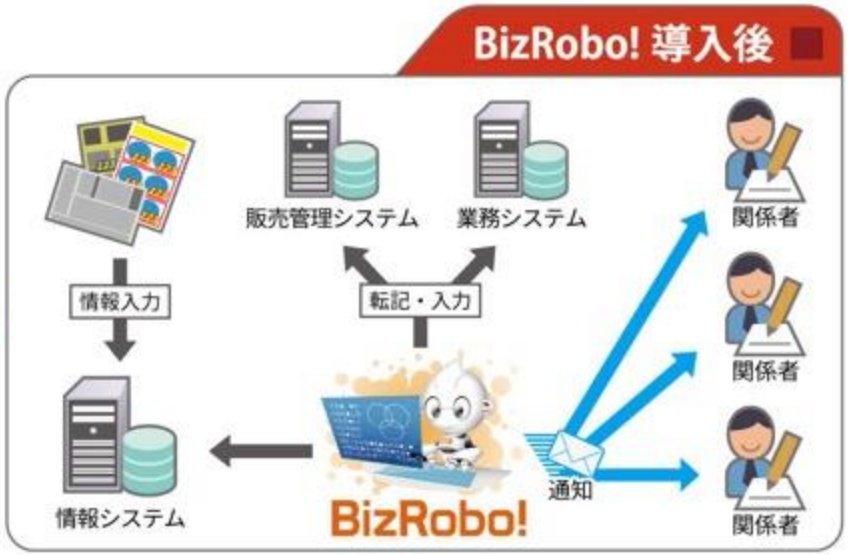
新聞折込の仕分けに必要な情報を入力する業務

選定理由

- 紙面が55種類あり、それぞれに折り込むチラシの種類が700～800種類あり、作業時間が膨大
- 全て手入力で情報システムに入力するため、作業ミスがありミス防止の確認業務に人手がかかっていた



1. 自社の情報システムに折り込みチラシの情報が入力
2. 担当者は販売管理システムに情報を転記・入力
3. 業務システムに情報を転記・入力
4. 業務終了後、関係者にアラートを飛ばす



1. 自社の情報システムに折り込みチラシの情報が入力
2. ロボットは販売管理システムに情報を転記・入力
3. 業務システムに情報を転記・入力
4. 業務終了後、関係者にアラートを飛ばす

実施効果

- 転記作業をロボットが代行することにより、年間で2000時間の余剰時間を創出
- 転記ミスがなくなり、チェック作業員が別の仕事に時間を割けるようになった

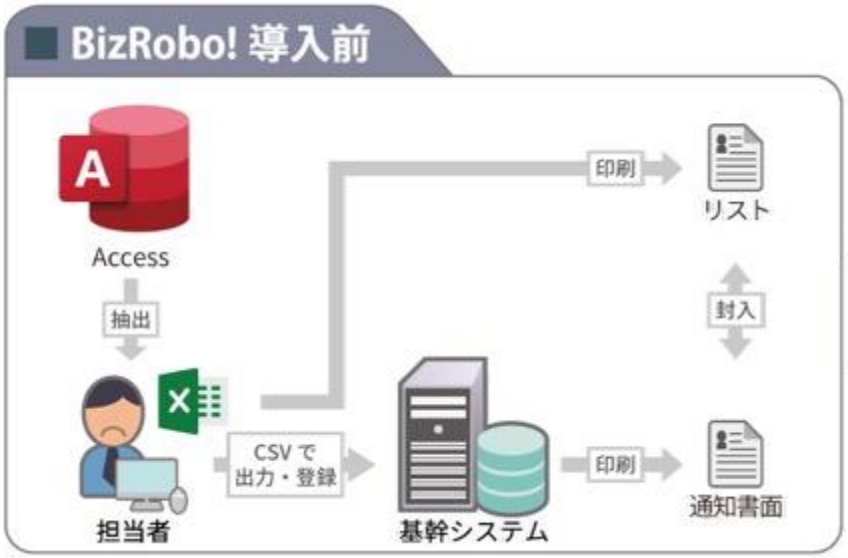
© OPEN, Inc. All rights reserved.

WEB明細閲覧にかかわるログイン情報の発行・印刷を行う業務

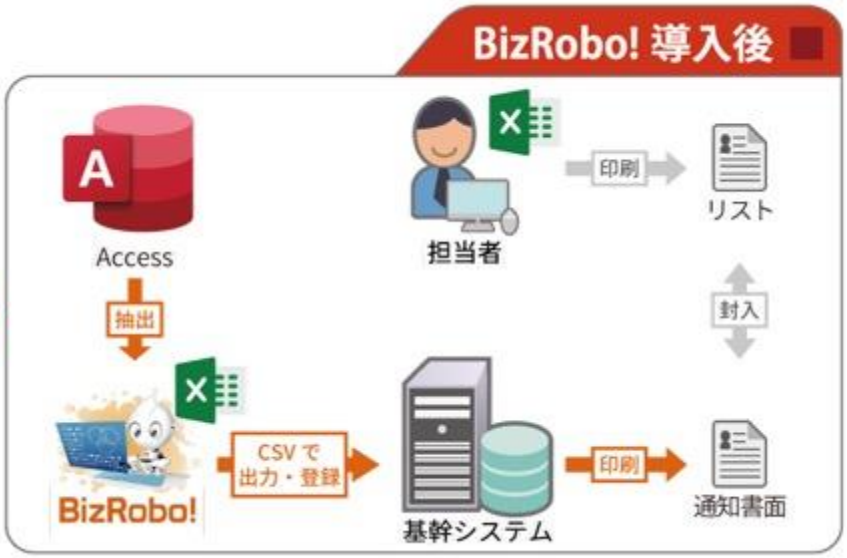
メディア
（ケーブルテレビ業界）
お客さまサービス部

選定理由

- 作業頻度が高く、必要な作業が単純だったため
- 出勤前の早朝にデータ抽出～印刷までを自動化する事で、出勤後の人的作業の短縮を図った



1. Accessでの対象データ抽出
2. Excelでのデータ成形（重複の削除など）、CSVデータ作成
3. 基幹システムへCSVデータ読み込み・通知書面印刷
4. Excelからリスト印刷
5. 書面封入作業し後続部署へ引渡



1. ロボットがAccessでの対象データ抽出
2. Excelでのデータ成形（重複の削除など）、CSVデータ作成
3. 基幹システムへCSVデータ読み込み・通知書面印刷
4. 担当者がExcelからリスト印刷
5. 書面封入作業し後続部署へ引渡

実施効果

- 業務の面倒な部分がRPA化され、簡単な作業のみ行えばよくなった
- データ件数が多い場合に発生していた、プリンタの占拠が無くなった
- グループ内で実施していた業務をRPA化する事で、業務負荷の軽減を実感できた

© OPEN, Inc. All rights reserved.

BizRobo! に関するお問い合わせ

直接、相談したいあなたへ

Webサイトから お手軽に ご連絡いただけます

お問い合わせフォームの「ご希望」の「お打ち合わせ」にチェックマークをいれて、送信してください。

後日、弊社担当よりご連絡をさせていただきます。

全国各地に拠点あり

リモートでのお打合せOK

▶ こちらのURLから直接アクセスいただけます。

https://rpa-technologies.com/inquiry/contact/

トップページ ＞ 最上部メニュー「お問い合わせ」をクリック

「ご希望」項目の「お打ち合わせ」にチェックマークを入れてください。

© OPEN, Inc. All rights reserved.

会社概要

会社名	オープン株式会社
持ち株会社	オープングループ株式会社 【東証プライム：6572】
設立	2013年7月
代表者	代表取締役執行役員社長　石井 岳之
所在地	東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル3F
事業内容	スマートロボット（RPA、AI）を活用した情報処理サービス、コンサルタント事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したアウトソーシング事業 スマートロボット（RPA、AI）を活用したデジタルマーケティング、オンライン広告事業

© OPEN, Inc. All rights reserved.

営業拠点

本　　社

東京本社

〒105-0003
東京都港区西新橋3-3-1 KDX西新橋ビル 3階

営業拠点

札幌オフィス
〒060-0042
北海道札幌市中央区大通西1-14-2
桂和大通ビル50 9F

名古屋オフィス
〒450-6321
愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1
JPタワー名古屋 21F

大阪オフィス
〒530-0001
大阪府大阪市北区梅田2-2-2
ヒルトンプラザウエスト 19F

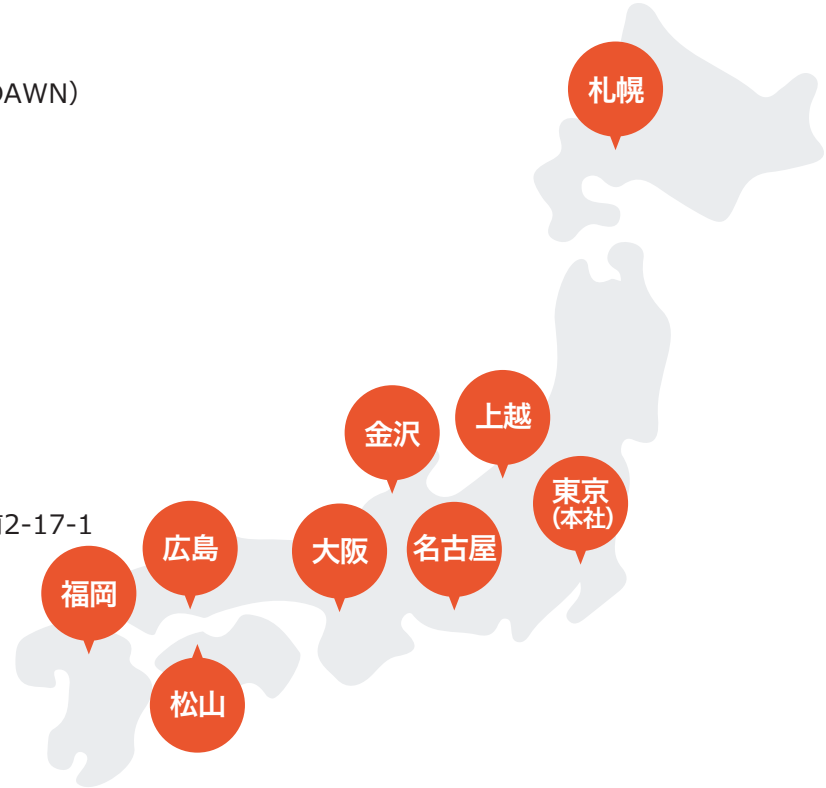
広島オフィス
〒732-0828
広島県広島市南区京橋町1-7
アスティ広島京橋ビルディング 1F

上越サテライトオフィス
〒943-0861
新潟県上越市大和5丁目2-7
エンジョイプラザ 2F（JM-DAWN）

金沢オフィス
〒920-0901
石川県金沢市彦三町1-2-1
アソルティ金沢彦三 3F

松山オフィス
〒790-0003
愛媛県松山市三番町4-9-5
松山センタービル 6F

福岡オフィス
〒812-0011
福岡県福岡市博多区博多駅前2-17-1
博多プレステージ本館 1F



© OPEN, Inc. All rights reserved.

楽しい時代に進化する

BizRobo!

© OPEN, Inc. All rights reserved.